



# HP ThinPro 7.2 管理者ガイド

## 概要

このガイドは、HP ThinPro オペレーティング システムをベースとする HP Thin Client の管理者用です。

## 法的情報

© Copyright 2021 HP Development Company, L.P.

AMD および ATI は、米国 Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。Citrix および XenDesktop は、Citrix Systems, Inc. またはその子会社の商標であり、米国特許商標庁およびその他の国において登録されている可能性があります。Linux は、米国およびその他の国における Linus Torvalds の商標または登録商標です。Microsoft、Windows、Windows Vista、および Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。NVIDIA は、NVIDIA Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。UNIX は The Open Group の商標または登録商標です。VMware、Horizon、および View は米国またはその他の地域における VMware, Inc. の商標または登録商標です。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、HP から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェア資料、および商業用製品の技術データは、ベンダー標準の商業用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP 製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属の保証規定に明示的に記載されているものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して責任を負いかねますのでご了承ください。

改訂第 1 版：2021 年 11 月

初版：2021 年 4 月

製品番号：M53784-292

## オープンソースソフトウェア

この製品には、GNU 一般公衆利用許諾契約書および GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書またはその他のオープンソースライセンスなど、オープンソースソフトウェアライセンスの下で使用許諾が付与されているソフトウェアが含まれています。HP が義務を有する範囲において、または HP の自由裁量により、適用されるオープンソースソフトウェアライセンスの下で、この製品用の該当するソフトウェアのソースコードを利用可能にするように選択します。当該ソフトウェアのソースコードは、次の Web サイトから入手することもできます：

<https://ftp.hp.com/pub/tcdebian/pool/ThinPro7.2>

## 管理者が入力する構文の例

ユーザー インターフェイスに入力する必要があるテキストは固定幅フォントで示されます。

表 管理者が入力する構文の例

項目	説明
括弧や波括弧のないテキスト	示されているとおりに入力する必要がある項目
<山括弧内のテキスト>	値を入力する必要があるプレースホルダー。括弧は付けしないでください
[角括弧内のテキスト]	オプションの項目。括弧は付けしないでください
{波括弧内のテキスト}	1つだけを選択する必要がある項目のセット。波括弧は入力しないでください
	1つだけを選択する必要がある項目の区切り文字。縦線は入力しないでください
...	繰り返しが可能または必要な項目。省略記号は入力しないでください

---

# 目次

<b>1 お使いになる前に.....</b>	<b>1</b>
ガイド以外の情報の参照先.....	1
OS 構成の選択 .....	1
リモート管理サービスの選択.....	3
Thin Client の最初の起動 .....	3
管理者モードおよびユーザー モードの切り替え.....	3
<b>2 HP ThinPro PC Converter .....</b>	<b>4</b>
展開ツール.....	4
互換性チェックおよびインストール.....	4
ライセンス.....	5
ライセンスの種類.....	5
システムトレイ アイコン .....	6
通知.....	6
システム情報.....	6
デスクトップの背景の透かし.....	6
システム更新ツール.....	7
ロイヤルティの支払義務のあるソフトウェア .....	7
接続.....	7
<b>3 GUI の概要 .....</b>	<b>8</b>
デスクトップ.....	8
タスクバー.....	8
<b>4 接続の設定.....</b>	<b>11</b>
新しい接続ショートカットの作成.....	11
デスクトップアイコンの管理.....	11
デスクトップでの接続管理.....	11
接続マネージャー（HP ThinPro のみ） .....	12
接続の詳細設定.....	13
キオスク モード.....	14
<b>5 接続の種類.....</b>	<b>16</b>
Citrix.....	16
Citrix 接続マネージャー .....	16
接続.....	16

構成.....	17
全般設定.....	18
オプション.....	18
ローカル リソース.....	19
ウィンドウ.....	20
セルフサービス.....	20
ファイアウォール.....	21
キーボードショートカット.....	21
セッション.....	22
詳細設定.....	22
RDP.....	23
RDP の接続ごとの設定.....	23
ネットワーク.....	23
サービス.....	24
ウィンドウ.....	25
オプション.....	25
ローカル リソース.....	26
効果.....	27
診断.....	28
詳細設定.....	28
RemoteFX.....	28
RDP でのマルチモニター セッション.....	29
RDP でのマルチメディア リダイレクト.....	29
RDP でのデバイス リダイレクト.....	29
RDP での USB リダイレクト.....	30
RDP での大容量記憶装置のリダイレクト.....	30
RDP でのプリンター リダイレクト.....	31
RDP でのオーディオ リダイレクト.....	31
RDP でのスマートカードのリダイレクト.....	32
VMware Horizon View.....	32
VMware Horizon View の接続ごとの設定.....	32
ネットワーク.....	32
全般.....	33
セキュリティ.....	34
RDP オプション.....	35
RDP の操作環境.....	36
詳細設定.....	37
VMware Horizon View でのマルチモニター セッション.....	37
VMware Horizon View のキーボードショートカット.....	37
VMware Horizon View でのデバイス リダイレクト.....	38
VMware Horizon View での USB リダイレクト.....	38
VMware Horizon View でのオーディオ リダイレクト.....	38
VMware Horizon View でのスマートカードのリダイレクト.....	39
VMware Horizon View での Web カメラ リダイレクト.....	39
VMware Horizon View での COM ポートのリダイレクト.....	40
VMware Horizon View プロトコルの変更.....	40

VMware Horizon View の HTTPS および証明書管理の要件 .....	40
Web Browser .....	42
Web Browser の接続ごとの設定 .....	42
構成 .....	42
設定 .....	42
詳細設定 .....	42
AVD (Azure Virtual Desktop) .....	42
AVD の接続ごとの設定 .....	43
構成 .....	43
ウィンドウ .....	43
オプション .....	44
ローカルリソース .....	45
TTerm .....	45
構成 .....	45
その他の接続インターフェイス (HP ThinPro のみ) .....	46
XDMCP .....	46
構成 .....	46
詳細設定 .....	47
Secure Shell .....	47
構成 .....	47
詳細設定 .....	48
Telnet .....	48
構成 .....	48
詳細設定 .....	48
Custom .....	49
構成 .....	49
詳細設定 .....	49
<b>6 HP True Graphics .....</b>	<b>50</b>
サーバー側の要件 .....	50
クライアント側の要件 .....	50
クライアント側の構成 .....	51
圧縮設定 .....	51
ウィンドウ設定 .....	51
モニターレイアウトおよびハードウェアの制限 .....	51
HP t420 の複数モニターでの HP True Graphics の有効化 .....	52
ヒントおよびベストプラクティス .....	52
<b>7 Active Directory 統合 .....</b>	<b>53</b>
ログイン画面 .....	53
シングルサインオン .....	53
デスクトップ .....	54
画面のロック .....	54
管理者モード .....	55

設定およびドメイン ユーザー .....	55
<b>8 [スタート]メニュー .....</b>	<b>56</b>
接続管理 .....	56
管理者に切り替える/ユーザーに切り替える .....	56
システム情報 .....	56
コントロールパネル .....	56
ツール .....	56
電源 .....	57
検索 .....	57
<b>9 コントロールパネル .....</b>	<b>58</b>
[コントロールパネル]を開く .....	58
システム .....	58
ネットワークの設定 .....	59
ネットワーク マネージャーを開く .....	59
有線ネットワーク設定 .....	59
無線ネットワーク設定 .....	60
DNS 設定 .....	62
IPSec ルール .....	62
VPN 設定の構成 .....	63
DHCP オプション .....	63
DHCP オプション マネージャーを開く .....	64
DHCP オプションの要求または無視 .....	64
DHCP コードの変更 .....	64
DHCP オプションに関する情報 .....	64
Imprivata のセットアップ .....	64
コンポーネント マネージャー .....	65
コンポーネント マネージャーを開く .....	65
コンポーネントの削除 .....	65
変更の取り消し .....	65
変更の完全な適用 .....	66
セキュリティ .....	66
セキュリティ設定 .....	66
ローカル アカウント .....	67
暗号化 .....	67
オプション .....	68
証明書 .....	68
証明書 マネージャー .....	68
SCEP マネージャー .....	68
管理機能 .....	69
Active Directory の構成 .....	69
[状態]タブ .....	70
[オプション]タブ .....	70

HP ThinState .....	71
HP ThinPro イメージの管理 .....	71
FTP サーバーへの HP ThinPro イメージのキャプチャ .....	71
FTP または HTTP を使用した HP ThinPro イメージの展開 .....	71
USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro イメージのキャプチャ .....	72
USB フラッシュ ドライブを使用した HP ThinPro イメージの展開 .....	72
クライアント プロファイルの管理 .....	73
FTP サーバーへのクライアント プロファイルの保存 .....	73
FTP または HTTP を使用したクライアント プロファイルの復元 .....	73
USB フラッシュ ドライブへのクライアント プロファイルの保存 .....	74
USB フラッシュ ドライブからのクライアント プロファイルの復元 .....	74
VNC シャドウイング .....	74
SNMP .....	75
プライベート構成ファイルでの SNMP の有効化 .....	76
[Community List] (コミュニティ リスト) による SNMP の有効化 .....	76
SNMP の無効化 .....	76
BIOS カプセルのアップデート .....	77
入力デバイス .....	77
ハードウェア .....	78
ディスプレイの管理 .....	78
USB デバイスのリダイレクト .....	79
プリンターの設定 .....	79
Bluetooth .....	80
外観 .....	80
ThinPro の構成 (カスタマイズ センター) .....	81
<b>10 システム情報 .....</b>	<b>83</b>
<b>11 HP Smart Client Services .....</b>	<b>85</b>
サポートされるオペレーティング システム .....	85
HP Smart Client Services の前提条件 .....	85
[自動更新] の Web サイトの表示 .....	85
[自動更新] のプロファイルの作成 .....	86
特定の MAC アドレス用のプロファイル .....	86
Thin Client の更新 .....	87
ブロードキャスト更新方式の使用 .....	87
DHCP タグ更新方式の使用 .....	87
DHCP タグ設定の実行例 .....	87
DNS エイリアス更新方式の使用 .....	88
手動更新方式の使用 .....	88
手動更新の実行 .....	88
<b>12 Profile Editor .....</b>	<b>90</b>
[Profile Editor] の起動 .....	90




クライアント プロファイルの読み込み.....	90
クライアント プロファイルのカスタマイズ.....	90
クライアント プロファイルのプラットフォームの選択.....	90
クライアント プロファイルの初期設定の接続の設定.....	91
クライアント プロファイルのレジストリ設定の変更.....	91
クライアント プロファイルへのファイルの追加.....	91
クライアント プロファイルへの構成ファイルおよび証明書の追加.....	91
クライアント プロファイルへの構成ファイルの追加.....	92
クライアント プロファイルへの証明書の追加.....	92
クライアント プロファイルへのシンボリック リnkの追加.....	93
クライアント プロファイルの保存.....	93
シリアル プリンターまたはパラレル プリンターの設定.....	93
プリンターの設定の取得.....	93
プリンター ポートの設定.....	93
サーバーへのプリンターのインストール.....	94
<b>13 トラブルシューティング.....</b>	<b>96</b>
ネットワーク接続のトラブルシューティング.....	96
Citrix のパスワードの有効期限の問題に関するトラブルシューティング.....	97
トラブルシューティングのためのシステム診断の使用.....	97
システム診断データの保存.....	97
システム診断ファイルの解凍.....	97
Windows ベースのシステムでのシステム診断ファイルの解凍.....	97
Linux または UNIX ベースのシステムでのシステム診断ファイルの解凍.....	98
システム診断ファイルの表示.....	98
[Commands]フォルダーのファイルの表示.....	98
[/var/log]フォルダーのファイルの表示.....	98
[/etc]フォルダーのファイルの表示.....	98
<b>付録 A USB のアップデート.....</b>	<b>99</b>
USB のアップデート.....	99
HP ThinUpdate.....	99
<b>付録 B BIOS ツール (デスクトップ Thin Client のみ).....</b>	<b>100</b>
BIOS 設定ツール.....	100
BIOS フラッシュツール.....	100
<b>付録 C フラッシュドライブパーティションのサイズ変更.....</b>	<b>102</b>
<b>付録 D mclient コマンド.....</b>	<b>103</b>
<b>付録 E レジストリ キー.....</b>	<b>105</b>
Audio.....	105
Bluetooth.....	106
CertMgr.....	107
ComponentMgr.....	107

ConnectionManager.....	107
ConnectionType .....	108
custom .....	108
firefox.....	112
freerdp .....	117
ssh .....	128
telnet.....	134
TTerm .....	138
view .....	140
AVD .....	150
xdmcp.....	154
xen.....	159
DHCP.....	174
Dashboard.....	174
Imprivata.....	175
InputMethod .....	176
Network .....	177
電源.....	189
ScepMgr .....	191
Search .....	192
Serial .....	192
SystemInfo.....	193
TaskMgr.....	193
USB.....	193
auto-update.....	194
background .....	197
boot.....	198
config-wizard .....	198
desktop .....	199
domain .....	200
entries .....	202
firewall .....	202
hwh264 .....	203
keyboard .....	203
license .....	204
logging .....	205
login .....	205
mouse .....	206

restore-points .....	207
screensaver .....	207
security .....	209
shutdown .....	210
sshd .....	210
time .....	210
touchscreen .....	212
translation .....	213
usb-update .....	213
users.....	214
vncserver .....	218
zero-login.....	221
SNMP .....	221
<b>索引</b> .....	<b>223</b>

# 1 お使いになる前に

このガイドは、HP ThinPro オペレーティングシステムをベースとする HP Thin Client の管理者用です。システム構成を変更するときまたはこのガイドに記載されている管理ツールを使用するときには管理者としてシステムにログインすることを前提としています。

 **注記** : HP ThinPro では、HP ThinPro および HP Smart Zero のどちらかの OS 構成を選択できます。HP ThinPro ベースの Thin Client では、購入時にどちらかの OS 構成を初期設定として選択し、後で[コントロールパネル]で切り替えることができます。

各 OS 構成について詳しくは、[1 ページの「OS 構成の選択」](#)を参照してください。OS 構成の切り替えについて詳しくは、[81 ページの「ThinPro の構成 \(カスタマイズセンター\)」](#)を参照してください。

## ガイド以外の情報の参照先

ThinPro とその他のソフトウェアの情報リソースはオンラインで利用できます。


 **注記** : この表に示す Web サイトの情報は英語版のみである可能性があります。


表 1-1

リソース	内容
HP のサポート Web サイト <a href="http://www.hp.com/support">http://www.hp.com/support</a>	管理者ガイド、ハードウェア リファレンスガイド、ホワイトペーパー、およびその他のドキュメント  ▲ Thin Client モデルを検索し、そのモデル用のサポートページの[ユーザーガイド]セクションを参照してください。  <b>注記</b> : [HP Device Manager]および[HP Remote Graphics ソフトウェア]にはそれぞれ専用のサポート ページがあるため、代わりにアプリの名前を検索し、[ユーザー ガイド]セクションを参照してください。
Microsoft のサポート Web サイト <a href="http://support.microsoft.com">http://support.microsoft.com</a>	Microsoft ソフトウェアのドキュメント
Citrix のサポート Web サイト <a href="http://www.citrix.com/support">http://www.citrix.com/support</a>	Citrix ソフトウェアのドキュメント
VMware のサポート Web サイト <a href="http://www.vmware.com/support">http://www.vmware.com/support</a>	VMware ソフトウェアのドキュメント

## OS 構成の選択

HP ThinPro には 2 つの OS 構成があり、Thin Client の導入シナリオに合った OS 構成を選択できます。

- **HP ThinPro OS 構成は、すべての機能を利用できるオペレーティングシステム構成です。高度な管理やエンドユーザーによるカスタマイズを必要とする多目的な環境に最適です。この OS 構成には、以下のような特長があります。**
  - HP ThinPro のデスクトップまたは Active Directory のログイン画面を表示可能
  - HP Smart Zero より多い接続インターフェイス
  - (サポートされているすべての種類の) 接続を複数設定し、同時に実行可能
- **HP Smart Zero OS 構成は、シンプルで安全性の高いオペレーティングシステム構成です。最小限の管理機能があればよく、エンドユーザーによるカスタマイズをほとんどまたはまったく必要としない、単一目的のキオスクスタイル環境に最適です。この OS 構成には、以下のような特長があります。**
  - 仮想セッションを直接起動してデスクトップを非表示にする機能 (キオスク モード)
  - HP ThinPro より少ない接続インターフェイス
  - 設定および実行できる接続は一度に 1 つのみ
  - Active Directory 認証またはシングル サインオンをサポートしない

 **注記：** OS 構成は[コントロールパネル]で切り替えることができます ([81 ページの「ThinPro の構成 \(カスタマイズセンター\)」](#)を参照してください)。

各 OS 構成の初期設定の一部をカスタマイズすることもできます。たとえば、利用できる接続インターフェイスを変更したり、HP ThinPro でキオスク モードを有効にしたり、HP Smart Zero でデスクトップを表示したりすることが可能です。

キオスク モードについて詳しくは、[14 ページの「キオスク モード」](#)を参照してください。

以下の表では、各 OS 構成で利用できる初期設定の接続インターフェイスを示しています。

**表 1-2 OS 構成**

OS 構成	初期設定で利用可能な接続インターフェイス
HP ThinPro	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Citrix®</li> <li>● RDP</li> <li>● VMware® Horizon® View™</li> <li>● Web Browser (Firefox)</li> <li>● XDMCP</li> <li>● Secure Shell</li> <li>● Telnet</li> <li>● Custom</li> </ul>
HP Smart Zero	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Citrix</li> <li>● RDP</li> <li>● VMware Horizon View</li> <li>● Web Browser (Firefox)</li> </ul>

## リモート管理サービスの選択

OS 構成に関係なく、HP ThinPro ベースの Thin Client の管理には、次の 2 種類のリモート管理サービスを使用できます。

- **HP Device Manager (HPDM)** は、HP ThinPro ベースの Thin Client や Windows®ベースの Thin Client など、さまざまなオペレーティングシステムが混在する大規模な環境に最適です。HPDM には、HP Smart Client Services より多くの種類の管理オプションが用意されています。HPDM について詳しくは、<http://www.hp.com/go/hpdm> を参照してください。この HP の Web サイトからは、HPDM をダウンロードすることもできます。
- **HP Smart Client Services** は、HP ThinPro ベースの Thin Client のみを管理でき、HP Smart Zero とともに使用して「管理作業を省力化」できるように最適化されています。詳しくは、[85 ページの「HP Smart Client Services」](#) を参照してください。

両方のサービスを評価し、導入環境に最適なサービスを選択することをおすすめします。

## Thin Client の最初の起動

HP ThinPro ベースの新しい Thin Client を初めて起動すると、セットアッププログラムが自動的に実行されます。[初期セットアップウィザード]を使用すると、言語の選択、キーボードマッピングの選択、ネットワーク接続の選択、日付および時刻の設定を行うことができます。

- 💡 **ヒント**：1 つの Thin Client の構成を変更してからコピーし、その構成を他の Thin Client に展開する場合は、最初に[初期セットアップウィザード]および[コントロールパネル]を使って構成を変更してから、HPDM または HP ThinState を使用してその構成を展開します。詳しくは、[8 ページの「GUI の概要」](#)または [58 ページの「コントロールパネル」](#)を参照してください。HP ThinState について詳しくは、[71 ページの「HP ThinState」](#)を参照してください。

## 管理者モードおよびユーザーモードの切り替え

管理者モードとユーザーモードを切り替えるには、以下に示す説明に沿って操作します。

- ▲ デスクトップを右クリックするか[スタート]を選択し、メニューから[管理者に切り替える]を選択します。

デスクトップについて詳しくは、[8 ページの「デスクトップ」](#)を参照してください。

[コントロールパネル]について詳しくは、[8 ページの「タスクバー」](#)および [58 ページの「コントロールパネル」](#)を参照してください。

- 📖 **注記**：管理者モードに初めて切り替えるときに、管理者パスワードを設定するよう求めるメッセージが表示されます。管理者パスワードは、その後毎回管理者モードに切り替えるたびに入力する必要があります。Active Directory 認証が有効になっている場合は、ドメイン管理者グループのユーザーのドメイン資格情報を入力して管理者モードに切り替えることもできます。

管理者モードのときは、画面が赤色の枠線で囲まれます。

## 2 HP ThinPro PC Converter

HP ThinPro 7.1 以降、[HP ThinPro PC Converter Deployment Tool]を使用することで、HP Thin Client 以外のハードウェアで HP ThinPro を使用できます。システムが以下の最小要件を満たしている必要があります。

- CPU : 任意の x86 (64 ビット) CPU。
- メモリ : 4 GB の RAM、およびオペレーティングシステム用に少なくとも 1 GB の空き領域。
- ストレージ : 8 GB 以上の内蔵ストレージ (インストール用)。
- グラフィックス : Intel<sup>®</sup>、ATI<sup>™</sup>/AMD<sup>®</sup>、または NVIDIA<sup>®</sup>です。グラフィックスカードが認識されない場合は、パフォーマンスに制限のある VESA モードを使用できます。
- オーディオ : オーディオサポートはオプションです。
- ネットワーク : 認定された有線または無線ネットワークアダプター。
- USB : 高性能な USB Type-C<sup>®</sup>フラッシュドライブが推奨されます。
- ライセンス : HP ThinPro ソフトウェアには、適切なライセンスが必要です。

HP ThinPro を使用してシステムを初めて起動したときに、これらの各要件についてシステムの適合性状態を示す[互換性チェック]ウィンドウが表示されます。


### 展開ツール

[HP ThinPro PC Converter Deployment Tool]を使用すると、Microsoft Windows が動作していて、最小要件を満たしているコンピューター上で HP ThinPro を実行できます。このツールでは、HP ThinPro イメージを含む USB フラッシュドライブを作成できます。作成した USB フラッシュドライブから HP ThinPro イメージを起動して実行することも、HP ThinPro イメージをコンピューターに直接インストールすることもできます。また、リモート管理ツールによって展開可能な大規模展開イメージを作成することもできます。

詳しくは、『HP ThinPro PC Converter Deployment Tool 管理者ガイド』を参照してください。


### 互換性チェックおよびインストール

HP ThinPro が USB フラッシュドライブから初めて起動されると、[互換性チェック]ウィンドウが表示されます。[互換性チェック]ツールでは、システム上のハードウェアを評価してシステムが最小要件を満たしているかどうかを調べたり、HP ThinPro ソフトウェアによってデバイスが認識され、デバイスドライバーが割り当てられたかどうかを確認したりします。システムが最小要件を満たしていない場合、または必須ハードウェアが見つからない場合は、[互換性チェック]ツールによって警告および追加情報が表示されます。

 **注記 :** [互換性チェック]ツールでは、ハードウェアとドライバーの状態を大まかに検査するだけです。ネットワークパケットの送信、オーディオファイルの再生、メモリの不良ブロックのテスト、パフォーマンスの評価といった詳細な機能チェックは行われません。[互換性チェック]ツールに

よってコンピューターに互換性があることが判明した場合でも、HP では、コンピューター内のすべてのハードウェア コンポーネントが HP ThinPro で正しく機能することについて保証できません。

HP ThinPro が USB フラッシュ ドライブから実行されていて、[互換性チェック]による必要なすべてのチェックに合格した場合は、ウィンドウの下部に 2 つのボタンが表示されます。1 つ目のボタンを使用すると、HP ThinPro ソフトウェアを内蔵ストレージに直接インストールできます。2 つ目のボタンを使用すると、HP ThinPro をコンピューターに直接インストールしないで USB フラッシュ ドライブから実行できます。

 **注記**：インストール ボタンは、展開ツールの [Installer Flash Drive]（インストーラー フラッシュ ドライブ） オプションを使用して作成された USB フラッシュ ドライブとともにのみ表示されます。 [Bootable Flash Drive]（起動可能なフラッシュ ドライブ） オプションでは、インストールを実行できません。

HP ThinPro をコンピューターにインストールする場合、USB フラッシュ ドライブから HP ThinPro を実行していたときに構成された設定を保存することもできます。設定を保存しない場合は、HP ThinPro の工場出荷時の初期設定のイメージがインストールされます。

[互換性チェック]ツールは、[スタート]ボタンの下にある管理ツールの一覧から手動で起動することもできます。

## ライセンス

サポートされている HP Thin Client は自動ライセンスされているため、ライセンス ファイルは必要ありません。システムが自動ライセンスされている場合、以下に示すライセンス情報ソースの多くは表示されません。

他のすべてのシステムの場合、HP ThinPro の実行には有効なライセンス ファイルが必要です。ライセンス ファイルは、HP Inc. Software Depot から入手できます。

展開ツールでは、有効なライセンス ファイルを参照するよう求めるメッセージが表示されます。選択したファイルは、HP ThinPro の起動可能な USB フラッシュ ドライブまたはインストーラー USB フラッシュ ドライブの作成時および大量展開イメージの作成時に自動的にコピーされます。

展開ツールおよび有効なライセンスを使用して HP ThinPro をデバイスにインストールする場合は、ライセンス ファイルを手動でインストールする必要はありません。ただし、その他の方法で HP ThinPro をインストールする場合は、ライセンス ファイルをデバイスの /persistent/licenses ディレクトリにコピーすることが必要になることがあります。この展開を実行するには、[HP Device Manager]（またはその他のメカニズム）を使用できます。

## ライセンスの種類

ライセンス ファイルは 3 種類あります。

- 試用版ライセンスでは、短期間であればライセンス料を支払わずに HP ThinPro を実行できます。
- ユニットライセンスでは、特定のバージョンの HP ThinPro を無期限に実行できます。また、このライセンスではロイヤルティが支払い済みであるため、ロイヤルティの支払義務のあるソフトウェアのロックが解除されています。
- サポートライセンスでは、システムのパッチや拡張機能を利用したり、新しいバージョンの HP ThinPro にシステムをアップグレードしたりできます。






システム上に存在するライセンスの組み合わせに応じて、さまざまな機能が表示、非表示、または無効になります。

## システムトレイアイコン

システムトレイアイコンは、システムのライセンス状態を示しています。

表 2-1 システムトレイアイコン

アイコン	説明
	ライセンスは有効です。
	ライセンスの有効期限がもうすぐ切れます。
	ライセンスは無効です（有効期限が切れた試用版ライセンスなど）。

システムトレイアイコンにマウスポインターを合わせると、システム上で見つかった有効なライセンスに関する情報が表示されます。右クリックすると、[License]（ライセンス）タブが選択されている[システム情報]アプリが起動します。

## 通知

通知は、システムトレイアイコンの上に定期的にポップアップ表示される場合があります。

サポートライセンスまたは試用版ライセンスの有効期限が近づくと、ご案内の通知でお知らせます。この通知は、特定のレジストリ設定によって無効にできます。詳しくは、[105 ページの「レジストリキー」](#)を参照してください。

その他の通知では、有効期限切れ、不明、または無効なライセンスファイルなど、ライセンスエラーについて警告されます。このような種類の通知を無効にすることはできません。

## システム情報

[システム情報]アプリケーションの[ソフトウェアライセンス]タブには、システムの全体的なライセンス状態と、システム上で見つかった各ライセンスファイルの詳細（開始日と終了日、ライセンス数、ライセンスのシリアル番号、およびその他の情報など）が表示されます。

## デスクトップの背景の透かし

透かしテキストは、試用版ライセンスを使用した場合、または有効期限が切れたライセンスや無効なライセンスと組み合わせて使用した場合にデスクトップの背景に表示されます。この透かしテキストを無効にすることはできません。

## システム更新ツール

システムが自動ライセンスされておらず、システム上に有効なサポートライセンスがない場合は、[HP Easy Update]およびその他のシステム更新ツールによって表示されるパッチおよびアップグレードが制限されます。

## ロイヤルティの支払義務のあるソフトウェア

HP ThinPro によって使用される一部のソフトウェアには、ロイヤルティの支払いが課せられています。一例として、H.264 ビデオ デコードを使用する機能があります。システムが自動ライセンスされておらず、システム上に有効なユニットライセンスがない場合は、ロイヤルティの支払義務のあるソフトウェアが無効になります。試用版ライセンスでは、ロイヤルティの支払義務のあるソフトウェアは有効になりません。


## 接続

システム上に有効なライセンスの組み合わせがない場合は、他のシステムへのリモート接続を作成する機能が制限されるか、無効になる可能性があります。

## 3 GUI の概要

### デスクトップ

ここでは、デスクトップの GUI について説明します。

 **注記:**以下の図では HP ThinPro のデスクトップを示しています(ロケール設定は米国)。HP Smart Zero の場合、タスクバーは初期設定で画面の右側に縦向きに表示され、デスクトップのテーマは接続インターフェイスによって異なります。一部のタスクバー情報の表示形式は、ロケール設定によって異なります。

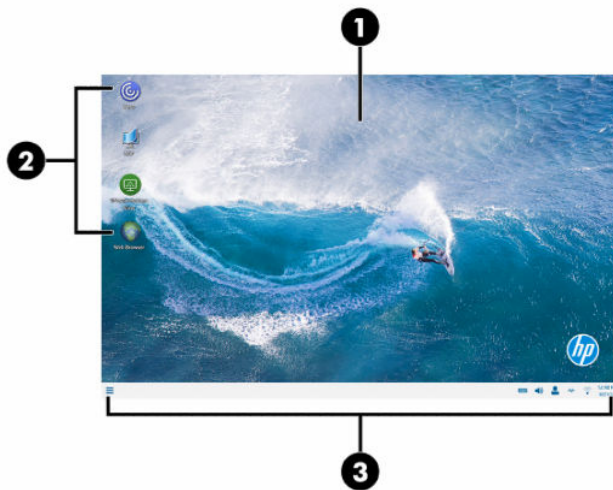


表 3-1

項目	説明
(1) デスクトップ	HP ThinPro では、接続のショートカットをデスクトップ領域に配置したり、背景のテーマをカスタマイズしたりできます。  HP Smart Zero では、デスクトップがログイン画面に置き換えられ(カスタマイズできます)、選択されている接続インターフェイスに固有のテーマが表示されます。
(2) 接続のショートカット	接続のショートカットをダブルクリックして、接続を開始できます。アイコンを右クリックすると、現在の接続に関連した操作のメニューが表示されます。アイコンを選択して新しい場所にドラッグすることもできます。
(3) タスクバー	プログラムおよびシステムの機能にすばやくアクセスできます(詳しくは、 <a href="#">8 ページの「タスクバー」</a> を参照してください)。

### タスクバー

ここでは、タスクバーについて説明します。


 **注記**：以下の図では HP ThinPro のタスクバーを示しています（ロケール設定は米国）。HP Smart Zero の場合、タスクバーは初期設定で画面の右側に縦向きに表示されます。一部のタスクバー情報の表示形式は、ロケール設定によって異なります。



表 3-2

項目	説明
(1) スタート	メインメニューを表示します。詳しくは、 <a href="#">56 ページの「[スタート]メニュー」</a> を参照してください。
(2) アプリケーション領域	現在開いているアプリケーション用のアイコンが表示されます。 <b>ヒント</b> ：Ctrl + Alt を押しながら、Tab キーを繰り返し押すと、フォアグラウンドで動作させるアプリケーションを選択できます。
(3) システムトレイ	特定の機能およびサービスにすばやくアクセスしたり、その情報を表示したりします。  システムトレイ項目の上にカーソルを置くと、ツールヒントが表示されます（一部の項目のみ）。選択すると構成の操作が開始されます。右クリックするとメニューが表示されます。  システムトレイには以下の項目を含めることができますが、システム構成によっては一部の項目が表示されない場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>オーディオミキサー</li> <li>キーボード：このアイコンを選択すると、キーボードレイアウトを変更したり、仮想キーボードを開いたり、システムレイアウトを変更したりすることができます。右クリックすると仮想キーボードが開きます。現在のキーボードレイアウトの名前を表示するには、アイコンにマウスポインターを合わせます。</li> <li>有線ネットワークステータス：このアイコンを右クリックすると、接続されたネットワークの詳細が表示されます。</li> <li>無線ネットワークステータス：このアイコンを選択すると、使用可能な無線ネットワークの一覧が表示されます。そのどれかに接続するには、そのネットワークの無線プロファイルを作成します。</li> <li>自動更新の状態：Automatic Update アイコンは、Automatic Update による更新プログラムの確認中またはコンピューターの更新中に表示されます。詳細を表示するには、アイコンを選択します。HP ThinPro が有効な自動更新サーバーを見つけることができない場合、またはアイコンを表示するためのレジストリキーが無効になっている場合には、アイコンは表示されません。</li> <li>iBus (Intelligent Input Bus)：iBus は、Unix 系オペレーティングシステムにおける多言語入力用の入力方式 (IM) フレームワークです。</li> <li>バッテリーアイコン：[電源管理]を開くには、このアイコンを右クリックしてから、[電源設定の調整]を選択します。</li> <li>ユーザーアイコン：Active Directory 認証が有効になっていることを示します。画面をロックしたり、ドメインパスワードを更新したりする場合に選択します。現在のユーザーを表示するには、アイコンにマウスポインターを合わせます。</li> </ul>

表 3-2 (続き)

項目	説明
(4)	日付と時刻
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ライセンスアイコン : HP ThinPro ライセンスの状態を示します。アイコンにマウスポインターを合わせると、現在有効なライセンスに関する詳細情報が表示されます。アイコンを右クリックして[システム情報]ページにアクセスすると、ライセンスの詳細が表示されます。現在の HP Thin Client は自動ライセンスされているため、ライセンス情報は表示されません。</li> </ul> <p>現在の日付および時刻を表示します。また、日付および時刻の設定を開きます。</p>

## 4 接続の設定

接続管理は、デスクトップから直接行うことも、従来の接続マネージャーまたは[スタート]メニューから行うこともできます。初期設定では、構成された接続ごとのショートカットであるアイコンがデスクトップに表示されます。

コンピューターの初回起動時には、いくつかのサンプルの接続アイコンがデスクトップに表示されます。HP ThinPro でサポートされる任意の接続インターフェイスについて、新しい一般的な接続のショートカットを作成できます。

従来の接続マネージャーについて詳しくは、[12 ページの「接続マネージャー \(HP ThinPro のみ\)」](#)を参照してください。

### 新しい接続ショートカットの作成

新しい接続ショートカットを作成するには、以下の操作を行います。

- ▲ デスクトップを右クリックし、**[作成]**を選択します。

### デスクトップアイコンの管理

アイコンはすべて自動的にグリッド内に配置されます。アイコンをクリックして、デスクトップ上の他のグリッド位置にドラッグできます。アイコンをグリッド位置に移動すると、アイコンはその位置に固定されます。他の接続のショートカットを追加、削除、または並べ替えた場合でも、その位置にとどまります。

グリッド位置に固定されていないアイコンは浮動アイコンです。接続のショートカットを追加、削除、または並べ替えた場合に、自動的に移動することがあります。固定されたアイコンを浮動アイコンに変更するには、アイコンを右クリックして、**[位置の固定]**のチェックを外します。

### デスクトップでの接続管理


接続管理は、デスクトップから直接行うことも、従来の接続マネージャーまたは[スタート]メニューから行うこともできます。初期設定では、構成された接続ごとのショートカットであるアイコンがデスクトップに表示されます。

コンピューターの初回起動時には、いくつかのサンプルの接続アイコンがデスクトップに表示されます。HP ThinPro でサポートされる任意の接続インターフェイスについて、新しい一般的な接続のショートカットを作成できます。

従来の接続マネージャーについて詳しくは、[12 ページの「接続マネージャー \(HP ThinPro のみ\)」](#)を参照してください。

それぞれの接続を、開始、停止、編集、コピー、名前変更、または削除できます。ユーザー編集が有効になっていない場合、管理者以外のユーザーは接続の開始または停止しかできません。


- ▲ デスクトップで接続を管理するには、接続アイコンを右クリックしてから操作を選択します。

 **注記:** ユーザー編集が有効になっていない場合、接続を管理するには管理者モードに切り替える必要があります。

- **[開始/停止]**：接続を開始、またはアクティブな接続を停止します。接続アイコンをダブルクリックすることもできます。接続がアクティブになっている場合は、接続アイコンの上に緑色の円が表示され、タスクバーに接続アイコンが表示されます。接続開始時に接続パラメーターが見つからない場合は、不明なパラメーターの入力を求めるダイアログボックスが表示されます。たとえば、どの開始アイコンにもリモートサーバーが定義されていない場合、接続開始時にリモートサーバーのアドレスまたは名前の入力を求めるダイアログボックスが表示されます。
- **[編集]**：完全な接続エディターを開きます。
- **[コピー]**：元の接続のすべてのパラメーターおよび一意の名前を持つ接続のコピーを作成します。
- **[名前の変更]**：接続の名前を変更できます。接続アイコンの下のテキストをダブルクリックするか、接続エディターを使用して変更することもできます。
- **[削除]**：接続を削除します。

## 接続マネージャー（HP ThinPro のみ）

ここでは、接続マネージャーのコンポーネントを確認し、接続マネージャーを開く方法について説明します。

 **注記**：接続のショートカットを使用することをおすすめしますが、従来の接続マネージャーのインターフェイスを使用することもできます。

以下の図では接続マネージャーを示しています（ロケール設定は米国）。

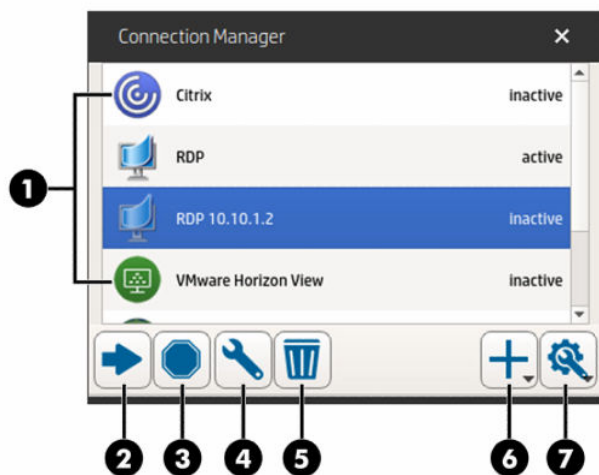


表 4-1

項目	説明
(1) 接続リスト	設定済みの接続およびその状態（アクティブであるかどうか）が一覧表示されます。
(2) スタート	選択されている接続を開始します。
(3) 停止	選択されている接続を停止します。
(4) 編集	選択されている接続を編集します。

表 4-1 (続き)

項目	説明
(5) 削除	選択されている接続を削除します。
(6) 追加	新しい接続を追加します。  <b>注記:</b> 利用可能な接続インターフェイスの一覧については、 <a href="#">1 ページの「OS 構成の選択」</a> を参照してください。
(7) 設定	Citrix 接続の全般設定を編集します。これらの設定は、その種類のすべての接続に適用されます。

接続マネージャーを開くには、以下の操作を行います。

1. 管理者モードで[スタート]を選択し、検索ボックスに「connection manager」と入力します。
2. [接続マネージャー]を選択します。

接続の設定方法について詳しくは、以下を参照してください。

- [11 ページの「接続の設定」](#)
- [16 ページの「接続の種類」](#)

## 接続の詳細設定

以下の表では、任意の接続インターフェイスの接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用できる設定について説明します。


 **注記:** これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

表 4-2 接続の詳細設定

オプション	説明
予備接続	予備接続を指定します。接続を開始できなかった場合に、代わりとして予備接続の開始を試みます。  <b>注記:</b> このオプションは、接続インターフェイスが VMware Horizon View の場合は使用できません。
自動開始の優先度	接続が自動的に開始される順序を決定します。 <b>[0]</b> に設定すると、自動開始が無効になります。その他の値によって開始する順序が決まり、 <b>[1]</b> が最も高い優先度になります。
資格情報をスクリーンセーバーと共有	ユーザーがその接続に自分の資格情報を使用してローカルスクリーンセーバーのロックを解除できるようにします。  <b>注記:</b> このオプションは、接続インターフェイスが Citrix、RDP、および VMware Horizon View の場合にのみ使用できます。
自動再接続	有効にすると、この接続が切断された場合に自動的に再接続を試みます。  <b>注記:</b> 接続マネージャーを介して接続を停止すると、自動再接続は行われません。
接続前にネットワークを待機する	接続を開始するためにネットワークが必要ない場合、またはネットワークでの接続開始を待たない場合は、このオプションを無効にします。




表 4-2 接続の詳細設定 (続き)

オプション	説明
デスクトップにアイコンを表示	有効にすると、この接続のデスクトップアイコンが作成されます。このオプションは初期設定で有効になっています。  無効にすると、接続はデスクトップには表示されません。ただし、[スタート]メニューおよび接続マネージャーには表示されます。
ユーザーによるこの接続の起動を許可する	有効にすると、エンドユーザーがこの接続を開始できます。
ユーザーによるこの接続の編集を許可する	有効にすると、エンドユーザーがこの接続を変更できます。
ログインダイアログオプション	接続用のログインダイアログを設定するには、これらのオプションを有効または無効にします。  <b>注記：</b> このオプションは、接続インターフェイスが Citrix、RDP、および VMware Horizon View の場合にのみ使用できます。  以下のオプションを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● [サーバーフィールドの表示]</li> <li>● [ユーザー名フィールドの表示]</li> <li>● [パスワードフィールドの表示]</li> <li>● [ドメインフィールドの表示]</li> <li>● [このアカウントを記憶する]チェックボックスの表示</li> </ul> <b>注記：</b> このオプションを使用すると、ユーザー名およびドメインは保存されますが、パスワードは毎回入力する必要があります。

## キオスクモード

Thin Client をキオスクモード用に設定すると、その Thin Client はあらかじめ定義されたユーザー資格情報を使用し、起動時に初期設定の接続に自動的にログインします。ログアウト、切断、またはネットワーク障害のために接続が失われた場合は、接続が復元されるとすぐに自動的に再接続します。

 **ヒント:** ログイン時にリソースが自動的に起動するようにリモートホストを設定して、キオスクモードの操作環境をシームレスにすることができます。


Thin Client をキオスクモード用に構成する最も簡単な方法は、Thin Client を HP Smart Zero に切り替え (81 ページの「[ThinPro の構成 \(カスタマイズセンター\)](#)」を参照してください)、接続を設定することです。これが完了すると、以下の設定が自動的に行われます。

- タスクバーが自動的に非表示になります。
- 接続が自動的に開始されます。
- 接続が自動的に再接続されます。
- 接続時にユーザー資格情報がローカルスクリーンサーバーと共有されます。
- デスクトップテーマがその接続インターフェイスの初期設定のテーマに設定されます。
- [USB マネージャー]の USB リダイレクトプロトコルがその接続インターフェイスのプロトコルに設定されます。

HP ThinPro で Thin Client をキオスク モード用に構成する場合（HP ThinPro でのみ使用可能な接続インターフェイスを使用する場合など）は、目的の接続に対して以下の設定を手動で行ってください。

- ThinPro の構成（カスタマイズセンター）で、タスクバーを**[自動的に隠す]**に設定します。
- 接続の設定で、以下の操作を行います。
  - **[自動開始の優先度]**を[1]に設定します。
  - **[自動再接続]**を有効にします。
  - 可能な場合は、**[資格情報をスクリーンセーバーと共有]**を有効にします。
  - Web Browser 接続の場合のみ、**[キオスク モードを有効にする]**オプションを選択します。
- **[USB マネージャー]**で、必要に応じて適切な USB リダイレクト プロトコルを設定します。

---

 **ヒント** : キオスク モードのときに、接続を最小化してローカル デスクトップに戻るには、**Ctrl + Alt + End** キーを押します。

---

## 5 接続の種類

### Citrix

以下の表では、サポートされる Citrix XenApp バックエンドを示しています。

表 5-1 Citrix XenApp バックエンド

アクセスタイプ	XenApp のバージョン
PNAgent (レガシー)	7.6 LTSR、7.15 LTSR、および 7.16 以降
Web ブラウザー	7.6 LTSR、7.15 LTSR、および 7.16 以降
StoreFront	7.6 LTSR、7.15 LTSR、および 7.16 以降
Workspace	7.6 LTSR、7.15 LTSR、および 7.16 以降


以下の表では、サポートされる Citrix XenDesktop®バックエンドを示しています。

表 5-2 Citrix XenDesktop バックエンド

アクセスタイプ	XenApp のバージョン
PNAgent (レガシー)	7.6 LTSR、7.15 LTSR、および 7.16 以降
Web ブラウザー	7.6 LTSR、7.15 LTSR、および 7.16 以降
StoreFront	7.6 LTSR、7.15 LTSR、および 7.16 以降
Workspace	7.6 LTSR、7.15 LTSR、および 7.16 以降

### Citrix 接続マネージャー

ここでは、Citrix 接続を編集しているときにさまざまなカテゴリで使用できる設定について説明します。

 **注記**：接続、構成、および詳細設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。全般設定はすべての Citrix 接続に影響します。

### 接続

以下の表では、Citrix 接続を編集しているときに[接続]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-3 接続

オプション	説明
名前	接続の名前。

表 5-3 接続 (続き)

オプション	説明
接続モード	<p>接続モードを次のどれかに設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [PNAgent]</li> <li>• [StoreFront]</li> <li>• [Workspace]</li> </ul> <p><b>注記:</b> このオプションに続いて表示される認証オプションは、選択した接続モードによって異なります。詳しくは、Citrix のドキュメントを参照してください。</p> <p><b>注記:</b> [接続のテスト] ボタンを選択して、接続設定をテストできます。</p>
URL	<p>Citrix サーバーのホスト名または IP アドレス。HTTPS サイト上のサーバーとの接続を設定している場合は、サイトの FQDN を入力し、Citrix 証明書ストア内にローカルルート証明書を入力します。</p> <p>このオプションの横にあるチェック ボックスを選択すると、HTTPS 接続が強制されます。</p>
証明書チェックを無視する	<p>Citrix サーバーの証明書の検証を回避します。</p> <p><b>注記:</b> [Workspace] モードでは、証明書チェックを無視できません。</p>
資格情報	<p>認証モードを次のどれかに設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[匿名ログイン]:</b> 非認証 (匿名) ユーザーを許可する StoreFront サーバー用です。</li> <li>• <b>[シングルサインオン資格情報を使用する]:</b> ログイン時に使用する資格情報を、接続の開始にも使用します。</li> <li>• <b>[接続の開始時に資格情報を要求する]:</b> 事前に定義された資格情報コンポーネントはありません。</li> <li>• <b>[事前定義されたユーザー、パスワード、および/またはドメインを使用する]:</b> 資格情報の一部またはすべてを保存し、接続に使用します。</li> <li>• <b>[事前定義されたスマートカードを使用する]:</b> 認証用のスマートカードを使用して、接続を開始します。</li> </ul>
ユーザー	この接続のユーザー名。
パスワード	この接続のパスワード。
ドメイン	この接続のドメイン名 (省略可能)
接続のテスト	URL および資格情報をチェックします。

## 構成

以下の表では、Citrix 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。


表 5-4 構成

オプション	説明
ログイン時にアプリケーションに自動再接続する	<p>このオプションを選択すると、ユーザーが最後にログアウトしたときに開かれていたリソースが、再ログイン後もう一度開かれます。</p> <p><b>ヒント</b> : Citrix SmoothRoaming 機能を使用していない場合、このオプションを無効にすると接続速度が速くなります。</p>
自動起動モード	<p>Citrix 接続が開始されるときに自動的に起動される特定のアプリケーションまたはデスクトップを設定します。<b>[単一リソースの自動起動]</b>に設定すると、単一の公開されたリソースがある場合に、そのリソースが接続時に自動的に起動します。</p> <p><b>注記</b> : <b>[ログイン時にアプリケーションに自動再接続する]</b>が選択されていて、再接続するアプリケーションがある場合には、このオプションは機能しません。</p> <p>[アプリケーションの自動起動]または[デスクトップの自動起動]を選択している場合は、<b>[列挙]</b>ボタンを選択すると、リソース (アプリケーションまたはデスクトップ) の一覧が取得され、Citrix 接続マネージャーに表示されます。Citrix 接続マネージャーでは、接続時に自動起動するリソースを選択できます。</p> <p>[単一リソースの自動起動]を選択している場合は、<b>[列挙]</b>ボタンを選択すると、リソースの数が取得されます。リソースが1つしかない場合には、接続時にそのリソースが自動起動されます。</p>
リソースを表示する	<p>このオプションを選択した場合は、リソースを表示する場所を選択する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>[ウィンドウ内]</b> : ウィンドウ内にリソースを表示します。</li> <li>● <b>[デスクトップに直接]</b> : デスクトップにリソースを表示します。</li> </ul>
[スタート]メニューにリソースを表示する	<p>このオプションを選択すると、接続先のリモート リソースが[スタート]メニューに表示されます。</p>
サブスクリプション済みのリソースのみを表示する	<p>このオプションを選択すると、サブスクリプション済みのリソースのみが Citrix 接続時に表示されます。</p> <p><b>注記</b> : Citrix セルフサービス UI を使用している場合、このオプションはサポートされません。</p>

## 全般設定

全般設定を編集するには、以下の操作を行います。

- ▲ Citrix 接続マネージャーで、**[全般設定]**タブ→**[Xen 接続の全般設定マネージャー]**の順に選択します。

 **注記** : これらの設定はすべての Citrix 接続に影響します。

## オプション

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに**[オプション]**カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-5 オプション

オプション	説明
[HDX MediaStream]を有効にする	[HDX MediaStream]を有効にします。
マルチメディアを有効にする	マルチメディアを有効にします。

表 5-5 オプション (続き)

オプション	説明
接続バーを有効にする	接続バーを有効にします。
自動再接続を有効にする	切断された接続の自動再接続を有効にします。
セッションの信頼性を有効にする	Citrix のセッション画面の保持機能を有効にします。詳しくは、Citrix のドキュメントを参照してください。
スマートカードチャネルを有効にする	スマートカードチャネル機能を有効にします。 <b>注記:</b> スマートカード接続を使用していない場合に Citrix セッションでスマートカードを使用するには、このオプションを有効にします。
セッションの信頼性のタイムアウト (秒)	セッションの信頼性のタイムアウトを秒単位で指定します。初期設定は 180 秒です。
クリップボードリダイレクトを有効にする	クリップボードのリダイレクトを有効にします。
データ圧縮を使用する	この接続にデータ圧縮を使用します。
H264 圧縮を有効にする	H.264 圧縮を有効にします。このデータ圧縮方法がお客様の使用環境に最適かどうかを確認するには、Citrix のドキュメントを参照してください。
中ボタンでの貼り付けを有効にする	マウスの中ボタンでの貼り付け機能を有効にします。
ユーザー エージェント文字列	Citrix サーバーに送信される要求に使用するユーザー エージェント文字列を指定します。このオプションは NetScaler 構成に使用できます。
サウンド	音質を設定するか、サウンドを完全に無効にします。
トランスポート プロトコル	接続のトランスポート プロトコルと、フォールバック トランスポート プロトコルを使用するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>【オフ】</b> (初期設定) : TCP を使用します。</li> <li>● <b>【オン】</b> : UDP を使用し、障害時に TCP にフォールバックしません。</li> <li>● <b>【優先されています】</b> : 最初に UDP を試行し、障害時には TCP にフォールバックします。</li> </ul>
非推奨の暗号スイートを使用する	非推奨の暗号スイート (TLS_RSA、RD4-MD5、RC4_128_SHA) が許可されているかどうかを指定します。

## ローカル リソース

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに[ローカル リソース]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-6 ローカル リソース

オプション	説明
Citrix USB リダイレクトのステータス	設定するには、 <b>【USB マネージャー】</b> を選択します。 <a href="#">79 ページの「USB デバイスのリダイレクト」</a> を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>【有効】</b> : Citrix 接続で USB リダイレクトがサポートされます。</li> <li>● <b>【無効】</b> : Citrix 接続で USB リダイレクトが無効になります。</li> </ul>
プリンター	ローカル プリンターのリダイレクトを処理する方法を設定します。

表 5-6 ローカルリソース (続き)

オプション	説明
Web カメラ/オーディオ入力	ローカルの Web カメラおよびオーディオ入力のリダイレクトを処理する方法を設定します。
ドライブマッピング/リダイレクト	ローカルドライブへのアクセスに使用する方法を指定します。 <b>注記:</b> ドライブリダイレクトの方法は 1 つだけ選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[USB のリダイレクト]:</b> USB のリダイレクトを有効にします。詳細なオプションを設定するには、<b>[USB マネージャー]</b>を開きます。</li> <li>• <b>[動的ドライブマッピング]:</b> 動的ドライブマッピングを有効にします。</li> <li>• <b>[静的ドライブマッピング (レガシー)]:</b> 静的ドライブマッピングを有効にします。ドライブマッピングをローカルパスに指定できるようになります。ローカルパスを指定するには、<b>[マッピングフォルダーの構成]</b>を選択します。</li> </ul>

## ウィンドウ

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに[ウィンドウ]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-7 ウィンドウ

オプション	説明
TWI モード	ネイティブアプリケーションのように、HP ThinPro のローカルデスクトップ上にシームレスウィンドウを 1 つだけ表示します。
初期設定のウィンドウ サイズ	<b>[TWI モード]</b> が <b>[シームレスを強制的にオフにする]</b> に設定されているときの、初期設定のウィンドウ サイズを設定します。
初期設定のウィンドウの色	初期設定の色深度を設定します。
左のモニター	<b>[仮想デスクトップをすべてのモニター上に表示する]</b> が無効になっている場合、これらのフィールドで、仮想デスクトップを各モニターに表示する方法を指定します。
右のモニター	
上のモニター	
下のモニター	

## セルフサービス

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに[セルフサービス]カテゴリで使用できる設定について説明します ([Workspace]モードの場合のみ)。

表 5-8 セルフサービス

オプション	説明
オプション 1: キオスク モードを有効にする	キオスク モードで起動するようにユーザー デバイスを構成します。このモードでは、セルフサービスが全画面モードで起動します。

表 5-8 セルフサービス (続き)

オプション	説明
オプション 1.1 : タスクバーを表示する	タスクバーが表示されるかどうかを指定します。[ThinPro の構成] (カスタマイズセンター) には、タスクバーをカスタマイズするための詳細なオプションがあります。
オプション 1.2 : 共有ユーザー モードを有効にする	複数のユーザーでデバイスを共有することもできます。
オプション 2 : [Citrix Workspace] の設定を無効にする	セルフサービス UI の Citrix のメニュー項目の [設定] を無効にします。
オプション 3 : Citrix コネクション センターを無効にする	セルフサービス UI の Citrix のメニュー項目の [Connection Center] (コネクションセンター) を無効にします。

## ファイアウォール

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに [ファイアウォール] カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-9 ファイアウォール

オプション	説明
プロキシの種類	プロキシの種類を指定します。
プロキシアドレス	プロキシサーバーの IP アドレス。
プロキシポート	プロキシサーバーに接続するためのポート。
ユーザー名	プロキシサーバーへの接続に使用するユーザー名。
パスワード	プロキシサーバーへの接続に使用するパスワード。
ファイアウォール接続に代替アドレスを使用する	Citrix ICA クライアントが、ファイアウォール内のサーバーへのアクセス時に、サーバーに定義された代替アドレスを要求します。代替アドレスは、サーバー ファーム内の各サーバーに指定する必要があります。

## キーボードショートカット

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに [キーボード ショートカット] カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-10 キーボードショートカット

オプション	説明
ローカルの IM の使用を有効にする	ローカルの入力方式を使用してキーボード入力を処理します。このオプションは、ヨーロッパ言語でのみサポートされています。
EUKS 番号を使用する	Windows サーバー上での拡張 Unicode キーボードサポート (EUKS : Extended Unicode Keyboard Support) の使用方法を制御します。設定可能な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0 : 拡張 Unicode キーボードサポートは使用されません。</li> <li>1 : 拡張 Unicode キーボードサポートがフォールバックとして使用されます。</li> <li>2 : 使用可能な場合は常に拡張 Unicode キーボードサポートが使用されます。</li> </ul>



表 5-10 キーボードショートカット (続き)

オプション	説明
キーボードマッピングファイル	<p>キーボードマッピングファイルを指定します。ファイルが自動的に選択されるようにするには、<b>[自動]</b>を選択します。それ以外の場合は、特定のマッピングファイルを選択します。</p> <p><b>注記:</b> 独自のキーボードマッピングファイルを使用するには、フォルダー <code>/usr/lib/ICAClient/keyboard/</code> に保存します。</p>
キーボードショートカットでの操作	<p>キーボードショートカットの処理を指定します。次の設定を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>[変換]:</b> キーボードショートカットがローカルデスクトップ (クライアント側) に適用されます。</li> <li>● <b>[全画面表示のデスクトップでのみ直接転送]:</b> 全画面モードの非シームレス ICA セッションでのみ、キーボードショートカットがリモートデスクトップ (サーバー側) に適用されます。</li> <li>● <b>[直接転送]:</b> シームレスと非シームレスの両方の ICA セッションで、ウィンドウにキーボードフォーカスがある場合に、キーボードショートカットがリモートデスクトップ (サーバー側) に適用されます。</li> </ul>
直接キー操作を停止	<p>キーボードショートカットの直接操作を無効にするキーの組み合わせを指定します。</p>
ALT + F1...Alt + F12	<p>操作するキーボードショートカットを追加します。</p>

## セッション

以下の表では、Citrix の全般設定を編集しているときに[セッション]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-11 セッション


オプション	説明
アプリ起動前の自動ログアウト遅延	<p>Citrix サーバーを複数の公開されたリソースで使用する場合、ユーザーがログインしてから、システムが自動的にログアウトして最初のログイン画面に戻るまでに、アプリケーションを起動できる秒数を指定します。</p>
アプリ終了後の自動ログアウト遅延	<p>Citrix サーバーを複数の公開されたリソースで使用する場合、最後に Xen に公開されたリソースの終了から、自動的にユーザーがログアウトされて最初のログイン画面に戻るまでの秒数を指定します。</p>
サーバー チェックのタイムアウト	<p>選択したサーバーおよびポートに対する基本的な接続のチェックを実行するには、このオプションを初期値の <code>[-1]</code> 以外の値に設定します。</p>

**ヒント:** これらの値のどれかを 0 未満に設定すると、自動ログアウトが無効になります。

**注記:** Citrix の処理の遅延により、自動ログアウトの時間が増える可能性があります。

## 詳細設定

このセクションは、接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで確認できる接続の詳細設定に関する情報を参照しています。

 **注記**：接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[13 ページの「接続の詳細設定」](#)を参照してください。


## RDP

RDP クライアントは FreeRDP 1.1 に基づいており、RDP の要件に対応するために、以下の機能を備えています。

- ハードウェアが高速化された RemoteFX
- デスクトップエクスペリエンス機能を有効にした Windows ホストに接続する場合の MMR のサポート
- USBR を有効にする RDP サーバーに接続する場合の USBR のサポート

## RDP の接続ごとの設定

ここでは、RDP 接続を編集しているときにさまざまなカテゴリで使用できる設定について説明します。

 **注記**：これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

## ネットワーク

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[ネットワーク]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-12 ネットワーク

オプション	説明
接続名	この接続のカスタムの名前。
サーバー名/アドレス	この接続の IP アドレスまたはサーバー名、または RD Web アクセスフィードの URL。必要に応じて、サーバー名の後にコロンを入力して、その後にポート番号を追加できます（初期設定では、直接 RDP 接続のポートは 3389 です）。 <b>注記</b> ：RD Web アクセスフィードの URL は、https://で始める必要があります。初期設定では、URL のパターンを定義する rdWebFeedUrIPattern レジストリ キーの指定に従って、これが自動的に追加されます。
資格情報	<ul style="list-style-type: none"><li>• <b>[シングルサインオン資格情報を使用する]</b>：ログイン時に使用する資格情報を、接続の開始にも使用します。</li><li>• <b>[接続の開始時に資格情報を要求する]</b>：事前に定義された資格情報コンポーネントはありません。</li><li>• <b>[事前定義されたユーザー、パスワード、および/またはドメインを使用する]</b>：資格情報の一部またはすべてを保存し、接続に使用します。</li><li>• <b>[事前定義されたスマートカードを使用する]</b>：認証用のスマートカードを使用して、接続を開始します。</li></ul>
ユーザー	この接続のユーザー名。
パスワード	この接続のパスワード。
ドメイン	この接続のドメイン名（省略可能）。
RD ゲートウェイを使用する	その他の RD ゲートウェイ オプション（ゲートウェイ アドレス、ポート、資格情報など）を有効にします。

表 5-12 ネットワーク (続き)

オプション	説明
サーバーのプロープ	サーバーのプロープを開始します。サーバーのプロープを使用すると、どの RDP 機能がお使いの RDP サーバーでサポートされているかを確認できます。

## サービス

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[サービス]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-13 サービス

オプション	説明
サービス	<p>RDP サービスを以下のどれかに設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>[リモートコンピューター]</b>: このサービスを使用すると、リモートコンピューターへの直接 RDP 接続が作成されます。必要に応じて、リモートアプリケーションまたは代替シェルを接続時に起動できます。次の追加オプションを、リモートコンピューターサービスで利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>[モード]</b>を<b>[リモートアプリケーション]</b>に設定した場合は、実行するアプリケーションのパスを<b>[アプリケーション]</b>フィールドで指定します。</li> <li>- <b>[モード]</b>を<b>[代替シェル]</b>に設定した場合は、代替シェルで実行するアプリケーションの実行コマンドを<b>[コマンド]</b>フィールドで指定します。たとえば、Microsoft® Word を実行する場合は、Word.exe と入力します。</li> </ul> <p><b>[モード]</b>を<b>[代替シェル]</b>に設定した場合は、アプリケーションのプログラムファイル用のサーバーの作業ディレクトリパスを<b>[ディレクトリ]</b>フィールドで指定します。たとえば、Microsoft Word の作業ディレクトリは C:\Program Files\Microsoft になります。</p> </li> <li>● <b>[RD Web アクセス]</b>: このサービスを使用すると、RemoteApp リソースの一覧がサーバーから取得されてユーザーに表示され、リソースが選択されたときに実際の RDP 接続が開始されます。次の追加オプションを RD Web アクセスで利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>- <b>[リソース選択ウィンドウを開いたままにする]</b>: このオプションを選択すると、ユーザーはリソース選択ウィンドウで複数のリソースを同時に開くことができます。</li> <li>- <b>[単一のリソースを自動起動する]</b>: このオプションを選択すると、単一の公開されたリソースがある場合はそのリソースが接続時に自動的に起動します。</li> <li>- <b>[リソースフィルター]</b>および<b>[Web フィードブラウザー]</b>: ユーザーがリソース選択ウィンドウで選択できるリモートリソースを制限するために使用できます。</li> <li>- <b>[自動切断タイムアウト]</b>: このオプションを選択すると、セキュリティ対策として、Web アクセス接続が自動的に閉じられるまでに接続を維持できる期間を設定できます。</li> </ul> <p><b>注記</b>: RD Web アクセスを使用する利点は、ブローカー接続の詳細および負荷分散 URL が自動的に処理される点にあります。</p> <p>詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『RD Web Access Deployment Example』(RD Web アクセスの展開例) (英語版) を参照してください。</p> </li> </ul>

## ウィンドウ

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[ウィンドウ]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-14 ウィンドウ

オプション	説明
ウィンドウの装飾を表示しない	この設定により、メニューバー、最小化オプション、閉じるオプション、ウィンドウパネルの枠線などの画面要素が非表示になります。
ウィンドウサイズ	ウィンドウのサイズを[フル]、[固定]、または[パーセント]に設定します。
割合によるサイズ	[ウィンドウのサイズ]が[パーセント]に設定されている場合、このオプションは画面に対するデスクトップウィンドウの割合を設定します。 <b>注記：</b> 結果となるサイズは概数で表される場合があります。 <b>注記：</b> RemoteFX では、固定された解像度リストのみをサポートしています。
固定サイズ	[ウィンドウのサイズ]が[固定]に設定されている場合、このオプションはデスクトップウィンドウの幅および高さをピクセル単位で設定します。



## オプション


以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[オプション]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-15 オプション

オプション	説明
移動イベントを有効にする	有効にした場合、マウスの移動が継続的に RDP サーバーに転送されます。
データ圧縮を有効にする	RDP サーバーと RDP クライアント間のデータの一括圧縮を有効にします。
非推奨の RDP 暗号化を有効にする	NLA が使用できない場合に、以前の世代の RDP 暗号化を有効にします。
オフスクリーン キャッシュを有効にする	有効にした場合、オフスクリーン メモリがビットマップのキャッシュに使用されません。
管理者コンソールに接続する	接続を管理者コンソール ポートに接続します。
セッション間のコピー/貼り付け	有効にした場合、異なる RDP セッション間のコピー/貼り付けが有効になります。
RDP6 プリミティブのバッファリングを有効にする	有効にすると、画面更新の頻度を下げることにより、RemoteFX 以外のグラフィックスのパフォーマンスを向上させます。
プログレッシブ RemoteFX コーデックを有効にする	プログレッシブ RemoteFX コーデックを有効にすると、徐々に鮮明になる一連の画像でデスクトップが転送されます。 <b>注記：</b> このコーデックにより、デスクトップ上のビジュアル表示が非常に動的なコンテンツとなることがあるため、必要に応じてこのコーデックを無効にできません。
マルチメディア リダイレクトを有効にする	マルチメディア ファイルをクライアントに直接送信してローカル再生できるようにします。
証明書の検証ポリシー	以下のどれか 1 つを選択します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• [すべての RDP サーバー証明書を受け入れる]</li><li>• [記録されているホストを使用し、不明または無効な証明書の場合に警告する]</li></ul>

表 5-15 オプション (続き)

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>[記録されているホストをスキップし、不明または無効な証明書の場合に警告する]</b></li> <li>● <b>[事前認定されている RDP サーバーにのみ接続する]</b></li> </ul>
TLS バージョン	<p>RDP サーバーとのネゴシエーションの初期段階で使用される TLS (Transport Layer Security) のバージョンを設定します。RDP サーバーが使用する TLS のバージョンと一致させるか、[auto]に設定してください。</p> <p><b>注記：</b>パッチが適用されていない RDP サーバー側に存在する一部の問題により、自動設定が失敗する可能性があるため、[auto]は初期設定になっていません。</p>
次を使用してホスト名を送信	<p>デバイスごとのライセンスの場合に、クライアントのホスト名を RDP サーバーに送信する方法を選択します。<b>[ホスト名]</b>または<b>[mac]</b>を選択します。</p>
送信するホスト名	<p>通常、Thin Client のホスト名がクライアント アクセスライセンスに使用されます。このフィールドを使用すると、別の値を送信できます。</p> <p><b>ヒント：</b>詳しくは、このオプションの横にある  アイコンを選択してください。</p>
負荷分散情報	<p>このオプションはブローカー RDP 接続で使用します。</p> <p><b>ヒント：</b>詳しくは、このオプションの横にある  アイコンを選択してください。</p>

 **注記：** **[非推奨の RDP 暗号化を有効にする]** オプションおよび **[TLS バージョン]** オプションについては詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『Security Layers for RDP Connections』(RDP 接続用のセキュリティレイヤー) (英語版) を参照してください。

## ローカルリソース

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに **[ローカルリソース]** カテゴリで使用できる設定について説明します。


 **注記：** USB リダイレクト (USB R) を使用する特別な理由がない限り、すべてのローカルデバイスに対して高レベルのデバイスリダイレクトを使用することをおすすめします。詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『USB Manager』(USB マネージャー) (英語版) を参照してください。

表 5-16 ローカルリソース

オプション	説明
オーディオデバイス	オーディオデバイスが高レベルの RDP オーディオリダイレクトか低レベルの USB リダイレクトによってリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決定します。
プリンター	プリンターが高レベルのプリンターリダイレクト ( <b>[コントロールパネル]</b> の <b>[プリンター]</b> ツールで設定する必要があります) か低レベルの USB リダイレクトによってリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決定します。
シリアル/パラレルポート	シリアルポートおよびパラレルポートがリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決定します。
USB ストレージ	USB ストレージデバイス (USB フラッシュドライブや USB オプティカルドライブなど) が高レベルのストレージリダイレクトか低レベルの USB リダイレクトによってリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決定します。
ローカルパーティション	Thin Client の USB フラッシュドライブのローカルパーティションがリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決定します。

表 5-16 ローカル リソース (続き)

オプション	説明
スマートカード	<p>スマートカードが高レベルのスマートカードリダイレクトによってリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決定します。</p> <p><b>注記:</b> [事前定義されたスマートカードを使用する]設定を有効にした場合、この設定は無効になります。</p>
その他の USB デバイス	<p>その他のクラスの USB デバイス (Web カメラやタブレットなど) が低レベルの USB リダイレクトによってリダイレクトされるか、またはこの接続では無効になるかを決めます。</p>

## 効果

以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[効果]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-17 効果

オプション	説明
接続速度を選択してパフォーマンスを最適化する	<p>接続速度 ([LAN]、[ブロードバンド]、または[モデム]) を選択すると、パフォーマンスを最適化するために以下のオプションが有効または無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● [デスクトップの背景]</li> <li>● [フォントスムージング]</li> <li>● [デスクトップ構成]</li> <li>● [ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する]</li> <li>● [メニューとウィンドウのアニメーション]</li> <li>● [テーマ]</li> </ul> <p>[クライアントの推奨設定]を選択すると、RDP の操作環境を最適にするためにどのオプションを使用するかを RDP クライアントに選択させることができます。</p> <p>ユーザー独自のカスタム オプションの組み合わせを選択することもできます。</p>
エンドツーエンド接続の状態監視	<p>選択するとタイムアウト オプションが有効になります。</p> <p><b>注記:</b> 詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『RDP Connection Drop Detection』(RDP 接続の切断の検出) (英語版) を参照してください。</p>
警告タイムアウト	<p>サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、接続が失われたことがユーザーに警告されるまでの時間を秒単位で指定します。この機能を無効にするには、そのオプションをクリアするか、時間をゼロに設定します。</p> <p>[警告ダイアログの表示]オプションを選択すると、このタイムアウトの時間になったときに警告ダイアログが表示されます。そうでない場合、警告は接続ログにのみ書き込まれます。</p> <p><b>ヒント:</b> ビジー状態や一時的な停止が頻繁に発生するネットワークでは、タイムアウト値を大きくすることをおすすめします。</p>
回復タイムアウト	<p>サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、RDP クライアントで特別な操作をしないで接続回復を実行するまで待機する時間を秒単位で指定します。この時間が終了すると、RDP クライアントはそのセッションとの迅速な再接続を試みます。</p>

表 5-17 効果 (続き)

オプション	説明
エラー タイムアウト	サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、RDP クライアントでそのサーバーとの再接続の試みが中止されるまで待機する時間を秒単位で指定します。

## 診断


以下の表では、RDP 接続を編集しているときに[診断]カテゴリで使用できる設定について説明します。これらの機能は特定の問題を診断するもので、初期設定では無効になっています。

表 5-18 診断

オプション	説明
RDP ダッシュボードを表示する	有効にすると、RDP ダッシュボードが接続時に表示されます。 <b>ヒント:</b> 詳しくは、このオプションの横にある[?]アイコンを選択してください。
接続状態グラフを表示する	このオプションを有効にすると、接続開始時に RDP サーバーからの応答時間を示す 2 次元グラフが表示されます。 <b>ヒント:</b> 詳しくは、このオプションの横にある[?]アイコンを選択してください。
USB リダイレクト分析	この機能を使用すると、リダイレクトされた USB デバイスごとに、現在のリダイレクト方法を確認および表示できます。 <b>ヒント:</b> 詳しくは、このオプションの横にある[?]アイコンを選択してください。
シンクロナス X11	パフォーマンスは低下しますが、X11 バッファが頻繁にフラッシュされます。
ログ	X11 ログファイルを有効にします。[自動フラッシュ]オプションを選択すると、パフォーマンスは低下しますが、ログ出力の頻度が高くなります。
キャプチャ	1 つのセッションから X11 出力をキャプチャおよび再生できます。

## 詳細設定


このセクションは、接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで確認できる接続の詳細設定に関する情報を参照しています。

 **注記:** 接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[13 ページの「接続の詳細設定」](#)を参照してください。

## RemoteFX

RemoteFX は、従来の RDP プロトコルのグラフィックスコンポーネントの後継として設計された高度なグラフィックスディスプレイプロトコルです。RemoteFX はサーバー GPU のハードウェアアクセラレーション機能を使用し、RemoteFX コーデック経由で画面内容をエンコードし、画面の更新を RDP クライアントに送信します。また、高度なパイプラインテクノロジーおよびアダプティブグラフィックスを使用して、接続インターフェイス、使用可能な CPU とネットワーク帯域幅、およびレンダリング速度に基づいて最適な表示環境を提供できるようにします。

RemoteFX は、初期設定で有効になっています。管理者またはユーザーは、RemoteFX を有効にするために設定を変更する必要はありません。RDP クライアントは、接続する RDP サーバーとネゴシエーションし、RemoteFX が利用できる場合には RemoteFX を使用します。


 **注記**：詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『Enabling RemoteFX for RDP』（RDP での RemoteFX の有効化）（英語版）を参照してください。


## RDP でのマルチモニター セッション

マルチモニターをサポートするために、特別な設定を行う必要はありません。RDP クライアントは、ローカル設定でどのモニターがプライマリモニターとして指定されているかを確認し、タスクバーおよびデスクトップアイコンをそのモニターに配置します。リモートセッション内でウィンドウを最大化すると、そのウィンドウは最大化されているモニター上でのみ全画面表示されます。

リモートセッション内では、ディスプレイの設定およびモニターの解像度を表示することはできませんが、変更することはできません。セッションの解像度を変更するには、セッションからログアウトし、ローカルの Thin Client 上で解像度を変更します。

初期設定では、すべての RDP セッションは全画面ですべてのモニターにまたがって表示され、仮想環境を向上させます。RDP 接続マネージャーでは、追加のウィンドウ オプションを利用できます。


 **注記**：グラフィックスカードをサポートしている RDVH (Remote Desktop Virtualization Host) セッションでは、特定の解像度および数のモニターしかサポートされない場合があります。これらの制限は、RemoteFX 仮想グラフィックスデバイスが RDVH 仮想マシン用に設定されるときに指定されます。

 **注記**：RDP でのマルチモニターセッションについて詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『True Multi-Monitor Mode for RDP』（RDP でのマルチモニター モード）（英語版）を参照してください。

## RDP でのマルチメディア リダイレクト

マルチメディア リダイレクト (MMR) は、リモート ホスト上で Windows Media Player を統合し、エンコードされたメディアを RDP クライアントにストリーミングするテクノロジーで、リモート ホスト上でメディアを再生して RDP 経由で再エンコーディングすることはありません。このテクノロジーは、サーバーの負荷とネットワークのトラフィックを削減してマルチメディア環境を大きく向上させるため、オーディオを自動的に同期しながら 1080p の動画を 24 fps で再生できます。MMR は、初期設定で有効になっています。RDP クライアントは、接続する RDP サーバーとネゴシエーションし、MMR が利用できる場合には MMR を使用します。

また、MMR は高度なコーデック検出方式を使用して、リダイレクトを試みる前に、そのホストが要求しているコーデックが Thin Client でサポートされているかどうかを確認します。その結果、サポートされているコーデックのみがリダイレクトされ、サポートされていないすべてのコーデックはサーバー側でレンダリングされるようになります。

 **ヒント**：管理を簡素化するために、MMR の有効/無効の切り替えはリモート ホストで行うことをおすすめします。

## RDP でのデバイス リダイレクト

デバイスのリダイレクトを使用すると、ユーザーがデバイスを Thin Client に接続したときに、デバイスがリモートセッションで自動的に検出され、アクセスできるようになります。RDP はさまざまな種類のデバイスのリダイレクトをサポートしています。



## RDP での USB リダイレクト

USB リダイレクトは、ネットワーク経由の低レベルの USB プロトコルをリモート ホストに送信することによって動作します。ローカル ホストに接続されたすべての USB デバイスが、ローカルで接続されたかのようにネイティブの USB デバイスとしてリモート ホスト内に表示されます。標準的な Windows ドライバーがリモート セッションでデバイスをサポートし、すべての種類のデバイスが Thin Client 上でドライバーを追加することなくサポートされます。

一部のデバイスは USB リダイレクトできるように初期設定されていません。たとえば、USB キーボード、マウス、およびその他の入力デバイスは、リモート セッションが Thin Client からの入力を想定しているため、通常はリダイレクトできるように設定されていません。大容量記憶装置、プリンター、オーディオ デバイスなど一部のデバイスは、リダイレクトのために追加のオプションを使用する場合があります。

RDP での USB リダイレクトについては、以下の追加情報を参照してください。

- サーバーは、Thin Client が USB リダイレクトを利用できるようにするためにそれをサポートする必要があります。汎用の USB リダイレクトは、RemoteFX、Windows 8、Windows 10、Windows Server 2012、および Windows Server 2016 が動作する RDVH サーバーでサポートされています。
- [コントロールパネル]の[USB マネージャー]のプロトコルを RDP に設定する必要があります。
- RDP 接続の場合、USB デバイスがリダイレクトされるかどうかは、[USB マネージャー]のコントロールによって決定されます。USB デバイスがリダイレクトされる方法は、個々の接続の設定によって決定されます。

## RDP での大容量記憶装置のリダイレクト

初期設定では、RDP セッションは、高レベルのドライブ リダイレクトを使用してすべての大容量記憶装置をリモート ホストにリダイレクトします。USB フラッシュ ドライブ、USB DVD-ROM ドライブ、外付け USB ハードディスク ドライブなどのデバイスを Thin Client に接続すると、Thin Client はそのドライブを検出してローカル ファイル システムにマウントします。その後、RDP が、マウントされたドライブを検出してリモート ホストにリダイレクトします。リモート ホスト内では、そのドライブが Windows エクスプローラーで新しいディスク ドライブとして表示され、〈デバイス ラベル〉 on 〈クライアントのホスト名〉という名前が付けられます (例 : Bill\_USB on HP04ab598100ff)。

この種類のリダイレクトには 3 つの制限があります。

- デバイスを取り外すためのアイコンがリモート ホストのタスクバーに表示されません。このため、デバイスを取り外す前に、コピーされたデータが同期されるまでの時間を十分に取り、デバイスが壊れないようにしてください。通常、ファイル コピーのダイアログが消えてから待機する必要がある時間は 1 秒未満ですが、デバイスの書き込み速度およびネットワークの遅延時間によっては、最大で 10 秒間待機することが必要になる場合があります。
- Thin Client でサポートされているファイル システムのみがマウントされます。サポートされているファイル システムは、FAT32、NTFS、ISO9660 (CD-ROM)、UDF (DVD-ROM)、および ext3 です。
- デバイスはディレクトリとして扱われるため、フォーマットやディスク ラベルの変更といったドライブでよく行われる作業はできません。

ストレージ デバイスの USB リダイレクトは、個々の接続の設定で無効にできます。必要に応じて、大容量記憶装置のリダイレクトを完全に無効にできます。そのためには、USB リダイレクトを無効にしてから、以下の表で説明しているように、レジストリ キーを変更します。

表 5-19 RDP での大容量記憶装置のリダイレクト

レジストリ エントリ	設定する値	説明
root/USB/root/holdProtocolStatic	1	接続が設定または設定解除されたときに USBR タイプが自動的に変更されないようにします。
root/USB/root/protocol	local	デバイスをリモートセッションにリダイレクトするために RDP 接続が試行されないようにします。

USB 大容量記憶装置のローカル マウントを完全に無効にするか、USB 大容量記憶装置のリダイレクトのみを無効にして他のデバイスのリダイレクトを許可するには、Thin Client のファイル システムで、udev ルール/etc/udev/rules.d/010\_usbdrive.rules を削除します。

## RDP でのプリンター リダイレクト

初期設定では、RDP でプリンターのリダイレクトを有効にする方法は以下の 2 つです。

- **USB のリダイレクト**：デバイスに接続されているすべての USB プリンターが、リモートセッションでローカル プリンターとして表示されます。プリンターがそのリモート ホストにまだインストールされていない場合は、標準のプリンター インストール処理がリモートセッションで開始されます。ローカルで管理する設定はありません。
- **高レベルのリダイレクト**：USB リダイレクトがリモート ホストで実行できない場合、またはプリンターがパラレル プリンターかシリアル プリンターの場合は、高レベルのリダイレクトを使用します。ローカル プリンター スプーラーを使用するようにプリンターを設定すると、RDP クライアントが自動的にリモート プリンターを設定し、プリンターが仮想チャネル経由でリモート ホストから Thin Client に印刷スプール コマンドを送信するようになります。

ドライバーが指定されていない場合は汎用の PostScript ドライバーが使用されますが、特定の Windows ドライバーを使用してプリンターをローカルでセットアップした場合にはプリンターの追加機能を使用できる可能性があります。この Windows ドライバーは、Windows オペレーティング システムにローカルで接続されたときにプリンターが使用するドライバーと一致している必要があります。通常、この情報はプリンターのプロパティの[モデル]に記載されています。

 **注記**：詳しくは、[93 ページの「シリアル プリンターまたはパラレル プリンターの設定」](#)を参照してください。

## RDP でのオーディオ リダイレクト

初期設定では、高レベルのオーディオ リダイレクトを使用すると、リモート ホストから Thin Client にオーディオがリダイレクトされます。基本的な音声調整を設定する必要が生じる場合があります。RDP 7.1 には多数の高度なオーディオ リダイレクト機能が多数搭載されていて、それらに追加の設定が必要になる場合があります。

RDP でのオーディオ リダイレクトの使用については、以下の注意事項を参照してください。

- RDP ドライバーは、ネットワーク帯域幅によって許容される最高品質のオーディオを提供します。低帯域幅での接続では、RDP はオーディオの品質を落として再生します。
- 標準的な RDP では、ネイティブのオーディオ同期方式およびビデオ同期方式は利用できません。時間が長いビデオは、オーディオと同期されない場合があります。この問題は、MMR または RemoteFX を使用して解決できます。

- 高レベルのオーディオリダイレクトをおすすめしますが、デジタル音量調整などの追加機能が存在する場合は、USB リダイレクトを使用できます。アナログ デバイスには高レベルのリダイレクトのみを使用できます。
- マイクのリダイレクトは初期設定で有効です。初期設定のマイク音量を Thin Client で調整する必要が生じる場合があります。古い Windows RDP サーバーでは、オーディオ入力が有効になるようにその設定が変更されている必要があります。
- ローカルとリモートの両方の音量設定が最終的な音量に影響します。ローカルの音量は最大にし、リモート ホスト内で音量を調整することをおすすめします。

## RDP でのスマートカードのリダイレクト


RDP 接続でのスマートカードによるログインを有効にするには、以下の操作を行います。

初期設定では、スマートカードは高レベルのリダイレクトを使用してリダイレクトされるため、セッションおよびその他のリモートアプリケーションへのログインにスマートカードを使用できます。

- ▲ RDP 接続マネージャーで、**【事前定義されたスマートカードを使用する】**を選択します。

これにより、ユーザーはあらかじめ資格情報を指定することなく接続できるようになります。RDP クライアントが RDP セッションを開始し、ユーザーはスマートカードを使って認証するよう求められます。


このテクノロジーでは、スマートカードリーダーのドライバーが Thin Client にインストールされている必要があります。初期設定では、CCID および Gemalto ドライバーがインストールされているため、市販の多くのスマートカードリーダーがサポートされています。追加のドライバーをインストールするには、ドライバーを `/usr/lib/pkcs11/` に追加します。

 **注記**：スマートカードによるログインが有効になっている場合、ネットワークレベル認証はサポートされず、自動的に無効になります。

## VMware Horizon View

### VMware Horizon View の接続ごとの設定

ここでは、VMware Horizon View 接続を編集しているときにさまざまなカテゴリで使用できる設定について説明します。

 **注記**：これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

### ネットワーク

以下の表では、VMware Horizon View 接続を編集しているときに[ネットワーク]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-20 ネットワーク

オプション	説明
名前	この接続の名前を入力します。
アドレス	VMware Horizon View サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
資格情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>【非認証アクセスを使用して匿名でログイン】</b></li> </ul>

表 5-20 ネットワーク (続き)

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>[シングルサインオン資格情報を使用する]</b>: ログイン時に使用する資格情報を、接続の開始にも使用します。</li> <li>● <b>[接続の開始時に資格情報を要求する]</b>: 事前に定義された資格情報コンポーネントはありません。</li> <li>● <b>[事前定義されたユーザー、パスワード、および/またはドメインを使用する]</b>: 資格情報の一部またはすべてを保存し、接続に使用します。</li> <li>● <b>[事前定義されたスマートカードを使用する]</b>: 認証用のスマートカードを使用して、接続を開始します。</li> </ul>
ユーザー	接続に使用するユーザー名を入力します。
パスワード	接続に使用するパスワードを入力します。
ドメイン	接続に使用するドメインを入力します。

## 全般

以下の表では、VMware Horizon View 接続を編集しているときに[全般]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-21 全般

オプション	説明
MMR を有効にする	<p>BLAST 接続および PCoIP 接続に対してマルチメディアリダイレクトを有効にします。</p> <p><b>注記:</b> このオプションを無効にすることをおすすめします。</p> <p>RDP プロトコルで作成された接続の場合は、[マルチメディアリダイレクトを有効にする]オプションを使用します。35 ページの「<a href="#">RDP オプション</a>」を参照してください。</p>
挿入時に USB 自動接続を有効にする	USB デバイスが挿入されたときに、USB デバイスのリダイレクトを有効にします。
起動時に USB 自動接続を有効にする	VMware View 接続が開始されたときに、USB デバイスのリダイレクトを有効にします。
仮想デスクトップに[Ctrl] + [Alt] + [Del]を送信する	仮想デスクトップに[Ctrl] + [Alt] + [Del]を直接送信できるようにします。
Horizon Client データ共有を許可する	Horizon 管理者がカスタマー エクスペリエンス向上プログラムへの参加を選択している場合、VMware は、ハードウェアとソフトウェアの互換性を優先するために、クライアントシステムから匿名データを収集して受信します。
クライアントドライブのリダイレクトを有効にする	BLAST 接続および PCoIP 接続に対して共有フォルダー機能を有効にします。このオプションは初期設定で有効になっています。
最大化されたアプリケーションを開始しない	有効にすると、最大化されたウィンドウでアプリケーションが起動しなくなります。
自動ログイン	<p>有効にすると、接続の確立時にユーザーは自動的にログインします。</p> <p><b>注記:</b> このオプションを有効にすることをおすすめします。</p>

表 5-21 全般 (続き)

オプション	説明
Virtualization Pack for Skype for Business	Skype for Business の仮想化を有効にします。  <b>注記</b> : ビデオ通話では、Thin Client の処理能力の大半が使用される場合があります。このオプションを無効にすることをおすすめします。
初期設定のデスクトップ	VMware Horizon View 接続の開始時に自動的に起動されるデスクトップを指定します。
優先するプロトコル	優先するプロトコルとして PCoIP、RDP、または BLAST を選択するか、後でプロトコルを選択するように設定します。
アプリケーションサイズ	アプリケーションのウィンドウサイズを設定します。[All Monitors]、[Full Screen]、[Large Window]、または [Small Window] を選択できます。
デスクトップサイズ	デスクトップのウィンドウサイズを設定します。[All Monitors]、[Full Screen]、[Large Window]、または [Small Window] を選択できます。
プリンター	ローカル プリンターのリダイレクトを処理する方法を設定します。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• [ThinPrint] : 高レベルのリダイレクトを使用してプリンターを共有します。</li> <li>• [USB のリダイレクト]</li> <li>• [無効]</li> </ul> <b>注記</b> : RDP プロトコルで作成された接続については、 <a href="#">31 ページの「RDP でのプリンターリダイレクト」</a> を参照してください。

## セキュリティ

以下の表では、VMware Horizon View 接続を編集しているときに[セキュリティ]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-22 セキュリティ

オプション	説明
切断後に閉じる	ユーザーが自分のデスクトップからログアウトしたか、セッションがエラーで終了した後、VMware Horizon View クライアントを自動的に閉じます。  このオプションは、デスクトップセッションの終了後にユーザーが追加の手順を実行して完全にログアウトしなくても済むように設計されたセキュリティ機能です。  このオプションはセキュリティ保護のため初期設定で有効になっています。ただし、ユーザーがセッションからのログアウト後に新しいデスクトップに切り替えることが多く、もう一度完全にログインすることがない場合にはこのオプションを無効にできます。
上部メニューバーを非表示にする	上部メニューバーがユーザーに表示されないようにします。  このオプションは初期設定で有効になっています。ユーザーが VMware Horizon View セッションでウィンドウサイズやデスクトッププールの選択オプションにアクセスする場合は無効にします。
サーバーアドレスをユーザーに変更させない	有効にすると、エンドユーザーはサーバーアドレスを変更できません。
セッションローミングモニターを有効にする	セッションが別のクライアントからローミングした場合に接続を閉じます。このオプションは、PCoIP 接続でのみサポートされます。

表 5-22 セキュリティ (続き)

オプション	説明
証明書の検証ポリシー	以下のどれか 1 つを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [すべての接続を許可する]</li> <li>• [警告]</li> <li>• [安全でない接続を拒否する]</li> </ul>

## RDP オプション

以下の表では、VMware Horizon View 接続を編集しているときに[RDP オプション]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-23 RDP オプション

オプション	説明
モーション イベントを有効にする	この接続で移動イベントを有効にします。
データ圧縮を有効にする	この接続にデータ圧縮を使用します。
非推奨の RDP 暗号化を有効にする	この接続の暗号化を有効にします。
オフスクリーン キャッシュを有効にする	有効にした場合、オフスクリーン メモリがビットマップのキャッシュに使用されません。
管理者コンソールに接続する	接続を管理者コンソール ポートに接続します。
セッション間のコピー/貼り付け	有効にした場合、異なる RDP セッション間のコピー/貼り付けが有効になります。
RDP6 プリミティブのバッファリングを有効にする	有効にすると、画面更新の頻度を下げることにより、RemoteFX 以外のグラフィックスのパフォーマンスを向上させます。
プログレッシブ RemoteFX コーデックを有効にする	プログレッシブ RemoteFX コーデックを有効にすると、徐々に鮮明になる一連の画像でデスクトップが転送されます。
マルチメディア リダイレクトを有効にする	マルチメディア ファイルをクライアントに直接送信してローカル再生できるようにします。詳しくは、 <a href="#">29 ページの「RDP でのマルチメディア リダイレクト」</a> を参照してください。
TLS バージョン	RDP サーバーとのネゴシエーションの初期段階で使用される TLS (Transport Layer Security) のバージョンを設定します。RDP サーバーが使用する TLS のバージョンと一致させるか、[auto]に設定してください。  <b>注記:</b> パッチが適用されていない RDP サーバー側に存在する一部の問題により、自動設定が失敗する可能性があるため、[auto]は初期設定になっていません。
次を使用してホスト名を送信	デバイスごとのライセンスの場合に、クライアントのホスト名を RDP サーバーに送信する方法を選択します。[ホスト名]または[mac]を選択します。
送信するホスト名	通常、Thin Client のホスト名がクライアント アクセス ライセンスに使用されます。このフィールドを使用すると、別の値を送信できます。  <b>ヒント:</b> 詳しくは、このオプションの横にある[]アイコンを選択してください。
負荷分散情報	このオプションはブローカー RDP 接続で使用します。  <b>ヒント:</b> 詳しくは、このオプションの横にある[]アイコンを選択してください。
リモート コンピューターのサウンド	リモート コンピューターのサウンドが (リモートまたはローカルで) 再生される場所を指定するか、またはまったく再生されないようにするかを指定します。

表 5-23 RDP オプション (続き)

オプション	説明
ポートのマッピングを有効にする	Thin Client のシリアルポートおよびパラレルポートをリモートセッションに割り当てます。
プリンターのマッピングを有効にする	<p>ローカルプリントキューをリモートセッションに割り当てます。リモートホストでUSBリダイレクトを使用できない場合、またはプリンターがパラレルプリンターかシリアルプリンターである場合に、このオプションを使用します。ローカルプリンタースプーラーを使用するようにプリンターを設定すると、VMware Horizon View クライアントが自動的にリモートプリンターを設定し、プリンターが仮想チャネル経由でリモートホストから Thin Client に印刷スプールコマンドを送信ようになります。</p> <p>この方法では、プリンターを Thin Client 上で設定するとともに、Window ドライバーを Thin Client 上で指定する必要があります。これは、VMware Horizon View クライアントがリモートホストに対して、どのドライバーをリモートプリンターのために使用するか指定するためです。この Windows ドライバーは、Windows オペレーティングシステムにローカルで接続されたときにプリンターが使用するドライバーと一致している必要があります。通常、この情報はプリンターのプロパティの[モデル]に記載されています。</p>
共有フォルダー	共有フォルダーを[追加]、[削除]、または[編集]します。

## RDP の操作環境

以下の表では、VMware Horizon View 接続を編集しているときに[RDP の操作環境]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-24 RDP の操作環境


オプション	説明
接続速度を選択してパフォーマンスを最適化する	<p>接続速度 ([LAN]、[ブロードバンド]、または[モデム]) を選択すると、パフォーマンスを最適化するために以下のオプションが有効または無効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [デスクトップの背景]</li> <li>• [フォントスムージング]</li> <li>• [デスクトップ構成]</li> <li>• [ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する]</li> <li>• [メニューとウィンドウのアニメーション]</li> <li>• [テーマ]</li> </ul> <p>[クライアントの推奨設定]を選択すると、VMware Horizon View クライアントは使用するオプションを選択できます。</p> <p>ユーザー独自のカスタムオプションの組み合わせを選択することもできます。</p>
エンドツーエンド接続の状態監視	選択するとタイムアウトオプションが有効になります。
警告タイムアウト	サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、接続が失われたことがユーザーに警告されるまでの時間を秒単位で指定します。この機能を無効にするには、そのオプションをクリアするか、時間をゼロに設定します。

表 5-24 RDP の操作環境 (続き)

オプション	説明
	<p><b>[警告ダイアログの表示]</b> オプションを選択すると、このタイムアウトの時間になったときに警告ダイアログが表示されます。そうでない場合、警告は接続ログにのみ書き込まれます。</p> <p><b>ヒント:</b> ビジー状態や一時的な停止が頻繁に発生するネットワークでは、タイムアウト値を大きくすることをおすすめします。</p>
回復タイムアウト	<p>サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、RDP クライアントで特別な操作をせずに接続回復を実行するまで待機する時間を秒単位で指定します。この時間が終了すると、RDP クライアントはそのセッションとの迅速な再接続を試みます。</p>
エラータイムアウト	<p>サーバーから最後のネットワークトラフィックを受信してから、RDP クライアントでそのサーバーとの再接続の試みが中止されるまで待機する時間を秒単位で指定します。</p> <p><b>ヒント:</b> 詳しくは、このフィールドの横にある[?]アイコンを選択してください。</p>

## 詳細設定

このセクションは、接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで確認できる接続の詳細設定に関する情報を参照しています。

 **注記:** 接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[13 ページの「接続の詳細設定」](#)を参照してください。

## VMware Horizon View でのマルチモニターセッション

VMware Horizon View は、マルチモニターセッションをサポートします。仮想化環境を向上させるため、初期設定の VMware Horizon View セッションは全画面を使用し、すべてのモニターにまたがって表示されます。異なったウィンドウサイズを選択するには、接続のデスクトッププールのプロトコルタイプで、**[フルスクリーン - すべてのモニター]**を選択してから、ウィンドウのサイズのリストから別のオプションを選択します。次回セッションに接続するときは、ここで選択したサイズのウィンドウが開きます。

## VMware Horizon View のキーボードショートカット


### Windows のキーボードショートカット

Windows システムの管理を容易にするため、VMware Horizon View は Windows のキーボードショートカットをサポートしています。たとえば、VMware Horizon View で **Ctrl + Alt + Del** を使用すると、以下のオプションを提供するメッセージが表示されます。

- **Ctrl + Alt + Del** コマンドを送る
- セッションを切断：他にセッションを終了する方法がないときに使用します。



Windows のキーボードショートカットは、リモートデスクトップセッションに転送されます。リモートセッション内では、**Ctrl + Alt + Tab** や **Ctrl + Alt + F4** のようなローカルのキーボードショートカットは機能しません。

 **ヒント** : セッションを切り替えるには、VMware Horizon View 接続マネージャーで**[上部メニューバーを非表示にする]**オプションを無効にするか、レジストリ キー `root/ConnectionType/view/connectionns/<UUID>/hideMenuBar` によってそのオプションを無効にします。

## メディアキー

VMware Horizon View は、リモートデスクトップセッション中にメディアキーを使用して、音量、再生/一時停止、ミュート（消音）などのオプションを制御します。Windows Media Player などのマルチメディアプログラムもサポートされます。

## VMware Horizon View でのデバイスリダイレクト

### VMware Horizon View での USB リダイレクト

VMware Horizon View 接続で USBR を有効にするには、[USB マネージャー]で、リモートプロトコルとして**[VMware Horizon View]**を選択します。


デバイスおよびクラス固有のリダイレクトなど USBR については、[30 ページの「RDP での USB リダイレクト」](#)を参照してください。

### VMware Horizon View でのオーディオリダイレクト


オーディオ録音機能が不要な場合は、高レベルオーディオリダイレクトを使用します。オーディオは 3.5 mm コネクタから出力されます。USB ヘッドセットを接続すれば、初期設定で USB ヘッドセットから出力されます。ローカルのオーディオ マネージャーを使用して入出力レベルを調節し、再生デバイスとキャプチャ デバイスを選択します。

VMware Horizon View クライアントでは、VMware Horizon View 5.2 Feature Pack 2 以降が動作しているサーバーへの接続時の x86 ユニットでの PCoIP 接続インターフェイス、または VMware Horizon View 7.x 以降が動作しているサーバーへの接続時の x86 ユニットでの BLAST 接続インターフェイスによる高レベルのオーディオ録音リダイレクトのみをサポートしています。オーディオ録音のサポートが必要などときに、別の構成を使用している場合は、以下のどちらかの方法を使用してください。

- VMware Horizon View Client 1.7 以上を使用している場合は、RDP プロトコルを使用して、3.5 mm コネクタまたは USB ヘッドセットから高レベルオーディオリダイレクトを行います。

 **注記** : RDP プロトコルを使用して高レベルオーディオ録音リダイレクトを行うには、サーバーが高レベルオーディオ録音リダイレクトをサポートしていて、リモートセッションでオーディオ録音を許可する設定になっている必要があります。サーバーは Windows 7 以上を実行している必要があります。また、`HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Terminal Server\WinStations\RDP-Tcp\DisableAudioCapture` レジストリ キーが 0 に設定されていることを確認してください。

- USB ヘッドセットにマイクが搭載されている場合は、USB-R を使用できます。セッションにリダイレクトされるよう USB ヘッドセットを設定します。ヘッドセットはオーディオデバイスとして表示されます。初期設定では、USB オーディオデバイスはリダイレクトされず、VMware Horizon View クライアントは高レベルオーディオリダイレクトを使用します。USB ヘッドセットをリダイレクトするには、Thin Client の USB マネージャーを使用し、USB ヘッドセットがリダイレクトされるよう設定します。**[VMware Horizon View]**が USB-R プロトコルとして選択され、リダイレクト対象のデバイスとしてヘッドセットが選択されていることを確認してください。

 **注記：** VMware および HP は、ヘッドセットで USB-R を使用することを推奨していません。USB-R プロトコルを使用してオーディオデータのストリーミングを行うには、大容量のネットワーク帯域幅が必要です。また、オーディオ品質が低くなる可能性もあります。


## VMware Horizon View でのスマートカードのリダイレクト


スマートカードを使用して VMware Horizon View サーバーにログインするには、以下の操作を行います。


1. スマートカードログインが VMware Horizon View 接続マネージャーで有効になっていることを確認します。

接続を開始すると、VMware Horizon View Client にサーバー資格情報のリストが表示されます。

2. 資格情報のロックを解除して VMware Horizon View Manager サーバーにアクセスするには、サーバーの適切な PIN を入力します。

 **注記：** 正しい PIN を入力すると、ユーザーの資格情報を使用して、VMware Horizon View Manager サーバーにログインします。スマートカードログインをサポートするためのサーバーの設定について詳しくは、VMware Horizon View の説明書を参照してください。サーバーがスマートカードログインを許可するように設定されているときは、ユーザーの証明情報が渡されるため、PIN を再入力せずにデスクトップにログインできます。

 **注記：** VMware Horizon View Manager 管理サーバーにスマートカードでログインするには、Thin Client にローカルのスマートカードドライバーをインストールしておく必要があります。スマートカードドライバーのインストールについて詳しくは、[32 ページの「RDP でのスマートカードのリダイレクト」](#)を参照してください。リモートホストにログインすると、USB-R ではなく仮想チャネルによってリモートホストにスマートカードが渡されます。この仮想チャネルリダイレクトにより、電子メール署名、画面ロックなどのタスクにスマートカードを使用できますが、このスマートカードは、Windows の[デバイス マネージャー]にスマートカードデバイスとして表示されない可能性があります。

 **注記：** リモートホストには、適切なスマートカードドライバーをインストールしておく必要があります。

## VMware Horizon View での Web カメラ リダイレクト

VMware Horizon View クライアントでは、高レベルの Web カメラ リダイレクトがサポートされます。このリダイレクトは、VMware Horizon View 5.2 Feature Pack 2 以降が動作しているバックエンドサーバーに接続されている、x86 ユニットを使用した RTAV による場合にのみサポートされます。


その他の接続方法では高レベルの Web カメラ リダイレクトをサポートしていないため、USB-R を使用した Web カメラのリダイレクトのみを行えます。HP では、内部テストおよび検証に基づいて、基本的な USB-R 経由で接続された Web カメラのパフォーマンスが良好でないことを確認しました。HP では、この構成の使用を推奨しておらず、この機能を必要とするお客様には、RTAV テクノロジーを持つ x86 ユニットを使ったテストを実行してパフォーマンスの満足度を確認するようおすすめしています。

す。USB 使用すると、Web カメラがうまく動作しないか、まったく動作しない場合があります。詳しくは、[30 ページの「RDP での USB リダイレクト」](#)を参照してください。

## VMware Horizon View での COM ポートのリダイレクト

VMware Horizon View 接続で COM ポートのリダイレクトを有効にするには、以下の操作を行います。

- ▲ regedit で `root/ConnectionType/view/general/enableComPortRedirection` を 1 に設定します。


 **注記**：初期設定では、この設定は有効になっています。


## VMware Horizon View プロトコルの変更

VMware Horizon View クライアントでは、PCoIP、RDP、または BLAST プロトコルを使用できます。

プロトコルを変更するには、以下の操作を行います。

1. VMware Horizon View クライアントで、利用可能などれかのプロトコルをサポートするプールを選択します。
2. **[接続]**メニューで、**[設定]**を選択します。
3. **[Connect Via]** (接続方法) の横にあるドロップダウン ボックスを使用して、プロトコルを変更します。

 **注記**：VMware Horizon View Manager を使用して、各デスクトッププールでどのプロトコルが使用されるようにするかを設定します。

 **ヒント**：デスクトップ環境を向上させるために PCoIP プロトコルを使用することをおすすめします。ただし、RDP プロトコルにはカスタマイズ用のオプションがさらに用意されており、低速の接続でも動作が向上する場合があります。

## VMware Horizon View の HTTPS および証明書管理の要件

VMware Horizon View Client 1.5 および VMware Horizon View Server 5.0 以上には、HTTPS が必要です。初期設定では、VMware Horizon View Client は、自己署名証明書（たとえば、VMware Horizon View Manager の初期設定の証明書）や期限切れの証明書のような、信頼されていないサーバー証明書を警告します。証明書に認証局 (CA) の署名があっても、その CA が信頼されていない場合、接続エラーになり、ユーザーは接続を許可されません。

VMware Horizon View Manager サーバーでは、標準の信頼されているルート CA によって検証された署名済み証明書を使用することをおすすめします。このような証明書を使用すると、ユーザーは、確認や特別な設定なしでサーバーに接続できます。内部 CA を使用する場合、以下のタスクのうちどれかが完了するまで、VMware Horizon View Client 接続はエラーになります。

- 証明書マネージャーを使用して、ファイルまたは URL から証明書をインポートします。
- リモートプロファイル更新を使用して、証明書をインポートします。
- VMware Horizon View 接続マネージャーで、**[接続のセキュリティ レベル]**を**[すべての接続を許可する]**に設定します。

以下の表では、セキュリティ レベルが**[安全でない接続を拒否する]**に設定されているときの証明書の信頼度について説明します。

**表 5-25 安全でない接続を拒否する**

証明書の信頼度	判定
信頼できる	信頼できる
自己署名	エラー
期限切れ	エラー
信頼できない	エラー

以下の表では、セキュリティレベルが**[警告]**に設定されているときの証明書の信頼度について説明します。

**表 5-26 警告**

証明書の信頼度	判定
信頼できる	信頼できる
自己署名	警告
期限切れ	警告
信頼できない	エラー

以下の表では、セキュリティレベルが**[すべての接続を許可する]**に設定されているときの証明書の信頼度について説明します。

**表 5-27 すべての接続を許可する**

証明書の信頼度	判定
信頼できる	信頼できる
自己署名	信頼できない
期限切れ	信頼できない
信頼できない	信頼できない

以下の表では、それぞれの判定に対応した接続動作について説明します。


**表 5-28 接続動作**

判定	説明
信頼できる	証明書警告ダイアログ表示しないで接続し、緑色の施錠されたアイコンを表示します。
信頼できない	証明書警告ダイアログ表示しないで接続し、赤色の解錠されたアイコンを表示します。
警告	証明書警告ダイアログ表示して接続し、赤色の解錠されたアイコンを表示します。
エラー	接続を許可しません。

# Web Browser

## Web Browser の接続ごとの設定

ここでは、Web Browser 接続を編集しているときにさまざまなカテゴリで使用できる設定について説明します。

 **注記：**これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

### 構成

以下の表では、Web Browser 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-29 構成


オプション	説明
名前	接続の名前。
URL	接続の URL。
使用目的	Web Browser 接続の開始時に USB のリダイレクトを実行する方法を指定します。 [Citrix]、[RDP]、または[インターネット]を選択します。
スマートカードログインを許可する	リモート接続を開始する URL またはアイコンを選択した場合に、スマートカード認証を使用した接続を許可します。
キオスク モードを有効にする	キオスク モードを有効にします。
全画面表示を有効にする	接続に全画面表示モードを使用します。
印刷ダイアログを有効にする	印刷ダイアログ ボックスを有効にします。

### 設定

これらのオプションを使用して Web Browser を構成します。これらのオプションは、複数の Web Browser 接続で共有することも、単一の接続に固有のものとすることもできます。

### 詳細設定

このセクションは、接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで確認できる接続の詳細設定に関する情報を参照しています。

 **注記：**接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[13 ページの「接続の詳細設定」](#)を参照してください。


## AVD (Azure Virtual Desktop)

AVD (Azure Virtual Desktop) は Microsoft Azure<sup>®</sup>システムの一部であり、クラウドベースのリモートデスクトップとリモートアプリケーションへのアクセスを提供します。ThinPro の AVD クライアントは、HP ThinUpdate または HP Easy Update から入手できるアドオンです。AVD をインストールした後に再起動し、AVD 接続を作成します。AVD に加えて、AVD クライアントは Windows 365<sup>®</sup>もサポートして

います。HP ThinPro の Zoom UC 最適化プラグインについては、Zoom の Web サイトを参照してください。

## AVD の接続ごとの設定

ここでは、AVD の接続ごとの設定について説明します。

 **注記：**これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

## 構成

以下の表では、AVD 接続を編集しているときに**[構成]**カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-30

オプション	説明
名前	接続の名前。
Workspace URL	接続の URL。たとえば、「 <a href="https://rdweb.wvd.microsoft.com/api/arm/feeddiscovery">https://rdweb.wvd.microsoft.com/api/arm/feeddiscovery</a> 」。
資格情報	<ul style="list-style-type: none"><li>接続の開始時に資格情報を要求します。</li><li>事前定義されたユーザー、パスワード、およびドメインを使用します。</li></ul>
ユーザー名	この接続のユーザー名。
パスワード	この接続のパスワード。
ドメイン	この接続のドメイン。

## ウィンドウ


以下の表では、AVD 接続を編集しているときに**[ウィンドウ]**カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-31

オプション	説明
ウィンドウのサイズ	ウィンドウのサイズを次のどれかに設定します：  <b>[Full-desktop]</b> (フル デスクトップ)：リモートセッションは、全画面モードで起動し、クライアントに接続されているすべてのモニターをカバーします。  <b>[Fullscreen]</b> (全画面)：リモートセッションは、メインディスプレイでのみ全画面モードで起動します。  <b>[Maximized]</b> (最大化)：リモートセッションは、メインディスプレイでのみ全画面モードで起動し、タスクバー用のスペースが残ります。  <b>[Hide window decorations]</b> (ウィンドウの装飾を表示しない)を選択すると、タイトルバーやウィンドウの境界線など、固定サイズのウィンドウのすべてのウィンドウの装飾が削除されます。

表 5-31

オプション	説明
	<p><b>[Fixed]</b> (固定): リモートセッションは、固定サイズのウィンドウで起動します。</p> <p><b>[Fixed/Width]</b> (固定/幅): 固定サイズのセッションウィンドウの幅を設定します。</p> <p><b>[Fixed/Height]</b> (固定/高さ): 固定サイズのセッションウィンドウの高さを設定します。</p>

 **注記:** AVD リモートアプリケーションは、単一の ThinPro ウィンドウ内で開きます。このウィンドウ内でアプリケーションを最小化したり、サイズ変更したりできます。Alt + Tab は、アクティブなアプリケーションを切り替えるときに使用します。

## オプション

以下の表では、AVD 接続を編集しているときに[オプション]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-32 AVD 接続のオプションおよびその説明

オプション	説明
資格情報の自動入力	ログイン ページに資格情報を自動入力します。
ヘッドレスモード	非表示のログイン ページに資格情報を自動入力します。
このアカウントを記憶する	起動するたびに Web 認証ダイアログが不要になるように、暗号化されたトークン キャッシュを作成します。
記憶しない	<b>[このアカウントを記憶する]</b> が選択されたときに作成される、暗号化されたトークン キャッシュをクリアします。
ワークスペースの自動起動	リソースが自動的に開始されるワークスペースを指定します (オプション)。
リソースの自動起動	自動的に開始されるリソースの名前を指定します。
AVD フィードウィンドウを自動的に閉じる	セッション ウィンドウが閉じられると、AVD フィードウィンドウを自動的に閉じます。
ローカルタイムゾーンを設定	ローカルシステムのタイムゾーンからリモートセッションのタイムゾーンを設定します。
メニューバーを無効にする	セッションウィンドウでメニューバーを無効にします。
ドロップダウンバーを無効にする	セッションウィンドウが全画面表示のときに表示されるドロップダウンバーを無効にします。
閉じるボタン	ドロップダウンバーの <b>[閉じる]</b> ボタンを有効にします。
最小化ボタン	ドロップダウン リストの最小化ボタンを有効にします。
最大化ボタン	ドロップダウン リストの最大化ボタンを有効にします。
Ctrl + Alt + D	ドロップダウン リストにキーボードショートカットの一覧を表示するには、Ctrl + Alt + Delete を追加します。

## ローカルリソース

以下の表では、AVD 接続を編集しているときに[ローカルリソース]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-33

オプション	説明
オーディオ出力	オーディオ出力がリダイレクトされるかどうかを決定します。
オーディオ入力	オーディオ入力のリダイレクトされるかどうかを決定します。
ファイルシステム	リムーバブルストレージがリダイレクトされるかどうかを決定します。
スマートカード	スマートカードがリダイレクトされるかどうかを決定します。
クリップボード	クリップボードがリダイレクトされるかどうかを決定します。
仮想チャンネル プラグイン	仮想チャンネル プラグインが有効または無効のいずれかになっているかを決定します。Zoom UC 最適化プラグインで有効にする必要があります。
カメラ	カメラがリダイレクトされるかどうかを決定します。

## TTerm

TTerm はベース イメージに含まれていないため、別途ダウンロードしてインストールする必要があります。

TTerm パッケージをインストールするには、以下の操作を行います。

1. thinpro-tterm-<version>.xar をダウンロードして、ThinClient にコピーします。
2. .xar パッケージをインストールします。
3. 再起動します。

TTerm 接続を設定および使用するには、以下の操作を行います。

1. デスクトップを右クリックし、[作成]→[その他]→[TTerm]の順に選択します。デスクトップ上に TTerm 接続が作成されます。
2. [TTerm Connection] (TTerm 接続) を右クリックして[編集]を選択してから、接続を編集します。

## 構成

以下の表では、TTERM 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。




表 5-34

オプション	説明
名前	接続の名前。
プロファイル	<b>[プロファイルディレクトリを開く]</b> をクリックします。 <b>[TTermLinux]</b> が開きます。 <b>[Create New profile]</b> (新規プロファイルの作成) をクリックし、 <b>[Profile Editor]</b> でプロファイルを編集し、 <b>[保存]</b> をクリックしてプロファイルを TTerm データベースに保存します。
モニターの設定	<b>[全画面表示]</b> : TTerm は全画面表示モードで開きます。 <b>[最大化]</b> : TTerm は最大化モードで開きます。
構成の表示	セッションパネルの表示 : 無効にすると、セッションパネルが非表示になります。有効にすると、セッションパネルが表示されます。
フォントサーバー	<b>[フォントサーバーを使用する]</b> を選択した場合は、フォントサーバーを指定します。
ディスプレイの設定	接続のディスプレイ設定を指定するときに選択します。この設定を行わない場合は、初期設定が使用されます。


## その他の接続インターフェイス (HP ThinPro のみ)

ここでは、追加の接続の種類を編集しているときにさまざまなカテゴリで使用できる設定について説明します。

 **注記** : 初期設定では、これらの接続インターフェイスは HP Smart Zero で利用できません。詳しくは、1 ページの「OS 構成の選択」を参照してください。

### XDMCP

ここでは、XDMCP 接続を編集しているときにさまざまなカテゴリで使用できる設定について説明します。

 **注記** : これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

### 構成

以下の表では、XDMCP 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-35 構成


オプション	説明
名前	接続の名前。
種類	XDMCP 接続の種類。設定可能な値は次のとおりです : <b>[選択]</b> 、 <b>[クエリ]</b> 、 <b>[ブロードキャスト]</b> 。
アドレス	このオプションは、 <b>[種類]</b> が <b>[クエリ]</b> に設定されている場合に指定する必要があります。

表 5-35 構成 (続き)

オプション	説明
フォントサーバーを使用する	ローカルにインストールされているフォントではなく、リモートの X フォントサーバーを使用します。
フォントサーバー	<b>[フォントサーバーを使用する]</b> を選択した場合は、フォントサーバーを指定します。
ディスプレイの設定	接続のディスプレイ設定を指定するときに選択します。この設定を行わない場合は、初期設定が使用されます。


## 詳細設定

このセクションは、接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで確認できる接続の詳細設定に関する情報を参照しています。

 **注記:** 接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[13 ページの「接続の詳細設定」](#)を参照してください。

## Secure Shell

ここでは、Secure Shell 接続を編集しているときにさまざまなカテゴリで使用できる設定について説明します。

 **注記:** これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

## 構成

以下の表では、SSH 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-36 構成


オプション	説明
名前	接続の名前。
アドレス	リモートシステムの IP アドレス。
ポート	接続に使用するリモート ポート。
ユーザー名	接続に使用するユーザー名。
アプリケーションの実行	接続するために実行するアプリケーション。
圧縮	サーバーと Thin Client の間で送信されるデータを圧縮するには、このオプションを選択します。
X11 接続の転送	サーバー上に X Server が存在するときにこのオプションを選択すると、ユーザーは SSH セッションからユーザー インターフェイスを起動し、Thin Client でユーザー インターフェイスをローカル表示できるようになります。
TTY を強制的に割り当てる	このオプションを選択してコマンドを指定すると、一時的なセッションが開始されてコマンドが実行されます。コマンドが完了すると、セッションが終了します。コマンドを指定しないと、セッションはオプションを選択しなかった場合と同様に正常に動作します。
前景色	SSH セッションでのテキストの初期設定の色です。
背景色	SSH セッションでの背景の初期設定の色です。

表 5-36 構成 (続き)

オプション	説明
フォント	設定可能な値は次のとおりです : [7X14]、[5X7]、[5X8]、[6X9]、[6X12]、[7X13]、[8X13]、[8X16]、[9X15]、[10X20]、[12X24]。


## 詳細設定

このセクションは、接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで確認できる接続の詳細設定に関する情報を参照しています。

 **注記** : 接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[13 ページの「接続の詳細設定」](#)を参照してください。

## Telnet

ここでは、Telnet 接続を編集しているときにさまざまなカテゴリで使用できる設定について説明します。

 **注記** : これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

## 構成


以下の表では、Telnet 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-37 構成

オプション	説明
名前	接続の名前。
アドレス	リモートシステムの IP アドレス。
ポート	リモートシステムで使用するポート。
前景色	前景の色。
背景色	背景の色。
フォント	設定可能な値は次のとおりです : [7X14]、[5X7]、[5X8]、[6X9]、[6X12]、[6X13]、[7X13]、[8X13]、[8X16]、[9X15]、[10X20]、[12X24]。


## 詳細設定

このセクションは、接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで確認できる接続の詳細設定に関する情報を参照しています。

 **注記** : 接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[13 ページの「接続の詳細設定」](#)を参照してください。

## Custom

独自の Linux®アプリケーションをインストールする場合、Custom 接続を使用すると接続マネージャーからそのアプリケーションを起動できるようになります。

 **注記**：これらの設定は、現在設定中の接続にのみ影響します。

## 構成


以下の表では、Custom 接続を編集しているときに[構成]カテゴリで使用できる設定について説明します。

表 5-38 構成

オプション	説明
名前	接続の名前。
実行するコマンドを入力してください。	リモート接続するために実行するコマンド。

## 詳細設定

このセクションは、接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで確認できる接続の詳細設定に関する情報を参照しています。

 **注記**：接続を編集しているときに[詳細設定]カテゴリで使用可能な設定については、[13 ページの「接続の詳細設定」](#)を参照してください。

## 6 HP True Graphics

HP True Graphics は、リッチ マルチメディア コンテンツを Thin Client の GPU にオフロードすることで、フレームレートの高い画像を提供し、効率を高めます。

### サーバー側の要件

VDI (Virtual Desktop Infrastructure) で使用する ISV (Independent Software Vendor) のサポートされるサーバー側製品一覧については、以下の表を参照してください。

表 6-1 サーバー側の要件

ISV	サポートされる製品
Citrix®	XenApp®/XenDesktop® 7.0 以降  <b>重要</b> : Citrix サーバーが H.264 フォーマット (SuperCodec と呼ばれる Citrix テクノロジー)でのセッションデータの送信をサポートしていることが必要です。H.264 は初期設定で有効になっていて、CPU ベースの圧縮アルゴリズムである DeepCompressionV2 エンコーダーで処理されます。
VMware®	VMware Horizon™ 6.0 以降  VMware Horizon View™ 5.2 および 5.3  VMware View® 5.1

### クライアント側の要件

VDI で使用する ISV のサポートされる Thin Client オペレーティングシステムおよびサポートされるクライアント側ソフトウェアの一覧については、以下の表を参照してください。



 **注記** : HP ThinPro の試用版ライセンスでは、HP True Graphics を使用できません。

表 6-2 クライアント側の要件

サポートされるオペレーティングシステム	サポートされる Citrix クライアント	サポートされる VMware クライアント
HP ThinPro 5.0 以降	Citrix Receiver 13.1.1 以降  <b>注記</b> : HP True Graphics をサポートするバージョンの Citrix Receiver が、HP ThinPro 5.2 以降ではプリインストールされており、HP ThinPro 5.0 および 5.1 についてはアドオンとして入手できます。	VMware Horizon Client 4.0 以降 (Blast プロトコルを使用)

## クライアント側の構成


ここでは、クライアント側の構成について説明します。

-  **注記**：このセクションの情報は、Citrix にのみ適用されます。VMware の場合は、Blast プロトコルを使用して HP True Graphics を有効にしてください。

### 圧縮設定

HP ThinPro で HP True Graphics を有効にするには、以下の操作を行います。

- ▲ Citrix 接続用の[H264 圧縮を有効にする]全般設定を選択します。

-  **注記**：テキストなど一部の画面データは、H.264 以外の方式で送信される場合があります。通常は、この機能を有効にしておくことをおすすめします。ただし、問題を解決したり特定の利用状況に対応したりするために次のレジストリ キーを[0]に設定して、この機能を無効にすることもできます。

- root/ConnectionType/xen/general/enableTextTracking
- root/ConnectionType/xen/general/enableSmallFrames

### ウィンドウ設定


リモートアプリケーションをウィンドウ モードで強制的に実行するには、以下の操作を行います。

- ▲ Citrix 接続用の[TWI モード]全般設定を[シームレスを強制的にオフにする]に設定します。

### モニターレイアウトおよびハードウェアの制限

モニターレイアウトの以下の制限に注意してください。

- 解像度が 1920×1200 までのモニターを 2 台まで接続した構成であれば、ほとんどの構成がサポートされます。
- HP t420 Thin Client：BIOS の初期設定により、このモデルでは初期設定で HP True Graphics を 1 台のモニターに対してのみ使用します。詳しくは、[52 ページの「HP t420 の複数モニターでの HP True Graphics の有効化」](#)を参照してください。
- HP t630 Thin Client：このモデルは、解像度が 1920×1200 までのモニターを 2 台まで、または解像度が 3840×2160 までのモニターを 1 台までサポートします。
- HP t730 Thin Client：このモデルは、解像度が 1920×1200 までのモニターを 3 台までサポートします。
- モニターを回転すると、正しく表示されない場合があります。
- HP True Graphics をモニター 2 台で使用し、HDX MediaStream を使用してビデオを再生しようとすると、ビデオは表示されません。これは H.264 が 2 つのハードウェア デコード セッションしかサポートせず、2 つのセッションがモニターによって使用されているためです。


-  **注記**：HDX MediaStream は、ローカルの H.264 ハードウェア デコードも使用しようとするために、この問題が発生します。

## HP t420 の複数モニターでの HP True Graphics の有効化

HP True Graphics を HP t420 の複数のモニターで有効にするには、以下の操作を行います。

1. Thin Client を再起動し、F10 キーを押して BIOS にアクセスします。
2. **[詳細設定]** > **[内蔵グラフィックス]**の順に選択します。
3. **[内蔵グラフィックス]**を**[強制]**に設定します。
4. **[UMA フレームバッファー サイズ]**を**[512 MB]**に設定します。


これらの手順を実行すると、グラフィックスに利用できるメモリの容量が増え、HP True Graphics を 2 台のモニターで使用できるようになります。

 **ヒント** : これらの設定は[HPDM]で設定するか、HP ThinPro に付属の BIOS ツールで設定することもできます。

## ヒントおよびベスト プラクティス

HP True Graphics を使用するときには、以下の点に注意してください。


- リモートデスクトップに接続後、セッションで使用されているエンコーダーは、Citrix デスクトップで起動した Citrix HDX Monitor のホーム画面から**[グラフィックス - Thinwire Advanced]**セクションの下に表示される**[Component\_Encoder]**の値で確認できます。値が**[DeepCompressionV2Encoder]**または**[DeepCompressionEncoder]**である場合、サーバーは HP True Graphics で高速化されたフォーマットでデータを正しく送信しています。

 **注記** : CompatibilityEncoder や LegacyEncoder などのレガシー グラフィックスを使用するようにサーバー ポリシーで強制されている場合、サーバーは古いバージョンの Citrix クライアントに対応した方式でグラフィックスを圧縮しており、HP True Graphics によってパフォーマンスが向上することはありません。

- HDX 3D Pro を使用している場合、HP True Graphics は古いバージョンの XenDesktop にもメリットがある場合があります。HDX 3D Pro の画質が**[常に無損失]**に設定されている場合、グラフィックス情報が H.264 フォーマットで Thin Client に送信されないため、HP True Graphics を使用してもメリットはありません。

## 7 Active Directory 統合

Active Directory 統合を使用すると、強制的にユーザーがドメイン資格情報を使用して Thin Client にログインすることができます。必要に応じて、資格情報を暗号化して保存し、後でリモート接続を開始するときに使用できます。これは、シングルサインオンと呼ばれるプロセスです。

 **注記：** 認証を有効にするために特別なドメイン権限は必要ありません。

Active Directory 統合が機能するモードは 2 つあります。ドメインに対する認証を有効にするだけで、以下の操作でドメイン資格情報を使用できます。

- Thin Client にログインする
- シングルサインオンを使用して接続を開始する
- 管理者資格情報を使用して管理者モードに切り替える
- ログイン資格情報を使用して、画面のロックを解除する
- 管理者資格情報を使用して、ロックされた画面を上書きする

また、Thin Client を正式にドメインに参加させることもできます。これにより、Thin Client がドメインのデータベースに追加され、動的 DNS を有効にすることもできます。その場合、Thin Client は IP アドレスまたはホスト名の関連付けの変更を DNS サーバーに通知します。ドメイン認証とは異なり、正式な参加には、ドメインにクライアントを追加する権限のあるドメインユーザーの資格情報が必要です。ドメインへの参加は必須ではありません。参加しなくても、動的 DNS 以外のドメインの機能をすべて使用できます。

### ログイン画面

ドメイン認証を有効にすると、HP ThinPro は起動時にドメインのログイン画面を表示します。ログイン画面には、ログイン前に設定が必要な場合があるオプションも表示されます。

デスクトップの背景のレイアウト、ログインダイアログのスタイル、ログインダイアログのテキスト、および使用可能なボタンはすべて、レジストリの設定または構成ファイルの設定で調整できます。詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『*Login Screen Customization*』（ログイン画面のカスタマイズ）（英語版）を参照してください。

ユーザーが有効期限の切れた資格情報でログインしようとしたことが検出された場合、ユーザーは資格情報を更新するよう求められます。

### シングルサインオン


ドメインユーザーがログインした後、ログインに使用した資格情報を使用するように構成されている接続の開始時に、その情報を提供することもできます。これにより、ユーザーは Thin Client にログインしている限り、資格情報を再度入力しなくても Citrix、VMware Horizon View、および RDP のセッションを開始できます。



## デスクトップ

ユーザーがドメイン資格情報を使用して正常にログインすると、Active Directory のアイコンがタスクバーで使用できるようになります。ユーザーは、そのアイコンを選択して、以下の機能を実行できます。

- システムにログインしているユーザーの表示
- 画面のロック
- ドメインパスワードの変更

 **注記:** ThinPro からのドメインパスワードの変更は、さまざまな理由で失敗する場合があります。既知の障害モードを以下に示します。

AD セキュリティ ポリシーで以下のオプションが有効になっていると、パスワードの変更に失敗する場合があります。

Computer Configuration¥Windows Settings¥Security Settings¥Local Policies¥Security Options¥Network security¥Minimum session security for NTLM SSP based (including secure RPC) clients

NTLMv2 セッションセキュリティが必要です

128 ビット暗号化が必要です

Computer Configuration¥Windows Settings¥Security Settings¥Local Policies¥Security Options¥Network security¥Minimum session security for NTLM SSP based (including secure RPC) server

NTLMv2 セッションセキュリティが必要です

128 ビット暗号化が必要です

パスワードの最小保存期間のポリシーが 0 に設定されていない :

GPO Default Domain Policy Comp Config¥Policies¥Windows Setting¥Security Settings¥Account Policies¥Password Policy¥Minimum password age:

この値を 0 に設定すると、制限を回避できますが、お客様に受け入れられない可能性があります。

これらのシナリオで、エンドユーザーが有効期限切れのパスワードを変更できるよう、お客様は代替の AD の実践方法を使用する必要があります。

## 画面のロック

画面は、無操作状態によるタイムアウトでロックされるほか、手動でロックすることもできます。画面がドメインユーザーによってロックされた場合、ロック解除のダイアログでは、ユーザーがログインに使用したのと同じドメインパスワードを入力するよう求められます。ログインダイアログと同様、オプションが表示され、追加で画面のロック解除の機能も利用できます。画面のロック解除のボタンを選択した場合、ロック解除の画面では、代わりに root (管理者) パスワード、またはドメイン認証の設定時に指定したドメイン管理者グループに属するドメイン資格情報が必要です。ユーザーがロックを解除できる資格情報を入力すると、画面はデスクトップに戻るのではなく、ログイン画面に戻ります。

## 管理者モード

root パスワードを使用して管理者モードに切り替えるという従来の方法に加えて、指定したドメイン管理者グループのユーザーのドメイン資格情報を使用して管理者モードに切り替えることができます。

## 設定およびドメインユーザー

ドメインユーザーがログインしている場合は、接続の新規作成を含む設定の変更は、そのユーザーだけに適用されるレジストリレイヤーに保存されます。

ユーザーがシステム設定または接続に変更を加えなかった場合は、代わりにシステムの初期設定が適用されます。

システムを管理者モードに変更すると、設定および接続の変更は、レジストリのユーザー固有のレイヤーに保存されなくなります。代わりに、管理者モードでは、すべての変更がベースレベルのレジストリに適用されます。これにより、すでに指定されているユーザー固有のカスタム設定がなければ、管理者モードでの設定の変更がすべてのユーザーに適用されます。

## 8 [スタート]メニュー

[スタート]メニューを開くには、[スタート]を選択します。

### 接続管理

メニューには使用可能なすべての接続の一覧が表示されます。接続名を右クリックするとその接続を管理できます。接続名を選択すると接続を開始します。実行中の接続名を選択すると接続を停止します。

接続管理について詳しくは、[11 ページの「デスクトップでの接続管理」](#)を参照してください。

### 管理者に切り替える/ユーザーに切り替える

このオプションを使用すると、管理者モードとユーザーモードを切り替えることができます。

### システム情報

このオプションは、[システム情報]アプリケーションを起動します。

詳しくは、[83 ページの「システム情報」](#)を参照してください。

### コントロールパネル

このオプションは、[コントロールパネル]を起動します。

詳しくは、[58 ページの「コントロールパネル」](#)を参照してください。

### ツール

テキスト端末などのプログラムを起動するためのツールや、[初期セットアップウィザード]を2回目に実行するためのツールを含む、多数のシステムツールが用意されています。ユーザーとしてログインしている場合は、承認されたツールのみが表示されます。この一覧が空の場合、[ツール]メニュー項目は表示されません。

表 8-1 ツール

メニューオプション	説明
Xターミナル	Linux コマンドを実行します。
無線統計	無線アクセスポイントに関する情報を表示します。
更新プログラムの確認	サーバーの更新プログラムを検索します。
テキストエディター	テキストファイルを表示および編集するための基本的なテキストエディターを開きます。
タスク マネージャー	Thin Client の CPU の使用状況およびその履歴を監視します。

表 8-1 ツール (続き)

メニュー オプション	説明
Snipping Tool	画面上の選択した矩形領域、特定のウィンドウ、または画面全体のスナップショットを取得できます。
レジストリエディター	HP ThinPro のレジストリエディターを開きます。
初期セットアップウィザード	[初期セットアップウィザード]を起動します。
互換性チェック	HP ThinPro の[互換性チェック]ツールを実行します。このツールでは、HP ThinPro を実行するためのシステムの適合性を評価します。

## 電源

このオプションを使用すると、ログアウト、コンピューターのシャットダウン、コンピューターの再起動、またはスリープ状態の有効化を実行できます。

管理者は、[電源管理]ツールを使用して、ユーザーに表示するオプションを制限できます。[58 ページの「システム」](#)を参照してください。

## 検索

検索ボックスに入力すると、検索内容に対する一致候補が可能性の高いものから順に表示されます。検索には、コントロール、ツール、および接続の表示名や、関連付けられたエイリアスおよび類義語が含まれます。たとえば、管理者モードで「暗号化」と入力すると、[セキュリティ]コントロールには暗号化パラメーターが含まれますので、[セキュリティ]コントロールが表示されます。

使用可能なオプションをすべて表示するには、検索ボックスにスペースを入力するか、虫眼鏡アイコンを選択します。

また、検索では、使用可能なすべての接続インターフェイスについて新しい接続を作成するオプションを表示します。これは接続の管理に使用できます。


# 9 コントロールパネル


[コントロールパネル]を使用して、システム構成を変更できます。


## [コントロールパネル]を開く

[コントロールパネル]を開くには、以下の操作を行います。

- ▲ [スタート]→[コントロールパネル]の順に選択します。

 **注記:** [スタート]メニューの検索ボックスを使用して、[コントロールパネル]の特定の機能を検索することもできます。

 **注記:** 管理者モードでは、[コントロールパネル]のすべての項目にアクセスできます。ユーザーモードでは、管理者によってユーザーが使用できるように設定された項目にのみアクセスできます。

 **ヒント:** エンドユーザーがアクセスできる[コントロールパネル]の項目を指定するには、[コントロールパネル]を開き、[外観]→[ThinPro の構成]の順に選択し、[アプリケーション]リストで項目を選択または選択解除します。

## システム

ここでは、システムの構成について説明します。

表 9-1

メニューオプション	説明
日付と時刻	タイムゾーンおよび日付と時刻のオプションを設定します。
ネットワーク	ネットワーク設定を構成します。 詳しくは、 <a href="#">59 ページの「ネットワークの設定」</a> を参照してください。
DHCP オプション	DHCP オプションを設定します。 詳しくは、 <a href="#">63 ページの「DHCP オプション」</a> を参照してください。
電源管理	スクリーンセーバー、画面ロック、CPU 設定、ディスプレイの電源を切るタイミング、スリープ状態に入るタイミングなど、電源管理を設定します。 管理者モードでは、電源に関連するオプション（再起動など）へのアクセスをシステム全体で制限できます。
Imprivata のセットアップ	Imprivata アプライアンスモードを有効にして、Imprivata サーバーを指定します。 <a href="#">64 ページの「Imprivata のセットアップ」</a> を参照してください。
コンポーネントマネージャー	システムコンポーネントを削除します。

表 9-1 (続き)

メニュー オプション	説明
	詳しくは、65 ページの「コンポーネントマネージャー」を参照してください。
出荷時設定にリセット	Thin Client を工場出荷時設定に復元します。
スナップショット	Thin Client を以前の状態または工場出荷時設定に復元します。

## ネットワークの設定

ネットワーク設定は、ネットワーク マネージャーを使用して設定できます。

### ネットワーク マネージャーを開く

ネットワーク マネージャーを開くには、以下の操作を行います。

▲ [コントロールパネル]で[システム]→[ネットワーク]の順に選択します。

ネットワーク マネージャーの各種タブについて詳しくは、以下のセクションを参照してください。

### 有線ネットワーク設定

以下の表では、ネットワーク マネージャーの[有線]タブで使用できるオプションについて説明します。

表 9-2 有線ネットワーク設定

オプション	説明
IPv6 を有効にする	IPv6 を有効にします。初期設定では IPv4 が使用され、それらを同時に使用することはできません。
Ethernet 速度	Ethernet 速度を設定します。使用しているスイッチやハブに特殊な要件がない場合は、これを[自動]という初期設定のままにしておきます。
接続方法	[自動]または[静的]のどちらかを選択します。ネットワーク環境で DHCP を使用している場合、それ以上の構成を行わなくても[自動]オプションが機能します。  [静的]を選択した場合は、[静的アドレスの設定]の設定が使用可能になります。必ず、IPv4 または IPv6 のどちらを使用しているかに従ってこれらの値を入力してください。
MTU	最大転送単位 (バイト) を入力します。
セキュリティ設定	認証設定を以下のどれかに設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● [なし]</li> <li>● [802.1X-TTLS]</li> <li>● [802.1X-PEAP]</li> <li>● [802.1X-TLS]</li> </ul> TTLS および PEAP については、以下の点に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● [内部認証]オプションは、サーバーがサポートする対象方式を設定してください。</li> <li>● [CA 証明書]設定は、ローカルの Thin Client 上のサーバーの証明書を指すようにしてください。</li> <li>● [ユーザー名]および[パスワード]は、ユーザーの資格情報です。</li> </ul>


表 9-2 有線ネットワーク設定 (続き)


オプション	説明
	TLS については、以下の点に注意してください。
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>[CA 証明書]</b>設定は、ローカルの Thin Client 上のサーバーの証明書を指すようにしてください。</li> <li>● 使用している<b>[秘密キー]</b>ファイルが.p12 または.pfx である場合は、<b>[ユーザー証明書]</b>設定を空白のままにできます。</li> <li>● <b>[ID]</b>設定は、ユーザー証明書に対応するユーザー名になります。</li> <li>● <b>[秘密キーのパスワード]</b>設定は、ユーザーの秘密キー ファイルのパスワードです。</li> </ul>

## 無線ネットワーク設定

このタブを使用すると、無線ネットワークに対応する無線プロファイルを追加、編集、および削除できます。

以下の表では、無線プロファイルの追加または編集時に使用できるオプションについて説明します。

 **注記:** このタブは、Thin Client が無線アダプターを備えている場合にのみ使用できます。

 **ヒント:** タスクバーのネットワーク ステータス アイコンを選択して、これらの設定にアクセスすることもできます。

全般設定を行うには、**[無線]**タブを使用します。

表 9-3 無線ネットワーク設定

オプション	説明
AP のスキャン	使用可能な無線ネットワークをスキャンします。
SSID	このボックスを使用すると、スキャンによって見つからない場合に、無線ネットワークの SSID を手動で入力できます。
無線帯域	<b>[Auto]</b> (自動)、 <b>[2.4GHz]</b> 、または <b>[5GHz]</b> を選択します。
SSID は非表示にされています	無線ネットワークの SSID が非表示 (ブロードキャストしない) に設定されている場合は、このオプションを有効にします。
IPv6 を有効にする	IPv6 を有効にします。初期設定では IPv4 が使用され、それらを同時に使用することはできません。
電源管理を有効にする	無線アダプターの電源管理機能を有効にします。
接続方法	<b>[自動]</b> または <b>[静的]</b> のどちらかを選択します。ネットワーク環境で DHCP を使用している場合、それ以上の構成を行わなくても <b>[自動]</b> オプションが機能します。  <b>[静的]</b> を選択した場合は、 <b>[静的アドレスの設定]</b> の設定が使用可能になります。必ず、IPv4 または IPv6 のどちらを使用しているかによってこれらの値を入力してください。
セキュリティ設定	認証設定を以下のどれかに設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● [なし]</li> <li>● [WEP]</li> <li>● [WPA/WPA2-PSK]</li> <li>● [802.1X-TTLS]</li> </ul>

表 9-3 無線ネットワーク設定 (続き)

オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• [802.1X-PEAP]</li> <li>• [802.1X-TLS]</li> <li>• [EAP-FAST]</li> </ul> <p>[WEP]および[WPA/WPA2-PSK]の場合に必要な操作は、ネットワーク キーを入力して[OK]を選択することです。</p> <p>[EAP-FAST]の場合は、[匿名 ID]、[ユーザー名]、[パスワード]、および[Provisioning Method] (プロビジョニング方法) を設定します。PAC ファイルの設定を変更する必要はありません。</p> <p>TTLS、PEAP、および TLS については、59 ページの「有線ネットワーク設定」を参照してください。</p>
自動接続	このオプションは将来の使用のために予約されています。
無線を有効にする	無線アダプターを有効にします。

IPv4 接続設定を行うには、[IPv4]タブを使用します。

表 9-4 IPv4 接続の設定

オプション	説明
IPv4 は有効にされています	IPv4 を有効にします。
IPv4 の方式	<p>[自動]または[静的]のどちらかを選択します。ネットワーク環境で DHCP を使用している場合、それ以上の構成を行わなくても[自動]オプションが機能します。</p> <p>[静的]を選択した場合は、[静的アドレスの設定]の設定が表示されます。IPv4 設定を入力する必要があります。</p>

IPv6 接続設定を行うには、[IPv6]タブを使用します。

表 9-5 IPv6 接続の設定

オプション	説明
IPv6 は有効にされています	<p>IPv6 グローバル アドレスの使用を有効にします。</p> <p><b>注記:</b> HP ThinPro では、ルート アドバタイズまたは DHCPv6 経由で IPv6 グローバル アドレスの取得を試みます。</p>
IPv6 の方式	<p>[自動]または[静的]のどちらかを選択します。ネットワーク環境で DHCP を使用している場合、それ以上の構成を行わなくても[自動]オプションが機能します。</p> <p>[静的]を選択した場合は、[静的アドレスの設定]の設定が表示されます。IPv6 設定を入力する必要があります。</p>

接続のセキュリティ設定を行うには、[セキュリティ]タブを使用します。



表 9-6 接続のセキュリティ設定

オプション	説明
認証	<p>認証設定を以下のどれかに設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [なし]</li> <li>• [WEP]</li> <li>• [WPA/WPA2-PSK]</li> <li>• [WPA/WPA2 Enterprise-TTLS]</li> <li>• [WPA/WPA2 Enterprise-PEAP]</li> <li>• [WPA/WPA2 Enterprise-TLS]</li> <li>• [EAP-FAST]</li> </ul> <p>[WEP]および[WPA/WPA2-PSK]の場合に必要な操作は、ネットワーク キーを入力して[OK]を選択することです。</p> <p>[EAP-FAST]の場合は、[匿名 ID]、[ユーザー名]、[パスワード]、および[Provisioning Method]（プロビジョニング方法）を設定します。PAC ファイルの設定を変更する必要はありません。</p> <p>TTLS、PEAP、および TLS については、59 ページの「有線ネットワーク設定」を参照してください。</p>

## DNS 設定

以下の表では、ネットワーク マネージャーの[DNS]タブで使用できるオプションについて説明します。


表 9-7 DNS 設定

オプション	説明
ホスト名	これは、Thin Client の MAC アドレスに従って自動生成されます。または、カスタムのホスト名を設定することもできます。
DNS サーバー	このボックスを使用すると、カスタムの DNS サーバー情報を設定できます。
ドメインの検索	このボックスを使用すると、検索対象のドメインを制限できます。
HTTP プロキシ	これらのボックスを使用すると、以下の形式でプロキシ サーバー情報を設定できます。
FTP プロキシ	http://<アドレス>:<ポート>
HTTPS プロキシ	サポート機能が向上するため、3 つのすべてのプロキシ設定に http://プレフィックスを使用することをおすすめします。
	<b>注記：</b> それらのプロキシ設定は、システムの[http_proxy]、[ftp_proxy]、および[https_proxy]環境変数に設定されます。

## IPSec ルール


このタブを使用すると、IPSec ルールを追加、編集、および削除できます。IPSec ルールは、IPSec を使用して通信を行うシステムごとに同じにする必要があります。

IPSec ルールの設定時は、**[全般]**タブを使用して、そのルールの情報、アドレス、および認証方法を設定します。**[ソースアドレス]**は Thin Client の IP アドレスであり、**[相手先アドレス]**はその Thin Client が通信を行おうとしているシステムの IP アドレスです。

 **注記:** **[PSK]**および**[証明書]**認証タイプのみがサポートされています。Kerberos 認証はサポートされていません。

**[トンネル]**タブを使用すると、トンネルモードの設定を行えます。

**[フェーズ I]**および**[フェーズ II]**タブを使用すると、高度なセキュリティ設定を構成できます。これらの設定は、相互に通信するすべてのピアシステムで同じにする必要があります。

 **注記:** IPSec ルールは、Windows が動作しているコンピューターとの通信にも使用できます。

## VPN 設定の構成

HP ThinPro では、2 種類の VPN をサポートしています。

- Cisco
- PPTP

**[自動開始]**オプションを有効にすると、VPN が自動的に開始されます。

Cisco を使用して VPN を作成するときは、以下の点に注意してください。

- **[ゲートウェイ]**は、ゲートウェイの IP アドレスまたはホスト名です。
- **[グループ名]**および**[グループパスワード]**は、IPSec ID および IPSec パスワードです。
- **[ドメイン]**設定は省略可能です。
- **[ユーザー名]**および**[ユーザーパスワード]**は、サーバー側で VPN 接続を作成する権限を持つユーザー資格情報です。
- **[セキュリティの種類]**の設定はサーバー側と同じにする必要があります。
- **[NAT トラバーサル]**オプションは、VPN 環境に従って設定する必要があります。
- **[IKE DH グループ]**オプションは、VPN 用に使用するディフィーヘルマン (Diffie-Hellman) グループを設定します。
- **[PFS タイプ]**オプションは、PFS (Perfect Forward Secrecy) 用に使用するディフィーヘルマン (Diffie-Hellman) グループを設定します。

PPTP を使用して VPN を作成するときは、以下の点に注意してください。

- **[ゲートウェイ]**は、ゲートウェイの IP アドレスまたはホスト名です。
- **[NT ドメイン]**設定は省略可能です。
- **[ユーザー名]**および**[ユーザーパスワード]**は、サーバー側で VPN 接続を作成する権限を持つユーザー資格情報です。

## DHCP オプション

DHCP オプションを設定および管理する方法です。

## DHCP オプション マネージャーを開く


DHCP オプション マネージャーを開くには、以下の操作を行います。

- ▲ [コントロールパネル]で[システム]→[DHCP オプション]の順に選択します。

## DHCP オプションの要求または無視

特定の DHCP オプションを要求または無視するように Thin Client に指示するには、以下の操作を行います。

DHCP オプション マネージャーは、Thin Client により要求される DHCP オプションの詳細を表示します。

 **ヒント**：ドロップダウン リストを使用して、表示する DHCP タグをフィルタリングできます。


- ▲ [要求]列にあるチェック ボックスにチェックを入れるか、チェックを外します。

## DHCP コードの変更

DHCP コードを変更するには、以下の操作を行います。

DHCP サーバーで特定のコード番号が競合している場合、[DHCP コード]列に鉛筆アイコンが表示されているときは、コード番号を変更できます。

- ▲ DHCP コードをダブルクリックして、新しい番号を入力します。

 **注記**：変更可能な DHCP コードを変更できるのは、その DHCP オプションが[要求済み]列で有効になっている間のみです。

## DHCP オプションに関する情報

Thin Client および DHCP サーバーでの DHCP オプションの使用方法について詳細を確認するには、以下の操作を行います。

- ▲ そのオプションの[情報]列にあるアイコンを選択します。

## Imprivata のセットアップ

これらの 2 つのパッケージは、ThinPro にインストールされています。

- Imprivata OneSign Bootstrap ロードー : onesign-bootstrap-loader
- HP Imprivata ヘルパー スクリプト (ベンダー起動スクリプト) : hptc-imprivata-helper

Imprivata アプライアンス モードを有効にすると、OneSign Bootstrap ロードーを指定の Imprivata OneSign サーバーに接続し、Imprivata ProveID Embedded エージェント (PIE エージェント) をインストールまたは更新します。

PIE エージェントは、ディレクトリ /usr/lib/imprivata/runtime/ にインストールされます。


ThinPro 7.2 以降では、Imprivata OneSign サーバー 6.3 以降が必要です。HP Imprivata ヘルパー スクリプトによって VDI クライアントが起動します。VDI クライアントは、Citrix、VMware、または RDP クライアントです。

HP ヘルパー スクリプトは、ディレクトリ /usr/lib/Imprivata-helper/ にインストールされます。

Imprivata エージェントは、次の 2 つのログ ファイルを使用します。

- /usr/lib/imprivata/runtime/log/OneSign.log
- /usr/lib/imprivata/runtime/log/OneSignAgent.log

 **注記**：詳細情報については、<http://documentation.imprivata.com> を参照してください。

 **注記**：Imprivata OneSign サーバーの証明書が、ThinPro で有効であることを確認してください。この証明書をインストールするか、またはルート CA 証明書をインストールする必要があることがあります。68 ページの「[証明書マネージャー](#)」を参照してください。


[Imprivata のセットアップ]を開くには、以下の操作を行います。


- ▲ [コントロールパネル]で[システム]→[Imprivata のセットアップ]の順に選択します。

## コンポーネントマネージャー

コンポーネントマネージャーでは、環境内で使用しないシステムコンポーネントを削除できます。これは、イメージのサイズを削減するときやセキュリティを強化するとき役に立つ場合があります。たとえば、Citrix 接続を環境内で使用することがない場合は、Citrix コンポーネントを削除できます。

コンポーネントを削除するときには、その変更を完全に適用する前に新しい設定をテストできます。変更がまだ完全に適用されていない場合は、行った変更を取り消すこともできます。

 **重要**：新しい設定を完全に適用すると、すべてのスナップショットが削除され、新しい出荷時スナップショットが作成されます。これ以降、削除したコンポーネントを復元することはできません。

 **注記**：コンポーネントを削除しても使用するローカルディスク容量は削減されない場合がありますが、ローカルシステムから作成されるディスクイメージのサイズは削減されます。

コンポーネントマネージャーを開くには、以下の操作を行います。

### コンポーネントマネージャーを開く


コンポーネントマネージャーを開くには、以下の操作を行います。

- ▲ [コントロールパネル]で[システム]→[コンポーネントマネージャー]の順に選択します。

### コンポーネントの削除

コンポーネントを削除するには、以下の操作を行います。

1. コンポーネントマネージャーで目的のコンポーネントを選択します。

 **ヒント**：複数のコンポーネントを選択するには、**Ctrl** キーまたは **Shift** キーを使用します。

2. [Remove Component(s)] (コンポーネントを削除) を選択します。
3. 確認のダイアログが表示されたら、[OK]を選択します。
4. コンポーネントが削除されたら、新しい設定をテストします。


### 変更の取り消し

変更がまだ完全に適用されていない場合は、各変更を一度に1つずつ取り消すことができます。取り消しを行うたびに Thin Client の再起動が必要になります。

コンポーネントマネージャーで行った変更を取り消すには、以下の操作を行います。


1. コンポーネント マネージャーで[Revert Last Change]（最後の変更を取り消す）を選択します。
2. **【はい】**を選択して Thin Client を再起動します。

取り消す変更の数と同じ回数だけこの処理を繰り返します。

 **重要:** 新しい構成のテスト中にイメージのスナップショットを取得した場合、コンポーネントマネージャーで変更を取り消すことはできません。変更を取り消すには、[スナップショット]ツールで以前のスナップショットを復元する必要があります。ただし、変更がすでに完全に適用されている場合、その操作によって既存のスナップショットがすべて削除されているため、この方法では変更を取り消せません。変更がすでに完全に適用されている場合には、削除されたコンポーネントの多くは、オペレーティングシステムを再インストールしなければ復元できません。一部のコンポーネント (Citrix、RDP、VMware Horizon View など) は Web 上でアドオンとして提供されているので、アドオンを再インストールすることによって復元できます。

## 変更の完全な適用

コンポーネント マネージャーで行った変更を完全に適用するには、以下の操作を行います。

 **重要:** 新しい設定を完全に適用すると、すべてのスナップショットが削除され、新しい出荷時スナップショットが作成されます。これ以降、削除したコンポーネントを復元することはできません。

1. コンポーネント マネージャーで[Apply Component Configuration](コンポーネント設定を適用する)を選択します。
2. **【はい】**を選択します。

## セキュリティ

ここでは、セキュリティの構成について説明します。

表 9-8

メニューオプション	説明
セキュリティ	詳しくは、 <a href="#">66 ページの「セキュリティ設定」</a> を参照してください。
ドメインパスワードの変更	ドメインを使用している場合に、ドメインパスワードを変更します。
証明書	証明書を簡単にインポート、表示、または削除できるようにする証明書マネージャーを開きます。 詳しくは、 <a href="#">68 ページの「証明書マネージャー」</a> を参照してください。
ファイアウォールマネージャー	ファイアウォール設定を構成します。
SCEP マネージャー	ネットワーク ベースの証明書管理を可能にします。

## セキュリティ設定

セキュリティ設定は、Security Manager を使用して設定できます。Security Manager を開くには、[コントロールパネル]で**【セキュリティ】**→**【セキュリティ】**の順に選択します。

Security Manager の各種タブについて詳しくは、以下のセクションを参照してください。

- [67 ページの「ローカルアカウント」](#)
- [67 ページの「暗号化」](#)
- [68 ページの「オプション」](#)

## ローカルアカウント

[ローカルアカウント]タブを使用して、ローカルの root アカウントパスワードおよびユーザー アカウントパスワードを変更したり、それらのアカウントを使用する認証を無効にしたりできます。

- △ **注意** : root アカウントまたはユーザー アカウントを無効にすると、Active Directory 認証を有効にしない限り、システムが使用できない状態になる場合があります。たとえば、root アカウントを無効にした場合、管理者のドメイン資格情報を使用しないと、管理者モードに変更できません。一方で、Active Directory 認証が有効になっている場合は、ローカルアカウントを無効にすると、セキュリティが向上することがあります。Thin Client の root パスワードなどの共有シークレットを管理したり更新したりする必要がなくなるからです。

Active Directory 認証を使用していて、ドメインユーザーのキャッシュされたデータが Thin Client にある場合は、このタブから、ユーザーのキャッシュされたデータを削除することもできます。

- 📖 **注記** : ユーザーがドメインアカウントを使用してログインした場合、ユーザーは自分のアカウントのデータを削除できません。削除すると、システムが不確定な状態になるからです。

## 暗号化

Active Directory 資格情報およびその他のシークレットは、画面のロック解除などの機能で使用するためにハッシュされたり、シングルサインオンのために暗号化されてシステムに保存されたりします。

パスワードのハッシュを作成するためのハッシュアルゴリズムは、このメニューから選択できます。初期設定の scrypt は、広く認められているキー派生関数です。別のキー派生関数 Argon2 や、従来のハッシュ SHA-256 および SHA-512 も使用できます。キー派生関数の利点は、平文のパスワードを事前に計算されたハッシュ値と照合するレインボー テーブルの計算コストが高いことであり、従来のハッシュは可能な限り高速で実行する場合に適しています。ハッシュはすべて 128 ビット以上のランダムソルトを付加して保存され、パスワードハッシュを計算して保存するたびにランダムソルトが変わります。

接続開始時にパスワードの暗号化を解除して、接続に提供できる場合に、暗号化されたパスワードが使用されます (シングルサインオン)。暗号化アルゴリズムは、OpenSSL でサポートされる幅広いアルゴリズムから選択できます。別の値を選択する十分な理由がない限り、初期設定の暗号化アルゴリズムを使用することをおすすめします。このアルゴリズムは一般に、セキュリティの専門家から最新の安全なアルゴリズムと認められています。ソルトビットおよびキービットの数はアルゴリズムによって異なります。アルゴリズムセレクターの横にある情報ボタンを押すと、詳しい情報を確認できます。暗号化キーは Thin Client ごとに一意で、管理者だけが参照できる場所に保存されます。また、システム上の権限を付与された特定のアプリケーションだけが暗号化を解除できます。

ハッシュおよび暗号化されたシークレットは両方とも、生存時間を設定できます。シークレットがハッシュまたは暗号化されてから、使用または暗号化の解除までの時間の長さが生存時間を超過した場合、ハッシュ照合または暗号化の解除は失敗します。

初期設定では、シングルサインオンパスワードは 1 日しか使用できませんが、接続またはネットワーク設定に保存されたパスワードは無期限に使用できます。

## オプション

**[ローカルユーザーのログインを必須にする]**: Active Directory 認証が無効になっている場合にこのオプションを選択すると、起動時およびログアウト時にログイン画面が表示されます。その場合、システムにアクセスするには、ローカルユーザーまたは root の資格情報を使用する必要があります。


**[シークレットのプレビューを有効にする]**: 有効にすると、システムのほとんどのパスワードおよびシークレットの入力フィールドで、右側に小さな目のアイコンが表示されます。マウスの左ボタンを押したままにしてその目のアイコンを選択すると、マウスボタンを押したままにしている間、シークレットが平文で表示されます。ボタンを放すと、シークレットは再び見えなくなります。

**[ドメインのテキスト入力を使用する]**: 有効にすると、必要に応じて、ドメイン名用のドメイン入力フィールドが別に表示されます。無効にすると、代わりに、[ユーザー]フィールドに入力した値でドメインが判定されます。たとえば、[ユーザー]フィールドに「mike@mycorp」と入力した場合、ドメインは「mycorp」とみなされます。[ユーザー]フィールドに「graycorp¥mary」と入力した場合には、ドメインは「graycorp」とみなされます。

**[管理者に画面ロックの上書きを許可する]**: 有効にすると、ロックされた画面を上書きして、ユーザーが手動で Thin Client からログアウトしたかのように、ログイン画面または HP ThinPro のデスクトップに戻すことができます。

## 証明書

ここでは、証明書の使用について説明します。

 **注記**: Linux で証明書を使用する方法については、<https://www.openssl.org/docs/> を参照してください。


### 証明書マネージャー

証明書マネージャーを開くには、以下の操作を行います。

▲ [コントロールパネル]で**[セキュリティ]**→**[証明書]**の順に選択します。

証明書マネージャーを使用して、証明機関 (CA) から証明書を手動でインストールします。この操作により、証明書がユーザーのローカルの証明書ストア (/usr/local/share/ca-certificates) にコピーされ、証明書を接続の検証に使用するように OpenSSL が設定されます。

必要に応じて、[92 ページの「クライアント プロファイルへの証明書の追加」](#)の手順に従って、[Profile Editor]を使用して証明書をプロファイルに追加します。

 **注記**: 通常、自己署名証明書は、仕様によって有効であり、かつ OpenSSL で検証できる場合には使用できます。

### SCEP マネージャー

SCEP マネージャーを開くには、以下の操作を行います。


▲ [コントロールパネル]で**[セキュリティ]**→**[SCEP マネージャー]**の順に選択します。

SCEP マネージャーは、CA から取得したクライアント側の証明書を登録または更新する必要がある場合に使用します。


登録または更新中に、SCEP マネージャーは Thin Client の秘密キーおよび証明書要求を生成し、その要求を SCEP サーバー上の CA に送信します。CA が証明書を発行すると、その証明書は Thin Client 側に返され、証明書ストアに保存されます。OpenSSL は、接続の検証にその証明書を使用します。

 **注記**：登録前に、SCEP サーバーが正しく設定されていることを確認してください。

必要に応じて、SCEP マネージャーの**[確認]**タブを使用してユーザーに関する情報を入力します。

 **注記**：**[共通名]**は必須であり、初期設定では Thin Client の完全修飾ドメイン名 (FQDN) になります。その他の情報はすべて省略可能です。**[国または地域]**は 2 文字で入力されます (米国の場合は US、中国の場合は CN など)。

SCEP マネージャーの**[サーバー]**タブを使用して、SCEP サーバーを追加し、証明書を登録または更新します。

 **ヒント**：新しい SCEP サーバーを入力する場合は、最初にサーバー情報を保存してから、**[設定]**ボタンを使って戻り、登録を行います。

## 管理機能

ここでは、管理機能の構成について説明します。

表 9-9

メニュー オプション	説明
Active Directory	詳しくは、 <a href="#">69 ページの「Active Directory の構成」</a> を参照してください。
Automatic Update (自動更新)	Automatic Update (自動更新) サーバーを手動で設定します。 詳しくは、 <a href="#">85 ページの「HP Smart Client Services」</a> を参照してください。
HP Easy Update	HP Easy Tools を起動します。 詳しくは、HP Easy Tools の説明書を参照してください。
HPDM Agent	HP Device Manager (HPDM) Agent を設定します。 詳しくは、HPDM の管理者ガイドを参照してください。
SSHD マネージャー	Secure Shell を介したアクセスを有効にします。
ThinState	HP ThinState は、オペレーティング システム イメージ全体またはその構成設定のみをコピーしたり、復元したりできるようにします。 詳しくは、 <a href="#">71 ページの「HP ThinState」</a> を参照してください。
VNC シャドウイング	VNC シャドウイングのオプションを設定します。 詳しくは、 <a href="#">74 ページの「VNC シャドウイング」</a> を参照してください。

## Active Directory の構成



## [状態]タブ

このコントロールを使用すると、ドメインに対する認証、ドメインへの参加、およびドメイン関連の各種オプションを有効または無効にできます。

[状態]タブのドメインパラメーターの変更後に、保留状態になっている操作がページに表示されます。その操作を実行するには、[適用]を選択する必要があります。ドメインへの参加またはドメインからの削除には、その操作を実行する権限のある資格情報が必要です。認証を有効にした後、またはドメインに参加した後に、一部のサブパラメーターが読み取り専用としてマークされていることがあります。その時点では、それらのサブパラメーターを変更できないためです。ドメインからの削除や認証の無効化を完全に行ってから、変更を適用する必要があります。その後、認証を再度有効にするか、変更したサブパラメーターでドメインに参加できます。

表 9-10 [状態]タブ

オプション	説明
ドメイン名	Thin Client が DHCP オプションを使用してドメイン名を判別できる場合は、その名前がここに表示されます。判別できない場合は、完全修飾のドメイン名を手動で入力する必要があります。
ドメインに対して認証する	有効にすると、このガイドの「Active Directory 統合」のセクションで説明されているように、ドメイン資格情報を使用できます。
Thin Client ログインを要求する	初期設定では有効になっています。これにより、システムを起動するとドメインログイン画面が表示されます。無効にした場合でも、ドメイン資格情報を使用して管理者モードに切り替えたり、ロックされた画面を上書きしたりできますが、シングルサインオンは使用できません。
ワークグループ	通常、ネットワークサーバーによって提供される情報から自動検出されますが、例外的なネットワークトポロジを使用する場合は、これを手動で上書きできます。
ドメインコントローラー	通常、DNS ルックアップを使用して検出されますが、ネットワークからその情報が提供されない場合は手動で指定できます。
Thin Client をドメインに参加させる	Active Directory 統合の章で説明しているように、このオプションを使用すると、Thin Client を Active Directory のデータベースに正式に追加できます。
組織単位 (OU)	Thin Client は通常、データベースの「コンピューター」OU に追加されますが、データベースのスキーマで要求される場合は、別の値を手動でここに入力できます。
動的 DNS	有効にすると、IP アドレスとホスト名の関連付けが変更された場合に、Thin Client が DNS サーバーを更新しようとします。

## [オプション]タブ

ここでは、[オプション]タブの[オプション]について説明します。

表 9-11

オプション	説明
シングルサインオンを有効にする	有効にすると、ログイン時に入力したパスワードが暗号化され、システムに保存されます。シングルサインオンの資格情報を設定して接続を開始すると、パスワードの暗号化が解除され、パスワードが接続に渡されて、リモートログインに使用されます。
ドメインログイングループ	有効にすると、指定されたドメイングループのユーザーのみがログインできます。
ドメイン管理者グループ	有効にすると、指定されたドメイングループのメンバーのみが、管理者モードへの切り替えおよび画面ロックの上書きを行えます。

表 9-11 (続き)

オプション	説明
キャッシュされたドメイン ログインを有効にする	有効にすると、ユーザーのパスワードのハッシュがシステムに保存され、Active Directory サーバーにアクセスできない場合でも、ログインに使用できます。
ログアウト時にユーザー設定を保持する	このオプションを有効にすると、ドメインユーザーが行った設定変更は、そのユーザーだけに変更した設定が適用される場所に保存されます。このオプションを無効にすると、そのようなユーザー固有の変更は、ユーザーのログアウト時に破棄されます。
ドメインパスワードの変更を許可する	有効にすると、パスワードの有効期限が切れるとメッセージが表示され、ユーザーはパスワードを更新できます。ユーザーは、タスクバーのユーザー アイコンを使用して、手動でパスワードを更新できます。


## HP ThinState

HP ThinState を使用すると、HP ThinPro のイメージまたは構成（プロファイル）をキャプチャして、互換性のあるモデルおよびハードウェアの別の Thin Client に展開できます。


## HP ThinPro イメージの管理

### FTP サーバーへの HP ThinPro イメージのキャプチャ


HP ThinPro イメージを FTP サーバーにキャプチャするには、以下の操作を行います。

 **重要：**キャプチャを開始する前に、キャプチャされたイメージを保存する予定のディレクトリが FTP サーバー上にすでに存在している必要があります。

1. [コントロールパネル]で[管理]→[ThinState]の順に選択します。
2. [HP ThinPro のイメージ]→[次へ]の順に選択します。
3. [HP ThinPro のイメージのコピーを作成する]→[次へ]の順に選択します。
4. [FTP サーバー]→[次へ]の順に選択します。
5. 各フィールドに FTP サーバーの情報を入力します。

 **注記：**初期設定のイメージファイルの名前は、Thin Client のホスト名に設定されます。

キャプチャされたイメージを圧縮する場合は、[イメージを圧縮する]を選択します。


 **注記：**HP ThinPro イメージファイルは、ディスクを簡単にそのまま保存したものです。圧縮前のサイズは約 1 GB で、アドオンなしの圧縮イメージは約 500 MB です。

6. [完了]を選択します。


イメージキャプチャが開始されると、すべてのアプリケーションが停止し、進行状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、[詳細]を選択して情報を確認します。キャプチャが完了すると、デスクトップが再表示されます。

### FTP または HTTP を使用した HP ThinPro イメージの展開

FTP または HTTP を使用して HP ThinPro イメージを展開するには、以下の操作を行います。


 **重要**：展開を終了する前に停止した場合は、以前のイメージが復元されず、Thin Client の USB フラッシュドライブの内容が破損します。

1. [コントロールパネル]で[管理]→[ThinState]の順に選択します。
2. [HP ThinPro のイメージ]→[次へ]の順に選択します。
3. [HP ThinPro のイメージを復元する]→[次へ]の順に選択します。
4. FTP または HTTP のどちらかのプロトコルを選択し、各フィールドにサーバーの情報を入力します。

 **注記**：HTTP プロトコルを使用する場合、[ユーザー名]および[パスワード]フィールドは必須ではありません。


5. 以前のすべての構成設定を保持する場合は、[HP ThinPro の構成の保持]を選択します。
6. [完了]を選択します。

イメージの展開が開始されると、すべてのアプリケーションが停止し、進行状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、[詳細]を選択して情報を確認します。展開が完了すると、デスクトップが再表示されます。

 **注記**：MD5 チェックサムの確認は、MD5 ファイルがサーバー上に存在する場合にのみ実行されません。

## USB フラッシュドライブへの HP ThinPro イメージのキャプチャ

HP ThinPro イメージを USB フラッシュドライブにキャプチャするには、以下の操作を行います。

 **重要**：USB フラッシュドライブにデータがある場合は、キャプチャを開始する前にバックアップします。HP ThinState によって USB フラッシュドライブが自動的にフォーマットされ、起動可能な USB フラッシュドライブが作成されます。このプロセスによって、現在 USB フラッシュドライブにあるすべてのデータが消去されます。


1. [コントロールパネル]で[管理]→[ThinState]の順に選択します。
2. [HP ThinPro のイメージ]→[次へ]の順に選択します。
3. [HP ThinPro のイメージのコピーを作成する]→[次へ]の順に選択します。
4. [起動可能な USB フラッシュドライブを作成する]→[次へ]の順に選択します。  
Thin Client が再起動し、USB フラッシュドライブを挿入するよう求められます。
5. USB フラッシュドライブを Thin Client の USB ポートに挿入します。
6. USB フラッシュドライブを選択し、[完了]を選択します。

進捗状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、[詳細]を選択して情報を確認します。キャプチャが完了すると、デスクトップが再表示されます。

## USB フラッシュドライブを使用した HP ThinPro イメージの展開

USB フラッシュドライブを使用して HP ThinPro イメージを展開するには、以下の操作を行います。

---

 **重要**：展開を終了する前に停止した場合は、以前のイメージが復元されず、Thin Client の USB フラッシュドライブの内容が破損します。この場合、USB フラッシュドライブを使用して Thin Client のイメージを再インストールする必要があります。

---


1. 目的の Thin Client の電源を切ります。
2. USB フラッシュドライブを挿入します。
3. Thin Client の電源を入れます。

 **注記**：Thin Client が USB フラッシュドライブを認識して起動を開始するまで、画面が 10～15 秒間黒くなります。USB フラッシュドライブから Thin Client を起動できない場合は、他のすべての USB デバイスを取り外して、この手順を繰り返します。

---

## クライアントプロファイルの管理


クライアントプロファイルには、接続マネージャーおよび[コントロールパネル]を使って構成された接続、各種設定、およびカスタマイズ設定が含まれています。プロファイルは、それが作成された HP ThinPro のバージョンに固有の構成ファイルに保存されます。

 **注記**：クライアントプロファイルを事前に構成して展開するには、[Profile Editor]および Automatic Update（自動更新）を使用します（詳しくは、[90 ページの「Profile Editor」](#) および [85 ページの「HP Smart Client Services」](#) を参照してください）。

---

### FTP サーバーへのクライアントプロファイルの保存

FTP サーバーにクライアントプロファイルを保存するには、以下の操作を行います。

 **重要**：保存を開始する前に、プロファイルを保存する予定のディレクトリが FTP サーバー上にすでに存在している必要があります。

---

1. [コントロールパネル]で[管理]→[ThinState]の順に選択します。
2. [HP ThinPro の構成]→[次へ]の順に選択します。
3. [構成を保存する]→[次へ]の順に選択します。
4. [FTP サーバー]→[次へ]の順に選択します。
5. 各フィールドに FTP サーバーの情報を入力します。
6. [完了]を選択します。


### FTP または HTTP を使用したクライアントプロファイルの復元

FTP または HTTP を使用してクライアントプロファイルを復元するには、以下の操作を行います。

1. [コントロールパネル]で[管理]→[ThinState]の順に選択します。
2. [HP ThinPro の構成]→[次へ]の順に選択します。
3. [構成を復元する]→[次へ]の順に選択します。
4. [リモートサーバー]を選択し、[次へ]を選択します。

5. FTP または HTTP のどちらかのプロトコルを選択し、各フィールドにサーバーの情報を入力します。

---

 **注記**：HTTP プロトコルを使用する場合、[ユーザー名]および[パスワード]フィールドは必須ではありません。

---

6. [完了]を選択します。

### USB フラッシュドライブへのクライアントプロファイルの保存

クライアントプロファイルを USB フラッシュドライブに保存するには、以下の操作を行います。

1. USB フラッシュドライブを Thin Client の USB ポートに挿入します。
2. [コントロールパネル]で[管理]→[ThinState]の順に選択します。
3. [HP ThinPro の構成]→[次へ]の順に選択します。
4. [構成を保存する]→[次へ]の順に選択します。
5. [USB キー]→[次へ]の順に選択します。
6. USB フラッシュドライブを選択します。
7. [参照]を選択します。
8. USB フラッシュドライブ内の目的の場所に移動し、プロファイルにファイル名を割り当てます。
9. [保存]を選択します。
10. [完了]を選択します。

### USB フラッシュドライブからのクライアントプロファイルの復元

クライアントプロファイルを USB フラッシュドライブから復元するには、以下の操作を行います。

1. プロファイルを含む USB フラッシュドライブをターゲットの Thin Client の USB ポートに挿入します。
2. [コントロールパネル]で[管理]→[ThinState]の順に選択します。
3. [HP ThinPro の構成]→[次へ]の順に選択します。
4. [構成を復元する]→[次へ]の順に選択します。
5. [USB キー]→[次へ]の順に選択します。
6. USB キーを選択します。
7. [参照]を選択します。
8. USB キーにある目的の構成ファイルをダブルクリックします。
9. [完了]を選択します。


## VNC シャドウイング

VNC シャドウイングツールにアクセスするには、以下の操作を行います。

VNC (Virtual Network Computing) は、リモート コンピューターのデスクトップを表示し、ローカルのマウスおよびキーボードでそのデスクトップを制御できるようにするリモート デスクトップ プロトコルです。

セキュリティを向上するために、リモートでの診断に必要な場合を除いて、VNC を無効のままにしておくことをおすすめします。Thin Client へのリモート アクセスが不要になった場合は、VNC を無効にしてください。

▲ [コントロールパネル]で[管理機能]→[VNC シャドウイング]の順に選択します。

 **注記** : VNC シャドウイングのオプションへの変更を有効にするには、Thin Client を再起動する必要があります。

以下の表では、VNC シャドウイング ツールで使用できるオプションについて説明します。

表 9-12 VNC シャドウイング


オプション	説明
VNC シャドウを有効にする	VNC シャドウイングを有効にします。
VNC 読み取り専用	VNC セッションを読み取り専用にします。
VNC でパスワードを使用する	VNC を使用した Thin Client へのアクセス時にパスワードが要求されるようにします。パスワードを設定するには、 <b>[パスワードの設定]</b> を選択します。
[シャドウイングの停止]ボタンの表示	有効にすると、リモート システムの左上隅に <b>[シャドウイングの停止]</b> ボタンが表示されます。このボタンを押すと VNC シャドウイングを停止します。
VNC でループバックのみを許可する	有効にすると、ループバックアドレスで特定されるこの Thin Client からのみ VNC サーバーに接続できます。
VNC で許可/拒否をユーザーに通知する	他のユーザーが VNC を使用して接続を試みているときにリモートユーザーに通知する通知ダイアログをリモート システム上で有効にします。ユーザーは、アクセスを許可または拒否できます。
通知を自動的に閉じるまでの時間 (秒)	指定した秒数が経過すると、ユーザーへの通知メッセージを閉じます。
ユーザーへの通知メッセージ	通知ダイアログのメッセージをリモートユーザーに表示できるようにします。
デフォルトで接続を拒否する	有効にした場合、タイマーの期限が切れると、VNC 接続は初期設定では拒否されます。
VNC サーバーを今すぐ再設定する	新しい設定を適用後、VNC サーバーをリセットします。

## SNMP

SNMP は、ネットワーク上の管理対象デバイスに関する情報を収集および体系化したり、その情報を変更してデバイスの動作を変更したりするためのネットワーク プロトコルです。

3 つのバージョンの SNMP が開発されました。SNMPv1 は最初のバージョンですが、SNMPv2c と SNMPv3 の方が広く使用されています。HP デーモンは、すべてのバージョンの SNMP プロトコルをサポートしています。

SNMP デーモンの動作は、多くのオプションをサポートしている/etc/snmp/snmpd.conf、snmpd.conf によって定義されています。ThinPro の GUI は、これらのオプションを限定的にサポートしています。これは基本的なケースで役立つ場合があります。ThinPro の GUI がニーズを満たしていない場合は、独自の snmpd 構成ファイルを提供する必要があります。/etc/snmpd.conf を手動で編集する必要があります。root/snmp/agentBehaviour/usePrivateConfFile を有効にすることも必要です。そうしないと、次に適用される構成によって構成の変更が上書きされます。

 **注記**：SNMP は、拡張性とカスタマイズ性の非常に高いプロトコルです。ThinPro では、ThinPro で SNMP エージェントを設定できる、シンプルな GUI ツールを提供しています。ユーザーは、デバイスに関する基本的な SNMP クエリを許可する SNMP エージェントを構成できます。プライベート OID の拡張や SNMPv3 の使用など、高度な SNMP 機能を設定することを推奨しています。

SNMP エージェントの構成ファイルは、ThinPro の/etc/snmp/snmpd.conf にあります。SNMP エージェントの構成について詳しくは、snmpd.conf(5)のメインページを参照してください。

## プライベート構成ファイルでの SNMP の有効化

プライベート構成ファイルを使用して SNMP を有効にできます。

1. [コントロールパネル]で[管理機能]>[SNMP]の順に選択します。
2. [SNMP Enable] (SNMP の有効化) を選択して、ThinPro で SNMP エージェントを有効にします。
3. [プライベート構成ファイルを使用]を選択します。
4. プライベート構成ファイルを/etc/snmp/snmpd.conf にコピーします。
5. SNMP エージェントを起動するには、[適用]を選択します。

## [Community List] (コミュニティ リスト) による SNMP の有効化

[Community List] (コミュニティ リスト) を使用して SNMP を有効にできます。

1. [コントロールパネル]で[管理機能]>[SNMP]の順に選択します。
2. [SNMP Enable] (SNMP の有効化) を選択して、ThinPro で SNMP エージェントを有効にします。
3. 選択されている場合は、[プライベート構成ファイルを使用]の選択を解除します。
4. [Community List] (コミュニティ リスト) で Add/Edit/Delete コミュニティを選択して SNMP v1/v2c コミュニティを変更すると、コミュニティの 3 つの属性を設定できます。
  - フィールドに、コミュニティ リストの名前を入力します。
  - [Permission] (アクセス権) を選択して、[Read-Only] (読み取り専用) または [Read-Write] (読み取りおよび書き込み可能) にします。
  - フィールドに、コミュニティ リストのアクセス可能な OID を入力します。
5. SNMP エージェントを起動するには、[適用]を選択します。

## SNMP の無効化

SNMP を無効にするには、以下の操作を行います。


1. [コントロールパネル]で[管理機能]>[SNMP]の順に選択します。

2. [SNMP Enable] (SNMP の有効化) を選択して、ThinPro で SNMP エージェントを無効にします。
3. SNMP エージェントを停止するには、[適用]を選択します。

## BIOS カプセルのアップデート

ThinPro は BIOS カプセルのアップデートをサポートしています。BIOS パッケージをカプセル形式 (通常は.cap で終わる) で取得してから、以下の操作を行う必要があります。

1. BIOS パッケージを ThinClient に転送します。
2. 管理者モードに切り替えて、xterm を起動します。
3. 以下を実行します。
  - a. `/usr/sbin/hptc-bios-capsule-update <bios file name>`
  - b. `reboot -f`
4. 再起動時に、システムによって BIOS が更新されます。
4. `sysinfo` または `dmidecode` コマンドで BIOS のバージョンを確認し、結果を確認します。

 **注記:** すべての ThinClient モデルと BIOS で、カプセルのアップデートがサポートされているわけではありません。BIOS カプセルのアップデートに失敗した場合は、標準的な BIOS のアップデート方法に切り替えます。

## 入力デバイス

ここでは、入力デバイスについて説明します。

表 9-13

メニュー オプション	説明
キーボード	キーボードレイアウトを、プライマリ キーボードおよびセカンダリ キーボードによって使用されている言語に合うように変更します。
キーボードショートカット	キーボードショートカットを作成、変更、および削除します。
マウス	マウスの速度、およびマウスを右きき用と左きき用のどちらにするかを設定します。  タッチパッドが搭載された Thin Client では、このメニュー オプションを使用してタッチパッドの有効/無効の設定も行います。
タッチスクリーン	タッチスクリーンのオプションを設定します。
iBus	多言語入力用の iBus (Intelligent Input Bus) を構成します。  iBus は、初期設定で無効になっています。iBus を有効にするには、以下の操作を行います。  [コントロールパネル]→[入力デバイス]→[[ibus Input Method] (iBus 入力方式) →[起動時に iBus を開始]の順に選択します。  初期設定の iBus 構成ファイルは、[コントロールパネル]から工場出荷時の設定に変更または復元することもできます。



表 9-13 (続き)

メニューオプション	説明
	再起動後に、iBus トレイ アイコンが表示されます。アイコンを選択すると、言語を選択できます。アイコンを右クリックすると、詳細な構成オプションが表示されます。
	<p><b>注記</b> : HP ThinPro の iBus には、中国語、日本語、および韓国語がプリロードされています。他の言語を追加するには、以下の操作を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. iBus システム トレイ アイコンを右クリックします。</li> <li>2. <b>[Input Method]</b> (入力方式) タブを選択します。</li> <li>3. <b>[Add]</b> (追加) を選択します。</li> </ol>

## ハードウェア

ここでは、ハードウェアの構成について説明します。

表 9-14

メニューオプション	説明
ディスプレイの各部	<p>ディスプレイのオプションを設定してテストします。</p> <p>詳しくは、<a href="#">78 ページの「ディスプレイの管理」</a>を参照してください。</p>
サウンド	再生、入力デバイス、および入力音量レベルを調整します。
USB マネージャー	<p>USB デバイスのリダイレクトオプションを設定します。</p> <p>詳しくは、<a href="#">79 ページの「USB デバイスのリダイレクト」</a>を参照してください。</p>
シリアル マネージャー	シリアル デバイスを設定します。
プリンター	<p>ローカル プリンターおよびネットワーク プリンターを設定します。ローカル プリンターは、ネットワークを介して共有できます。</p> <p>詳しくは、<a href="#">79 ページの「プリンターの設定」</a>を参照してください。</p>
Bluetooth	<p>Bluetooth サービスを設定し、デバイスを接続します。</p> <p>詳しくは、<a href="#">80 ページの「Bluetooth」</a>を参照してください。</p>

## ディスプレイの管理

ディスプレイの管理では、画面の設定を行ったり、それらの変更をセッションに適用したりできます。ディスプレイの管理を開くには、以下の操作を行います。

[コントロールパネル]→[ハードウェア]→[Display Management] (ディスプレイの管理) の順に選択します。

## USB デバイスのリダイレクト

USB デバイスをリダイレクトするには、以下の操作を行います。


1. [コントロールパネル]で[ハードウェア]→[USB マネージャー]の順に選択します。
2. [プロトコル]ページで、リモートプロトコルを選択します。  
設定が[ローカル]の場合は、[デバイスのマウントを許可する]オプションおよび[デバイスを読み取り専用でマウントする]オプションも指定できます。
3. [デバイス]ページで、必要に応じて個々のデバイスのリダイレクトを有効または無効にできます。
4. [クラス]ページで、リモートセッションにリダイレクトされる特定のデバイスクラスを選択できます。
5. 設定が完了したら、[適用]を選択します。

## プリンターの設定

プリンターを設定するには、以下の操作を行います。

1. [コントロールパネル]で[ハードウェア]→[プリンター]の順に選択します。
2. [印刷]ダイアログで、[追加]を選択します。
3. [New Printer] (新しいプリンター) ダイアログで、設定するプリンターを選択して、[進む]を選択します。


---

 **注記:** シリアルプリンターを選択した場合は、必ずダイアログの右側に正しい設定を入力してください。そうしないと、プリンターが正常に機能しない可能性があります。

---

4. プリンターの製造元を選択します。製造元が不明の場合は、[Generic (recommended)] (汎用 (推奨)) オプションを選択して、[進む]を選択します。
5. プリンターのモデルおよびドライバーを選択して、[進む]を選択します。

---

 **注記:** プリンターのモデルや使用するドライバーが不明の場合、または使用しているプリンターのモデルがリストに表示されない場合は、[戻る]を選択し、プリンターの製造元として[汎用 (推奨)]オプションを使用してみてください。


---

[汎用 (推奨)]の製造元を使用する場合は、必ずモデルとして[**text-only (recommended)**] (テキスト専用 (推奨)) を選択し、ドライバーとして[**Generic text-only printer [en] (recommended)**] (汎用のテキスト専用プリンター (推奨)) を選択してください。

---

6. プリンターに関するオプションの情報 (その名称や場所など) を記入します。


---

 **注記:** 正しいドライバー名を[Windows ドライバー名]ボックスに入力することをおすすめします。プリンターを正しく機能させるためには、そのドライバーを Windows サーバーにインストールしておく必要もあります。ドライバーを指定しない場合は汎用の PostScript ドライバーが使用されます。特定の Windows ドライバーを使用すると、プリンターの追加機能を使用できる場合があります。

---

7. [適用]を選択した後、必要に応じてテスト ページを印刷します。

必要に応じて、追加のプリンターを設定するには、このプロセスを繰り返します。

 **ヒント:** 最も一般的な問題は、間違ったドライバーがプリンターに使用されていることです。ドライバーを変更するには、プリンターを右クリックし、**[プロパティ]**を選択して、製造元およびモデルを変更します。

## Bluetooth

Bluetooth サービスは初期設定で無効になっています。Bluetooth を有効にすると、起動時に systemd サービス (Bluez) を開始できます。/etc/systemd/bluetooth.service.d/10-bluetooth-enabled.conf を参照してください。

サービスを有効にすると、タスクバーのシステムトレイに表示されるアイコンから Bluetooth にアクセスできます。

ユーザーが以下を実行できるかどうかを決定します。

- システムトレイに Bluetooth アイコンを表示する。
- Bluetooth インターフェイスのオン/オフを切り替える。
- 接続されているデバイスのリストを参照する。
- デバイス スキャナーにアクセスする。スキャナーを使用して、デバイスを追加または削除できます。ユーザーはスキャナーを使用してデバイスを削除することもできます。

タイムアウトをゼロに設定して、システムトレイ アイコンから通知メッセージを無効にできます。

ThinPro は、ほとんどのオーディオヘッドセット、マウス、およびキーボードで正しく動作します。キーボードとペアリングするには、PIN が必要です。他のデバイスとペアリングするには、HP のサポートへの問い合わせが必要になる場合があります。

 **注記:** デバイス スキャナーによって返されたデバイスは、レジストリ設定の root/Bluetooth/SystrayApp/DeviceFilter/majorClass および root/Bluetooth/SystrayApp/DeviceFilter/services に従ってフィルター処理されます。

## 外観

ここでは、外観の構成について説明します。

表 9-15

メニュー オプション	説明
デスクトップの背景	背景のテーマを設定し、システム情報 (Thin Client のホスト名、IP アドレス、ハードウェア モデル、MAC アドレスなど) を背景に動的に表示します。  詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『 <i>Login Screen Customization</i> 』(ログイン画面のカスタマイズ) (英語版) を参照してください。
ThinPro の構成 (カスタマイズセンター)	以下の操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"><li>● HP ThinPro と HP Smart Zero の構成を切り替えます</li><li>● デスクトップおよびタスクバーのオプションを設定します</li></ul>

表 9-15 (続き)


メニュー オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンドユーザーがアクセスできる接続インターフェイスおよび[コントロールパネル]項目を選択します</li> </ul> <p>詳しくは、<a href="#">81 ページの「ThinPro の構成 (カスタマイズセンター)」</a>を参照してください。</p>
言語	HP ThinPro インターフェイスを異なる言語で表示します。

## ThinPro の構成 (カスタマイズセンター)

ThinPro の構成 (カスタマイズセンター) を開くには、以下の操作を行います。

▲ [コントロールパネル]で[外観]→[ThinPro の構成]の順に選択します。

[デスクトップ]ページの一番上にあるボタンを使用すると、HP ThinPro と HP Smart Zero の構成を切り替えることができます。2つの構成の違いについて詳しくは、[1 ページの「OS 構成の選択」](#)を参照してください。

 **注記** : HP ThinPro から HP Smart Zero に切り替えるときに、単一の接続を構成している場合は、その接続が HP Smart Zero の接続として自動的に使用されます。複数の接続を構成している場合は、使用する接続を選択するよう求めるメッセージが表示されます。

HP Smart Zero モードに切り替える前に、Thin Client のドメイン認証機能を無効にしてください。ドメイン認証と HP Smart Zero モードは同時に使用できません。

以下の表では、[デスクトップ]ページで使用できる残りのオプションについて説明します。

表 9-16 カスタマイズオプション

オプション	説明
起動時に接続マネージャーを起動する	有効にすると、システム起動時に接続マネージャーが自動的に起動します。
右クリック メニューを有効にする	このオプションを無効にすると、デスクトップを右クリックしたときに表示されるコンテキストメニューが無効になります。
X host アクセス制御セキュリティを有効にする	有効にすると、[XHost アクセス制御リスト]領域に一覧表示されているシステムのみが Thin Client をリモートで制御できます。
USB のアップデートを有効にする	USB フラッシュドライブから更新をインストールできるようにします。詳しくは、 <a href="#">99 ページの「USB のアップデート」</a> を参照してください。
USB のアップデートを認証する	このオプションを無効にすると、エンドユーザーが USB 経由で更新をインストールできます。
ユーザーによる管理者モードへの切り替えを許可する	このオプションを無効にすると、ユーザーモードで[コントロールパネル]から[管理者/ユーザーモード切り替え]オプションを削除できます。
管理者モードをキャンセルするまでの時間	管理者モードが終了するまでのアイドルタイムアウト (分) を指定します。0 またはマイナスに設定すると、管理者モードは自動的に終了しません。

[接続]および[アプリケーション]ページを使用すると、ユーザーモードで使用可能な接続インターフェイスおよび[コントロールパネル]アプリケーションを選択できます。

[タスクバー]ページを使用すると、タスクバーを設定できます。


# 10 システム情報

システム、ネットワーク、およびソフトウェア情報を表示するには、[スタート]メニューの[システム情報]を選択します。以下の表では、各パネルに表示される情報について説明します。

表 10-1 システム情報

パネル	説明
全般	BIOS、オペレーティングシステム、CPU、およびメモリに関する情報を表示します。
ネットワーク	ネットワーク インターフェイス、ゲートウェイ、および DNS 設定に関する情報を表示します。
ネットツール	監視およびトラブルシューティングのために、以下のツールを提供します。 <ul style="list-style-type: none"><li>● <b>[Ping]</b>: ネットワーク上の別のデバイスの IP アドレスを指定して、接続の確立を試みます。</li><li>● <b>[DNS ルックアップ]</b>: このツールを使用すると、ドメイン名を IP アドレスに解決できます。</li><li>● <b>[トレースルート]</b>: このツールを使用すると、ネットワーク パケットがあるデバイスから別のデバイスへと転送されるときに通過するパスを追跡できます。</li></ul>
ソフトウェア情報	インストールされているアドオンの一覧を[サービスパック]タブに、ソフトウェアのバージョン情報を[インストール済みソフトウェア]タブにソフトウェアバージョン情報を表示します。  <b>ヒント:</b> この画面から管理者ガイド (このガイド) にアクセスすることもできます。
ソフトウェアライセンス	HP ThinPro オペレーティング システムの使用許諾契約 (EULA) を表示します。自動ライセンスされていない場合は、システム上の HP ThinPro ライセンスに関する情報も表示します。
システム ログ	以下のログを表示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>● 認証およびセキュリティ</li><li>● 接続マネージャー</li><li>● DHCP リース</li><li>● 一般的なシステム ログ</li><li>● カーネル</li><li>● ネットワーク マネージャー</li><li>● HP Smart Client Services</li><li>● X Server</li><li>● OneSign</li></ul> <p>管理者モードでは、デバッグレベルを変更すると、トラブルシューティングのために HP サポートから要求される可能性がある追加情報を表示できます。</p> <p>診断ファイルを保存するには、<b>[診断]</b>を選択します。詳しくは、<a href="#">97 ページの「トラブルシューティングのためのシステム診断の使用」</a>を参照してください。</p>

---

 **注記**：システム情報画面を非表示にするために使用できるレジストリキーについては、[193 ページの「SystemInfo」](#)を参照してください。

---

# 11 HP Smart Client Services

HP Smart Client Services とは、多数の Thin Client に配布できるクライアントプロファイルを設定できるようにする、サーバーサイドのツールセットです。この機能は Automatic Update（自動更新）と呼ばれます。

HP ThinPro は起動時に Automatic Update サーバーを検出し、それに従って設定を行います。このため、デバイスのインストールおよびメンテナンス作業が簡略化されています。


HP Smart Client Services を入手するには、次の場所にアクセスします：

<ftp://ftp.hp.com/pub/tcdebian/SmartClientServices/>

## サポートされるオペレーティングシステム

HP Smart Client Services は、以下のオペレーティングシステムをサポートしています。

- Windows Server® 2019
- Windows Server 2016
- Windows 10
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012

 **注記：** インストーラー自体は 32 ビットのみですが、Smart Zero Client Services は 32 ビット版および 64 ビット版の Windows オペレーティングシステムでサポートされています。

## HP Smart Client Services の前提条件

HP Smart Client Services をインストールする前に、以下のコンポーネントの設定およびインストール状況を確認します。

- IIS (Internet Information Services)
- .NET Framework 3.5

サーバーとして使用するオペレーティングシステムでこれらのコンポーネントをインストールまたは有効にする方法については、<http://www.microsoft.com> を参照してください。

## [自動更新]の Web サイトの表示


[自動更新]の Web サイトを表示する手順です。

1. サーバーのデスクトップで、[スタート]→[コントロールパネル]→[管理ツール]の順に選択します。
2. [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー]をダブルクリックします。



3. IIS マネージャーの左側のパネルで、以下のように項目を展開します。

「サーバー名」→[サイト]→[HP Automatic Update]→[auto-update]

 **注記**：[自動更新]のファイルが保存されている物理的な位置は以下のとおりです。

C:\Program Files (x86)\HP\HP Smart Client Service\auto-update

## [自動更新]のプロファイルの作成

Automatic Update（自動更新）では、プロファイルを使用して構成を Thin Client に展開します。

初期設定では、[Profile Editor]を使用してプロファイルを作成すると、そのプロファイルを以下のフォルダーに保存できます。

C:\Program Files (x86)\HP\HP Smart Client Service\auto-update\PersistentProfile\

また、HP ThinState を使用して Thin Client から既存のプロファイルをエクスポートし、この場所にコピーすることもできます。

HP ThinPro は、更新を検索するときにこのフォルダーをチェックし、このフォルダーに保存されているプロファイルを適用します。これにより、すべての Thin Client が同じ構成を使用するようになります。

[Profile Editor]の使用について詳しくは、[90 ページの「Profile Editor」](#)を参照してください。

## 特定の MAC アドレス用のプロファイル

特定の MAC アドレス用に[自動更新]のプロファイルを作成できます。これは、複数の Thin Client をそれぞれ異なる構成にする必要がある場合に役立ちます。

特定の MAC アドレス用のプロファイルは、Automatic Update（自動更新）サーバーの以下のフォルダーに保存する必要があります。

C:\Program Files (x86)\HP\HP Smart Client Service\auto-update\PersistentProfile\MAC\

HP ThinPro は、更新を検索するときに、汎用のプロファイルをチェックしてから、MAC アドレスベースのプロファイルをチェックします。これらのプロファイルが Thin Client 上で統合され、いっしょにインストールされます。このとき、MAC アドレスベースのプロファイルが優先されます。つまり、同じレジストリキーの値が両方のファイルで異なっている場合は、MAC アドレスベースのプロファイルの値が使用されます。

これにより、共有の構成をすべての Thin Client に展開しながら、必要に応じて、特定のカスタマイズを加えることができます。

ここでは、特定の MAC アドレス用の[自動更新]プロファイルを作成する方法について説明します。

1. システム情報を使用して、Thin Client の MAC アドレスを取得します。たとえば、以下の手順で使用する MAC アドレスは 00fcab8522ac です。
2. [Profile Editor]を使用して、クライアント プロファイルを保存する準備ができるまで、クライアント プロファイルを作成または変更します（[90 ページの「Profile Editor」](#)を参照してください）。
3. [Profile Editor]で、左側のパネルの[Finish]（完了）リンクを選択して、[Current Profile]（現在のプロファイル）パネルにアクセスします。

4. **[Save profile as]** (名前をつけてプロファイルを保存) を選択して、以下のようにクライアントプロファイルを保存します。


```
C:\Program Files (x86)\HP\HP Smart Client Service\auto-update\PersistentProfile\MAC\00fcab8522ac.xml
```


5. **[Current Profile]** (現在のプロファイル) パネルの**[Finish]** (完了) ボタンを選択して、**[Profile Editor]** を終了します。
6. 指定した MAC アドレスを使用する Thin Client を再起動すると、**[自動更新]** プロセスが開始されます。

## Thin Client の更新

### ブロードキャスト更新方式の使用

ブロードキャスト更新を実行するには、Thin Client を更新サーバーと同じネットワークに接続します。ブロードキャスト更新は、HP Smart Client Services に依存した機能で、IIS と連動して自動的に更新を Thin Client に配信します。

 **注記:** ブロードキャスト更新は、Thin Client がサーバーと同じサブネット上にある場合にのみ動作します。


 **ヒント:** ブロードキャスト更新が動作していることを確認するには、**[Profile Editor]** を実行して変更を加えます。Thin Client を接続し、新しいプロファイルがダウンロードされていることを確認します。ダウンロードされていない場合は、[96 ページの「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

### DHCP タグ更新方式の使用

Windows Server システムでは、DHCP タグ設定を使用して Thin Client を更新できます。この方式を使用すると特定の Thin Client を更新できますが、更新するクライアントが 1 台または 2 台しかない場合は、手動更新の使用を検討してください。それ以外の場合は、ブロードキャスト更新方式をおすすめします。

### DHCP タグ設定の実行例

この例では、Windows 2008 R2 サーバーで DHCP タグ設定を実行する方法を示します。

 **注記:** DHCP タグ設定を使用するには、お使いの DHCP サーバーの説明書を参照してください。

1. サーバーのデスクトップで、**[スタート]**→**[管理ツール]**→**[DHCP]**の順に選択します。
2. **[DHCP]**画面の左側のパネルで、Thin Client が接続されているドメインを選択します。
3. **[DHCP]**画面の右側のパネルで、**[IPv4]**を展開してから右クリックして、**[既定のオプションの設定]**を選択します。
4. **[既定のオプションと値]**ダイアログで、**[追加]**を選択します。

5. **[オプションの種類]**ボックスで、以下の表で説明されているようにオプションを設定します。

表 11-1

フィールド	エントリ
名前	「auto-update」と入力します。
データの種類	<b>[文字列]</b> を選択します。
コード	「137」と入力します。
説明	「HP Automatic Update」と入力します。

6. **[OK]**を選択します。
7. **[既定のオプションと値]**ダイアログで、**[値]**セクションの**[文字列]**を選択し、更新サーバーのアドレスを以下の例のようなフォーマットで入力します。
- `http://auto-update.dominio.com:18287/auto-update`
8. 設定を完了するには、**[OK]**を選択します。これで DHCP タグ設定が完了し、特定の Thin Client を更新できるようになりました。

## DNS エイリアス更新方式の使用


システムの起動中、**[自動更新]**によって DNS エイリアス「auto-update」の解決が試みられます。このホスト名が解決できた場合、URL「`http://auto-update:18287`」で更新の確認が試みられます。この更新方法を使用すると、Thin Client はドメイン全体にわたって単一の更新サーバーにアクセスできるため、多数のサブネットおよび DHCP サーバーを使用する展開の管理を簡素化できます。


DNS エイリアス更新方式を設定するには、以下の操作を行います。

- ▲ HP Smart Client Services を提供するサーバーのホスト名を「auto-update」に変更するか、またはそのサーバーを指定する「auto-update」という DNS エイリアスを作成します。

## 手動更新方式の使用

1 台の Thin Client を特定の更新用サーバーに接続するには、手動更新方式を使用します。また、多数の Thin Client に更新を配信する前に 1 台の Thin Client でその更新をテストする場合や、1 台または 2 台の Thin Client にのみ特定の更新をインストールする場合にこの方式を使用します。

 **注記：**必ず、更新するプロファイルで手動サーバーのホスト名を指定してください。指定しないと、プロファイルのダウンロード時に設定が自動更新にリセットされます。**[Profile Editor]**を使用し、`root/auto-update` でこれらの設定を変更します。

 **注記：**複数の Thin Client で特定の更新が必要な場合は、DHCP タグ設定方式を使用してください。

更新の区別が必要ない場合は、ブロードキャスト更新方式を使用してください。

## 手動更新の実行


手動更新を実行するには、以下の操作を行います。

1. **[コントロールパネル]**で**[管理]**→**[自動更新]**の順に選択します。

2. **[手動設定を有効にする]**を選択します。
3. **[プロトコル]**を[http]に設定します。
4. **[サーバー]**フィールドに更新サーバーのホスト名およびポートを次の形式で入力します。  
〈ホスト名〉:18287
5. **[パス]**フィールドに次のように入力します。  
  
auto-update
6. 以前のすべての構成設定を保持する場合は、**[Thin Client 構成の保存]**を選択します。
7. **[OK]**を選択します。その後、Thin Client は更新を取得できます。

## 12 Profile Editor

HP Smart Client Services に含まれている[Profile Editor]を使用すると、管理者はクライアントのプロファイルを作成して Automatic Update（自動更新）サーバーにアップロードできます。

 **ヒント**：新しいクライアントプロファイルを作成するだけでなく、HP ThinState を使用してエクスポートした既存のプロファイルを編集できます。

クライアントプロファイルには、接続マネージャーおよび[コントロールパネル]のさまざまな項目を使って設定された接続、各種設定、およびカスタマイズ設定が含まれています。クライアントプロファイルは、それが作成された HP ThinPro のバージョンに固有の構成ファイルに保存されます。

### [Profile Editor]の起動

[Profile Editor]を起動するには、以下の操作を行います。

- ▲ スタート→[すべてのプログラム]→[HP]→[HP Automatic Update Server]→[Profile Editor]の順に選択します。

### クライアントプロファイルの読み込み

現在読み込まれているクライアントプロファイルの名前は、[Profile Editor]の最初の画面に表示されています。

異なるクライアントプロファイルを読み込むには、以下の操作を行います。


1. [Profile Editor]の最初の画面で、現在読み込まれているクライアントプロファイルの名前を表示しているリンクを選択します。
2. クライアントプロファイルに移動して、[Open]（開く）を選択します。

### クライアントプロファイルのカスタマイズ

#### クライアントプロファイルのプラットフォームの選択

[Profile Editor]の[Platform]（プラットフォーム）画面を使用して、以下の操作を行います。


- お使いのハードウェアに対応した目的の HP ThinPro イメージバージョンを選択します
- HP ThinPro または HP Smart Zero を選択します
- 追加のレジストリ設定を提供するインストール済みのクライアントキットを表示します


 **注記**：クライアントキットは以下のディレクトリにあります。

C:\Program Files (x86)\HP\HP Smart Client Service\auto-update\Packages


クライアントプロファイルのプラットフォームを設定するには、以下の操作を行います。

1. [Profile Editor]の[Platform] (プラットフォーム) 画面で、目的のイメージバージョンに対応する [OS Build ID] (OS のビルド ID) を選択します。

 **重要** : ハードウェアの種類ごとに異なるクライアントプロファイルを作成してください。

 **注記** : クライアントキットがインストールされている場合、そのクライアントキットは[Client Kits] (クライアントキット) ボックスに自動的に表示され、追加のレジストリ設定を[Registry] (レジストリ) 画面で使用できるようになります。


2. その構成を[standard] (HP ThinPro) または[zero] (HP Smart Zero) のどちらかに設定します。

 **注記** : イメージバージョンが古い場合、この設定はグレー表示になり、自動的に[zero]に設定されます。

## クライアントプロファイルの初期設定の接続の設定

クライアントプロファイルの初期設定の接続を設定するには、以下の操作を行います。

1. [Profile Editor]の[Connection] (接続) 画面で[Type] (種類) ドロップダウンリストから目的の接続インターフェイスを選択します。


 **注記** : 使用可能な接続インターフェイスは、[Platform] (プラットフォーム) 画面で HP ThinPro と HP Smart Zero のどちらを選択したかによって異なります。

2. [Server] (サーバー) フィールドにサーバーの名前または IP アドレスを入力します。

## クライアントプロファイルのレジストリ設定の変更

クライアントプロファイルの初期レジストリ設定を変更するには、以下の操作を行います。

1. [Profile Editor]の[Registry] (レジストリ) 画面で、[Registry settings] (レジストリ設定) ツリーのフォルダーを展開して、変更するレジストリ設定を探します。
2. レジストリ キーを選択し、[Value] (値) フィールドに目的の値を入力します。

 **注記** : レジストリ キーの完全な一覧および説明については、[105 ページの「レジストリ キー」](#)を参照してください。

## クライアントプロファイルへのファイルの追加

[Profile Editor]の[Files] (ファイル) 画面を使用して構成ファイルを追加すると、Thin Client にクライアントプロファイルがインストールされるときに、そのファイルが自動インストールされます。通常、この機能は以下の目的で使用します。

- 証明書を追加する
- 変更するレジストリ設定が利用できないときにデバイス設定を変更する
- カスタム スクリプトの挿入または既存のスクリプトの変更によってシステムの動作を変更する

また、すでに Thin Client にインストールされているファイルを指すシンボリックリンクを指定できます。この機能は、複数のディレクトリからファイルにアクセスする必要がある場合に使用します。


## クライアントプロファイルへの構成ファイルおよび証明書の追加

クライアントプロファイルに構成ファイルおよび証明書を追加する手順です。


## クライアント プロファイルへの構成ファイルの追加

構成ファイルをクライアント プロファイルに追加して、ファイルをインストールするフォルダーパスを指定できます。


1. [Profile Editor]の[Files] (ファイル) 画面で[Add a file] (ファイルの追加) を選択します。
2. [Import File] (ファイルのインポート) を選択し、インポートするファイルを探して[Open] (開く) を選択します。

 **注記** : ファイルに関する詳細情報が必要な場合は、[Export File] (ファイルのエクスポート) ボタンを使用してファイルをエクスポートすることもできます。

3. [Path] (パス) フィールドに、ファイルを Thin Client にインストールするパスを入力します。
4. [File details] (ファイルの詳細) セクションで、[Owner] (所有者)、[Group] (グループ)、および [Permissions] (アクセス権) フィールドを適切な値に設定します。

 **注記** : 通常は、所有者およびグループを root に、アクセス権を 644 に設定すれば問題ありません。特別な所有者、グループ、またはアクセス権が必要な場合は、標準的な UNIX® ファイルのアクセス権に関するガイドラインで、ファイルの詳細を変更する方法を確認してください。

5. [Save] (保存) を選択して、クライアント プロファイルへの構成ファイルの追加を完了します。

 **注記** : プロファイルの一部としてインストールされたファイルは、追加先のパスでファイルシステム上の既存のファイルを自動的に上書きします。また、ファイルが添付されていない 2 番目のプロファイルが、その前のプロファイルによって変更されたファイルを復元させることはありません。プロファイルへの添付によってインストールされたファイルは永続的に保存されるため、手動で復元するか、出荷時設定にリセットして復元する必要があります。

## クライアント プロファイルへの証明書の追加


クライアント プロファイルには、標準的なクライアント証明書ストアにインポートされた証明書が自動的に含まれています。

以下のアプリケーションがサポートされています。

- VMware Horizon View、Citrix、RDP
- Automatic Update (自動更新)
- HP Smart Client Services
- Web ブラウザーのストア

その他の証明書をクライアント プロファイルにインポートするには、以下の操作を行います。

1. [Profile Editor]の[Files] (ファイル) 画面で[Add a file] (ファイルの追加) を選択します。
2. [Import File] (ファイルのインポート) を選択し、証明書を探して[Open] (開く) を選択します。

 **注記** : 証明書は、.pem または .crt ファイル形式でフォーマットされている必要があります。

3. [Path] (パス) フィールドで、以下へのパスを設定します。

```
/usr/local/share/ca-certificates
```

4. [Save] (保存) を選択して、クライアント プロファイルへの証明書の追加を完了します。

5. クライアント プロファイルがインストールされたら、**証明書マネージャー**を使用して証明書が正しくインポートされたかどうかを確認します。

## クライアント プロファイルへのシンボリック リンクの追加

クライアント プロファイルへのシンボリック リンクの追加する手順です。


1. [Profile Editor]の[Files] (ファイル) 画面で[Add a file] (ファイルの追加) を選択します。
2. [Type] (種類) ドロップダウンリストで、[Link] (リンク) を選択します。
3. [Symbolic link details] (シンボリック リンクの詳細) セクションで、すでに Thin Client にインストールされている目的のファイルのパスを[Link] (リンク) フィールドに設定します。
4. [Save] (保存) を選択して、シンボリック リンクの追加を完了します。

## クライアント プロファイルの保存

クライアント プロファイルを保存する手順です。

1. [Profile Editor]で、左側のパネルの[Finish] (完了) を選択して、[Current Profile] (現在のプロファイル) 画面にアクセスします。
2. [Save Profile] (プロファイルの保存) を選択して現在のクライアント プロファイルに保存するか、[Save Profile As] (名前をつけてプロファイルを保存) を選択して新しいクライアント プロファイルとして保存します。

---

 **注記** : [Save Profile]が無効になっている場合、クライアント プロファイルは、最後に保存されてから変更されていません。

---

3. [Current Profile]画面の[Finish]ボタンを選択して、[Profile Editor]を終了します。

## シリアル プリンターまたはパラレル プリンターの設定


[Profile Editor]を使用して、シリアルまたはパラレル プリンターのポートを設定できます。USB プリンターは、接続すると自動的にマッピングされます。

## プリンターの設定の取得

プリンター ポートを設定する前に、プリンターの設定を取得します。プリンターの説明書がある場合は、続行する前に詳細を確認してください。ない場合は、以下の操作を行います。

1. ほとんどのプリンターでは、**[紙送り]**ボタンを押したままにしながら、プリンターの電源を入れます。
2. 数秒後に、**[紙送り]**ボタンを離します。これにより、プリンターがテストモードになり、必要な情報が出力されます。

---

 **ヒント** : テストモードを終了するには、プリンターの電源を切る必要が生じる場合があります。また、診断ページを印刷するには、**[紙送り]**ボタンをもう一度押す必要が生じる場合があります。

---

## プリンター ポートの設定

プリンター ポートのセットアップ手順です。




1. [Profile Editor]で、[Registry] (レジストリ) を選択してから、[Show All Settings] (すべての設定を表示) チェックボックスにチェックを入れます。
2. 接続の種類のプリンター ポート マッピングを有効にします。
  - Citrix : 操作は必要ありません。
  - RDP : root > ConnectionType > freerdp に移動します。[connections] (接続) フォルダーを右クリックし、[New connection] (新規接続) →[OK]の順に選択します。portMapping レジストリ キーの値を 1 に設定し、プリンター ポート マッピングを有効にします。
  - VMware Horizon View : root > ConnectionType > view に移動します。[connections] (接続) フォルダーを右クリックし、[New connection] (新規接続) →[OK]の順に選択します。  
[xfreerdpOptions]フォルダーで、portMapping レジストリ キーの値を 1 に設定して、プリンター ポート マッピングを有効にします。
3. root > Serial に移動します。[Serial] (シリアル) フォルダーを右クリックし、[New UUID] (新しい UUID) →[OK]の順に選択します。
4. 新しいディレクトリの下で、[baud] (ボー)、[dataBits] (データ ビット)、[flow] (フロー)、および[parity] (パリティ) 値を、[93 ページの「プリンターの設定の取得」](#)で取得されたものに設定します。  
  
[device] (デバイス) 値を接続されるポートに設定します。たとえば、1 つ目のシリアルポートは/dev/ttyS0、2 つ目のシリアルポートは/dev/ttyS1 となり、以下同様になります。USB シリアルプリンターでは、/dev/ttyUSB#という形式 (#は 0 から始まるポート番号) を使用します。

## サーバーへのプリンターのインストール

サーバーにプリンターをインストールする手順です。


1. Windows デスクトップで、[スタート]→[プリンターと FAX]の順に選択します。
2. [プリンターの追加]→[次へ]の順に選択します。
3. [このコンピュータに接続されているローカル プリント]を選択し、必要に応じて、[プラグアンドプレイ対応プリンタを自動的に検出してインストールする]のチェックを外します。
4. 完了したら、[次へ]を選択します。
5. メニューで、ポートを選択します。


---

 **注記:** 必要なポートは、「TS###」と書かれたポートのセクションにあります。ここで、###は 000 ~ 009、033 ~ 044 の数字です。適切なポートは、ホスト名およびインストールするプリンターによって決まります。たとえば、hptc001 というホスト名およびシリアルプリンターを使用する場合は、「(hptc001:COM1)」と書かれたポートを選択します。パラレルプリンターの場合は、(hptc001:LPT1)を選択します。TS###部分はサーバーによって割り当てられるため、毎回同じになることはありません。

---

6. プリンターの製造元およびドライバーを選択します。


 **ヒント:** 必要に応じて、[Windows Update]ドライバー ディスクを使用してドライバーをインストールします。

 **注記:** 基本的な印刷やテスト印刷では、通常は[汎用メーカー]または[汎用/テキストのみ]のプリンターが動作します。

---

7. 動作することがわかっている既存のドライバーをそのまま使用するよう求められた場合は、ドライバーを変更しないで[次へ]を選択します。
8. プリンターに名前を割り当てます。このプリンターを初期設定のプリンターとして使用するには、[はい]→[次へ]の順に選択します。
9. プリンターを共有するには、[共有名]を選択して、プリンターに共有名を割り当てます。共有しない場合は、[次へ]を選択します。
10. 次のページで、テスト印刷の実行を求められる場合があります。このテストによってプリンターの設定が正しいかどうかを確認できるため、このテストを実行することをおすすめします。プリンターが正しく設定されていない場合は、設定を確認して、もう一度試してください。

---

 **注記：** Thin Client がサーバーから切断されている場合は、次に Thin Client を接続したときにプリンターをもう一度設定する必要があります。

---

# 13 トラブルシューティング

## ネットワーク接続のトラブルシューティング

ネットワーク接続をトラブルシューティングする手順です。

1. 以下の操作を行って、サーバーに ping を送信します。
  - a. タスクバーの[システム情報]ボタンを選択して、[ネット ツール]タブを選択します。
  - b. [ツールの選択]で、[Ping]を選択します。
  - c. [ターゲット ホスト]ボックスにサーバーのアドレスを入力してから、[プロセスの開始]を選択します。

ping に成功すると、システムに以下のような出力が表示されます。

```
PING 10.30.8.52 (10.30.8.52) 56(84) bytes of data.
```

```
64 bytes from 10.30.8.52:icmp_seq=1 ttl=64 time=0.815 ms 64 bytes  
from 10.30.8.52:icmp_seq=2 ttl=64 time=0.735 ms
```

ping に失敗した場合は、Thin Client がネットワークから切断され、長い遅延が発生してシステム出力が表示されない可能性があります。


2. Thin Client が ping に応答しない場合は、以下の操作を行います。
  - a. [コントロールパネル]で、ネットワーク ケーブルおよびネットワーク設定を確認します。
  - b. 他のサーバーまたは Thin Client に対して ping を実行してみます。
  - c. 他の Thin Client に到達できた場合は、正しいサーバー アドレスを入力していることを確認します。
  - d. ドメイン名の代わりに IP アドレスを使用して ping を実行するか、または IP アドレスの代わりにドメイン名を使用して ping を実行します。
3. 以下の操作を行って、システム ログを確認します。
  - a. タスクバーの[システム情報]ボタンを選択して、[システム ログ]タブを選択します。
  - b. ログにエラーがないかどうかを確認します。
  - c. エラーがある場合は、[Server is not set up] (サーバーが設定されていません) という通知が表示されます。サーバーが正しく設定されており、HP Smart Client Services が実行されていることを確認します。

# Citrix のパスワードの有効期限の問題に関するトラブルシューティング

有効期限が切れた Citrix のパスワードの変更を求めるメッセージが表示されない場合は、XenApp Services サイト (PNAgent サイト) で、認証方法が[Prompt] (プロンプト) に設定されていて、有効期限が切れたパスワードをユーザーが変更できるようになっていることを確認します。ユーザーがドメインコントローラーに直接接続してパスワードを変更できるようになっている場合は、Thin Client とドメインコントローラーの同期時刻を確認します。さらに、Citrix のログイン資格情報を入力するとき、完全ドメイン名 (domain\_name.com など) を使用します。詳しくは、Citrix のドキュメントを参照してください。

## トラブルシューティングのためのシステム診断の使用

システム診断では、Thin Client のスナップショットを取得することで、Thin Client に直接アクセスしなくても問題を解決できるようにします。このスナップショットには、BIOS の情報からシステム診断の実行時に行われていたプロセスまでを記録したログファイルが含まれます。

 **ヒント:** [システム情報] ウィンドウの [システム ログ] タブで [デバッグレベル] 設定を変更して、診断レポートに含める情報の量を指定できます。この情報は、トラブルシューティングのために HP から要求されることがあります。システムは再起動時にログファイルをリセットするため、必ず再起動前にログを記録してください。

有用なログを生成するには、問題を再現させて診断レポートを作成する前に、高レベルの詳細をキャプチャするようにレベルを設定します。

## システム診断データの保存

システム診断データを保存する手順です。

1. USB フラッシュドライブを Thin Client に接続します。
2. タスクバーの [システム情報] ボタンを選択して、[システム ログ] タブを選択します。
3. [診断] を選択し、圧縮された診断ファイル **Diagnostic.tgz** を USB フラッシュドライブに保存します。

## システム診断ファイルの解凍

システム診断ファイル **Diagnostic.tgz** は圧縮されているため、診断ファイルを表示するには解凍する必要があります。

## Windows ベースのシステムでのシステム診断ファイルの解凍

簡単な説明

1. Windows 版の 7-Zip のコピーをダウンロードしてインストールします。

 **注記:** Windows 用の 7-Zip は <http://www.7-zip.org/download.html> から無料で取得できます。

2. システム診断ファイルを保存した USB フラッシュドライブを接続し、**Diagnostic.tgz** をデスクトップにコピーします。

3. **Diagnostic.tgz** を右クリックし、**[7-Zip]**→**[展開]**の順に選択します。
4. **[Diagnostic]**という名の新しく作成されたフォルダーを開き、**Diagnostic.tar** に対して手順 3 を繰り返します。

## Linux または UNIX ベースのシステムでのシステム診断ファイルの解凍

Linux または UNIX ベースのシステムでシステム診断ファイルを解凍する手順です。

1. システム診断ファイルを保存した USB フラッシュドライブを接続し、**Diagnostic.tgz** をホームディレクトリにコピーします。
2. ターミナルを開き、ホームディレクトリを参照します。
3. コマンドラインで、「`tar xvfz Diagnostic.tgz`」と入力します。

## システム診断ファイルの表示

システム診断ファイルは、**[Commands]**フォルダー、**[/var/log]**フォルダー、および**[/etc]**フォルダーに分割されます。

### [Commands]フォルダーのファイルの表示

以下の表に、**[Commands]**フォルダーで確認できるファイルを示します。

表 13-1 [Commands]フォルダーのファイル

ファイル	説明
demidecode.txt	このファイルには、システム BIOS およびグラフィックスに関する情報が記載されます。
dpkg_--list.txt	このファイルには、システム診断が実行されたときにインストールされたパッケージが一覧表示されます。
ps_-ef.txt	このファイルには、システム診断が実行されたときに行われていたプロセスが一覧表示されません。

### [/var/log]フォルダーのファイルの表示

**[/var/log]**フォルダーで役に立つファイルは、**[Xorg.0.log]**です。

### [/etc]フォルダーのファイルの表示

**[/etc]**フォルダーには、システム診断が実行されたときのファイル システムが記載されます。

# A USB のアップデート

USB のアップデートが有効になっていると、USB フラッシュドライブを使用して複数のアドオンおよび証明書を同時にインストールし、プロファイルを展開できます。


USB のアップデートを有効にする方法については、[81 ページの「ThinPro の構成 \(カスタマイズセンター\)」](#)を参照してください。

## USB のアップデート

USB のアップデートを有効にするには、以下の操作を行います。

USB のアップデートが有効になっていると (61 ページの ThinPro の構成 (カスタマイズセンター) を参照してください)、USB フラッシュドライブを使用して複数のアドオンおよび証明書を同時にインストールし、プロファイルを展開できます。

1. 目的のファイルを USB フラッシュドライブ上に置きます。

 **注記:** それらのファイルは、ルートディレクトリまたはサブフォルダーに配置できます。

2. USB フラッシュドライブを Thin Client に接続します。

アップデートが自動的に検出され、[USB のアップデート]ダイアログに表示されます。このダイアログで、検出されたアップデートの詳細を検索および表示できます。

3. インストール対象の更新プログラムの横にあるチェック ボックスにチェックを入れて、[インストール]を選択します。
4. インストール後、再起動を求めるメッセージが表示されたら、Thin Client を再起動します。

## HP ThinUpdate

HP ThinUpdate を使用すると、HP からイメージおよびアドオンをダウンロードしたり、イメージの展開のために起動可能な USB フラッシュドライブを作成したりできます。詳しくは、HP ThinUpdate の管理者ガイドを参照してください。

## B BIOS ツール（デスクトップ Thin Client のみ）

HP ThinPro 用の BIOS ツールは 2 種類あります。

- BIOS 設定ツール：BIOS 設定の取得または変更で使用されます。
- BIOS フラッシュ ツール：BIOS の更新に使用されます。

これらのツールは、X ターミナルから実行できます。

### BIOS 設定ツール

以下の表では、BIOS 設定ツールの構文について説明します。


 **注記：**行った変更は、次に再起動するまで反映されません。

表 B-1

構文	説明
<code>hptc-bios-cfg -G &lt;ファイル名&gt;</code>	現在の BIOS 設定を取得し、それらを表示または変更できるように指定のファイル（初期設定では CPQSETUP.TXT）に保存します。
<code>hptc-bios-cfg -S &lt;ファイル名&gt;</code>	BIOS 設定を指定のファイル（初期設定では CPQSETUP.TXT）から BIOS に書き込みます。
<code>hptc-bios-cfg -h</code>	オプションの一覧を表示します。

### BIOS フラッシュツール

以下の表では、BIOS フラッシュツールの構文について説明します。


 **注記：**行った変更は、次に再起動するまで反映されません。

表 B-2 BIOS フラッシュツールの構文

構文	説明
<code>hptc-bios-flash &lt;イメージ名&gt;</code>	次の再起動時に BIOS を更新するようにシステムを準備します。このコマンドによって、ファイルが自動的に正しい場所にコピーされた後、Thin Client を再起動するよう求められます。  <b>注記：</b> このコマンドを実行するには、BIOS 設定の[ <b>Tool-less update</b> ]（ツールを使用しない更新）オプションを[ <b>Auto</b> ]（自動）に設定しておく必要があります。


**表 B-2** BIOS フラッシュ ツールの構文 (続き)


構文	説明
<code>hptc-bios-flash -h</code>	オプションの一覧を表示します。



# C フラッシュ ドライブ パーティションのサイズ変更

フラッシュドライブの領域全体を使用するには、パーティションサイズを変更し、その追加領域を含めるようにファイルシステムを拡張します。このためには、Xターミナルから `resize-image` スクリプトを使用します。

 **重要：** HP ThinPro とともに出荷される HP Thin Client はフラッシュドライブ全体を使用しますが、イメージのキャプチャでは、必要最小限のイメージがキャプチャされます。そのため、イメージを展開できる領域があれば、元のフラッシュドライブよりも小さなフラッシュドライブに展開できます。フラッシュドライブパーティションのサイズ変更は、HP ThinPro とともに出荷される HP Thin Client では必要ありません。何らかの理由で、HP ThinPro の Thin Client がフラッシュドライブ全体を使用していない場合は、以下の情報を参照してください。

 **注記：** [HPDM]、HP ThinState、または Automatic Update（自動更新）を使用してイメージが展開されると、ファイルシステムはサイズが自動的に変更され、フラッシュドライブ上の使用可能な領域をすべて使用します。

以下の表では、`resize-image` スクリプトの構文について説明します。

表 C-1 `resize-image` スクリプトの構文

構文	説明
<code>resize-image</code>	パラメーターなしで呼び出されると、このスクリプトはパーティションの現在のサイズおよびフラッシュドライブで使用できる容量を表示します。このスクリプトから、ターゲットパーティションのサイズを入力して、変更内容を確認するよう求められます。変更内容は、次に Thin Client が再起動したときに有効になります。 <b>注記：</b> パーティションサイズを小さくすることはできません。入力する値は、現在のパーティションサイズよりも大きくする必要があります。
例： <code>resize-image --size 1024</code>	この構文を使用すると、ターゲットパーティションのサイズをパラメーターとしてメガバイト（MB）単位で指定してから、変更内容を確認できます。
<code>resize-image --no-prompt</code> または <code>resize-image --no-prompt --size &lt;サイズ&gt; (MB) &gt;</code>	この構文を使用すると、ユーザーの操作がなくてもスクリプトが自動的に実行されます。 特定のサイズがパラメーターとして同時に指定されていない場合、パーティションサイズは最大サイズまで増やされません。
例： <code>resize-image --no-prompt --size 1024</code>	<b>ヒント：</b> この非対話形式モードは、この操作をスクリプト化して、[HP Device Manager]のようなりモート管理ツールから実行する際に役立ちます。

## D mclient コマンド

manticore デーモンのコマンドクライアントは、構成レジストリを保持し、新しい設定を適用する mclient です。ほとんどの場合、mclient コマンドを使用するには、root である必要があります。引数なしで mclient を実行すると、mclient のヘルプを表示できます。

現在、ThinPro 7.2 は以下のコマンドをサポートしています。

```
# mclient
MANTICORE Registry command line frontend

mclient [--quiet] <command>

mclient commands :
  wait-daemon [timeout seconds]
  set <regkey> <regvalue> [regparam]
  get <regkey> [regparam] | [regparam lang]
  gettree <regkey> [regparam] | [regparam lang]
  contains <regkey>
  commit [regkey]
  [--sync] apply [regkey]
  rollback [regkey]
  watch <regkeylist> [timeout]
  changes
  create <regkey> [keytype]
  delete <regkey>
  import <file>
  export <rootDir> <file>

mclient args :
  regkey : string
  regkeylist : string space separated
  regvalue : string
  regparam : string (value|type|regexp|description)
  timeout : int
  keytype : string (string|rc4|uuid|char|ipv4|ipv6|ipaddr|number|float|
date|bool|crypt|encrypted)
```


また、ThinPro で以下のコマンドを実行すると、bash 自動補完機能を利用できます。

```
# . /etc/bash_completion.d/mclient
```

構成レジストリへの変更は、以下の3つの手順で実行されます。

1. 値を追加、変更、または削除します。
2. mclient commit コマンドを発行して変更をコミットし、変更内容をディスクに保存します。
3. 変更を適用するには、mclient apply コマンドを発行します。

---

 **注記**：新しい設定を実行するために、完全な再起動を実行することが推奨されます。

---


その他の役立つ mclient の使用方法には、以下のようなものがあります。

mclient export と mclient import を使用して、レジストリの分岐をエクスポートまたはインポートできます。これらのコマンドは、接続設定や Wi-Fi 設定をエクスポートする必要があるものの、設定全体をエクスポートする必要がない場合に役立ちます。

たとえば、ThinPro で Wi-Fi 接続を設定している場合、この設定が保存されているレジストリの分岐を確認できます。

```
# mclient -q get root/Network/Wireless/Profiles
root/Network/Wireless/Profiles/{de0ff9cb-7f9d-48ba-9ac3-89d28cfad469}#
mclient -q get root/Network/Wireless/Profiles/
{de0ff9cb-7f9d-48ba-9ac3-89d28cfad469}/SSID
NETGEAR89-5G
```

---

 **注記：** {de0ff9cb-7f9d-48ba-9ac3-89d28cfad469} は、テスト システム上で見つかったサンプル UUID です。接続設定に別の UUID が必要な場合があります。

---

次に、このコマンドを使用して設定をエクスポートできます。

```
# mclient export root/Network/Wireless/Profiles/
{de0ff9cb-7f9d-48ba-9ac3-89d28cfad469} wifi.xml
```

結果となる wifi.xml は、後で他のコンピューターにインポートできます。

ツール/usr/bin/crypt は、以下のような暗号化された種類のレジストリ キーの値を設定するのに便利です。


```
# mclient set root/Network/Wireless/
Profiles/{ de0ff9cb-7f9d-48ba-9ac3-89d28cfad469}/Security/PSK/
PreSharedKey "$ (echo -n 'my shared key' | mncrypt)"
# mclient commit root/Network
# mclient apply root/Network
```

# E レジストリ キー

HP ThinPro のレジストリ キーは複数のフォルダーにグループ化されており、以下のどれかの方法で変更できます。

- [HPDM]で[File and Registry]タスクを使用する。
- [Profile Editor]の[レジストリ エディター]を使用した後、新しいプロファイルを展開する。
- HP ThinPro ユーザー インターフェイスで[レジストリ エディター]を使用する。管理者モードの[ツール]メニューからアクセスできます。

この付録の各セクション名は、最上位のレジストリ フォルダーのどれかにそれぞれ対応しています。

 **注記**：一部のレジストリ キーは、HP ThinPro または HP Smart Zero にしか適用されない場合があります。

## Audio

オーディオのレジストリ キーです。

表 E-1 オーディオのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/Audio/AdjustSoundPath	再生音量が音量コントロールで変更されたときに再生されるサウンドへのフルパスを設定します。
root/Audio/JackRetask	このレジストリ キーは、用途の変更が可能なコネクタのある Thin Client にのみ適用されます。  t730 の正面下部のコネクタの場合： <ul style="list-style-type: none"><li>● 0/1：変更なし/ヘッドフォン</li><li>● 2：マイク</li></ul> t630 の背面のコネクタの場合： <ul style="list-style-type: none"><li>● 0：変更なし/ライン入力</li><li>● 1：ヘッドフォン/ライン出力</li></ul> これらの設定の変更後に、Thin Client を再起動する必要があります。
root/Audio/OutputMute	1 に設定すると、内蔵スピーカーおよびヘッドフォンコネクタのミュート（消音）が有効になります。
root/Audio/OutputScale	内蔵スピーカーおよびヘッドフォン コネクタの音量スケールを設定します（1～400）。
root/Audio/OutputScaleAuto	1 に設定すると、OutputScale の値が Thin Client モデルに基づいて自動的に設定されます。
root/Audio/OutputVolume	内蔵スピーカーおよびヘッドフォン コネクタの音量を設定します（1～100）。

表 E-1 オーディオのレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/Audio/PlaybackDevice	再生に使用するデバイスを設定します。
root/Audio/PulseBuffer	この値の推奨範囲は 1024 ~ 8192 です。値が高すぎると再生が乱れることがあり、値が低すぎると Thin Client がクラッシュすることがあります。
root/Audio/RecordDevice	録音に使用するデバイスを設定します。
root/Audio/RecordMute	1 に設定すると、マイク コネクタのミュート (消音) が有効になります。
root/Audio/RecordScale	マイク コネクタの音量スケールを設定します (1 ~ 400)。
root/Audio/RecordScaleAuto	1 に設定すると、RecordScale の値が Thin Client モデルに基づいて自動的に設定されます。
root/Audio/RecordVolume	マイク コネクタの音量を設定します (1 ~ 100)。
root/Audio/VisibleInSystray	1 に設定すると、スピーカー アイコンがシステムトレイに表示されます。
root/Audio/shortcutPassThrough	オーディオ用ショートカットのパススルーを許可するアプリを定義します。アプリとアプリの間はスペースで区切ります。freerdp、view、および xen がオプションとして設定可能です。

## Bluetooth

Bluetooth のレジストリ キーです。

表 E-2 Bluetooth のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/Bluetooth/enableBluetooth	1 に設定すると、Bluetooth サービスが起動します。
root/Bluetooth/visibleInSystemTray	1 および enableBluetooth に設定すると、Bluetooth システムトレイ アイコンが表示されます。
root/Bluetooth/SystrayApp/DeviceFilter/majorClass	主要なデバイスクラスフィルターです。デバイスクラスの小数のセミコロン区切りのリストです。コロン後の文字列が無視されます。既知のクラスは、以下になります。0: その他、1: コンピューター、2: 電話、3: ローカルエリアネットワーク (LAN) / ネットワークアクセスポイント、4: オーディオ/ビデオ、5: 周辺機器、6: イメージング、7: ウェアラブル、8: トイ、9: 接続状態、31: 未分類。指定されたクラスの 1 つを通知するデバイスが、デバイス スキャナーに表示されます。従来の Bluetooth デバイスにより関連性の高いものをフィルター処理します。空の文字列は、フィルターを無効化します。
root/Bluetooth/SystrayApp/DeviceFilter/services	サービスフィルターです。セミコロン区切りの 16 ビット UUID または完全な 128 ビット UUID のリスト。コロン後の文字列が無視されます。16 ビット UUID は、Bluetooth サービスの完全な 128 ビット UUID を取得するために、接尾辞 0000-1000-8000-00805f9b34fb を付けて完成されています。

表 E-2 Bluetooth のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	<p>関連する GATT サービスはこちらに定義されています：  <a href="https://www.bluetooth.com/specifications/gatt/services/">https://www.bluetooth.com/specifications/gatt/services/</a>。指定された UUID の 1 つを通知するデバイスが、スキャナーに表示されます。Bluetooth Smart デバイスにより関連性の高いものをフィルター処理します。空の文字列は、フィルターを無効化します。</p> <p><b>注記：</b> 特定のデバイスの主要なデバイスクラスが主要なデバイスクラスフィルター内で一致する場合には、サービスフィルターは無視されます。</p>
root/Bluetooth/SystrayApp/devices	1 に設定すると、ペアリングおよび接続されている Bluetooth リモート デバイスが表示されます。
root/Bluetooth/SystrayApp/messageTimeout	システムトレイアイコンの上部にメッセージ通知が表示される時間 (秒単位) です。0 に設定すると、通知が無効になります。たとえば、デバイスが接続されると通知が開く場合があります。
root/Bluetooth/SystrayApp/scanner	1 に設定すると、Bluetooth スキャナーが表示されます。この設定では、ペアリングされた Bluetooth リモート デバイスを追加または削除することもできます。
root/Bluetooth/SystrayApp/switch	1 に設定すると、Bluetooth アダプターをオンまたはオフにする Bluetooth スイッチが表示されます。

## CertMgr

このレジストリ カテゴリは内部的に使用され、ユーザー定義のエントリはありません。

## ComponentMgr

コンポーネント マネージャーのレジストリ キーです。

表 E-3 コンポーネント マネージャーのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/ComponentMgr/ NotShowDeleteSnapshotWarning	1 に設定すると、スナップショットを削除するときに警告情報が非表示になります。

## ConnectionManager

接続マネージャーのレジストリ キーです。

表 E-4 接続マネージャーのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/ConnectionManager/ createSampleConnections	1 に設定すると、ユーザーが変更可能なサンプルの接続アイコンが初回起動時にデスクトップに作成されます。
root/ConnectionManager/customLogoPath	
root/ConnectionManager/defaultConnection	起動時に接続が正常に開始されるようにするには、次の例のように、〈種類〉:〈ラベル〉形式を使用してこの値を有効な接続に設定する必要があります：  xen:Default Connection。
root/ConnectionManager/minHeight	
root/ConnectionManager/minWidth	
root/ConnectionManager/splashLogoPath	接続が読み込まれているときに表示される画像へのフルパスを設定します。
root/ConnectionManager/useKioskMode	
root/ConnectionManager/ useSplashOnConnectionStartup	1 に設定すると、splashLogoPath によって設定されたイメージが有効になります。初期設定では、これは HP ThinPro では有効に、HP Smart Zero では無効になっています。

## ConnectionType

### custom

接続タイプ/custom のレジストリ キーです。

表 E-5 接続タイプ/custom のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/custom/authorizations/ user/add	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/custom/authorizations/ user/general	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/custom/connections/ <UUID>/afterStartedCommand	接続が開始された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/custom/connections/ <UUID>/afterStoppedCommand	接続が停止された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/custom/connections/ <UUID>/authorizations/user/edit	1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。

表 E-5 接続タイプ/custom のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/authorizations/user/execution	1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/autoReconnect	1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/autoReconnectDelay	セッションが再接続されるまで待機する時間 (秒) を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnect が 1 に設定されている場合にのみ有効です。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/autostart	1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます (1 の値が最も高い優先度になります)。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/beforeStartingCommand	接続が開始される前に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/command	実行するカスタム接続用のメインのコマンドを設定します。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/connectionEndAction	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/coord	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/dependConnectionId	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key	その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value	その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/fallBackConnection	予備接続を、その UUID を使用して設定します。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/hasDesktopIcon	1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/iconPosition	固定されたデスクトップアイコンの x,y 座標を設定します。指定されない場合は、浮動アイコンになります。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/label	ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/startMode	初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます。
root/ConnectionType/custom/connections/<UUID>/waitForNetwork	1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネッ



表 E-5 接続タイプ/custom のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	トワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/USBrelevant	この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/appName	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/className	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/editor	この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/generalSettingsEditor	この接続インターフェイス用の全般設定マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/icon	アイコン テーマセットから、この接続に使用するアイコンを指定します。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/icon16Path	このアプリケーションの 16×16 ピクセル アイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/icon32Path	このアプリケーションの 32×32 ピクセル アイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/icon48Path	このアプリケーションの 48×48 ピクセル アイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/iconActive	将来の使用のために予約されています。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/label	ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/priorityInConnectionLists	初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/serverRequired	サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/stopProcess	connection_mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/tier	この接続インターフェイスの相対的重要性および[作成]メニューに表示される順序を指定します。

表 E-5 接続タイプ/custom のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/custom/coreSettings/watchPid	1 に設定すると、appName で指定された名前で接続が監視されます。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/coreSettings/wrapperScript	この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリ スクリプトです。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/name	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/status	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/title	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/widgets/autoReconnect	Custom 接続マネージャーでの <b>[自動再接続]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/widgets/autostart	Custom 接続マネージャーでの <b>[自動開始の優先度]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/widgets/command	Custom マネージャーでの <b>[実行するコマンドを入力してください]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/widgets/fallBackConnection	Custom 接続マネージャーでの <b>[予備接続]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/widgets/hasDesktopIcon	Custom 接続マネージャーでの <b>[デスクトップにアイコンを表示]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/custom/gui/CustomManager/widgets/label	Custom 接続マネージャーでの <b>[名前]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示に

表 E-5 接続タイプ/custom のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/custom/gui/ CustomManager/widgets/waitForNetwork	なります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。  Custom 接続マネージャーでの <b>[接続前にネットワークを待機する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。

## firefox

接続タイプ/firefox のレジストリ キーです。

表 E-6 接続タイプ/firefox のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/firefox/authorizations/ user/add	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/firefox/connections/ <UUID>/address	接続先の URL または IP アドレスを設定します。
root/ConnectionType/firefox/connections/ <UUID>/afterStartedCommand	接続が開始された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/firefox/connections/ <UUID>/afterStoppedCommand	接続が停止された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/firefox/connections/ <UUID>/authorizations/user/edit	1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/firefox/connections/ <UUID>/authorizations/user/execution	1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/firefox/connections/ <UUID>/autoReconnect	1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します。
root/ConnectionType/firefox/connections/ <UUID>/autoReconnectDelay	セッションが再接続されるまで待機する時間 (秒) を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnect が 1 に設定されている場合にのみ有効です。
root/ConnectionType/firefox/connections/ <UUID>/autoStart	1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます (1 の値が最も高い優先度になります)。
root/ConnectionType/firefox/connections/ <UUID>/autoStartDelay	将来の使用のために予約されています。
root/ConnectionType/firefox/connections/ <UUID>/beforeStartingCommand	接続が開始される前に実行するコマンドを設定します。

表 E-6 接続タイプ/firefox のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/connectionEndAction	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/coord	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/dependConnectionId	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/enablePrintDialog	1 に設定すると、Web ブラウザーで印刷ダイアログが使用できます。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/enableSmartCard	1 に設定すると、Web ブラウザーで作成された Citrix 接続でスマートカードログインが有効になります。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key	その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value	その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/fallBackConnection	予備接続を、その UUID を使用して設定します。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/forbiddenFiles	このレジストリ キーは、Web Browser 接続の全般設定マネージャーで「接続ごとに個別の設定を保存することを許可する」が選択されている場合にのみ有効になります。このレジストリ キーの値で指定されているファイルが、Web Browser 接続の終了後に削除されます。ファイル名はコンマで区切ってください。また、ワイルドカードを使用できます。たとえば、以下のように指定します。*.rdf,cookies.sqlite
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/fullscreen	1 に設定すると、Web ブラウザーが全画面で起動します。kioskMode を無効にすると、ブラウザのユーザー インターフェイスを全画面モードで使用できるようになります。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/hasDesktopIcon	1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/iconPosition	固定されたデスクトップアイコンの x,y 座標を設定します。指定されない場合は、浮動アイコンになります。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/intendedUse	この Web Browser 接続の使用目的を、Citrix、RDP、または Internet に設定します。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/kioskMode	1 に設定すると、Web ブラウザーがキオスク モードで開始されるため、(fullscreen が 0 に設定されている場合でも) Web ブラウザーは全画面で起動し、ブラウザのユーザー インターフェイスは使用できなくなります。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/label	ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/manageOwnPrefs	1 に設定すると、接続の独自設定が管理されます。保存される場所は、/etc/firefox/<UUID>です。0 に設定すると、その接続で共有設定が使用されます。

表 E-6 接続タイプ/firefox のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showBackForwardButton	1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に Web ブラウザーの戻るボタンおよび進むボタンが表示されます。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showHomeButton	1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に Web ブラウザーのホーム ボタンが表示されます。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showSearchBar	1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に Web ブラウザーの検索バーが表示されます。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showTabsBar	1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に Web ブラウザーのタブが表示されます。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showTaskBar	1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に Web ブラウザーのタスクバーが表示されます。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/showUrlBarRefreshButton	1 に設定すると、キオスク モードが有効になっている場合に URL バーおよび更新ボタンが表示されます。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/startMode	初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます。
root/ConnectionType/firefox/connections/<UUID>/waitForNetwork	1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/USBrelevant	この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/appName	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/className	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/editor	この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/icon	アイコン テーマセットから、この接続に使用するアイコンを指定します。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/icon16Path	このアプリケーションの 16×16 ピクセルアイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/icon32Path	このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/icon48Path	このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/iconActive	将来の使用のために予約されています。

表 E-6 接続タイプ/firefox のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/label	ユーザーインターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/priorityInConnectionLists	初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/restartIdleTime	システムがユーザー入力を受け取らなかったときに Web ブラウザーが再起動するまでの時間 (分) を設定します。0 に設定すると、再起動が無効になります。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/serverRequired	サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/stopProcess	connection_mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/tier	この接続インターフェイスの相対的重要性および[作成]メニューに表示される順序を指定します。
root/ConnectionType/firefox/coreSettings/wrapperScript	この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/firefox/general/enableUserChanges	1 に設定すると、[Firefox Preferences] (Firefox 設定) ダイアログで構成された設定が各セッション後に保存されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/name	このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/status	このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/title	このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/widgets/address	Web Browser 接続マネージャーでの[URL]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/FirefoxManager/widgets/autoReconnect	Web Browser 接続マネージャーでの[自動再接続]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェット

表 E-6 接続タイプ/firefox のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	は非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/autostart	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[自動開始の優先度]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/enablePrintDialog	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[印刷ダイアログを有効にする]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/fallBackConnection	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[予備接続]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/hasDesktopIcon	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[デスクトップにアイコンを表示]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/kioskMode	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[キオスク モードを有効にする]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/label	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[名前]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/showBackForwardButton	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[戻るボタンおよび進むボタンを表示する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/showHomeButton	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[ホーム ボタンを表示する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。

表 E-6 接続タイプ/firefox のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/showSearchBar	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[検索バーを表示する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/showTabsBar	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[タブバーを表示する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/showTaskBar	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[タスクバーを表示する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/ showUrlBarRefreshButton	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[URL バーおよび更新ボタンを表示する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/startMode	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[全画面表示を有効にする]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/firefox/gui/ FirefoxManager/widgets/waitForNetwork	Web Browser 接続マネージャーでの <b>[接続前にネットワークを待機する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。

## freerdp

接続タイプ/freerdp のレジストリキーです。

表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリキー

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/freerdp/authorizations/ user/add	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに



表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
	付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/ExtraArgs	xfreerdp クライアントに対する追加の引数を指定します。利用可能なすべての引数を表示するには、X ターミナルから xfreerdp --help を実行します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/SingleSignOn	有効にすると、スクリーンセーバーのロックを解除するために、RDP 接続のユーザー、ドメイン、およびパスワードの組み合わせが保存されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/address	接続先のホスト名または IP アドレスを設定します。ポート番号を末尾に追加するには、コロンを入力し、その後にポート番号を入力します。たとえば、以下のように指定します。 servername:3389
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/afterStoppedCommand	接続が停止された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/application	実行するアプリケーションの代替シェルを指定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/attachToConsole	
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/audioLatency	デコード後に、オーディオストリームが再生されてから対応するビデオフレームが表示されるまでの平均オフセット時間 (ミリ秒) を設定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/authorizations/user/edit	1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/authorizations/user/execution	1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/autoReconnect	1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/autoReconnectDelay	セッションが再接続されるまで待機する時間 (秒) を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnect が 1 に設定されている場合にのみ有効です。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/autostart	1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます (1 の値が最も高い優先度になります)。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/bandwidthLimitation	0 より大きい値に設定すると、ダウンロードおよびアップロードの帯域幅がおおよそこの値 (kbps 単位) にまで制限されます。0 (初期設定) に設定すると、制限されません。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/beforeStartingCommand	接続が開始される前に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/clipboardExtension	1 に設定すると、異なる RDP セッション間、および RDP セッションとローカルシステムの間でクリップボード機能が有効になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/compression	1 に設定すると、クライアントとサーバーの間で送信される RDP データの圧縮が有効になります。

表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/credentialsType	sso (シングルサインオン)、startup (開始時に資格情報を要求)、password (事前に設定されたユーザー/ドメイン/パスワード)、または smartcard (事前に設定されたスマートカード) の中から資格情報の種類を指定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/dependConnectionId	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/directory	代替シェル アプリケーションが実行される起動ディレクトリを指定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/disableMMRwithRFX	1 に設定すると、有効な RemoteFX セッションが確立されたときにマルチメディア リダイレクトが無効になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/domain	ログイン時にリモート ホストに送信する初期設定のドメインを設定します。ドメインが指定されていない場合は、リモート ホストの初期設定のドメインが使用されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/enableMMR	1 に設定すると、マルチメディア リダイレクト アドオンが有効になるため、Windows Media Player で再生されるサポートされたコーデックがクライアントにリダイレクトされます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key	その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value	その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/fallBackConnection	予備接続を、その UUID を使用して設定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/frameAcknowledgeCount	サーバーがクライアントからの確認応答を待たずに送信できるビデオ フレームの数を設定します。数字を小さくするほど、デスクトップの応答が速くなりますが、フレーム レートが下がります。0 に設定すると、クライアントとサーバー間のやり取りで確認応答が行われません。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayAddress	RD ゲートウェイのサーバー名またはアドレスを設定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayCredentialsType	資格情報を sso (シングルサインオン)、startup (開始時に資格情報を要求)、または password (事前に設定されたユーザー/ドメイン/パスワード) のどの種類で提供するかを指定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayDomain	ログイン時に RDP ゲートウェイに送信する初期設定のドメインを設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスク スタイルのアプリケーションで使用されます。gatewayUsesSameCredentials を 1 に設定すると、この値が無効になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayEnabled	1 に設定すると、RD ゲートウェイの使用が想定されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayPassword	ログイン時に RDP ゲートウェイに送信する初期設定のパスワードを設定します。この値は通常、暗号化されます。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスク スタイルのアプリケーションで使用されます。gatewayUsesSameCredentials を 1 に設定すると、この値が無効になります。

表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayPort	RDP サーバーへの接続時に使用するポート番号を設定します。この値は空のままでもかまいません。最も一般的な値は 443 です。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayUser	ログイン時に RDP ゲートウェイに送信する初期設定のユーザー名を設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。gatewayUsesSameCredentials を 1 に設定すると、この値が無効になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/gatewayUsesSameCredentials	1 に設定すると、最後のサーバーへの接続に使用されるものと同じ資格情報が RD ゲートウェイへの接続に使用されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/hasDesktopIcon	1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/hostnameType	hostname に設定すると、システムのホスト名がリモート ホストに送信されます。これは通常、特定の RDP セッションに関連付けられた Thin Client を識別するために使用されます。このホスト名を上書きするには、接続に固有の設定の sendHostName を使用します。mac に設定すると、最初に利用可能なネットワークアダプターの MAC アドレスがホスト名の代わりに送信されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/iconPosition	固定されたデスクトップアイコンの x,y 座標を設定します。指定されない場合は、浮動アイコンになります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/label	ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loadBalanceInfo	この値は、接続時にサーバーに送信されるブローカー用の負荷分散 Cookie で、.rdp ファイルの loadbalanceinfo フィールドに対応します。初期設定では、この値は空です。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/localPartitionRedirection	1 に設定すると、USB 以外のローカルストレージパーティションが、ストレージ拡張機能を使用してリモート ホストにリダイレクトされます。0 に設定すると、この拡張機能が HP ThinPro で使用していない USB 接続以外のストレージパーティションに対して無効になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/domain	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[ドメイン]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/password	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[パスワード]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/rememberme	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[このアカウントを記憶する]チェックボックスが表示されます。2 に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェックボックスは非表示になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/server	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[サーバー]ボックスが表示されます。2 に設定すると、ボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、ボックスは

表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
	非表示になります。3 に設定すると、システム設定が使用されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/showpassword	1 に設定すると、接続用のログインダイアログに <b>[パスワードを表示する]</b> チェックボックスが表示されます。2 に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェックボックスは非表示になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/smartcard	1 に設定すると、接続用のログインダイアログに <b>[スマートカードを使用したログイン]</b> チェックボックスが表示されます。2 に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェックボックスは非表示になります。このオプションが有効になっている場合でも、スマートカードが検出されないときには、このチェックボックスは表示されることがあります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/loginfields/username	1 に設定すると、接続用のログインダイアログに <b>[ユーザー名]</b> フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/mouseMotionEvents	0 に設定すると、マウス移動イベントがサーバーに送信されません。このため、ツールチップなどの一部のユーザーフィードバックが正しく機能しなくなる可能性があります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/offScreenBitmaps	0 に設定すると、オフスクリーンビットマップが無効になります。これにより、パフォーマンスがわずかに向上する可能性があります。画面を構成する各ブロックが同時に更新されなくなるため、画面が均一に遷移しなくなります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/password	ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のパスワードを設定します。この値は暗号化されます。通常、この設定は、汎用パスワードをログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagDesktopComposition	1 に設定すると、サーバーでサポートされている場合に、デスクトップ構成 (半透明の境界線など) が許可されます。デスクトップ構成を無効にすると、帯域幅の低い接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。通常、この設定は RemoteFX のみに影響します。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagFontSmoothing	1 に設定すると、サーバーでサポートされていて有効になっている場合に、フォントスムージングが有効になります。フォントスムージングを無効にすると、帯域幅の低い接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoCursorSettings	1 に設定すると、カーソルの点滅が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoCursorShadow	1 に設定すると、マウスカーソルの影が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoMenuAnimations	1 に設定すると、メニューのアニメーションが無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。

表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoTheming	1 に設定すると、ユーザー インターフェイスのテーマが無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoWallpaper	1 に設定すると、デスクトップの壁紙が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/perfFlagNoWindowDrag	1 に設定すると、ウィンドウの全内容のドラッグが無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。ただし、ウィンドウの外枠は表示されます。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/portMapping	1 に設定すると、すべてのシリアルポートおよびパラレルポートが、ポート拡張機能を使用してリモートホストにリダイレクトされます。0 に設定すると、拡張機能が無効になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/printerMapping	1 に設定すると、CUPS 経由でローカルで定義されているすべてのプリンターが、プリンター拡張機能を使用してリモートホストにリダイレクトされます。0 に設定すると、拡張機能が無効になります。2 に設定すると、USB プリンターは[USB マネージャー]の構成に従ってリダイレクトされます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/autoDisconnectTimeout	RemoteApp およびデスクトップリソースが実行されなくなってから接続が自動的に終了するまでの時間 (分) を設定します。最後の 20 秒間はカウントダウンカウンターが表示され、ユーザーがタイマーを解除できるようになります。0 (初期設定) に設定すると、タイマーが無効になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/autoStartSingleResource	1 に設定すると、サーバーから単一の公開されたリソース (RemoteApp プログラムまたは仮想デスクトップ) のみが返された場合に、そのリソースが自動的に起動されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/filter/<UUID>/alias	リソースフィルター用のリソースのエイリアスを指定します。ユーザーは、エイリアスが一致する RemoteApp およびデスクトップのリソースを使用できます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/filter/<UUID>/name	リソースフィルター用のリソースの名前を指定します。ユーザーは、名前が一致する RemoteApp およびデスクトップのリソースを使用できます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/keepResourcesWindowOpened	0 に設定すると、リソースの起動後に、リソース選択ウィンドウが自動的に閉じられます。1 に設定すると、リソースの起動後も、リソース選択ウィンドウは開いたままになります。この場合、ユーザーは、複数のリソースを起動してからリソース選択ウィンドウを閉じることができます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/trustedPublisherSha1Thumbprints	信頼できるリソースの公開者の SHA1 サムプリントのコンマ区切りリストを指定します。これらのサムプリントのどれかに一致する証明書は検証されません。セキュリティを強化するには、その公開者のルート CA をインポートしてください。また、レジストリキーの verifyPublisherSignature および [コントロールパネル] の [証明書マネージャー] も確認してください。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdWebFeed/verifyPublisherSignature	1 に設定すると、公開された.rdp ファイルに公開者が署名している場合に、その署名が検証されます。信頼できる公開者からの有効な署名があるリソースのみを実行できます。0 に設定すると、署名の検証は行われません。また、レジストリ

表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	キー trustedPublisherSha1Thumbprints も確認してください。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdp6Buffering	1 に設定すると、画面更新の頻度を下げることにより、RemoteFX 以外のグラフィックスのパフォーマンスを向上させます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdp8Codecs	1 に設定すると、利用できる場合に RDP 8 コーデックが使用されます。RDP 8 コーデックに固有の問題がある場合のみ、この設定を無効にする必要があります。この設定を無効にすると、より高度なコーデックも無効になる場合があります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdpEncryption	1 に設定すると、標準の RDP 暗号化が使用され、クライアントとサーバー間のすべてのデータが暗号化されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdpH264Codec	1 に設定すると、利用できる場合に RDP 8 H.264 コーデックが使用されます。この設定には既知の表示エラーがあり、特に複数のモニターの構成でエラーが発生します。これは試験的な設定であり、サポートされていません。この設定を有効にしても、Thin Client がデスクトップ表示で H.264 をサポートしていることがサーバーに通知されるだけです。サーバーも H.264 をサポートしている必要があり、どのコーデックを使用するかはサーバー側で最終的に決定されます。この設定はデスクトップ用コーデックにのみ影響します。マルチメディアダイレクト用コーデックには影響しません。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdpProgressiveCodec	1 に設定すると、利用できる場合に RDP 8 プログレッシブコーデックが使用されます。RDP 8 プログレッシブコーデックに固有の問題がある場合のみ、この設定を無効にする必要があります。この設定を無効にすると、より高度なコーデックも無効になる場合があります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/redirectPreference	RDP クライアントには、複数のリダイレクト先があります。通常は、FQDN、プライマリ IP、IP 一覧、NetBIOS の順でリダイレクトを試行します。FQDN が目的のリダイレクト先でない場合は、このレジストリ キーを設定することで、別のリダイレクト先を最初に試すことが可能になります。指定した方式がうまくいかない場合、RDP クライアントは順序を元に戻します。auto に設定すると、元の順序が強制的に使用されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/remoteApp	RAIL (Remote Application Integrated Locally) モードで実行可能なアプリケーションの名前を指定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/remoteDesktopService	Remote Computer に設定すると、リモートコンピューターへの直接 RDP 接続が実行されます。RD Web Access に設定すると、RD Web アクセス サービスへの接続が最初に行われ、公開されている RemoteApp リソースのフィードが取得されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/remoteFx	1 に設定すると、利用できる場合に RDP 7.1 のスタイルの RemoteFX が使用されます。この設定は推奨されておらず、HP ThinPro の将来のリリースで廃止される可能性があります。RemoteFX プロトコルに固有の問題がある場合のみ、この設定を無効にする必要があります。この設定を無効にすると、より高度なコーデックも無効になる場合があります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/requireEncryptionOracleRemediation	1 に設定すると、リモートデスクトップクライアントは、適切な保護機能のないサーバーへの接続を拒否します。これによって、Microsoft のセキュリティ脆弱性 CVE-2018-0886 に対処します。

表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/scCertificate	事前に設定されたスマートカードログインを選択した場合に、スマートカード上の証明書に対応する ID が認証に使用されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/scPin	事前に設定されたスマートカードログインを選択した場合に、そのスマートカードの PIN またはパスワードを指定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/scRedirection	1 に設定すると、すべてのローカルスマートカードリーダーがリモートホストにリダイレクトされますが、RDP セッションのネットワークレベル認証 (NLA) には使用されません。  <b>注記</b> : credentialsType を smartcard に設定した場合、または smartcard を 1 に設定した場合は、HP ThinPro のバージョンによっては、scRedirection が無視されます。この構成では、スマートカードリーダーは常にリダイレクトされます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/seamlessWindow	1 に設定すると、ウィンドウの装飾が無効になります。マルチモニター設定でプライマリモニターのサイズを接続側で設定できるようにする場合には、この設定をおすすめします。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/securityLevel	証明書のセキュリティレベルを設定します。0 に設定すると、すべての接続が許可されます。1 に設定すると、記録されているホストが選択され、検証に合格しなかった場合は警告ダイアログが表示されます。2 に設定すると、記録されているホストは選択されず、検証に合格しなかった場合は警告ダイアログが表示されます。3 に設定すると、安全でない接続はすべて拒否されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/sendHostname	リモートホストに送信される Thin Client のホスト名を設定します。空白のままにすると、システムのホスト名が送信されます。このキーを使用するには、レジストリキー root/ConnectionType/freerdp/general/sendHostname を [hostname] (ホスト名) に設定する必要があります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/showConnectionGraph	これは診断機能です。1 に設定すると、セッションが開始されたときに、別のプログラムが起動して接続の状態がグラフで表示されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/showRDPDashboard	1 に設定すると、セッションが開始されたときに、別のウィンドウが開いて RDP のパフォーマンスおよび状態が表示されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/smartcard	1 に設定すると、ローカルでのスマートカード認証がリモートホストに対して許可されます。現時点では、これによってネットワークレベル認証 (NLA) が無効になります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/sound	1 に設定すると、再生および録音デバイスが、オーディオ拡張機能でリモートホストにリダイレクトされます。0 に設定すると、拡張機能が無効になります。2 に設定すると、USB オーディオデバイスは [USB マネージャー] の構成に従ってリダイレクトされます。通常は、この値を 1 に設定して、高レベルオーディオリダイレクトが使用されるようにすることをおすすめします。このように設定すると、オーディオ品質が向上し、他の拡張機能 (マルチメディアリダイレクトなど) でリダイレクトされたクライアントオーディオがローカルのオーディオ設定と一致ようになります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/startMode	初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます。

表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/timeoutError	サーバーとの接続が失われてから、再接続を中止するまでの待機時間 (ミリ秒) を設定します。0 に設定すると、再接続が無期限に試行されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/timeoutRecovery	サーバーとの接続が失われてから、強制再接続を試行しないでネットワーク接続の回復を待機する時間 (ミリ秒) を設定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/timeoutWarning	サーバーとの接続が失われてから、接続が失われたことをユーザーに警告するまでの待機時間 (ミリ秒) を設定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/timeoutWarningDialog	1 に設定すると、エンドツーエンド接続の切断が検出されたときに、ダイアログが表示されて画面がグレースケールに変更されます。そうでない場合、メッセージが接続ログに書き込まれ、セッションが停止します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/timeoutsEnabled	1 に設定すると、エンドツーエンド接続の状態確認が実行されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/tlsVersion	RDP サーバーとのネゴシエーションの初期段階で使用される TLS (Transport Layer Security) のバージョンを設定します。RDP サーバーが使用する TLS のバージョンと一致させるか、auto に設定してください。 <b>注記:</b> パッチが適用されていない RDP サーバー側に存在する一部の問題により、自動設定が失敗する可能性があるため、[auto] は初期設定になっていません。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/usbMiscRedirection	0 に設定すると、sound、printerMapping、portMapping、usb StorageRedirection、および localPartitionRedirection で処理されるもの以外の、他のすべての USB デバイスのリダイレクトが無効になります。2 に設定すると、他のすべての USB デバイスは、[USB マネージャー] の構成に従ってリモートホストにリダイレクトされます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/usbStorageRedirection	1 に設定すると、USB 記憶装置が、ストレージ拡張機能を使用してリモートホストにリダイレクトされます。0 に設定すると、拡張機能が無効になります。2 に設定すると、USB ストレージは[USB マネージャー]の構成に従ってリダイレクトされます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/username	ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のユーザー名を設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/waitForNetwork	1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/windowMode	Remote Application に設定すると、RDP は RAIL (Remote Application Integrated Locally) モードで実行されます。このためには、RemoteApp サーバーで、目的のアプリケーションをリモートアプリケーションとして実行することが許可されている必要があります。アプリケーションはデスクトップ環境内で独立したウィンドウに表示されるため、ローカルシステムの一部であるかのように表示されます。詳しくは、remoteApp レジストリ キーも参照してください。Alternate Shell に設定すると、標準ではないシェルが起動されます。詳しくは、application および directory レジストリ キーも参照してください。



表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/windowSizeHeight	
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/windowSizePercentage	
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/windowSizeWidth	
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/windowType	
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11Capture	これは診断機能です。1 に設定すると、X11 の動作がキャプチャされ、後で再生できるようになります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11CaptureDir	これは診断機能です。X11 キャプチャ ファイルのディレクトリをこの値で設定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11LogAutoflush	これは診断機能です。1 に設定すると、X11 ログファイルがディスクにフラッシュされる頻度が高くなります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11Logfile	これは診断機能です。X11 ログファイルのパスをこの値で設定します。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11Logging	これは診断機能です。1 に設定すると、X11 の動作がログに記録されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/x11Synchronous	これは診断機能です。1 に設定すると、X11 の動作がバッファに保存されません。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/xkbLayoutId	システム キーボードをバイパスするための XKB レイアウト ID を設定します。利用可能な ID の一覧を表示するには、X ターミナルで次のコマンドを入力します: xfreerdp --kbd-list。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/USBrelevant	この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/appName	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/className	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/disableLinkDropWarning	1 に設定すると、ネットワークがダウンしても接続プロトコルがその状況に対応するため、オペレーティング システムはネットワークのダウンを示すダイアログを生成しません。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/editor	この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/icon	アイコン テーマセットから、この接続に使用するアイコンを指定します。

表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/icon16Path	このアプリケーションの 16×16 ピクセルアイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/icon32Path	このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/icon48Path	このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/iconActive	将来の使用のために予約されています。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/initialConnectionTimeout	RDP サーバーからの最初の応答の待機を開始してから終了するまでの時間 (秒) を設定します。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/label	ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/priorityInConnectionLists	初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/stopProcess	connection_mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/tier	この接続インターフェイスの相対的重要性および[作成]メニューに表示される順序を指定します。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/watchPid	1 に設定すると、appName で指定された名前前で接続が監視されます。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/wrapperScript	この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/freerdp/coreSettings/wrapperScriptGeneration	接続マネージャーがラッパー スクリプトに渡すパラメーターの種類を指定します。
root/ConnectionType/freerdp/general/autoReconnectDialogTimeout	autoReconnect が有効になっている場合、このキーは接続のエラー ダイアログがタイムアウトするまでの秒数を設定します。0 に設定すると、ダイアログはユーザー操作を無期限に待機します。
root/ConnectionType/freerdp/general/disablePasswordChange	無効な資格情報のためにリモート ログインに失敗すると、ユーザーのパスワードを更新するためのダイアログを表示するボタンが表示されます。このキーを 1 に設定すると、そのボタンおよびダイアログは表示されません。

**表 E-7 接続タイプ/freerdp のレジストリ キー (続き)**

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/freerdp/general/ preferredAudio	高レベル オーディオ リダイレクト用の初期設定のオーディオ バックエンド (入力と出力の両方) を設定します。
root/ConnectionType/freerdp/general/ rdWebFeedUrlPattern	RD Web アクセスの URL の生成に使用するパターンを設定します。URL のホスト (myserver.com など) が、接続の[アドレス]フィールドの値に置き換えられます。アドレスがすでに URL になっている場合、このパターンは使用されません。
root/ConnectionType/freerdp/general/ serialPortsDriver	この設定により、想定される基本の Windows ドライバー、SerCx2.sys、SerCx.sys、または Serial.sys との互換性が向上します。
root/ConnectionType/freerdp/general/ serialPortsPermissive	1 に設定すると、サポートされていない機能のエラーが無視されるようになります。

## ssh

SSH のレジストリ キーです。

**表 E-8 SSH のレジストリ キー**

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/ssh/authorizations/ user/add	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/ssh/authorizations/user/ general	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/ address	接続先のホスト名または IP アドレスを設定します。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/ afterStartedCommand	接続が開始された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/ afterStoppedCommand	接続が停止された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/ application	実行するアプリケーションを指定します。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/ authorizations/user/edit	1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/ authorizations/user/execution	1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/ autoReconnect	1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します。

表 E-8 SSH のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/autoReconnectDelay	セッションが再接続されるまで待機する時間 (秒) を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnect が 1 に設定されている場合にのみ有効です。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/autostart	1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます (1 の値が最も高い優先度になります)。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/backgroundColor	その接続の背景色を設定します。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/beforeStartingCommand	接続が開始される前に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/compression	SSH 接続用の圧縮を有効にします。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/connectionEndAction	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/coord	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/dependConnectionId	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key	その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value	その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/fallBackConnection	予備接続を、その UUID を使用して設定します。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/font	その接続用のフォント サイズを設定します。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/foregroundColor	その接続の前景色を設定します。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/fork	1 に設定すると、[バックグラウンドにフォークする]オプションがその接続で有効になります。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/hasDesktopIcon	1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/iconPosition	固定されたデスクトップアイコンの x,y 座標を設定します。指定されない場合は、浮動アイコンになります。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/isInMenu	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。

表 E-8 SSH のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/label	ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/loginfields/server	1 に設定すると、接続用のログインダイアログに[サーバー]ボックスが表示されます。2 に設定すると、ボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、ボックスは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が使用されます。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/loginfields/username	1 に設定すると、接続用のログインダイアログに[ユーザー名]ボックスが表示されます。2 に設定すると、ボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、ボックスは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が使用されます。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/port	SSH サーバーへの接続時に使用するポート番号を設定します。初期設定値は 22 です。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/startMode	初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/tty	1 に設定すると、[TTY を強制的に割り当てる]オプションがその接続で有効になります。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/username	ログイン時にリモート ホストに送信する初期設定のユーザー名を設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスク スタイルのアプリケーションで使用されます。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/waitForNetwork	1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります。
root/ConnectionType/ssh/connections/<UUID>/x11	1 に設定すると、[X11 接続の転送]オプションがその接続で有効になります。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/USBrelevant	この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/appName	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/className	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/editor	この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/icon	アイコン テーマセットから、この接続に使用するアイコンを指定します。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/icon16Path	このアプリケーションの 16×16 ピクセル アイコンへのパスを設定します。

表 E-8 SSH のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/icon32Path	このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/icon48Path	このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/iconActive	将来の使用のために予約されています。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/label	ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/priorityInConnectionLists	初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/serverRequired	サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/stopProcess	connection_mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/tier	この接続インターフェイスの相対的重要性および[作成]メニューに表示される順序を指定します。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/watchPid	1 に設定すると、appName で指定された名前前で接続が監視されます。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/coreSettings/wrapperScript	この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/name	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/status	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/title	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/address	Secure Shell 接続マネージャーでの[アドレス]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。

表 E-8 SSH のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/application	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[アプリケーションの実行]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/autoReconnect	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[自動再接続]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/autostart	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[自動開始の優先度]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/backgroundColor	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[背景色]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/compression	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[圧縮]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/fallBackConnection	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[予備接続]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/font	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[フォント]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/foregroundColor	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[前景色]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/fork	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[バックグラウンドにフォークする]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only

表 E-8 SSH のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	(読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/hasDesktopIcon	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[デスクトップにアイコンを表示]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/isInMenu	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/label	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[名前]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/port	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[ポート]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/tty	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[TTY を強制的に割り当てる]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/username	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[ユーザー名]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/waitForNetwork	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[接続前にネットワークを待機する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/ssh/gui/SshManager/widgets/x11	Secure Shell 接続マネージャーでの <b>[X11 接続の転送]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。



## telnet

接続タイプ/telnet のレジストリ キーです。

表 E-9 接続タイプ/telnet のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/telnet/authorizations/user/add	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/telnet/authorizations/user/general	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/address	接続先のホスト名または IP アドレスを設定します。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/afterStartedCommand	接続が開始された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/afterStoppedCommand	接続が停止された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/authorizations/user/edit	1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/authorizations/user/execution	1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/autoReconnect	1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/autostart	1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます（1 の値が最も高い優先度になります）。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/backgroundColor	その接続の背景色を設定します。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/beforeStartingCommand	接続が開始される前に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/connectionEndAction	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/coord	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/dependConnectionId	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key	その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value	その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します。

表 E-9 接続タイプ/telnet のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/fallBackConnection	予備接続を、その UUID を使用して設定します。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/font	その接続用のフォント サイズを設定します。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/foregroundColor	その接続の前景色を設定します。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/hasDesktopIcon	1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/iconPosition	固定されたデスクトップアイコンの x,y 座標を設定します。指定されない場合は、浮動アイコンになります。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/label	ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/locale	その接続のロケールを設定します。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/loginfields/server	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[サーバー]ボックスが表示されます。2 に設定すると、ボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、ボックスは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が使用されます。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/port	サーバーへの接続時に使用するポート番号を設定します。初期設定値は 23 です。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/startMode	初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます。
root/ConnectionType/telnet/connections/<UUID>/waitForNetwork	1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/USBrelevant	この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/appName	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/className	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/editor	この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/generalSettingsEditor	この接続インターフェイス用の全般設定マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。

表 E-9 接続タイプ/telnet のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/icon	アイコン テーマセットから、この接続に使用するアイコンを指定します。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/icon16Path	このアプリケーションの 16×16 ピクセル アイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/icon32Path	このアプリケーションの 32×32 ピクセル アイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/icon48Path	このアプリケーションの 48×48 ピクセル アイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/iconActive	将来の使用のために予約されています。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/label	ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/priorityInConnectionLists	初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/serverRequired	サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/stopProcess	connection_mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/tier	この接続インターフェイスの相対的重要性および[作成]メニューに表示される順序を指定します。
root/ConnectionType/telnet/coreSettings/wrapperScript	この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/name	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/status	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/title	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/address	Telnet 接続マネージャーでの[アドレス]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。

表 E-9 接続タイプ/telnet のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/autoReconnect	Telnet 接続マネージャーでの <b>[自動再接続]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/autostart	Telnet 接続マネージャーでの <b>[自動開始の優先度]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/backgroundColor	Telnet 接続マネージャーでの <b>[背景色]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/fallBackConnection	Telnet 接続マネージャーでの <b>[予備接続]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/foregroundColor	Telnet 接続マネージャーでの <b>[前景色]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/hasDesktopIcon	Telnet 接続マネージャーでの <b>[デスクトップにアイコンを表示]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/label	Telnet 接続マネージャーでの <b>[名前]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/port	Telnet 接続マネージャーでの <b>[ポート]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/telnet/gui/TelnetManager/widgets/waitForNetwork	Telnet 接続マネージャーでの <b>[接続前にネットワークを待機する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそ

表 E-9 接続タイプ/telnet のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	れを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。

## TTerm

TTerm のレジストリ キーです。

表 E-10 TTerm のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/authorizations/user/edit	1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/authorizations/user/execution	1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/loginfields/password	1 に設定すると、接続用のログインダイアログに[パスワード]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が優先されます。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/waitForNetwork	1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/autoReconnect	1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/coord	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値を変更しないでください。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/label	ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/full-screen	設定されている場合は、全画面表示モードで接続を実行します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/maximized	設定されている場合は、最大化モードで接続を実行します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/sessionPanel	全画面表示モードではない場合は、起動時に 0 に設定してセッションパネルをクリアします。

表 E-10 TTerm のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/profile/name	プロファイル名はここに保存されます。手動で編集せずに、接続マネージャーを使用します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/profile/ttexp	プロファイルファイルはここに保存されます。手動で編集せずに、接続マネージャーを使用します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/iconPosition	固定されたデスクトップアイコンの場合は、x,y のペアリングです。浮動アイコンの場合は、この文字列を空白のままにします。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/autostart	1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます (1 の値が最も高い優先度になります)。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/address	接続先のホスト名または IP アドレスを設定します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/locale	その接続のロケールを設定します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/hasDesktopIcon	1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key	その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value	その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/afterStartedCommand	接続が開始された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/afterStoppedCommand	接続が停止された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/beforeStartingCommand	接続が開始される前に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/startMode	初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/dependConnectionId	このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値を変更しないでください。

表 E-10 TTerm のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/fallBackConnection	予備接続を、その UUID を使用して設定します。
root/ConnectionType/tterm/connections/<UUID>/ connectionEndAction	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値を変更しないでください。

## view

VMware Horizon View のレジストリ キーです。

表 E-11 接続タイプ/view のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/view/authorizations/user/add	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/view/authorizations/user/commandLineBox	1 に設定すると、VMware Horizon View 接続マネージャーでコマンドライン引数を入力するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/view/authorizations/user/general	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/ExtraArgs	VMware Horizon View クライアントに対する追加の引数を指定します。X ターミナルから view_client --help または vmware-view --help を実行すると、利用可能なすべての引数が表示されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/SingleSignOn	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/afterStartedCommand	接続が開始された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/afterStoppedCommand	接続が停止された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/allowBlacklistedDrivers	1 に設定すると、VMware Horizon View 接続は、AMD オープンソースグラフィックスドライバーの H.264 機能を有効にできます。0 に設定すると、VMware Horizon View 接続では、ブラックリストのドライバー (AMDGPU や Radeon など) によるハードウェア アクセラレーションが無効になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/appInMenu	1 に設定すると、この接続のすべてのアプリケーションがタスクバー メニューに表示されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/appOnDesktop	1 に設定すると、この接続のすべてのアプリケーションがデスクトップに表示されます。

表 E-11 接続タイプ/view のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/applicationSize	VMware Horizon View クライアントが起動するアプリケーションのサイズを設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/attachToConsole	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/authorizations/user/edit	1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/authorizations/user/execution	1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/autoHideMenuBar	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/autoReconnect	1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/autoReconnectDelay	セッションが再接続されるまで待機する時間 (秒) を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnect が 1 に設定されている場合にのみ有効です。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/automaticLogin	1 に設定すると、すべてのフィールドが入力されたときに VMware Horizon View クライアントが自動的にログインを試みます。0 に設定すると、ユーザーが VMware Horizon View クライアントの [接続] を手動で選択し、ログインしてデスクトップを選択する必要があります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/autostart	1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます (1 の値が最も高い優先度になります)。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/autostartDelay	将来の使用のために予約されています。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/beforeStartingCommand	接続が開始される前に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/closeAfterDisconnect	1 に設定すると、最初のデスクトップが閉じられたときに接続が終了します。0 に設定すると、VMware Horizon View クライアントがデスクトップ選択画面に戻ります。ユーザーが誤ってログオフ後もデスクトップ選択画面で接続を維持しないように、初期設定では有効になっています。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/closeAfterRoaming	1 に設定すると、VMware 接続が別の場所にローミングされている場合、その接続は切断されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/coord	このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/credentialsType	anonymous (非認証アクセス)、sso (シングルサインオン)、startup (開始時に資格情報を要求)、password (事前に設定されたユーザー/ドメイン/パスワード)、または smartcard (事前に設定されたスマートカード) の中から資格情報の種類を指定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/dependConnectionId	このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。



表 E-11 接続タイプ/view のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/desktop	指定すると、その指定したデスクトップがログイン時に自動的に開始されます。初期設定では、使用できるデスクトップが1つしかない場合は、指定しなくてもそのデスクトップが自動的に開始されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/desktopSize	VMware Horizon View クライアントが起動するデスクトップのサイズを設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/directory	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/disableMaximizedApp	1 に設定すると、最大化されたアプリケーションのウィンドウサイズ設定が無効になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/domain	View 接続サーバーに送信するドメインを設定します。ドメインが指定されていない場合は、サーバーの初期設定のドメインが使用されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/enableCDR	1 に設定すると、クライアントドライブリダイレクトアドオンが有効になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/enableMMR	1 に設定すると、Blast/PCoIP プロトコルを用いるマルチメディアリダイレクトアドオンが有効になるため、Windows Media Player で再生されるサポートされたコーデックがクライアントにリダイレクトされます。これにより、WMV9、VC1、MPEG4 などのコーデックで高解像度ビデオを全画面再生したときの品質が大幅に向上します。ビデオは CPU の処理能力を使用してローカルでレンダリングされます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/enableMediaProvider	1 に設定すると、VMware Horizon Virtualization Pack for Skype for Business コンポーネントが有効になります。このコンポーネントを使用すると、Linux ユーザーは、Skype for Business の通話を VMware Horizon View Client によってリダイレクトできます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/enableSeamlessWindow	1 に設定すると、VMware Horizon View クライアントはシームレスなウィンドウモードでアプリケーションを起動します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/enableSingleMode	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key	その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value	その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/fallBackConnection	予備接続を、その UUID を使用して設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/fullscreen	1 に設定すると、VMware Horizon View クライアントが起動時に全画面モードで開始されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/hasDesktopIcon	1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。

表 E-11 接続タイプ/view のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/hideMenuBar	1 に設定すると、デスクトップの上部メニューバーが表示されません。このバーは、リモート デバイスを管理したり他のデスクトップを開始したりするために使用します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/iconPosition	固定されたデスクトップアイコンの x,y 座標を設定します。指定されない場合は、浮動アイコンになります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/isInMenu	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/label	ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/lockServer	1 に設定すると、エンド ユーザーがサーバー アドレスを変更できなくなります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/loginfields/domain	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[ドメイン]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/loginfields/password	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[パスワード]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/loginfields/rememberme	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[このアカウントを記憶する]チェック ボックスが表示されます。2 に設定すると、チェック ボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェック ボックスは非表示になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/loginfields/server	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[サーバー]ボックスが表示されます。2 に設定すると、ボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、ボックスは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が使用されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/loginfields/showpassword	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[パスワードを表示する]チェック ボックスが表示されます。2 に設定すると、チェック ボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェック ボックスは非表示になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/loginfields/smartcard	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[スマートカードを使用したログイン]チェック ボックスが表示されます。2 に設定すると、チェック ボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェック ボックスは非表示になります。このオプションが有効になっている場合でも、スマートカードが検出されないときには、このチェック ボックスは表示されないことがあります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/loginfields/username	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[ユーザー名]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/networkCondition	最適なネットワーク条件を選択できます。

表 E-11 接続タイプ/view のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/password	ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のパスワードを設定します。この値は暗号化されます。通常、この設定は、汎用パスワードをログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/preferredProtocol	優先するプロトコルを設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/printerMapping	1 に設定すると、CUPS 経由でローカルで定義されているすべてのプリンターが ThinPrint 経由でリモートホストにリダイレクトされます。0 に設定すると、プリンターのマッピングが無効になります。2 に設定すると、USB プリンターは [USB マネージャー] の構成に従ってリダイレクトされます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/saveCredentials	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/sendCtrlAltDelToVM	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/server	接続するリモートホストのアドレスを設定します。これは通常、[http://server.domain.com] などの URL になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/sessionEndAction	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/singleDesktop	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/smartcard	1 に設定すると、ローカルで接続されているスマートカードがリモートホストに転送され、リモートホスト上でアプリケーションによって使用できるようになります。これによってスマートカードログインが可能になるのはリモートホストだけで、View 接続サーバーへのログインには適用されません。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/startMode	初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/usbAutoConnectAtStartup	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/usbAutoConnectOnInsert	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/useCurrentViewConfig	1 に設定すると、HP スクリプトは新しい/etc/vmware/config ファイルを作成しないで、VMware Horizon View クライアントは現在の/etc/vmware/config ファイルを使用します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/username	ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のユーザー名を設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/viewSecurityLevel	Refuse insecure connection に設定すると、VMware Horizon View クライアントは、View 接続サーバーの SSL 証明書が無効である場合にそのサーバーへの接続をユーザーに許可しません。Warn に設定すると、VMware Horizon View クライアントは、サーバーの証明書が確認できない場合には警告を表示し、その証明書が自己署名証明書であるか期限切れである場合に

表 E-11 接続タイプ/view のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	はユーザーに接続を許可しません。Allow all connections に設定すると、サーバーの証明書は確認されず、どのサーバーへの接続も許可されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/waitForNetwork	1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/attachToConsole	
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/audioLatency	デコード後に、オーディオストリームが再生されてから対応するビデオフレームが表示されるまでの平均オフセット時間 (ミリ秒) を設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/clipboardExtension	1 に設定すると、異なる RDP セッション間、および RDP セッションとローカルシステムの間でクリップボード機能が有効になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/colorDepth	この設定はおすすめしません。この設定が使用されるのは、接続の色深度をネイティブのデスクトップ解像度の色深度より小さくする場合です。これは、ネットワーク帯域幅を削減するためによく使用されます。色深度をビデオドライバーでサポートされていないレベルにまで小さくすると、画面が乱れたり起動に失敗したりする可能性があります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/compression	1 に設定すると、クライアントとサーバーの間で送信される RDP データの圧縮が有効になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/disableMMRwithRFX	1 に設定すると、有効な RemoteFX セッションが確立されたときにマルチメディアリダイレクトが無効になります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/enableMMR	1 に設定すると、マルチメディアリダイレクトアドオンが有効になるため、Windows Media Player で再生されるサポートされたコーデックがクライアントにリダイレクトされます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/frameAcknowledgeCount	サーバーがクライアントからの確認応答を待たずに送信できるビデオフレームの数を設定します。数字を小さくするほど、デスクトップの応答が速くなりますが、フレームレートが下がります。0 に設定すると、クライアントとサーバー間のやり取りで確認応答が行われません。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/general/sendHostname	hostname に設定すると、システムのホスト名がリモートホストに送信されます。これは通常、特定の RDP セッションに関連付けられた Thin Client を識別するために使用されます。このホスト名を上書きするには、接続に固有の設定の sendHostname を使用します。mac に設定すると、最初に利用可能なネットワークアダプターの MAC アドレスがホスト名の代わりに送信されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/hostnameType	hostname に設定すると、システムのホスト名がリモートホストに送信されます。これは通常、特定の RDP セッションに関連付けられた Thin Client を識別するために使用されます。このホスト名を上書きするには、接続に固有の設定の sendHostname を使用します。mac に設定すると、最初に利用可能なネットワークアダプターの MAC アドレスがホスト名の代わりに送信されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/loadBalanceInfo	この値は、接続時にサーバーに送信されるブローカー用の負荷分散 Cookie で、.rdp ファイルの loadbalanceinfo フィールドに対応します。初期設定では、この値は空です。

表 E-11 接続タイプ/view のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/mouseMotionEvents	0 に設定すると、マウス移動イベントがサーバーに送信されません。このため、ツールチップなどの一部のユーザーフィードバックが正しく機能しなくなる可能性があります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/offScreenBitmaps	0 に設定すると、オフスクリーンビットマップが無効になります。これにより、パフォーマンスがわずかに向上する可能性があります。画面を構成する各ブロックが同時に更新されなくなるため、画面が均一に遷移しなくなります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagDesktopComposition	1 に設定すると、サーバーでサポートされている場合に、デスクトップ構成 (半透明の境界線など) が許可されます。デスクトップ構成を無効にすると、帯域幅の低い接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。通常、この設定は RemoteFX のみに影響します。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagFontSmoothing	1 に設定すると、サーバーでサポートされていて有効になっている場合に、フォントスムージングが有効になります。フォントスムージングを無効にすると、帯域幅の低い接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoCursorSettings	1 に設定すると、カーソルの点滅が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoCursorShadow	1 に設定すると、マウスカーソルの影が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoMenuAnimations	1 に設定すると、メニューのアニメーションが無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoTheming	1 に設定すると、ユーザーインターフェイスのテーマが無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoWallpaper	1 に設定すると、デスクトップの壁紙が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/perfFlagNoWindowDrag	1 に設定すると、ドラッグ中のウィンドウの全内容の表示が無効になり、帯域幅の低い RDP 接続でパフォーマンスが向上する可能性があります。ただし、ウィンドウの外枠は表示されます。2 に設定すると、この値は Thin Client のパフォーマンスに基づいて選択されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/portMapping	1 に設定すると、次のシリアルポートおよびパラレルポートがリモートホストにリダイレクトされます: ttyS0、ttyS1、ttyS2、ttyS3、ttyUSB0、lp0。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/printerMapping	1 に設定すると、CUPS 経由でローカルで定義されているすべてのプリンターがリモートホストにリダイレクトされます。

表 E-11 接続タイプ/view のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdp6Buffering	1 に設定すると、画面更新の頻度を下げることにより、RemoteFX 以外のグラフィックスのパフォーマンスを向上させます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdp8Codecs	1 に設定すると、利用できる場合に RDP 8 コーデックが使用されます。RDP 8 コーデックに固有の問題がある場合のみ、この設定を無効にする必要があります。この設定を無効にすると、より高度なコーデックも無効になる場合があります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/rdpEncryption	1 に設定すると、標準の RDP 暗号化が使用され、クライアントとサーバー間のすべてのデータが暗号化されます。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdpH264Codec	1 に設定すると、利用できる場合に RDP 8 H.264 コーデックが使用されます。この設定には既知の表示エラーがあり、特に複数のモニターの構成でエラーが発生します。これは試験的な設定であり、サポートされていません。この設定を有効にしても、Thin Client がデスクトップ表示で H.264 をサポートしていることがサーバーに通知されるだけです。サーバーも H.264 をサポートしている必要があり、どのコーデックを使用するかはサーバー側で最終的に決定されます。この設定はデスクトップ用コーデックにのみ影響します。マルチメディアリダイレクト用コーデックには影響しません。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/rdpProgressiveCodec	1 に設定すると、利用できる場合に RDP 8 プログレッシブコーデックが使用されます。RDP 8 プログレッシブコーデックに固有の問題がある場合のみ、この設定を無効にする必要があります。この設定を無効にすると、より高度なコーデックも無効になる場合があります。
root/ConnectionType/freerdp/connections/<UUID>/redirectPreference	RDP クライアントには、複数のリダイレクト先があります。通常は、FQDN、プライマリ IP、IP 一覧、NetBIOS の順でリダイレクトを試行します。FQDN が目的のリダイレクト先でない場合は、このレジストリキーを設定することで、別のリダイレクト先を最初に試すことが可能になります。指定した方式がうまくいかない場合、RDP クライアントは順序を元に戻します。auto に設定すると、元の順序が強制的に使用されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/remoteFx	1 に設定すると、利用できる場合に RemoteFX が使用されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/sendHostname	リモートホストに送信される Thin Client のホスト名を設定します。空白のままにすると、システムのホスト名が送信されます。このキーを使用するには、レジストリキー root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/general/sendHostname を hostname に設定する必要があります。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/sound	Bring to this computer に設定すると、標準の仮想チャネルを使用してリモートホストからクライアントにサウンドがリダイレクトされます。Leave at remote computer に設定すると、サウンドはリモートホストからリダイレクトされません。リダイレクトされた USB オーディオデバイスを使用するときには、この設定が役立つ可能性があります。他の値に設定すると、オーディオが無効になります。通常は、この値を Bring to this computer に設定して、USB 再生デバイスがリモートホストにリダイレクトされないようにすることをおすすめします。このように設定すると、オーディオ品質が向上し、他の仮想チャネル (マルチメディアリダイレクトなど) でリダイレクトされたクライアントオーディオがローカルのオーディオ設定と一致するようになります。

表 E-11 接続タイプ/view のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/timeoutError	サーバーとの接続が失われてから、再接続を中止するまでの待機時間 (ミリ秒) を設定します。0 に設定すると、再接続が無期限に試行されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/timeoutRecovery	サーバーとの接続が失われてから、強制再接続を試行しないでネットワーク接続の回復を待機する時間 (ミリ秒) を設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/timeoutWarning	サーバーとの接続が失われてから、接続が失われたことをユーザーに警告するまでの待機時間 (ミリ秒) を設定します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/timeoutWarningDialog	1 に設定すると、エンドツーエンド接続の切断が検出されたときに、ダイアログが表示されて画面がグレースケールに変更されます。そうでない場合、メッセージが接続ログに書き込まれ、セッションが停止します。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/timeoutsEnabled	1 に設定すると、エンドツーエンド接続の状態確認が実行されます。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/tlsVersion	RDP サーバーとのネゴシエーションの初期段階で使用される TLS (Transport Layer Security) のバージョンを設定します。RDP サーバーが使用する TLS のバージョンと一致させるか、[auto] に設定してください。  <b>注記:</b> パッチが適用されていない RDP サーバー側に存在する一部の問題により、自動設定が失敗する可能性があるため、[auto] は初期設定になっていません。
root/ConnectionType/view/connections/<UUID>/xfreerdpOptions/xkbLayoutId	システム キーボードをバイパスするための XKB レイアウト ID を設定します。利用可能な ID の一覧を表示するには、X ターミナルで次のコマンドを入力します: xfreerdp --kbd-list。
root/ConnectionType/view/coreSettings/USBrelevant	この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを示します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します。
root/ConnectionType/view/coreSettings/appName	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/view/coreSettings/className	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/view/coreSettings/editor	この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/view/coreSettings/icon	アイコン テーマセットから、この接続に使用するアイコンを指定します。
root/ConnectionType/view/coreSettings/icon16Path	このアプリケーションの 16×16 ピクセル アイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/view/coreSettings/icon32Path	このアプリケーションの 32×32 ピクセル アイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/view/coreSettings/icon48Path	このアプリケーションの 48×48 ピクセル アイコンへのパスを設定します。

表 E-11 接続タイプ/view のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/view/coreSettings/iconActive	将来の使用のために予約されています。
root/ConnectionType/view/coreSettings/label	ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します。
root/ConnectionType/view/coreSettings/priorityInConnectionLists	初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます。
root/ConnectionType/view/coreSettings/serverRequired	サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します。
root/ConnectionType/view/coreSettings/stopProcess	connection_mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します。
root/ConnectionType/view/coreSettings/tier	この接続インターフェイスの相対的重要性および[作成]メニューに表示される順序を指定します。
root/ConnectionType/view/coreSettings/watchPid	1 に設定すると、appName で指定された名前 で接続が監視されます。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/view/coreSettings/wrapperScript	この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/view/coreSettings/wrapperScriptGeneration	接続マネージャーがラッパー スクリプトに渡すパラメーターの種類を指定します。
root/ConnectionType/view/general/enableComPortRedirection	
root/ConnectionType/view/general/rdpOptions	RDP が VMware Horizon View 接続の表示プロトコルとして使用されている場合、ここで指定したオプションが RDP クライアントに直接転送されます。オプションの完全な一覧を表示するには、X ターミナルで次のコマンドを入力します: rdesk top --help。
root/ConnectionType/view/gui/viewManager/name	このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/view/gui/viewManager/status	このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/view/gui/viewManager/title	このレジストリキーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。



表 E-11 接続タイプ/view のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/view/gui/viewManager/widgets/autostart	VMware Horizon View 接続マネージャーでの[自動開始の優先度]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/view/gui/viewManager/widgets/fallBackConnection	VMware Horizon View 接続マネージャーでの[予備接続]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/view/gui/viewManager/widgets/label	VMware Horizon View 接続マネージャーでの[名前]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。

## AVD

AVD のレジストリ キーです。

表 E-12 AVD のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/loginfields/server	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログにサーバー フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が優先されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/loginfields/username	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログにユーザー名 フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が優先されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/loginfields/password	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログにパスワード フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が優先されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/loginfields/showPassword	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログにパスワードを表示するボタンが表示されます。2 に設定すると、ボタンは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、ボタンは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が優先されます。ThinPro 6.2 以降の場合は、システム全体のセキュリティ設定を使用します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/loginfields/domain	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログにドメイン フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールド

表 E-12 AVD のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
	は非表示になります。3 に設定すると、システム設定が優先されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/loginfields/smartcard	1 に設定すると、接続用のログインダイアログにスマートカードを使用したログインチェックボックスが表示されます。2 に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェックボックスは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が優先されます。このオプションが有効になっている場合でも、スマートカードが検出されないときには、このチェックボックスは表示されないことがあります。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/loginfields/domainAwareUsername	1 に設定すると、ドメインフィールドの表示の有無に関係なく、ユーザー名がドメイン対応になります。通常、ユーザー名は電子メールアドレスです。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/loginfields/rememberme	1 に設定すると、接続用のログインダイアログにこのアカウントを記憶するチェックボックスが表示されます。2 に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェックボックスは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が優先されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/seamlessWindow	1 に設定すると、ウィンドウの装飾が無効になり、マルチモニター設定でプライマリモニターまたはフルデスクトップのサイズを接続側で設定できるようにする場合には、この設定を推奨します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/windowType	この設定は、HP Smart Zero では無視されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/windowSizeWidth	固定ウィンドウの幅です。この設定は、HP Smart Zero では無視されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/windowSizeHeight	固定ウィンドウの高さです。この設定は、HP Smart Zero では無視されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/displayScalePercent	パーセントで表示されるディスプレイの拡大率です。範囲は 100% ~ 500% です。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/autofillCredentials	1 に設定すると、資格情報が Microsoft 認証ダイアログで自動的に設定されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/rememberMe	1 に設定すると、資格情報が Microsoft 認証ダイアログで自動的に設定されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/headlessMode	1 に設定すると、Microsoft の認証ダイアログを表示しなくても、使用可能な資格情報を使用して認証が試みられます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/autostartWorkspace	リソースが自動的に開始されるワークスペースを指定します。リソースが自動的に開始する必要はありません。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/autostartResource	自動的に開始されるリソースを指定します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/autoCloseAvdFeed	1 に設定すると、リソースが閉じられた後に、AVD フィードウィンドウが自動的に閉じられます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/disableMenuBar	1 に設定すると、メニューバーがセッションウィンドウに表示されません。

表 E-12 AVD のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/disableDropdown	1 に設定すると、全画面モードで表示されるドロップダウンメニューが表示されなくなります。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/dropdownClose	1 に設定すると、ドロップダウンメニューにウィンドウを閉じるボタンが表示されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/dropdownMaximize	1 に設定すると、ウィンドウを最大化するためのボタンがドロップダウンメニューに表示されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/dropdownMinimize	1 に設定すると、ウィンドウを最小化するためのボタンがドロップダウンメニューに表示されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/dropdownMinimize	1 に設定すると、ウィンドウを最小化するためのボタンがドロップダウンメニューに表示されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/dropdownCtrlAltD	1 に設定すると、ドロップダウンメニューに <b>Ctrl + Alt + Delete</b> がキーボードショートカットとして表示されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/localTimezone	1 に設定すると、セッションのタイムゾーンがローカルシステムのタイムゾーンに基づいて設定されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/audioOut	1 に設定すると、AVD 接続を介したオーディオの再生が有効になります。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/audioIn	1 に設定すると、AVD 接続を介したオーディオ録音 (マイク) が有効になります。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/filesystem	0 に設定すると、ファイルシステムのリダイレクトが無効になります。1 の場合は、filesystemList の一覧がリダイレクトされます。2 の場合は、リムーバブルメディアのファイルシステムのみがリダイレクトされます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/filesystemList	filesystem が 1 の場合の、リダイレクトされたディレクトリのカンマ区切りリストです。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/scRedirection	1 に設定すると、この AVD 接続でスマートカードにアクセスできます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/clipboard	0 の場合は、AVD クリップボードは ThinPro と共有されません。1 の場合は、クリップボードはすべての ThinPro アプリケーションと共有されます。2 の場合は、クリップボードは AVD セッション間でのみ共有されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/virtual	1 に設定すると、AVD 仮想チャンネルが有効になります。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/camera	1 に設定すると、AVD 接続でカメラにアクセスできます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/ExtraArgs	AVD クライアントに対する追加の引数を指定します。利用可能なすべての引数を表示するには、X ターミナルから <code>wvd-fee d --help</code> を実行します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/authorizations/user/edit	1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。

表 E-12 AVD のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/authorizations/user/execution	1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/waitForNetwork	1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/autoReconnect	1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/autostartDelay	システムの起動後に接続が開始されるまで待機する時間 (秒) を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が開始されます。この設定は、「autostart」が 1 に設定されている場合にのみ有効です。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/autoReconnectDelay	セッションが再接続されるまで待機する時間 (秒) を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が再開されます。この設定は、「autoReconnect」が 1 に設定されている場合にのみ有効です。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/forbiddenFiles	このレジストリキーは、Web Browser 接続の全般設定マネージャーで接続ごとに個別の設定を保存することを許可するが選択されている場合にのみ有効になります。このレジストリキーの値で指定されているファイルが、Web Browser 接続の開始前に削除されます。ファイル名はコンマで区切ってください。また、ワイルドカードを使用できます。たとえば、以下のように指定します。*.rdf,cookies.sqlite
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key	その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value	その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/credentialsType	シングルサインオンによって資格情報を提供するか、起動時に要求するか、または事前に構成されたユーザー、ドメイン、およびパスワードとして提供するかどうかを指定します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/username	ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のユーザー名を設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/domain	credentialsType がパスワードの場合、この設定により、ログイン時に初期設定のドメインがリモートホストに提供されます。ドメインが指定されていない場合は、リモートホストの初期設定のドメインが使用されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/SingleSignOn	有効にすると、スクリーンセーバーのロックを解除するために使用される、RDP 接続のユーザー、ドメイン、およびパスワードの組み合わせが保存されます
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/password	ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のパスワードを設定します。この値は暗号化されます。通常、この設定は、汎用パスワードをログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/workspaceURL	wvd に提供される Workspace の URL を設定します。URL が指定されていない場合は、AVD の初期設定の URL が使用されません。

表 E-12 AVD のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/allowInsecureConnections	1 に設定すると、安全でない接続の続行が許可されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/securityLevelclcl	証明書のセキュリティ レベルを設定します。0 に設定すると、すべての接続が許可されます。1 に設定すると、記録されているホストが確認され、検証に合格しなかった場合は警告ダイアログが表示されます。2 に設定すると、記録されているホストは確認されず、検証に合格しなかった場合は警告ダイアログが表示されます。3 に設定すると、安全でない接続はすべて拒否されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/coord	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値を変更しないでください。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/autostart	1 ~ 5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます (1 の値が最も高い優先度になります)。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/dependConnectionId	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値を変更しないでください。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/fallBackConnection	予備接続を、その UUID を使用して設定します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/hasDesktopIcon	1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/startMode	初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/label	ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/iconPosition	固定されたデスクトップアイコンの場合は、x,y のペアリングです。浮動アイコンの場合は、この文字列を空白のままにします。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/afterStartedCommand	接続が開始された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/afterStoppedCommand	接続が停止された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/beforeStartingCommand	接続が開始される前に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/wvd/connections/<UUID>/connectionEndAction	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値を変更しないでください。

xdmcp

XDMCP のレジストリ キーです。

表 E-13 XDMCP のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/xdmcp/authorizations/ user/add	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/xdmcp/authorizations/ user/general	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/address	接続先のホスト名または IP アドレスを設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/afterStartedCommand	接続が開始された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/afterStoppedCommand	接続が停止された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/authorizations/user/edit	1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/authorizations/user/execution	1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/autoReconnect	1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/autostart	1~5 の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます (1 の値が最も高い優先度になります)。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/beforeStartingCommand	接続が開始される前に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/color	その接続のディスプレイの色深度を設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/connectionEndAction	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/coord	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/dependConnectionId	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key	その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value	その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/ <UUID>/fallBackConnection	予備接続を、その UUID を使用して設定します。

表 E-13 XDMCP のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/fontServer	使用するフォント サーバーのアドレスを設定します。レジストリ キー useFontServer も 1 に設定する必要があります。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/hasDesktopIcon	1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/iconPosition	固定されたデスクトップアイコンの x,y 座標を設定します。指定されない場合は、浮動アイコンになります。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/isInMenu	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/label	ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/loginfields/server	1 に設定すると、接続用のログインダイアログに[サーバー]ボックスが表示されます。2 に設定すると、ボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、ボックスは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が使用されます。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/refreshRate	その接続用のディスプレイのリフレッシュレートを設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/startMode	初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/type	XDMCP 接続インターフェイスを設定します。chooser に設定すると、使用できるすべてのホストが一覧表示され、接続するホストをユーザーが選択できるようになります。query に設定すると、XDMCP 要求が指定されたホストに直接送信されます。broadcast に設定すると、使用できるすべてのホストが一覧表示され、最初のホストが自動的に接続されます。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/useFontServer	1 に設定すると、フォント サーバーが有効になります。0 に設定すると、ローカルフォントが使用されます。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/waitForNetwork	1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります。
root/ConnectionType/xdmcp/connections/<UUID>/windowSize	接続のウィンドウサイズを設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/USBrelevant	この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/appName	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/audio	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。

表 E-13 XDMCP のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/className	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/desktopButton	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/editor	この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/generalSettingsEditor	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/icon	アイコン テーマセットから、この接続に使用するアイコンを指定します。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/icon16Path	このアプリケーションの 16×16 ピクセル アイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/icon32Path	このアプリケーションの 32×32 ピクセル アイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/icon48Path	このアプリケーションの 48×48 ピクセル アイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/iconActive	将来の使用のために予約されています。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/label	ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/priorityInConnectionLists	初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいくほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/serverRequired	サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/stopProcess	connection-mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/tier	この接続インターフェイスの相対的重要性および[作成]メニューに表示される順序を指定します。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/watchPid	1 に設定すると、appName で指定された名前前で接続が監視されます。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/coreSettings/wrapperScript	この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプ



表 E-13 XDMCP のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	ライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/name	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/status	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/title	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/address	XDMCP 接続マネージャーでの[アドレス]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/autoReconnect	XDMCP 接続マネージャーでの[自動再接続]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/autostart	XDMCP 接続マネージャーでの[自動開始の優先度]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/color	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/fontServer	XDMCP 接続マネージャーでの[フォントサーバー]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/hasDesktopIcon	XDMCP 接続マネージャーでの[デスクトップにアイコンを表示]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/isInMenu	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/label	XDMCP 接続マネージャーでの[名前]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示に

表 E-13 XDMCP のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	なります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/refreshRate	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/type	XDMCP 接続マネージャーでの[種類]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/useFontServer	XDMCP 接続マネージャーでの[フォントサーバーを使用する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/waitForNetwork	XDMCP 接続マネージャーでの[接続前にネットワークを待機する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xdmcp/gui/XdmcpManager/widgets/windowSize	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。

## xen

接続タイプ/xen のレジストリ キーです。

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/xen/authorizations/user/add	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの種類の新しい接続を追加するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/xen/authorizations/user/general	1 に設定すると、接続マネージャーを使用してこの接続インターフェイスの全般設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/SingleSignOn	1 に設定すると、接続時に資格情報がスクリーンセーバーと共有されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/address	接続するリモートホストのアドレスを設定します。これは通常、「http://server.domain.com」などの URL になります。

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/afterStartedCommand	接続が開始された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/afterStoppedCommand	接続が停止された後に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/allowSaveConnInfo	
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/appInMenu	1 に設定すると、この接続のすべてのアプリケーションがタスクバー メニューに表示されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/appInWindowOrOnDesktop	1 に設定して appOnDesktop を有効にすると、この接続のすべてのアプリケーションがフローカー ウィンドウに表示されます。0 に設定すると、この接続のアプリケーションはデスクトップに直接表示されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/appOnDashboard	1 に設定すると、この接続のすべてのアプリケーションがタスクバーに表示されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/appOnDesktop	1 に設定すると、この接続のすべてのアプリケーションがデスクトップに表示されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/authorizations/user/edit	1 に設定すると、この接続用の接続設定を変更するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/authorizations/user/execution	1 に設定すると、この接続を実行するためのアクセス権がエンドユーザーに付与されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoLaunchSingleApp	1 に設定すると、Citrix サーバーから単一の公開されたアプリケーションまたはデスクトップのみが返された場合に、そのリソースが自動的に起動されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoReconnect	1 に設定すると、接続が終了または切断されたときにその接続を再開します。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoReconnectAppsOnLogin	1 に設定すると、最初のログインのときにアクティブまたは切断された Citrix セッションへの再接続をシステムが試みます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoReconnectDelay	セッションが再接続されるまで待機する時間 (秒) を設定します。初期値の 0 では、すぐに接続が再開されます。この設定は、autoReconnect が 1 に設定されている場合にのみ有効です。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoRefreshInterval	リソースをクリアしてサーバーからもう一度更新するまでの時間を秒単位で設定します。無効にするには-1 に設定します。通常、サーバーからのリソースの更新を頻繁に行う必要はありません。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoStartDesktop	1 に設定すると、autoStartResource が空の場合、利用できる最初のデスクトップが接続開始時に自動的に起動されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoStartResource	接続が開始されるときに自動的に起動されるデスクトップまたはアプリケーションの名前を設定します。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autoStartWithGuessing	1 に設定すると、接続は最初に autoStartDesktop または autoStartResource を起動しようとします。どちらも正常に起動

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	できない場合は、推測によって別のリソースを起動しようとします。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autostart	1~5の値に設定すると、システムの起動後に接続が自動的に開始されます (1の値が最も高い優先度になります)。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/autostartDelay	将来の使用のために予約されています。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/beforeStartingCommand	接続が開始される前に実行するコマンドを設定します。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/connectionMode	接続用の Citrix 接続モードを設定します。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/connectionStopAction	接続マネージャーで接続を終了するときに行われる動作を定義します。disconnect または logoff に設定できます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/continueWithNewPassword	1に設定すると、パスワードをリセットした後、新しいパスワードを使用して接続を続けます。0に設定すると、パスワードをリセットした後、現在の接続を閉じます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/coord	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/credentialsType	anonymous (非認証アクセス)、sso (シングルサインオン)、startup (開始時に資格情報を要求)、password (事前に設定されたユーザー/ドメイン/パスワード)、または smartcard (事前に設定されたスマート カード) の中から資格情報の種類を指定します。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/dependConnectionId	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/domain	XenDesktop サーバーに送信するドメインを設定します。ドメインが指定されていない場合は、サーバーの初期設定のドメインが使用されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/enableRSAToken	<b>注意:</b> この機能はサポートされていません。 1に設定すると、接続時に、NetScaler Gateway で認証するときに使用するセキュリティ トークンの値を求められます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/key	その接続で使用する追加の環境変数の名前を設定します。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/extraEnvValues/<UUID>/value	その接続で使用する追加の環境変数の値を設定します。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/fallBackConnection	予備接続を、その UUID を使用して設定します。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/folder	
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/forceHttps	1に設定すると、HTTPS 接続のみが許可されます。

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/fullscreen	1 に設定すると、Citrix クライアントが起動時に全画面モードで開始されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/hasDesktopIcon	1 に設定すると、この接続のデスクトップアイコンが有効になります。このキーは、HP Smart Zero には影響しません。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/iconPosition	固定されたデスクトップアイコンの x,y 座標を設定します。指定されない場合は、浮動アイコンになります。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/ignoreCertCheck	1 に設定すると、証明書のチェックがその接続で無視されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/label	ユーザー インターフェイスに表示される接続名を設定します。HP Smart Zero では、これは通常 Default Connection に設定され、ユーザー インターフェイスには表示されません。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/logOnMethod	
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/loginfields/domain	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[ドメイン]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/loginfields/password	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[パスワード]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/loginfields/rememberme	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[このアカウントを記憶する]チェックボックスが表示されます。2 に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェックボックスは非表示になります。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/loginfields/server	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[サーバー]ボックスが表示されます。2 に設定すると、ボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、ボックスは非表示になります。3 に設定すると、システム設定が使用されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/loginfields/showpassword	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[パスワードを表示する]ボタンが表示されます。2 に設定すると、ボタンは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、ボタンは非表示になります。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/loginfields/smartcard	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[スマートカードを使用したログイン]チェックボックスが表示されます。2 に設定すると、チェックボックスは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、チェックボックスは非表示になります。このオプションが有効になっている場合でも、スマートカードが検出されないときには、このチェックボックスは表示されないことがあります。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/loginfields/username	1 に設定すると、接続用のログイン ダイアログに[ユーザー名]フィールドが表示されます。2 に設定すると、フィールドは表示されますが、無効になります。0 に設定すると、フィールドは非表示になります。

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/password	ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のパスワードを設定します。この値は暗号化されます。通常、この設定は、汎用パスワードをログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/resListRequest	1 に設定すると、接続時にリソースの一覧のみが表示され、リソースの起動およびアイコンのダウンロードは行われません。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/saveNewUrl	これは内部的に使用される値です。ToBeAsked に設定すると、スクリプトからユーザーにメッセージが表示されます。Auto に設定すると、スクリプトからユーザーにメッセージが表示されず、URL が保存されるかどうかは状況によって変わります。Yes に設定すると、ユーザーは新しい URL を保存するよう求められます。No に設定すると、ユーザーは新しい URL を保存しないよう求められます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/savePassword	
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/smartCardModuleKey	スマートカードの接続に使用するセキュリティモジュールを指定します。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/startMode	初期設定の focus に設定していて、すでに接続が開始されている場合、その接続にフォーカスされます。それ以外の場合は、接続がすでに開始されていることを示すエラーが返されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/subscribedOnly	1 に設定すると、その接続用のサブスクリプション済みリソースのみが表示されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/unplugSmartCardAction	接続中にスマートカードが取り出されたときに実行する動作を設定します。disconnect に設定すると、現在のセッションが切断されます。close に設定すると、開いているすべてのリソースが閉じられます。noaction に設定すると、何も行われません。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/useCurrentCitrixConfig	
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/username	ログイン時にリモートホストに送信する初期設定のユーザー名を設定します。通常、この設定は、汎用ユーザー名をログインに使用するキオスクスタイルのアプリケーションで使用されます。
root/ConnectionType/xen/connections/<UUID>/waitForNetwork	1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/USBrelevant	この接続インターフェイスが USB リダイレクトと関連があるかどうかを指定します。関連がある場合は、USB デバイスをリダイレクトするための USB プラグインが存在します。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/appName	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/autoLogoutDelayAfterLaunch	この設定は、公開されたリソースが複数ある Citrix サーバーに適用されます。0 未満にすると、自動ログアウトは実行されません。それ以外の場合、この設定は、最後に Xen に公開されたリソースが終了してから、自動的にユーザーがログアウトされて最初のログイン画面に戻るまでの秒数を指定しま

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	す。Citrix の処理の遅延により、自動ログアウトの時間が延長される場合があります。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/ autoLogoutDelayBeforeLaunch	この設定は、公開されたリソースが複数ある Citrix サーバーに適用されます。0 未満にすると、自動ログアウトは実行されません。それ以外の場合、この設定は、アプリケーションが起動されない状態で、自動的にユーザーがログアウトされて最初のログイン画面に戻るまでの、許容される経過秒数を指定します。Citrix の処理の遅延により、自動ログアウトの時間が延長される場合があります。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/ className	この接続インターフェイスで使用する内部アプリケーションクラス名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/ connectionUtil	その接続用に Citrix 接続ユーティリティを設定します。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/ credsCache	接続マネージャーが後から使用するために資格情報をキャッシュするかどうかを指定します。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/editor	この接続インターフェイス用の接続マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/ generalSettingsEditor	この接続インターフェイス用の全般設定マネージャーを起動するときに使用する内部アプリケーション名を設定します。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/icon	アイコンテーマセットから、この接続に使用するアイコンを指定します。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/ icon16Path	このアプリケーションの 16×16 ピクセルアイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/ icon32Path	このアプリケーションの 32×32 ピクセルアイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/ icon48Path	このアプリケーションの 48×48 ピクセルアイコンへのパスを設定します。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/ iconActive	将来の使用のために予約されています。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/label	ユーザー インターフェイスに表示されるこの接続インターフェイスの名前を設定します。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/ priorityInConnectionLists	初回セットアップ時に表示される接続マネージャーおよび設定ウィザードにこの接続インターフェイスを表示する優先度を設定します。値が大きいほど、接続インターフェイスは一覧の上に移動します。0 に設定すると、接続インターフェイスは設定ウィザードに表示されず、接続マネージャーの末尾に表示されます。同じ優先度の接続インターフェイスは、アルファベット順に一覧表示されます。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/ retryTimeout	この設定は、仮想マシンが再起動中で、Citrix のリソースとしてまだ起動できない場合に適用されます。負の数に設定すると、再接続は試行されません。それ以外の場合、HP ThinPro で仮想マシンへの再接続を試行する時間 (秒) が指定されます。

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/xen/coreSettings/serverRequired	サーバー名またはアドレスがこの接続インターフェイスに使用されないか (unused)、オプションであるか (optional)、または必須であるか (required) を設定します。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/stopProcess	connection-mgr stop がこの接続で呼び出されたときに実行される動作を設定します。初期設定では、これは close で、標準の KILL シグナルをプロセスに送信します。kill に設定すると、appName で指定されたプロセスが強制的に停止されます。custom に設定すると、wrapperScript で指定されたカスタム実行スクリプトが stop という引数で実行され、プロセスを正しく終了します。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/tier	この接続インターフェイスの相対的重要性および[作成]メニューに表示される順序を指定します。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/watchPid	1 に設定すると、appName で指定された名前で見守りが監視されます。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/wrapperScript	この接続インターフェイスが開始されたときに実行するスクリプトまたはバイナリを設定します。これは、この接続用のすべての接続設定およびコマンドライン引数を処理するプライマリスクリプトです。このキーは変更しないでください。
root/ConnectionType/xen/coreSettings/wrapperScriptGeneration	接続マネージャーがラッパー スクリプトに渡すパラメーターの種類を指定します。
root/ConnectionType/xen/general/CGPAddress	構文 hostname:port を使用して CGP アドレスを指定します。  必要に応じて、ホスト名を指定する代わりに、アスタリスク (*) を入力できます。これにより、接続の address レジストリ キーからの値がホストとして使用されます。たとえば、以下のように指定します。*:2598  ポート値は省略可能です。ポート値を指定しなかった場合は、初期設定の 2598 が使用されます。ポート 2598 での接続に失敗した場合、Thin Client はポート 1494 で接続を確立しようとします。
root/ConnectionType/xen/general/TWIMode	公開アプリケーションのシームレス モードを制御します。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます: TWIMode。
root/ConnectionType/xen/general/TWIModeResizeType	この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます: TWIMoveResizeType。
root/ConnectionType/xen/general/allowReadOnA ... allowReadOnZ	1 に設定すると、ユーザーはマッピングされたドライブを読み取ることができます。
root/ConnectionType/xen/general/allowWriteOnA ... allowWriteOnZ	1 に設定すると、ユーザーはマッピングされたドライブに書き込むことができます。
root/ConnectionType/xen/general/async	1 に設定すると、非同期ポーリングが有効になります。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます: CommPollSize。
root/ConnectionType/xen/general/autoReconnect	1 に設定すると、自動セッション再接続が有効になります。これは、接続に固有の自動接続と同じではありません。これは、接続を再開しないで Citrix クライアント内で内部的に行われます。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます: TransportReconnectEnabled。



表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/xen/general/ bitmapCacheSize	キャッシュするビットマップの最小サイズを設定します。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます : PersistentCacheMinBitmap。
root/ConnectionType/xen/general/ bottomMonitor	下のモニターの画面領域に仮想デスクトップを表示するように設定します。0 に設定すると、モニターは仮想デスクトップの表示に使用されません。
root/ConnectionType/xen/general/colorDepth	すべての接続に対して特定の色深度を強制します。これは通常、深度の自動選択ができない特殊な環境か、または速度の非常に遅いネットワークで過密状態を緩和する場合にのみ行われます。
root/ConnectionType/xen/general/colorMapping	Shared - Approximate Colors に設定すると、初期設定のカラーマップから近似色が使用されます。Private - Exact Colors に設定すると、正確な色が使用されます。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます : ApproximateColors。
root/ConnectionType/xen/general/ contentRedirection	1 に設定すると、Web コンテンツからのリンクがサーバーからクライアントに送信され、クライアントがそのリンクをローカルで開いてみるすることができます。
root/ConnectionType/xen/general/ debugLogLevel	0 に設定すると、デバッグ ログは作成されません。3 に設定すると、エラー レベルのログが作成されます。4 に設定すると、警告レベルのログが作成されます。7 に設定すると、すべてのデバッグ レベルのログが作成されます。
root/ConnectionType/xen/general/ defaultBrowserProtocol	接続用のホストを探すときに使用するプロトコルを調整します。指定しない場合、wfclient.ini の WFClient セクションの初期設定値が使用されます。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます : BrowserProtocol。
root/ConnectionType/xen/general/ drivePathMappedOnA ... drivePathMappedOnZ	リモート ホストにマッピングされるローカルファイルシステムのディレクトリを設定します。通常、これは /media に設定されており、接続されているすべての USB ドライブを単一のドライブ文字経由でリモート ホストにマッピングできます。
root/ConnectionType/xen/general/ enableAlertSound	1 に設定すると、Windows の警告音が有効になります。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に間接マッピングされます : DisableSound。
root/ConnectionType/xen/general/ enableClipboard	1 に設定すると、クリップボードのリダイレクトが有効になります。
root/ConnectionType/xen/general/ enableConnectionBar	1 に設定すると、セッションのユーザー インターフェイスで Citrix Desktop Viewer が有効になります。初期設定では、クライアント側で 0 (無効) に設定されています。この値は、デスクトップセッションの ICA ファイルによってクライアント上で設定されるものです。
root/ConnectionType/xen/general/ enableCursorColors	1 に設定すると、色付きのカーソルが有効になります。この設定を 0 にすると、カーソルの表示の問題が解決する場合があります。
root/ConnectionType/xen/general/ enableDataCompression	1 に設定すると、データ圧縮が有効になります。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます : Compress。
root/ConnectionType/xen/general/ enableDriveMapAndRedirect	1 に設定すると、USB 記憶装置のマッピングおよびリダイレクトが有効になります。

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/xen/general/ enableDriveMapping	1 に設定すると、ローカルファイルシステム上のディレクトリを仮想ドライブ経由でリモートホストに転送できます。通常は、/media を Z にマッピングして USB ドライブをリモートホストに転送できるようにします。USB リダイレクトが有効になっている場合は、この設定を無効にして記憶装置が競合しないようにする必要があります。この方法でリモートホストに正しくマッピングするには、USB デバイスが次のどれかのファイルシステムを使用している必要があります：FAT32、NTFS、ext2、ext3。
root/ConnectionType/xen/general/ enableDynamicDriveMapping	1 に設定すると、USB 記憶装置が Citrix サーバー上で動的にマッピングされるようになります。0 に設定すると、USB 記憶装置の動的マッピングが無効になります。
root/ConnectionType/xen/general/ enableH264Compression	1 に設定すると、H.264 圧縮が有効になります。H.264 コーデックでは、JPEG コーデックと比べて、WAN ネットワークでのリッチな専門的グラフィックスアプリケーションのパフォーマンスが向上します。
root/ConnectionType/xen/general/ enableHDXFlashRedirection	<b>注記：</b> この機能は 32 ビットバージョンの HP ThinPro でのみサポートされています。  HDX フラッシュ リダイレクトの動作を制御します。Always に設定すると、使用可能な場合に HDX フラッシュ リダイレクトが使用され、ユーザーは使用するかどうかを尋ねられません。Ask に設定すると、ユーザーは使用するかどうかを尋ねられます。Never に設定すると、この機能が無効になります。
root/ConnectionType/xen/general/ enableHDXFlashServerContentFetch	<b>注記：</b> この機能は 32 ビットバージョンの HP ThinPro でのみサポートされています。  HDX Flash サーバー側コンテンツフェッチの動作を制御します。無効にすると、クライアントはコンテンツをフェッチするようになります。
root/ConnectionType/xen/general/ enableHDXMediaStream	1 に設定すると、[HDX MediaStream]が有効になります。0 に設定すると、メディアファイルを標準のストリーミングで再生できますが、品質がそれほど良くならない可能性があります。
root/ConnectionType/xen/general/enableHWH264	1 に設定し、さらに enableH264Compression を 1 に設定すると、ハードウェアでの H.264 圧縮が有効になります。0 に設定すると、H.264 圧縮はソフトウェアで処理されるようになります。
root/ConnectionType/xen/general/ enableMapOnA ... enableMapOnZ	1 に設定すると、ローカルファイルシステム上のディレクトリをリモートホスト上のこのドライブにマッピングできます。ドライブマッピングを正しく動作させるには、対応するレジストリキー、drivePathMappedOn を有効なローカルディレクトリに設定する必要があります。
root/ConnectionType/xen/general/ enableMultiMedia	1 に設定すると、マルチメディアが有効になります。この設定を有効にすると、HDX Lync が競合する場合があります。この設定は、Citrix.ini ファイル設定の仮想チャンネルセクションで指定されたマルチメディアに直接マッピングされます。[HDX MediaStream]が有効になっている場合は、この設定も有効にします。
root/ConnectionType/xen/general/ enableOffScreenSurface	1 に設定すると、サーバーがオフスクリーンの描画に X PixMap 形式を使用できます。これにより、15 ビット色および 24 ビット色モードで帯域幅が減少しますが、X Server のメモリおよびプロセッサの負荷に影響します。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます：EnableOSS。

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/xen/general/ enableRC4128SHA	
root/ConnectionType/xen/general/enableRC4MD5	
root/ConnectionType/xen/general/ enableSessionReliability	1 に設定すると、Citrix のセッション画面の保持機能が有効になります。セッション画面の保持機能は、ネットワーク接続が失われた後にセッションが再開される方法を変更します。セッション画面の保持機能について詳しくは、Citrix のドキュメントを参照してください。
root/ConnectionType/xen/general/ enableSmallFrames	1 に設定すると、H.264 使用時に、小さな四角形の更新には H.264 を使用しないようになります。この設定を有効にするには、enableTextTracking も有効にする必要があります。
root/ConnectionType/xen/general/ enableSmartCard	1 に設定すると、スマートカードログインが有効になります。
root/ConnectionType/xen/general/enableTLRSRSA	
root/ConnectionType/xen/general/ enableTextTracking	1 に設定すると、最適化された無劣化のテキストオーバーレイが H.264 で有効になります。
root/ConnectionType/xen/general/ enableUSBRedirection	1 に設定すると、USB 記憶装置がリダイレクトされます。
root/ConnectionType/xen/general/ encryptionLevel	暗号化レベルを設定します。すべてのレベルの暗号プロトコルは、module.ini の EncryptionLevelSession セクションに定義されています。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定の EncryptionLevelSession に直接マッピングされます。
root/ConnectionType/xen/general/ fontSmoothingType	フォント スムージングタイプを設定します。
root/ConnectionType/xen/general/hotKey<1~ 15>Char	対応する hotKeyShift で設定されたキーまたはキーの組み合わせが押されたときにホットキーをリモートセッションに転送するように設定します。
root/ConnectionType/xen/general/hotKey<1~ 15>Shift	対応する hotKeyChar で設定されたホットキーを有効にするために使用されるキーまたはキーの組み合わせを設定します。
root/ConnectionType/xen/general/ httpAddresses/<UUID>/address	
root/ConnectionType/xen/general/ keyPassthroughEscapeChar	透過キーボードモードを無効にするキーボードのキーを設定します。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます : KeyPassthroughEscapeChar。
root/ConnectionType/xen/general/ keyPassthroughEscapeShift	透過キーボードモードを無効にするキーボードのキーの組み合わせを設定します。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます : KeyPassthroughEscapeShift。
root/ConnectionType/xen/general/ keyboardMappingFile	Citrix セッションのキーボードマッピングファイルを指定します。初期設定では、キーボードレイアウトに基づいて起動スクリプトによってキーボードマッピングファイルが選択されます。

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/ConnectionType/xen/general/ lastComPortNum	マッピングするシリアルポートの数を設定します。0 に設定すると、シリアルポートのマッピングが無効になります。
root/ConnectionType/xen/general/leftMonitor	左のモニターの画面領域に仮想デスクトップを表示するように設定します。0 に設定すると、モニターは仮想デスクトップの表示に使用されません。
root/ConnectionType/xen/general/ localTextEcho	キーボードの遅延時間を調整します。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に間接マッピングされます: ZLKeyboardMode。
root/ConnectionType/xen/general/ monitorNetwork	Off に設定すると、ネットワーク接続が監視されません。Local network link status only に設定すると、ローカルネットワークリンクのステータスのみが監視されます。Server online status に設定すると、ローカルネットワークリンクのステータスとサーバー接続の両方が監視されます。
root/ConnectionType/xen/general/ mouseClickFeedback	マウスの遅延時間を調整します。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に間接マッピングされます: ZLMouseMode。
root/ConnectionType/xen/general/ mouseMiddleButtonPaste	1 に設定すると、Windows セッションでマウスの中ボタンのペーストエミュレーションが有効になります。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます: MouseSendsControlV。
root/ConnectionType/xen/general/noInfoBox	1 に設定すると、クライアントセッションが終了したときにクライアントマネージャー (wfcmgr) が表示されないようになります。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます: PopupOnExit。
root/ConnectionType/xen/general/ printerAutoCreation	0 に設定すると、プリンターのマッピングが無効になります。1 に設定すると、ローカルで定義されているプリンターが接続にマッピングされます。2 に設定すると、USB プリンターは[USB マネージャー]の構成に従ってリダイレクトされます。
root/ConnectionType/xen/general/proxyAddress	手動プロキシ設定が proxyType で選択されている場合に使用するプロキシアドレスを設定します。
root/ConnectionType/xen/general/ proxyPassword	手動プロキシ設定が proxyType で選択されている場合に使用するプロキシパスワードを設定します。このパスワードは RC4 暗号化を使用して暗号化されます。
root/ConnectionType/xen/general/proxyPort	手動プロキシ設定が proxyType で選択されている場合に使用するプロキシポートを設定します。
root/ConnectionType/xen/general/proxyType	XenDesktop 接続に使用するプロキシの種類を設定します。値 Use Browser settings は、ローカルブラウザがインストールされている場合にのみサポートされます。
root/ConnectionType/xen/general/proxyUser	手動プロキシ設定が proxyType で選択されている場合に使用するプロキシユーザー名を設定します。
root/ConnectionType/xen/general/rightMonitor	右のモニターの画面領域に仮想デスクトップを表示するように設定します。0 に設定すると、モニターは仮想デスクトップの表示に使用されません。
root/ConnectionType/xen/general/saveLogs	1 に設定すると、セッション終了後に詳細なログ情報が保存されます。このログ情報は次のディレクトリに保存されます: /tmp/debug/citrix/<日付>/
root/ConnectionType/xen/general/selfservice/ disableConfigMgr	1 に設定すると、セッション共有要求が同じ X ディスプレイ上で他の Citrix セッションに送信されます。この設定は、次の

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	Citrix .ini ファイル設定に直接マッピングされます : EnableSessionSharingClient。
root/ConnectionType/xen/general/selfservice/disableConnectionCenter	
root/ConnectionType/xen/general/selfservice/enableKioskMode	
root/ConnectionType/xen/general/selfservice/sharedUserMode	
root/ConnectionType/xen/general/selfservice/showTaskBarInKioskMode	
root/ConnectionType/xen/general/serverCheckTimeout	
root/ConnectionType/xen/general/sessionReliabilityTTL	セッションの信頼性のタイムアウトを秒単位で指定します。これによって、セッションの信頼性の TTL (Time to Live) が設定されます。
root/ConnectionType/xen/general/showOnAllMonitors	1 に設定すると、仮想デスクトップがすべてのモニター上に表示されます。
root/ConnectionType/xen/general/smartCardModuleMap/CoolKeyPK11	CoolKey PKCS #11 スマートカードセキュリティ モジュールへのパスを指定します。
root/ConnectionType/xen/general/smartCardModuleMap/GemaltoDotNet	Gemalto .NET スマートカードセキュリティ モジュールへのパスを指定します。
root/ConnectionType/xen/general/sound	音質を設定します。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に間接マッピングされます : AudioBandwidthLimit。
root/ConnectionType/xen/general/speedScreen	
root/ConnectionType/xen/general/tcpAccel	
root/ConnectionType/xen/general/tcpAddresses/<UUID>/address	
root/ConnectionType/xen/general/topMonitor	上のモニターの画面領域に仮想デスクトップを表示するように設定します。0 に設定すると、モニターは仮想デスクトップの表示に使用されません。
root/ConnectionType/xen/general/transparentKeyPassthrough	一部の Windows キーの組み合わせを処理する方法を制御します。Translated に設定すると、キーの組み合わせがローカル デスクトップに適用されます。Direct in full screen desktops only に設定すると、全画面モードのときにのみ、キーの組み合わせがリモートセッションに適用されます。Direct に設定すると、ウィンドウにフォーカスがあるときは常にキーの組み合わせがリモートセッションに適用されます。この設定は、次の Citrix .ini ファイル設定に間接マッピングされます : TransparentKeyPassthrough。
root/ConnectionType/xen/general/transportProtocol	トランスポートプロトコルを設定します。On (初期設定) に設定すると、接続は UDP を使用し、障害時に TCP にフォールバックしません。Off に設定すると、接続は TCP を使用しま

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
	す。Preferred に設定すると、接続は最初に UDP の使用を試行し、障害時には TCP にフォールバックします。
root/ConnectionType/xen/general/twRedundantImageItems	Thinwire で追跡される画面領域の数を調整し、ビットマップ画像が冗長表示されないようにします。1024×768 のセッションの場合、適切な値は 300 です。
root/ConnectionType/xen/general/useAlternateAddress	1 に設定すると、ファイアウォール接続に代替アドレスが使用されます。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます: UseAlternateAddress。
root/ConnectionType/xen/general/useBitmapCache	1 に設定すると、永続ディスク キャッシュが有効になります。永続ディスク キャッシュには、Thin Client のハードディスク上のビットマップなど、頻繁に使用するグラフィカルオブジェクトが保存されます。永続ディスク キャッシュを使用すると、帯域幅の低い接続でパフォーマンスが向上しますが、Thin Client 上の使用可能なディスク領域が減少します。高速な LAN に接続している Thin Client では、永続ディスク キャッシュを利用する必要はありません。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます: PersistentCacheEnabled。
root/ConnectionType/xen/general/useEUKS	Windows サーバー上での拡張 Unicode キーボードサポート (EUKS: Extended Unicode Keyboard Support) の使用を制御します。0 に設定すると、EUKS は使用されません。1 に設定すると、EUKS はフォールバックとして使用されます。2 に設定すると、使用可能な場合は常に EUKS が使用されます。
root/ConnectionType/xen/general/useLocalIME	この設定を有効にすると、ローカルの X 入力方式を使用してキーボード入力が処理されます。このオプションは、ヨーロッパ言語でのみサポートされています。この設定は、次の Citrix.ini ファイル設定に直接マッピングされます: useLocalIME。
root/ConnectionType/xen/general/userAgent	このキーから入力された文字列が Citrix クライアントによって表示されるようになるため、接続要求がどこから行われたのかを管理者が把握するときに役立ちます。
root/ConnectionType/xen/general/waitForNetwork	1 に設定すると、ネットワークが利用できるようになるまで接続が開始されなくなります。これにより、速度の遅いネットワークでは、ネットワークが利用できるようになる前に接続が開始されてエラーが発生する可能性がなくなります。
root/ConnectionType/xen/general/webcamFramesPerSec	All_Regions.ini ファイルの HDXWebCamFramesPerSec 変数を制御します。
root/ConnectionType/xen/general/webcamHeight	All_Regions.ini ファイルの HDXWebCamHeight 変数を制御します。
root/ConnectionType/xen/general/webcamQuality	All_Regions.ini ファイルの HDXWebCamQuality 変数を制御します。有効な入力範囲は 1~63 です。
root/ConnectionType/xen/general/webcamSupport	0 に設定すると、Web カメラおよび Web カメラのオーディオが無効になります。1 に設定すると、Web カメラおよび Web カメラのオーディオが有効になります (圧縮が行われます)。2 に設定すると、Web カメラおよび Web カメラのオーディオの USB リダイレクトが有効になります。
root/ConnectionType/xen/general/webcamWidth	All_Regions.ini ファイルの HDXWebCamWidth 変数を制御します。
root/ConnectionType/xen/general/windowHeight	windowSize が Fixed Size に設定されている場合に、ウィンドウの高さ (ピクセル) を設定します。

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/xen/general/windowPercent	windowSize が Percentage of Screen Size に設定されている場合に、ウィンドウのサイズを割合で設定します。
root/ConnectionType/xen/general/windowSize	Default に設定すると、サーバー側の設定が使用されます。Full Screen に設定すると、使用可能なすべての画面上でウィンドウが境界線なしに最大化されます。Fixed Size に設定すると、windowWidth および windowHeight レジストリ キーを使用して、ウィンドウのサイズをピクセル単位で指定できます。Percentage of Screen Size に設定すると、windowPercent キーを使用して、ウィンドウのサイズを割合で指定できます。Percentage of Screen Size を有効にするには、enableForceDirectConnect を 1 に設定し、TWIMode を 0 に設定する必要があります。この設定は、サーバーが直接接続を許可している場合に限り、XenApp のみに適用されます。この設定は、XenDesktop では機能しません。
root/ConnectionType/xen/general/windowWidth	windowSize が Fixed Size に設定されている場合に、ウィンドウの幅 (ピクセル) を設定します。
root/ConnectionType/xen/gui/XenDesktopPanel/disabled	1 に設定すると、Xen デスクトップ パネルおよびそのタスクバーが無効になります。このオプションは、通常、autoStartResource または autoStartDesktop が有効になっている場合のみ使用されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/name	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/status	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/title	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/address	Citrix 接続マネージャーでの[サービス URL]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/appInMenu	Citrix 接続マネージャーでの[タスクバーにアプリケーションを表示する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/appOnDesktop	Citrix 接続マネージャーでの[デスクトップにアプリケーションを表示する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/autoReconnect	Citrix 接続マネージャーでの[自動再接続]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非

表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
	表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/autoStartDesktop	Citrix 接続マネージャーでの <b>[デスクトップの自動起動]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/autoStartResource	Citrix 接続マネージャーでの <b>[リソースの自動起動]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/autostart	Citrix 接続マネージャーでの <b>[自動開始の優先度]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/domain	Citrix 接続マネージャーでの <b>[ドメイン]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/fallBackConnection	Citrix 接続マネージャーでの <b>[予備接続]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/folder	
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/hasDesktopIcon	Citrix 接続マネージャーでの <b>[デスクトップにアイコンを表示]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/label	Citrix 接続マネージャーでの <b>[名前]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/password	Citrix 接続マネージャーでの <b>[パスワード]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。



表 E-14 接続タイプ/xen のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/username	Citrix 接続マネージャーでの[ユーザー名]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/XenManager/widgets/waitForNetwork	Citrix 接続マネージャーでの[接続前にネットワークを待機する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/ConnectionType/xen/gui/fbpanel/autohide	true に設定すると、タスクバーが自動的に隠れます。
root/ConnectionType/xen/gui/fbpanel/edge	公開されたデスクトップまたはアプリケーションが複数利用できる場合のタスクバーの初期設定での位置を設定します。
root/ConnectionType/xen/gui/fbpanel/hidden	1 に設定すると、タスクバーが完全に表示されなくなります (ただし、autoStartResource または autoStartDesktop が有効になっている場合のみ)。

## DHCP

このフォルダーは、システムが DHCP リースを取得したときに追加される一時的なレジストリ キーをサポートするために存在します。変更する必要はありません。

## Dashboard

ダッシュボードのレジストリ キーです。


 **注記:** ダッシュボードはタスクバーと同じものです。

表 E-15 ダッシュボードのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/Dashboard/GUI/Clock	1 に設定すると、クロックがタスクバーに表示されます。
root/Dashboard/GUI/DomainUser	1 に設定すると、システムがドメインログイン モードになっている場合に、ドメインユーザーのアイコンがタスクバーに表示されます。
root/Dashboard/GUI/PowerButton	1 に設定すると、電源ボタンがタスクバーに表示されます。
root/Dashboard/GUI/Search	1 に設定すると、[検索]ボタンがタスクバーに表示されます。
root/Dashboard/GUI/SystemTray	1 に設定すると、システム トレイがタスクバーに表示されず。

表 E-15 ダッシュボードのレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/Dashboard/GUI/TaskBar	1 に設定すると、アプリケーション領域がタスクバーに表示されます。
root/Dashboard/General/AutoHide	1 に設定すると、タスクバーが自動的に隠れます。
root/Dashboard/General/EnterLeaveTimeout	AutoHide が有効になっているときにタスクバーを表示または非表示にするまでの時間 (ミリ秒) を設定します。
root/Dashboard/General/IconSize	タスクバーのアイコンのサイズを設定します。  -1 に設定すると、アイコンのサイズはタスクバーの幅に基づいて決まります。
root/Dashboard/General/Length	タスクバーの長さを設定します。
root/Dashboard/General/LengthToScreenSide	1 に設定すると、タスクバーの長さが固定となり、それが固定されている画面幅の長さに等しくなります。
root/Dashboard/General/PanelDockSide	タスクバーが画面の左右どちら側にドッキングされるかを設定します。
root/Dashboard/General/SlidingTimeout	AutoHide が有効になっているときにタスクバーを表示または非表示にするためにかかる時間 (ミリ秒) を設定します。
root/Dashboard/General/Width	タスクバーの幅を設定します。  -1 に設定すると、プライマリ モニターの高さに基づいて幅が変更されます。

## Imprivata

Imprivata のレジストリキーです。

表 E-16 Imprivata のレジストリキー

レジストリキー	説明
root/Imprivata/enableImprivata	1 に設定すると、Imprivata ProveID Embedded が有効になります。初期設定では、0 に設定されています。
root/Imprivata/enableWMRightClickMenu	1 に設定すると、Windows Manager の右クリックメニューが有効になります。これは、通常のデスクトップが使用できない場合に役立ちます。メニュー項目は、Power Manager と ThinPro の構成 (カスタマイズセンター) の設定に従って調整できます。
root/Imprivata/enableWMSHORTCUTS	1 に設定すると、Window Manager のショートカットが有効になります。初期設定では、Imprivata エージェント環境を保持するためのショートカットは無効です。
root/Imprivata/ImprivataServer	Imprivata サーバーの URL です。root/users/user/apps/hptc-imprivata-mgr/authorized を 1 に設定すると、現在のユーザーは Imprivata のセットアップを変更できます。
root/Imprivata/USBr/Devices	Imprivata 環境を使用して起動されたりモート接続に固有のリダイレクトルールがあらかじめ定義されている一部の USB デバイスの一覧を表示します。USB デバイスごとに、設定: forcedState によってリダイレクトルールが付与されていま

表 E-16 Imprivata のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	す。ベンダーのスクリプトセットを使用できる OneSign ProveID Embedded 6.2 が必要です。
root/Imprivata/x11SessionFilter	enableImprivata が true の場合は、/etc/X11/Xsession.d/19-imprivata-session-fork が X セッションを引き継ぎます。x11SessionFilter が、X セッション ファイルのリストからフィルターで除外される X セッション ファイルを定義します。x11SessionFilter は、セミコロン区切りのセッション ファイルのリストを除外します。ワイルドカードを使用できます。
root/Imprivata/Imprivata.conf/Vdi/useVendorLaunchScript	1 に設定すると、HP のヘルパー スクリプトが VDI セッションの起動に使用されます。レガシー スクリプトと非推奨のスクリプトは、それ以外の場合に使用されます。この設定を有効するには、X セッションを再起動する必要があります。Imprivata.conf 設定：use-vendor-launch-script
root/Imprivata/RdpHelper/rdpFileTemplate	[full address] フィールドを持つ RDP ヘルパーによって完了する .rdp ファイルのテンプレートです。
root/Imprivata/SysInfo/citrix-wfica-client	Citrix wfica クライアントへのパスです。
root/Imprivata/SysInfo/device-model	hptc-hwsw-id --hw コマンドによって返される文字列は、初期設定で使用されます。値を設定すると、より関連性の高い文字列を取得できます。
root/Imprivata/SysInfo/logo	Imprivata パートナー ログへのパスです。
root/Imprivata/SysInfo/persistent-data-folder	次のような、ProveID Embedded コンポーネントを保存できるフォルダーへのパスです。フォルダーの内容がプロファイルの一部である必要がある場合は、/writable/imprivata-sys-info-data または /writable/misc/imprivata-sys-info-data です。
root/Imprivata/SysInfo/primary-monitor	空の場合は、プライマリ モニターが自動的に検出されます。値を設定すると、次のような特定のモニターを強制的に割り当てることができます：DisplayPort-0。
root/Imprivata/SysInfo/rdp-client	Microsoft RDP クライアントへのパスです。
root/Imprivata/SysInfo/rds-client	Microsoft RDS クライアントへのパスです。
root/Imprivata/SysInfo/vmware-client	VMware Horizon View クライアントへのパスです。
root/Imprivata/USBr/Devices/<class id>:<product id>/forcedState	このデバイスをリモート ホストに強制的にマッピングするかどうかを次のように設定します。-1：デバイスを無視、0：リダイレクトしない、1：初期設定を使用、2：リダイレクト。
root/Imprivata/USBr/Devices/<class id>:<product id>/info	デバイス情報。
root/Imprivata/VmwareViewHelper/skipCrIRevocationCheck	1 に設定すると、接続が VMware Horizon Client 5.4 以降の証明書失効リストのチェックをスキップします。

## InputMethod

入力方法のレジストリ キーです。

表 E-17 入力方法のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/InputMethod/enablelbus	

## Network

ネットワークのレジストリ キーです。

表 E-18 ネットワークのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/Network/ActiveDirectory/Domain	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/Network/ActiveDirectory/DynamicDNS	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/Network/ActiveDirectory/Enabled	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/Network/ActiveDirectory/Method	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/Network/ActiveDirectory/Password	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/Network/ActiveDirectory/Username	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/Network/DNSServers	ドメイン名の解決に使用する追加の DNS サーバーをここで指定できます。指定したサーバーが、DHCP 経由で取得したサーバーに加えて使用されます。最大 3 つの IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスをコンマで区切って指定できます。
root/Network/DefaultHostnamePattern	新しいホスト名を生成するときに使用する初期設定のホスト名パターンを設定します。これは、Hostname レジストリ キーおよび/etc/hostname の両方が空の場合にのみ使用されます。このホスト名パターンでは、「%」を区切り文字として使用します。たとえば、「HPTC%MAC:1-6%」では、「HPTC」がプレフィックスとなり、Thin Client の MAC アドレスの先頭 6 文字がその後に続きます。したがって、Thin Client の MAC アドレスが「11:22:33:44:55:66」である場合、生成されるホスト名は「HPTC112233」になります。パターンが「TC%MAC%」の場合、生成されるホスト名は「TC112233445566」になります。パターンが「HP%MAC:7%」の場合、生成されるホスト名は「HP1122334」になります。
root/Network/EncryptWpaConfig	1 に設定すると、パスワードが暗号化されます。
root/Network/FtpProxy	FTP プロキシアドレスを設定します。サポート機能が向上するため、この値には次の形式の http プレフィックスを使用することをおすすめします: http://プロキシ サーバー:ポート

表 E-18 ネットワークのレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/Network/Hostname	Thin Client のホスト名を設定します。
root/Network/HttpProxy	HTTP プロキシアドレスを設定します。次の形式を使用することをおすすめします : http://プロキシ サーバー:ポート
root/Network/HttpsProxy	HTTPS プロキシアドレスを設定します。サポート機能が向上するため、この値には次の形式の http プレフィックスを使用することをおすすめします : http://プロキシ サーバー:ポート
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/DstAddr	IPsec ルールの送信先アドレスを設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMAuthMethod	IPsec ルールの認証方式を設定します。PSK は事前共有キーを使用するための方式で、Certificate は証明書ファイルを使用するための方式です。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMAuthMethodCACert	認証方式が Certificate の場合に、証明機関 (CA) 証明書ファイルのパスがこのレジストリキーに保存されます。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMAuthMethodClientCert	認証方式が Certificate の場合に、クライアント証明書ファイルのパスがこのレジストリキーに保存されます。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMAuthMethodPresharedKey	認証方式が PSK の場合に、事前共有キーの値がこのレジストリキーに保存されます。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMAuthMethodPrivateKey	認証方式が Certificate の場合に、クライアント証明書に対応する秘密キー ファイルのパスがこのレジストリキーに保存されます。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMDHGroup	フェーズ 1 のディフィーヘルマン (Diffie-Hellman) グループを設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMEncryptionAlg	フェーズ 1 の暗号化アルゴリズムを設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMIntegrityAlg	フェーズ 1 の整合アルゴリズム (integrity algorithm) を設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/MMLifetimeMinutes	フェーズ 1 の存続期間を設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMAHEnable	フェーズ 2 の AH を有効にします。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMAHIntegrityAlg	フェーズ 2 の AH 整合アルゴリズム (integrity algorithm) を設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMESPEnable	フェーズ 2 の ESP を有効にします。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMESPEncryptionAlg	フェーズ 2 の ESP 暗号化アルゴリズムを設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMESPIntegrityAlg	フェーズ 2 の ESP 整合アルゴリズム (integrity algorithm) を設定します。

表 E-18 ネットワークのレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/QMLifetimeSeconds	フェーズ 2 の存続期間を設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/RuleDescription	IPsec ルールの送信先を設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/RuleEnable	1 に設定すると、ルールが有効になります。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/RuleName	IPsec ルールの名前を設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/SrcAddr	IPsec ルールのソースアドレスを設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/TunnelDstAddr	IPsec ルールのトンネル送信先アドレスを設定します。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/TunnelEnable	IPsec ルールのトンネルモードを有効にします。
root/Network/IPSec/IPSecRules/<UUID>/TunnelSrcAddr	IPsec ルールのトンネルソースアドレスを設定します。
root/Network/KeepPreviousDNS	1 に設定すると、ネットワーク マネージャーによって生成されない構成済みの DNS サーバーおよび検索ドメインが、 <code>resolv.conf</code> に保持されるようになります。0 に設定すると、 <code>resolv.conf</code> が完全に上書きされるようになります。
root/Network/SearchDomains	FQDN の解決に使用する追加の検索ドメインをここで指定できます。指定したドメインは、DNS 経由で解決できる FQDN を生成する際に、不完全なサーバー定義に追加されます。たとえば、 <code>mydomain.com</code> という検索ドメインによって、DNS サーバーの名前解決テーブルに <code>myserver</code> がない場合でも、サーバー定義 <code>myserver</code> を <code>myserver.mydomain.com</code> に正しく解決できるようになります。最大 5 つの追加検索ドメインを指定できます。
root/Network/VPN/AutoStart	1 に設定すると、システムの起動時に VPN が自動的に開始されます。
root/Network/VPN/PPTP/Domain	PPTP のドメインを設定します。
root/Network/VPN/PPTP/Gateway	PPTP のゲートウェイを設定します。
root/Network/VPN/PPTP/Password	PPTP のユーザーパスワードを設定します。
root/Network/VPN/PPTP/Username	PPTP のユーザー名を設定します。
root/Network/VPN/Type	VPN の種類を設定します。
root/Network/VPN/VPNC/DPDEndianess	DPD シークエンス番号のエンディアンを設定します (RFC3706 を参照してください)。0 : ビッグエンディアン。1 : リトルエンディアン。はっきりした原因がわからないままセッションが断続的に中断する場合は、これを切り替えてみてください。

表 E-18 ネットワークのレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/Network/VPN/VPNC/DPDInterval	DPD 間隔 (RFC3706 を参照してください) を秒単位で設定します。
root/Network/VPN/VPNC/DebugLevel	デバッグレベルを 0、1、2、3、または 99 に設定します。これにより多数のログが生成されます。VPN の問題のトラブルシューティングを行う必要がある場合にのみ、これを有効にします。
root/Network/VPN/VPNC/Domain	VPNC のドメインを設定します。
root/Network/VPN/VPNC/Gateway	VPNC のゲートウェイを設定します。
root/Network/VPN/VPNC/Group	VPNC のグループを設定します。
root/Network/VPN/VPNC/GroupPassword	VPNC のグループパスワードを設定します。
root/Network/VPN/VPNC/IKEDHGroup	VPNC の IKE ディフィーヘルマン (Diffie-Hellman) グループを設定します。
root/Network/VPN/VPNC/LocalUDPPort	VPNC 用に使用するローカルの UDP ポートを設定します。0 に設定すると、ランダムなポートが使用されます。この設定は、NAT トラバーサル モード (NATMode) が cisco-udp である場合にのみ有効です。
root/Network/VPN/VPNC/NATMode	VPNC の NAT トラバーサル モードを設定します。
root/Network/VPN/VPNC/Password	VPNC のユーザー パスワードを設定します。
root/Network/VPN/VPNC/PerfectForwardSecrecy	PFS (Perfect Forward Secrecy) 用に使用する VPNC のディフィーヘルマン (Diffie-Hellman) グループを設定します。
root/Network/VPN/VPNC/Security	VPNC のセキュリティ レベルを設定します。
root/Network/VPN/VPNC/Username	VPNC のユーザー名を設定します。
root/Network/VisibleInSystray	1 に設定すると、ネットワーク アイコンがシステムトレイに表示されます。
root/Network/Wired/DefaultGateway	デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターの IP アドレスです。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wired/EnableDefGatewayAsDNS	1 に設定すると、デフォルトゲートウェイもネームサーバーになります。
root/Network/Wired/EthernetSpeed	プライマリ Ethernet ネットワーク インターフェイスのリンク速度を設定します。Automatic に設定すると、利用可能な最速のリンク速度を選択できます。通常は、スイッチによって 1 Gbps または 100 Mbps (全二重) になります。また、リンク速度を強制的に単一の速度 (100 Mbps または 10 Mbps) および二重モード (全二重または半二重) にすることで、適切な自動ネゴシエーションを実行しないスイッチおよびハブをサポートできます。
root/Network/Wired/IPAddress	Thin Client の IPv4 アドレスを設定します。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wired/IPv6Enable	1 に設定すると、IPv6 が有効になります。

表 E-18 ネットワークのレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/Network/Wired/Interface	初期設定の Ethernet インターフェイスまたは NIC を設定します。
root/Network/Wired/MTU	MTU を設定します。IP アドレスが静的であっても、DHCP から取得したものであってもかまいません。
root/Network/Wired/Method	Automatic に設定すると、Thin Client が DHCP を使用してネットワーク設定の取得を試みます。Static に設定すると、IP Address、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリキーの値が使用されます。Static にするとすべての Thin Client が同じ IP アドレスを取得するようになるため、汎用のクライアントプロファイルでの Static の使用はおすすめしません。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/AutoConnect	1 に設定すると、ネットワークへの自動接続が有効になります。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/EthernetSpeed	プライマリ Ethernet ネットワーク インターフェイスのリンク速度を設定します。Automatic に設定すると、利用可能な最速のリンク速度を選択できます。通常は、スイッチによって 1 Gbps または 100 Mbps (全二重) になります。リンク速度を強制的に単一の速度 (100 Mbps または 10 Mbps) および二重モード (Full または Half) の組み合わせにすることで、自動ネゴシエーションを実行しないスイッチおよびハブをサポートできます。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv4/Address	クライアントの IPv4 アドレスを設定します。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv4/DefaultGateway	デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターの IP アドレスです。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv4/Enabled	1 に設定すると、このプロファイルで IPv4 が有効になります。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv4/Method	Automatic に設定すると、クライアントが DHCP を使用してネットワーク設定の取得を試みます。Static に設定すると、Address、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリキーの値が使用されます。Static に設定するとすべてのクライアントが同じ IP アドレスを使用するようになるため、汎用のクライアントプロファイルでの Static の使用はおすすめしません。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv4/SubnetMask	デバイスのサブネットマスクを設定します。たとえば、標準のクラス C サブネットの場合は、255.255.255.0 となります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv6/Address	クライアントの IPv6 アドレスを設定します。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv6/DefaultGateway	デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターの IP アドレスです。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv6/Enabled	1 に設定すると、このプロファイルで IPv6 が有効になります。



表 E-18 ネットワークのレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv6/Method	Automatic に設定すると、クライアントが DHCP を使用してネットワーク設定の取得を試みます。Static に設定すると、Address、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリ キーの値が使用されます。すべてのクライアントが同じ IP アドレスを使用するため、汎用クライアント プロファイルでの [Static] の使用はおすすめしません。[Automatic] に設定すると、クライアントが DHCP を使用してネットワーク設定の取得を試みます。Static に設定すると、Address、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリ キーの値が使用されます。Static に設定するとすべてのクライアントが同じ IP アドレスを使用ようになるため、汎用のクライアント プロファイルでの Static の使用はおすすめしません。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/IPv6/SubnetMask	デバイスのサブネットマスクを設定します。これは通常、IPv6 のプレフィックスの長さになります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/MTU	MTU を設定します。IP アドレスが静的であっても、DHCP から取得したものであってもかまいません。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Priority	有線ネットワーク用に予約されています。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/AnonyIdentity	PEAP 認証の匿名 ID を設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/EAPPEAP/CACert	PEAP 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/InnerAuth	PEAP 内部認証プロトコルを設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/PEAPVer	PEAP のバージョンを設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/Password	PEAP 認証のパスワードを設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/Username	PEAP 認証のユーザー名を設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/CACert	TLS 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/Identity	TLS 認証の ID を設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/EAPTLS/PrivateKey	TLS 認証の秘密キー ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/PrivateKeyPassword	TLS 認証の秘密キー ファイルのパスワードを設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/EAPTLS/UserCert	TLS 認証のユーザー証明書ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/AnonyIdentity	TTLS 認証の匿名 ID を設定します。

表 E-18 ネットワークのレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/CACert	TTLS 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/InnerAuth	TTLS 内部認証プロトコルを設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/Password	TTLS 認証のパスワードを設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTLS/Username	TTLS 認証のユーザー名を設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/Security/Type	有線認証の種類を設定します。
root/Network/Wired/Profiles/<UUID>/WiredInterface	そのプロファイル用の有線インターフェイスを設定します。
root/Network/Wired/Security/CACert	証明機関 (CA) 証明書ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wired/Security/EnableMachineAuth	1 に設定すると、PEAP のシステム認証が有効になります。
root/Network/Wired/Security/Identity	ID または匿名 ID を設定します。
root/Network/Wired/Security/InnerAuth	PEAP 内部認証プロトコルを設定します。
root/Network/Wired/Security/InnerAuthTTLS	TTLS 内部認証プロトコルを設定します。
root/Network/Wired/Security/MachineAuthName	システム認証が有効になっている場合に、システムのアカウント名を保存します。
root/Network/Wired/Security/MachineAuthPassword	システム認証が有効になっている場合に、システムのアカウントパスワードを保存します。
root/Network/Wired/Security/PEAPVersion	PEAP のバージョンを設定します。
root/Network/Wired/Security/Password	パスワードを設定します。
root/Network/Wired/Security/PrivateKey	秘密キー ファイルへのパスを設定します。これは TLS 認証でのみ使用されます。
root/Network/Wired/Security/Type	802.1x セキュリティ認証の種類を設定します。
root/Network/Wired/Security/UserCert	ユーザー証明書ファイルへのパスを設定します。これは TLS 認証でのみ使用されます。
root/Network/Wired/Security/Username	ユーザー名を設定します。
root/Network/Wired/SubnetMask	デバイスのサブネットマスクを設定します。たとえば、標準のクラス C サブネットの場合は、255.255.255.0 となります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。

表 E-18 ネットワークのレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/Network/Wired/UseWiredProfiles	1 に設定すると、有線接続がプロファイル モードで構成され、複数の有線ネットワークに接続できるようになります。0 に設定すると、1 つの有線ネットワークにのみ接続できます。
root/Network/WiredWirelessSwitch	0 に設定すると、有線ネットワークおよび無線ネットワークを同時に接続できます。1 に設定すると、有線ネットワークが無線ネットワークに優先されます。つまり、有線ネットワークに接続できない場合に、構成済みの無線ネットワークが使用されます。
root/Network/Wireless/DefaultGateway	デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターの IP アドレスです。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wireless/EnableDefGatewayAsDNS	1 に設定すると、デフォルトゲートウェイもネーム サーバーになります。
root/Network/Wireless/EnableWireless	1 に設定すると、無線機能が有効になります。0 に設定すると、無線機能が無効になります。
root/Network/Wireless/IPAddress	Thin Client の IPv4 アドレスを設定します。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wireless/IPv6Enable	1 に設定すると、IPv6 が有効になります。
root/Network/Wireless/Interface	初期設定の無線インターフェイスまたは無線ネットワークアダプターを設定します。
root/Network/Wireless/Method	Automatic に設定すると、Thin Client が DHCP を使用してネットワーク設定の取得を試みます。Static に設定すると、IPAddress、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリ キーの値が使用されます。Static にするとすべての Thin Client が同じ IP アドレスを取得するようになるため、汎用のクライアントプロファイルでの Static の使用はおすすめしません。
root/Network/Wireless/PowerEnable	1 に設定すると、無線ネットワークカードの電源管理が有効になります。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/AutoConnect	1 に設定すると、SSID への自動接続が有効になります。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv4/Address	クライアントの IPv4 アドレスを設定します。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv4/DefaultGateway	デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターの IP アドレスです。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv4/Enabled	1 に設定すると、このプロファイルで IPv4 が有効になります。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv4/Method	Automatic に設定すると、クライアントが DHCP を使用してネットワーク設定を取得します。Static に設定すると、Address、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリ キーの値が使用されます。Static に設定すると、そのプロファイルを使用するすべてのクライアントが同じ IP アドレスを使用するようになるため、汎用のクライアントプロファイルでの Static の使用はおすすめしません。

表 E-18 ネットワークのレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv4/SubnetMask	デバイスのサブネットマスクを設定します。たとえば、標準のクラスCサブネットの場合は、255.255.255.0 となります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv6/Address	クライアントの IPv6 アドレスを設定します。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv6/DefaultGateway	デバイスがインターネットへの接続に使用するデフォルトゲートウェイを設定します。通常、これはルーターの IP アドレスです。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv6/Enabled	1 に設定すると、このプロファイルで IPv6 が有効になります。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv6/Method	Automatic に設定すると、クライアントが DHCP を使用してネットワーク設定の取得を試みます。Static に設定すると、Address、SubnetMask、および DefaultGateway レジストリキーの値が使用されます。Static に設定するとすべてのクライアントが同じ IP アドレスを使用ようになるため、汎用のクライアントプロファイルでの Static の使用はおすすめしません。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/IPv6/SubnetMask	デバイスのサブネットマスクを設定します。これは通常、IPv6 のプレフィックスの長さになります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/PowerEnable	1 に設定すると、無線ネットワークカードの電源管理が有効になります。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Priority	ネットワークの優先度を定義します。無線ネットワークの場合、数値が大きいほど優先度が高くなります。無線ネットワーク接続には高い優先度が推奨されます。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/SSID	無線アクセスポイントを SSID を使用して設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/SSIDHidden	無線アクセスポイントの SSID を非表示状態にするかどうかを指定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPFAST/AnonyIdentity	EAP-FAST 認証の匿名 ID を設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPFAST/FastProvision	EAP-FAST 認証のプロビジョニング オプションを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPFAST/PACFile	EAP-FAST 認証の PAC ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPFAST/Password	EAP-FAST 認証のパスワードを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPFAST/Username	EAP-FAST 認証のユーザー名を設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/AnonyIdentity	EAP PEAP 認証の匿名 ID を設定します。

**表 E-18 ネットワークのレジストリ キー (続き)**

レジストリ キー	説明
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/CACert	EAP PEAP 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/InnerAuth	PEAP 内部認証プロトコルを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/PEAPVer	PEAP のバージョンを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/Password	EAP PEAP 認証のパスワードを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPPEAP/Username	EAP PEAP 認証のユーザー名を設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/CACert	TLS 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/Identity	TLS 認証の ID を設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/PrivateKey	TLS 認証の秘密キー ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/PrivateKeyPassword	TLS 認証の秘密キー ファイルのパスワードを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTLS/UserCert	TLS 認証のユーザー証明書ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTL/AnonyIdentity	TTLS 認証の匿名 ID を設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTL/CACert	TTLS 認証の CA 証明書ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTL/InnerAuth	TTLS 内部認証プロトコルを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTL/Password	TTLS 認証のパスワードを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/EAPTTL/Username	TTLS 認証のユーザー名を設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/PSK/HexdecimalMode	
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/PSK/PreSharedKey	PSK 認証のパスワードを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/Type	無線認証の種類を設定します。

表 E-18 ネットワークのレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/WEP/AuthType	WEP 認証の種類を設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/WEP/Key	WEP パスワードを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/WEP/KeyIndex	WEP パスワードのインデックスを設定します。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/WirelessBand	周波数範囲の選択を指定します。Auto を選択すると、すべての無線チャンネルがスキャンされます。2.4GHz を選択すると、2.4 GHz のチャンネルのみがスキャンされます。5GHz を選択すると、5 GHz のチャンネルのみがスキャンされます。
root/Network/Wireless/Profiles/<UUID>/Security/WirelessInterface	そのプロファイル用の無線インターフェイスを設定します。
root/Network/Wireless/Roaming/enableRoamingOptions	1 に設定すると、無線のローミング オプションが設定可能になります。
root/Network/Wireless/Roaming/longScanInterval	信号強度がローミングのしきい値を上回ったときに、より強い信号のアクセスポイントをスキャンする頻度を秒単位で指定します。初期設定値は 60 です。
root/Network/Wireless/Roaming/roamingNap	wpa_applicant の状態が変わったときに接続がスリープ状態になる頻度を秒単位で指定します。これにより、ローミング時にライブ接続が切断されることによって発生する Wi-Fi のスプリアス発射が軽減されます。
root/Network/Wireless/Roaming/roamingThreshold	強いアクセスポイントへのローミングを試みる前に、許容する最小の信号強度を dBm 単位で設定します。これは負の値です。
root/Network/Wireless/Roaming/scanInterval	信号強度がローミングのしきい値を下回ったときに強いアクセスポイントをスキャンする頻度を秒単位で設定します。
root/Network/Wireless/SSID	無線アクセスポイントを、その SSID を使用して設定します。
root/Network/Wireless/SSIDHidden	無線アクセスポイントの SSID を非表示状態にするかどうかを指定します。
root/Network/Wireless/SSIDWhiteList	無線アクセスポイントのホワイトリストを指定します。このレジストリキーの値が空でない場合、この値で指定された SSID のみが無線アクセスポイントのスキャン結果に表示されます。複数の SSID は、セミコロンで区切ります。
root/Network/Wireless/Security/CACert	証明機関 (CA) 証明書ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wireless/Security/EAPFASTPAC	EAP-FAST 認証の PAC ファイルへのパスを設定します。
root/Network/Wireless/Security/EAPFASTProvision	EAP-FAST 認証のプロビジョニング オプションを設定します。
root/Network/Wireless/Security/Identity	ID または匿名 ID を設定します。
root/Network/Wireless/Security/InnerAuth	PEAP 内部認証プロトコルを設定します。
root/Network/Wireless/Security/InnerAuthTTLS	TTLS 内部認証プロトコルを設定します。

表 E-18 ネットワークのレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/Network/Wireless/Security/PEAPVersion	PEAP のバージョンを設定します。
root/Network/Wireless/Security/Password	パスワードを設定します。
root/Network/Wireless/Security/PrivateKey	秘密キー ファイルへのパスを設定します。これは TLS 認証でのみ使用されます。
root/Network/Wireless/Security/Type	無線認証の種類を設定します。
root/Network/Wireless/Security/UserCert	ユーザー証明書ファイルへのパスを設定します。これは TLS 認証でのみ使用されます。
root/Network/Wireless/Security/Username	ユーザー名を設定します。
root/Network/Wireless/Security/WEPAuth	WEP 認証の種類を設定します。
root/Network/Wireless/Security/WEPIndex	WEP パスワードのインデックスを設定します。
root/Network/Wireless/SubnetMask	デバイスのサブネットマスクを設定します。たとえば、標準のクラス C サブネットの場合は、255.255.255.0 となります。この設定は、Method が Static に設定されている場合にのみ有効です。
root/Network/Wireless/UseWirelessProfiles	1 に設定すると、無線接続がプロファイルモードで構成され、複数の無線ネットワークに接続できるようになります。これは、モバイルコンピューティングに役立ちます。0 に設定すると、構成済みの無線ネットワークを 1 つだけ接続できます。
root/Network/Wireless/WirelessBand	周波数範囲の選択を指定します。Auto を選択すると、すべての無線チャンネルがスキャンされます。2.4GHz を選択すると、2.4 GHz のチャンネルのみがスキャンされます。5GHz を選択すると、5 GHz のチャンネルのみがスキャンされます。
root/Network/Wireless/WpaDriver	wpa_supplicant で使用されるドライバーを指定します (初期設定は wext)。現在サポートされている他のドライバーは nl80211 のみです。
root/Network/Wireless/bcmwlCountryOverride	必要な値が BIOS がない場合に、BIOS の国の値を上書きします。bcmwl ドライバーは、必要に応じて BIOS の値から取得される wl_country オプションを受け入れます (現在、インドネシアのみがサポートされています)。変更を適用するには、システムを再起動する必要があります。
root/Network/Wireless/disableUserCreateWirelessProfile	1 に設定すると、ユーザー アカウントを使って無線システムトレイから無線プロファイルを作成できません。
root/Network/Wireless/disableUserWirelessProfileTrayMenu	1 に設定すると、無線システムトレイアイコンの無線メニューがユーザー アカウントで無効になります。
root/Network/Wireless/disableWirelessProfileTrayMenu	1 に設定すると、無線システムトレイアイコンの無線メニューが無効になります。
root/Network/Wireless/tryAutoWirelessIfUserFailed	1 に設定すると、ユーザーが無線 AP への接続を試みて失敗した場合に、無線モジュールが使用可能なすべてのプロファイルを使って無線での接続を試みます。0 に設定すると、ユーザーが無線 AP への接続を試みて失敗した場合に、無線ステータスが「切断済み」に設定されます。これはフォールバック機能です。

表 E-18 ネットワークのレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/Network/disableLeftClickMenu	1 に設定すると、ネットワーク システムトレイ アイコンの左クリック メニューが無効になります。
root/Network/disableRightClickMenu	1 に設定すると、ネットワーク システムトレイ アイコンの右クリック メニューが無効になります。
root/Network/enableVPNMenu	1 に設定すると、タスクバーのネットワーク アイコンからアクセスできる VPN の左クリック メニューが有効になります。
root/Network/userLock	1 に設定すると、ネットワーク設定がユーザーによって変更された場合に、その設定がクライアント プロファイルのインポート時に保持されます。
root/Network/userLockEngaged	このレジストリ キーは、ネットワーク設定がユーザーによって変更されると、自動的に 1 に設定されます。通常、この設定を変更する必要はありません。

## 電源

電源設定用のレジストリ キーです。

表 E-19 電源のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/Power/applet/VisibleInSystray	1 に設定すると、バッテリー アイコンがシステムトレイに表示されます。
root/Power/buttons/logout/authorized	1 に設定すると、ログアウト機能を使用できます。
root/Power/buttons/power/authorized	1 に設定すると、電源機能を使用できます。
root/Power/buttons/poweroff/authorized	1 に設定すると、電源オフ機能を使用できます。
root/Power/buttons/reboot/authorized	1 に設定すると、再起動機能を使用できます。
root/Power/buttons/sleep/authorized	1 に設定すると、スリープ機能を使用できます。
root/Power/currentPowerPlan	このレジストリ キーで、使用する電源プランを選択します。これは自動的に初期設定値に設定されます。
root/Power/default/AC/brightness	Mobile Thin Client が外部電源に接続されているときの、輝度の初期値をパーセントで指定します。
root/Power/default/AC/cpuMode	コンピューターが外部電源に接続されているときの電源プランの CPU モードを設定します。初期設定では、「パフォーマンス」に設定されています。
root/Power/default/AC/lidAction	外部電源に接続されているときにコンピューターを閉じた場合に行われる動作を設定します。初期設定では、「スリープ」に設定されています。
root/Power/default/AC/powerButtonAction	コンピューターが外部電源に接続されているときに電源ボタンを押した場合に行われる動作を設定します。初期設定では、「シャットダウン」に設定されています。



表 E-19 電源のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/Power/default/AC/sleep	外部電源に接続されているときにコンピューターがスリープ状態になるまでの待機時間 (分) を設定します。初期設定では、30 に設定されています。0 に設定すると、コンピューターはスリープ状態になりません。
root/Power/default/AC/standby	コンピューターが外部電源に接続されているときにディスプレイの電源がオフになるまでの待機時間 (分) を設定します。初期設定では、15 に設定されています。0 に設定すると、コンピューターはスタンバイ モードに入りません。
root/Power/default/AC/timeoutDim	このキーは現在使用されていません。
root/Power/default/battery/brightness	Mobile Thin Client が外部電源に接続されていないときの、輝度の初期値をパーセントで指定します。
root/Power/default/battery/cpuMode	コンピューターが外部電源に接続されていないときの電源プランの CPU モードを設定します。初期設定では、「オンデマンド」に設定されています。
root/Power/default/battery/critical/criticalBatteryAction	バッテリーが criticalBatteryLevel で定義した完全なローバッテリー状態のときに実行する動作を設定します。
root/Power/default/battery/critical/criticalBatteryLevel	バッテリーが完全なロー バッテリー状態になっているとみなされるしきい値をパーセントで指定します。
root/Power/default/battery/lidAction	外部電源に接続されていないときにコンピューターを閉じた場合に行われる動作を設定します。初期設定では、「スリープ」に設定されています。
root/Power/default/battery/low/brightness	バッテリーがロー バッテリー状態になっているときの、輝度の初期値をパーセントで指定します。
root/Power/default/battery/low/cpuMode	CPU モードを設定します (「パフォーマンス」または「オンデマンド」)。
root/Power/default/battery/low/lowBatteryLevel	バッテリーがロー バッテリー状態になっているとみなされるときに残っているバッテリー電源の割合を設定します。
root/Power/default/battery/low/sleep	外部電源に接続されていないときにコンピューターがスリープ状態になるまでの待機時間 (分) を設定します。初期設定では、30 に設定されています。0 に設定すると、コンピューターはスリープ状態になりません。
root/Power/default/battery/low/standby	コンピューターが外部電源に接続されていないときにディスプレイの電源がオフになるまでの待機時間 (分) を設定します。初期設定では、15 に設定されています。0 に設定すると、コンピューターはスタンバイ モードに入りません。
root/Power/default/battery/low/timeoutDim	このキーは現在使用されていません。
root/Power/default/battery/powerButtonAction	電源ボタンが押されたときの動作を指定します。
root/Power/default/battery/sleep	スリープ状態になるまで待機する分数を設定します。0: 電源をオフにしない。
root/Power/default/battery/standby	ディスプレイの電源をオフにするまで待機する分数を設定します。0: 電源をオフにしない。
root/Power/default/battery/timeoutDim	このキーは現在使用されていません。

# ScepMgr

SCEP Manager のレジストリ キーです。

表 E-20 SCEP Manager のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/ScepMgr/General/AutoRenew/Enabled	1 に設定すると、証明書が期限切れになる前に自動的に更新されます。
root/ScepMgr/General/AutoRenew/TimeFrame	SCEP Manager が証明書の有効期限日の何日前に自動更新を試みるかを設定します。
root/ScepMgr/IdentifyingInfo/CommonName	管理者の名前やデバイスの完全修飾ドメイン名 (FQDN) など、SCEP の識別情報に使用する共通名を設定します。この値を空のままにすると、FQDN が初期設定で使用されます。
root/ScepMgr/IdentifyingInfo/CountryName	SCEP の識別情報に使用する国または地域を設定します。
root/ScepMgr/IdentifyingInfo/EmailAddress	SCEP の識別情報に使用する電子メールアドレスを設定します。
root/ScepMgr/IdentifyingInfo/LocalityName	SCEP の識別情報に使用する地域名 (都市名など) を設定します。
root/ScepMgr/IdentifyingInfo/OrganizationName	SCEP の識別情報に使用する組織名 (企業名や政府機関名など) を設定します。
root/ScepMgr/IdentifyingInfo/OrganizationUnitName	SCEP の識別情報に使用する組織単位名 (事業所名や部署名など) を設定します。
root/ScepMgr/IdentifyingInfo/StateName	SCEP の識別情報に使用する州または都道府県を設定します。
root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/CertFileChanged	このレジストリ キーは、証明書ファイルが変更されたことを他のアプリケーションに通知するためにのみ使用されます。このキーは変更しないでください。
root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/DontVerifyPeer	このレジストリ キーは https 専用です。1 に設定すると、SCEP クライアントはサーバー証明書を検証しません。このキーは初期設定で 0 に設定されています。
root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/KeySize	生成されるキーペアで使用するキーサイズを設定します。
root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/ServerName	SCEP サーバーの名前を設定します。
root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/ServerUrl	SCEP サーバーの URL を設定します。これは、SCEP クライアントが証明書を登録するときに必要になります。
root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/Status/Code	SCEP の登録の状態コードを含みます。この値は読み取り専用です。
root/ScepMgr/ScepEnroll/ScepServers/<UUID>/Status/Detail	SCEP の登録に関する詳細情報を含みます。この値は読み取り専用です。

## Search

検索設定のレジストリ キーです。

表 E-21 検索設定のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/Search/Category/Miscellaneous/CheckForUpdate	
root/Search/Category/Miscellaneous/Logout	
root/Search/Category/Miscellaneous/Reboot	
root/Search/Category/Miscellaneous/ShutDown	
root/Search/Category/Miscellaneous/Sleep	
root/Search/Category/Miscellaneous/SwitchToAdmin	
root/Search/Category/Regeditor/byDir	
root/Search/Category/Regeditor/byKey	
root/Search/Category/Regeditor/byValue	
root/Search/Category/Regeditor/byWhole	

## Serial

シリアル デバイスのレジストリ キーです。

表 E-22 シリアル デバイスのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/Serial/<UUID>/baud	シリアル デバイスの速度を設定します。
root/Serial/<UUID>/dataBits	各文字に含まれるビット数を設定します。
root/Serial/<UUID>/device	システムに接続されているシリアル デバイスを指定します。
root/Serial/<UUID>/flow	シリアル デバイスのフロー制御を設定します。これは、シリアル通信の停止および開始を通知するために使用されます。
root/Serial/<UUID>/name	シリアル デバイスとの通信に使用される Windows デバイスポートを指定します。
root/Serial/<UUID>/parity	シリアル デバイスのパリティ ビットを設定します。パリティ ビットはエラーの検出に使用されます。none に設定した場合、パリティ検出は行われません。

# SystemInfo

システム情報のレジストリ キーです。

表 E-23 システム情報のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/SystemInfo/Pages/General	0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[全般]タブがエンドユーザーに表示されなくなります。
root/SystemInfo/Pages/License	0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[ソフトウェアライセンス]タブがエンドユーザーに表示されなくなります。
root/SystemInfo/Pages/NetTools	0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[ネットツール]タブがエンドユーザーに表示されなくなります。
root/SystemInfo/Pages/Network	0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[ネットワーク]タブがエンドユーザーに表示されなくなります。
root/SystemInfo/Pages/ SoftwareInformationTab/ServicePacks	0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[ソフトウェア情報]セクションにある[Service Packs] (サービスパック) タブがエンドユーザーに表示されなくなります。
root/SystemInfo/Pages/ SoftwareInformationTab/SoftwareInformation	0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[ソフトウェア情報]タブがエンドユーザーに表示されなくなります。
root/SystemInfo/Pages/ SoftwareInformationTab/SoftwareInstalled	0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[ソフトウェア情報]セクションにある[Software Installed] (インストール済みソフトウェア) タブがエンドユーザーに表示されなくなります。
root/SystemInfo/Pages/SystemLogs	0 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[システム ログ]タブがエンドユーザーに表示されなくなります。
root/SystemInfo/authorized	0 に設定すると、タスクバーの[システム情報]ボタンがエンドユーザーで無効になります。

# TaskMgr

タスク マネージャーのレジストリ キーです。

表 E-24 タスク マネージャーのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/TaskMgr/General/AlwaysOnTop	1 に設定すると、[タスク マネージャー]ウィンドウが常に手前に表示されます。

# USB

USB のレジストリ キーです。

表 E-25 USB のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/USB/Classes/<Defined at Interface level>/ClassID	USB クラス ID 番号を設定します。
root/USB/Classes/<Defined at Interface level>/DisplayName	USB クラス名を設定します。
root/USB/<Defined at Interface level>/Classes/State	クラスをリモート ホストにマッピングするかどうかを設定します。
root/USB/<Defined at Interface level>/Classes/Visible	クラスをユーザー インターフェイスに表示するか、表示しないか、または無効にするかを設定します。
root/USB/Devices/<UUID>/DisplayName	[USB マネージャー]に表示される名前を設定します。設定しない場合、[USB マネージャー]はデバイス情報を使用して適切な名前を生成しようとします。
root/USB/Devices/<UUID>/ProductID	デバイスの製品 ID を設定します。
root/USB/Devices/<UUID>/State	このデバイスをリモート ホストにマッピングするかどうかを次のように設定します。0：リダイレクトしない、1：初期設定を使用、2：リダイレクト。
root/USB/Devices/<UUID>/VendorID	デバイスのベンダー ID を設定します。
root/USB/root/autoSwitchProtocol	1 に設定すると、選択したプロトコルに基づいてリモート USB プロトコルが自動的に切り替えられます。
root/USB/root/mass-storage/allowed	1 に設定すると、プロトコルが local の場合に大容量記憶装置が自動的にマウントされます。
root/USB/root/mass-storage/read-only	1 に設定すると、大容量記憶装置が自動的にマウントされるときに、読み取り専用でマウントされます。
root/USB/root/protocol	リモート USB を所有するプロトコルを設定します。有効な値はシステムにインストールされているプロトコルによって異なりますが、local、xen、freerdp、および view を使用できます。
root/USB/root/showClasses	1 に設定すると、[クラス]セクションが[USB マネージャー]に表示されます。

## auto-update

自動更新用のレジストリ キーです。

表 E-26 自動更新用のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/auto-update/DNSAliasDir	HP Smart Client Services をホストしているサーバーの、DNS エイリアスモードでの初期設定ルートディレクトリを設定します。
root/auto-update/LockScreenTimeout	自動更新中に画面がロック解除されるまでのタイムアウト(分)を指定します。0 に設定すると、自動更新中ずっと、更新が完了するまで画面がロック解除されます。

表 E-26 自動更新用のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/auto-update/ManualUpdate	1 に設定すると、Automatic Update (自動更新) の DHCP タグ、DNS エイリアス、およびブロードキャスト更新方式が無効になります。手動更新を実行する場合は、password、path、protocol、user、および ServerURL レジストリキーを設定して、更新サーバーを既知の状態にする必要があります。
root/auto-update/ScheduledScan/Enabled	1 に設定すると、Thin Client が Automatic Update (自動更新) サーバーを定期的にスキャンして、アップデートをチェックするようになります。0 に設定すると、Thin Client はシステム起動時のみアップデートをチェックするようになります。
root/auto-update/ScheduledScan/Interval	スケジュール設定されたアップデートのスキャンを行う間隔を設定します。これは HH:MM (時:分) 形式で指定する必要があります。24 時間を超える長さの間隔を指定できます。たとえば、スキャンを 48 時間ごとに設定するには、これを「48:00」に設定します。
root/auto-update/ScheduledScan/Period	設定した期間の間に、Thin Client がスケジュール設定されたスキャンをランダムに実行するようになります。すべての Thin Client がまったく同時にアップデートを行うことでネットワークが過密状態になるのを避けるため、長い期間を設定してください。期間は HH:MM (時:分) 形式で指定する必要があります。たとえば、2 時間半かけて Thin Client のアップデートが分散して行われるようにするには、これを「02:30」に設定します。
root/auto-update/ScheduledScan/StartTime	スケジュール設定された最初のアップデートのスキャンの開始時刻を、24 時間の HH:MM (時:分) 形式で設定します。たとえば、午後 4 時 35 分は「16:35」になります。
root/auto-update/ServerURL	Manual Update が有効になっている場合に使用される更新サーバーの IP アドレスまたはドメイン名を設定します。
root/auto-update/VisibleInSystray	1 に設定すると、Automatic Update (自動更新) システムトレイアイコンが有効になります。
root/auto-update/checkCertSig	1 に設定すると、証明書の署名が検証されます。
root/auto-update/checkCustomSig	1 に設定すると、カスタムパッケージの署名が検証されます。
root/auto-update/checkImgSig	将来の使用のために予約されています。
root/auto-update/checkPackageSig	1 に設定すると、パッケージの署名が検証されます。
root/auto-update/checkProfileSig	1 に設定すると、プロファイルの署名が検証されます。
root/auto-update/enableLockScreen	1 に設定すると、自動更新が進行している間、画面がロックされます。
root/auto-update/enableOnBootup	1 に設定すると、システム起動時に Automatic Update (自動更新) が有効になります。
root/auto-update/enableSystrayLeftClickMenu	1 に設定すると、Automatic Update (自動更新) システムトレイアイコンの左クリックメニューが有効になります。
root/auto-update/enableSystrayRightClickMenu	1 に設定すると、Automatic Update (自動更新) システムトレイアイコンの右クリックメニューが有効になります。
root/auto-update/gui/auto-update/ManualUpdate	[自動更新]ツールでの[手動設定を有効にする]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できません。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェット

表 E-26 自動更新用のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
	は非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/auto-update/gui/auto-update/ServerURL	[自動更新]ツールでの[サーバー]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/auto-update/gui/auto-update/enableLockScreen	[自動更新]ツールでの[自動更新時に画面のロックを有効にする]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/auto-update/gui/auto-update/enableOnBootup	[自動更新]ツールでの[システム起動時に自動更新を有効にする]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/auto-update/gui/auto-update/password	[自動更新]ツールでの[パスワード]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/auto-update/gui/auto-update/protocol	[自動更新]ツールでの[プロトコル]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/auto-update/gui/auto-update/tag	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/auto-update/gui/auto-update/user	[自動更新]ツールでの[ユーザー名]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/auto-update/password	ManualUpdate が有効になっている場合に使用されるパスワードを設定します。これは、protocol が ftp に設定されている場合にのみ使用されます。この値は暗号化されます。
root/auto-update/path	ManualUpdate が有効になっている場合の、初期設定のサーバー URL の相対パスを設定します。通常、これは空にするか、「auto-update」に設定します。
root/auto-update/preserveConfig	1 に設定すると、イメージの更新が Automatic Update (自動更新) によって行われた場合に、現在の Thin Client 構成設定が保持されるようになります。

表 E-26 自動更新用のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/auto-update/protocol	Manual Update が有効になっている場合に使用されるプロトコルを設定します。
root/auto-update/tag	このレジストリ キーは古いものです。以前は、DHCP で使用されるタグ番号 (137) を設定していました。現在は、タグ名 auto-update を使用して検出されます。
root/auto-update/user	Manual Update が有効になっている場合に使用されるユーザー名を設定します。これは、protocol が ftp に設定されている場合にのみ使用されます。

## background

背景のシステム情報のレジストリ キーです。

表 E-27 背景のシステム情報のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/background/bginfo/alignment	[背景のシステム情報]の文字揃えを設定します。
root/background/bginfo/enabled	1 に設定すると、システム情報がデスクトップの背景 ([背景のシステム情報]) に表示されます。
root/background/bginfo/horizontalLocation	[背景のシステム情報]の X 軸上の位置をパーセントで設定します。
root/background/bginfo/interval	[背景のシステム情報]の文字列の更新間隔 (秒) を設定します。
root/background/bginfo/preset	[背景のシステム情報]のプリセット ファイルを使用するかどうかを、use に設定します。none に設定すると、[デスクトップの背景]で設定をカスタマイズできます。
root/background/bginfo/shadowColor	[背景のシステム情報]の影の色を設定します。
root/background/bginfo/shadowOffset	[背景のシステム情報]の影のオフセットを設定します。0 に設定すると、影が無効になります。
root/background/bginfo/text	[背景のシステム情報]の文字列を設定します。詳しくは、HP ThinPro のホワイトペーパー『Login Screen Customization』(ログイン画面のカスタマイズ) (英語版) を参照してください。
root/background/bginfo/textColor	[背景のシステム情報]の文字列の色を設定します。
root/background/bginfo/textSize	[背景のシステム情報]の文字列のサイズを設定します。
root/background/bginfo/verticalLocation	[背景のシステム情報]の Y 軸上の位置をパーセントで設定します。
root/background/desktop/color	固定色、背景色 (画像の後ろに見える場合)、またはグラデーションの上部の色を指定します。
root/background/desktop/color2	theme が gradient の場合、このキーはグラデーションの下部の色を保存します。



表 E-27 背景のシステム情報のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/background/desktop/imagePath	theme が none または image の場合、このキーはユーザー定義のテーマで使用されるデスクトップの壁紙へのパスを保存します。
root/background/desktop/lastBrowseDir	theme が none の場合、このキーは最後に使用されたディレクトリを保存します。
root/background/desktop/style	theme が none の場合、このキーは壁紙をデスクトップ上に配置する方法 (center、tile、stretch、fit、fill など) を保存します。
root/background/desktop/theme	システム テーマ設定を指定します。この値は、[コントロールパネル]の[デスクトップの背景]ツールで設定されます。有効な値は、システムに存在するテーマによって異なります。none または image に設定して、ユーザーが壁紙を定義できるようにするか、auto に設定して、システムが HP Smart Zero 用に適切なプロトコルのテーマを自動設定するようにするか、default に設定して、HP ThinPro の初期設定のテーマまたはあらかじめ定義されているテーマのどれかを使用することができます。
root/background/desktop/updateInterval	背景の更新間隔 (秒) を設定します。

## boot

ブートのレジストリ キーです。

表 E-28 ブートのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/boot/enablePlymouth	
root/boot/extraCmdline	

## config-wizard

設定ウィザードのレジストリ キー

表 E-29 設定ウィザードのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/config-wizard/configWizardOptions	表示される設定ウィザードオプションをスペースで区切って指定します。初期設定では、すべてのオプション (language、keyboard、network、datetime、end) が指定されています。
root/config-wizard/disableAllChecksAtStartup	1 に設定すると、起動時のすべてのチェックが無効になります。0 に設定すると、レジストリ キー enableConnectionCheck、enableNetworkCheck、および enableUpdateCheck を使用して、各種類のチェックを個別に有効または無効にできます。

表 E-29 設定ウィザードのレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/config-wizard/enableConfigWizard	1 に設定すると、システム起動時の設定ウィザードが有効になります。
root/config-wizard/enableConnectionCheck	1 に設定すると、システム起動時の接続チェックが有効になります。
root/config-wizard/enableNetworkCheck	1 に設定すると、システム起動時にネットワークチェックが有効になります。
root/config-wizard/showNetworkSettingsButton	1 に設定すると、ネットワーク設定のボタンがネットワークチェックウィンドウに表示されます。

## desktop

デスクトップのレジストリキーです。

表 E-30 デスクトップのレジストリキー

レジストリキー	説明
root/desktop/preferences/arrangeBy	アイコンを名前で整列させるか種類で整列させるかを指定します。
root/desktop/preferences/fontFamily	デスクトップアイコンに使用されるフォントを指定します。
root/desktop/preferences/gridSize	デスクトップアイコンのグリッドサイズをピクセル単位で指定します。64 未満の値に設定すると、サイズはモニターのサイズの割合によって計算されます。
root/desktop/preferences/iconGlowColor	マウスポインターを合わせたときのデスクトップアイコンの背景の色を指定します。有効な文字列は、 <code>QColor::setNameColor()</code> のスタイルです。設定しないと、背景と対照をなす色が選択されます。
root/desktop/preferences/iconPercent	アイコンに使用するグリッドサイズの割合を指定します。値が 0 より大きい場合は、グリッドサイズの割合によって計算されます。
root/desktop/preferences/iconShadowColor	デスクトップアイコンの後ろの影の色を指定します。有効な文字列は、 <code>QColor::setNameColor()</code> のスタイルです。設定しないと、背景と対照をなす色が選択されます。
root/desktop/preferences/menu/arrange/authorized	ユーザーがデスクトップの整列機能を使用できるかどうかを指定します。
root/desktop/preferences/menu/create/authorized	ユーザーがデスクトップの右クリックメニューから接続を作成できるかどうかを指定します。
root/desktop/preferences/menu/drag/authorized	ユーザーがデスクトップでアイコンをドラッグ&ドロップできるかどうかを指定します。
root/desktop/preferences/menu/lockScreen/authorized	ユーザーがデスクトップの右クリックメニューから画面をロックできるかどうかを指定します。
root/desktop/preferences/menu/logout/authorized	ユーザーがデスクトップの右クリックメニューからログアウトできるかどうかを指定します。

表 E-30 デスクトップのレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/desktop/preferences/menu/modeSwitch/authorized	ユーザーがデスクトップの右クリックメニューから管理者モードに切り替えることができるかどうかを指定します。
root/desktop/preferences/menu/power/authorized	ユーザーがデスクトップの右クリックメニューから電源サブメニューにアクセスできるかどうかを指定します。
root/desktop/preferences/menu/poweroff/authorized	ユーザーがデスクトップの右クリックメニューからシステムの電源を切ることができるかどうかを指定します。
root/desktop/preferences/menu/reboot/authorized	ユーザーがデスクトップの右クリックメニューからシステムを再起動できるかどうかを指定します。
root/desktop/preferences/menu/sleep/authorized	ユーザーがデスクトップの右クリックメニューからシステムをスリープ状態にすることができるかどうかを指定します。
root/desktop/preferences/menuTextSize	デスクトップメニューのテキストの高さをピクセル単位で指定します。正でない場合、高さはモニターのサイズの割合によって計算されます。
root/desktop/preferences/screenMargin	画面の端とアイコンの間のマージンを指定します。
root/desktop/preferences/textBold	テキストを太字にするかどうかを指定します。
root/desktop/preferences/textColor	デスクトップアイコンのテキストの色を指定します。有効な文字列は、QColor::setNamedColor()のスタイルです。設定しないと、背景と対照をなす色が選択されます。
root/desktop/preferences/textShadowColor	デスクトップアイコンのテキストの後ろの影の色を指定します。有効な文字列は、QColor::setNamedColor()のスタイルです。設定しないと、テキストの色と対照をなす色が選択されます。
root/desktop/preferences/textSize	デスクトップアイコンのテキストの高さをピクセル単位で指定します。正でない場合、高さはモニターのサイズの割合によって計算されます。
root/desktop/shortcuts/<action>/command	ショートカットによって実行するコマンドを設定します。
root/desktop/shortcuts/<action>/enabled	1に設定すると、ショートカットが有効になります。
root/desktop/shortcuts/<action>/shortcut	ショートカット名を設定します。
root/desktop/shortcuts/<action>/shortcutsMode	ショートカットモードを設定します。

## domain

ドメインのレジストリキーです。

表 E-31 ドメインのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/domain/OU	Thin Client のドメイン メンバーシップに関連付けられている組織単位を指定します。
root/domain/allowSmartcard	このキーは現在使用されていません。
root/domain/cacheDomainLogin	有効にすると、ドメイン ログイン資格情報のハッシュがディスクに保存され、その後は Active Directory サーバーにアクセスできない場合でもログインが可能になります。
root/domain/ddns	有効にすると、DHCP の更新ごとに、Thin Client が DNS サーバー上の自身のホスト名および IP アドレスを更新しようとします。
root/domain/domain	この Thin Client が参加したドメイン、またはこの Thin Client の認証対象のドメインを指定します。
root/domain/domainAdminGroup	enableDomainAdmin を有効にすると、この AD グループのメンバーは Thin Client を管理者モードに切り替えることができます。
root/domain/domainControllers	このドメインで使用するドメイン コントローラーのコンマ区切りリストを指定します。空白のままにした場合（推奨）、代わりに DNS を使用して、ドメイン コントローラーの自動ルックアップが実行されます。
root/domain/domainJoined	Thin Client が正式にドメインに追加されたかどうかを示します。
root/domain/domainUsersGroup	enableDomainUsers を有効にすると、ドメイン ログインがこのグループの直接のメンバーに限定されます。この機能は、入れ子のグループには対応していません。
root/domain/enableDomainAdmin	1 に設定すると、domainAdminGroup で指定されているグループのメンバーは、Thin Client を管理者モードに切り替えることができます。0 に設定すると、ローカルの root アカウントを使用してローカルの管理タスクを実行する必要があります。
root/domain/enableDomainUsers	1 に設定すると、ドメイン ログインは、domainUserGroup で指定されているグループのメンバーに限定されます。0 に設定すると、有効なドメイン資格情報で Thin Client にログインできます。
root/domain/enablePasswordChange	1 に設定すると、ユーザーは Thin Client から直接ドメイン パスワードを変更できます。
root/domain/enableSSO	有効にすると、暗号化された現在の資格情報がメモリにキャッシュされ、リモート接続の開始時に再利用できます。
root/domain/loginAtStart	1 に設定すると、Thin Client がドメインに追加された場合に、Thin Client の起動時にログイン画面が表示されます。1 に設定しないと、HP ThinPro の従来の共有デスクトップが起動時に表示されます。
root/domain/retainUserRegistry	1 に設定すると、ユーザーによるカスタムの設定変更がログインセッション間で保持されます。
root/domain/workgroup	Thin Client のドメイン メンバーシップに関連付けられているワークグループまたは「短いドメイン」を指定します。これは、Active Directory ドメインの作成中に、NetBIOS ドメイン名とも呼ばれます。この値は通常、ドメインの認証中にドメイン コントローラーの値を検索することで自動検出されます。

## entries

エントリのレジストリ キーです。

表 E-32 エントリのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
<code>root/entries/&lt;UUID&gt;/command</code>	
<code>root/entries/&lt;UUID&gt;/folder</code>	
<code>root/entries/&lt;UUID&gt;/icon</code>	
<code>root/entries/&lt;UUID&gt;/label</code>	
<code>root/entries/&lt;UUID&gt;/metaInfo</code>	
<code>root/entries/&lt;UUID&gt;/onDesktop</code>	
<code>root/entries/&lt;UUID&gt;/onMenu</code>	

## firewall

ファイアウォール設定用のレジストリ キーです。

表 E-33 ファイアウォール設定用のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
<code>root/firewall/direct/pptp-rule</code>	
<code>root/firewall/icmp-blocks</code>	
<code>root/firewall/interfaces</code>	
<code>root/firewall/masquerade</code>	
<code>root/firewall/ports</code>	
<code>root/firewall/services/&lt;service&gt;/checked</code>	
<code>root/firewall/services/&lt;service&gt;/description</code>	
<code>root/firewall/services/&lt;service&gt;/ destinations/ipv4</code>	
<code>root/firewall/services/&lt;service&gt;/ destinations/ipv6</code>	
<code>root/firewall/services/&lt;service&gt;/modules</code>	

表 E-33 ファイアウォール設定用のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/firewall/services/<service>/port-protocols	
root/firewall/services/<service>/short	
root/firewall/sources	
root/firewall/startAtBoot	

## hwh264

hwh264 のレジストリ キーです。

表 E-34 hwh264 のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/hwh264/force2x4k	このキーの値を変更することはお勧めしません。  一部の Citrix H264 デスクトップ構成では、デュアル モニターを用いた大きなデスクトップストリーム配信によってちらつきが発生する場合があります。この問題のため、通常、大きなストリームに対して H264 は無効になっています。

## keyboard

キーボード設定用のレジストリ キーです。

表 E-35 キーボード設定用のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/keyboard/DrawLocaleLetter	1 に設定すると、キーボードシステムトレイアイコンが、静止画像ではなく言語ロケール設定を表示するようになります。
root/keyboard/SystrayMenu/keyboardLayout	1 に設定すると、キーボードシステムトレイアイコンを右クリックして表示されるメニューに、[コントロールパネル]の[キーボードレイアウト]ツールを開くオプションが表示されます。
root/keyboard/SystrayMenu/languages	1 に設定すると、キーボードシステムトレイアイコンを右クリックして表示されるメニューに、[コントロールパネル]の[言語]ツールを開くオプションが表示されます。
root/keyboard/SystrayMenu/virtualKeyboard	1 に設定すると、キーボードシステムトレイアイコンを右クリックして表示されるメニューに、仮想キーボードを開くオプションが表示されます。
root/keyboard/VisibleInSystray	1 に設定すると、キーボードシステムトレイアイコンが表示され、現在のキーボードレイアウトが表示されます。

表 E-35 キーボード設定用のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/keyboard/XkbLayout	これは、XKB キーボードレイアウトにマッピングするために使用される内部キーです。このキーは変更しないでください。
root/keyboard/XkbModel	これは、XKB キーボードモデルにマッピングするために使用される内部キーです。このキーは変更しないでください。
root/keyboard/XkbOptions	これは、XKB キーボードオプションにマッピングするために使用される内部キーです。このキーは変更しないでください。
root/keyboard/XkbVariant	これは、XKB キーボード種別にマッピングするために使用される内部キーです。このキーは変更しないでください。
root/keyboard/enable2	1 に設定すると、セカンダリ キーボードのレイアウトを、switch で定義されたキーボードショートカットで切り替えられるようになります。
root/keyboard/layout	プライマリ キーボードのレイアウトを設定します。
root/keyboard/layout2	セカンダリ キーボードのレイアウトを設定します。
root/keyboard/model	プライマリ キーボードのモデルを設定します。
root/keyboard/model2	セカンダリ キーボードのモデルを設定します。
root/keyboard/numlock	1 に設定すると、Num Lock 機能がシステム起動時に有効になります。Mobile Thin Client では、このレジストリ キーは意図的に無視されます。
root/keyboard/switch	1 つ目と 2 つ目のキーボードレイアウトを切り替えるためのキーボードショートカットを設定します (enable2 を 1 に設定する必要もあります)。有効な値は次のとおりです: grp:ctrl_shift_toggle、grp:ctrl_alt_toggle、grp:alt_shift_toggle。
root/keyboard/variant	プライマリ キーボードの種別を設定します。
root/keyboard/variant2	セカンダリ キーボードの種別を設定します。

## license

ライセンスの通知設定用のレジストリ キーです。

表 E-36 ライセンスの通知設定用のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/license/courtesyNotificationEnable	1 に設定すると、ライセンスの有効期限が近づいたときにシステムトレイの通知が有効になります。
root/license/courtesyNotificationInterval	正の数の場合、ご案内の通知を送る間隔 (時間) が指定されます。
root/license/courtesyNotificationStart	正の数の場合、有効期限が切れる日からこの日数分だけ前にご案内の通知が開始されます。

表 E-36 ライセンスの通知設定用のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/license/courtesyNotificationText	空白でない場合、このテキストがご案内の通知に使用されます。%1 は、有効期限が切れるまでの残りの日数に置き換えられます。%2 は、有効期限日に置き換えられます。
root/license/watermark	この値は読み取り専用です。

## logging

ログのレジストリ キーです。

表 E-37 ログのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/logging/general/debugLevel	デバッグレベルを設定します。この値は、対応するログを生成するために他のモジュールによって利用されます。
root/logging/general/showDebugLevelBox	1 に設定すると、[システム情報]ウィンドウの[システム ログ]タブの[デバッグレベル]オプションをエンドユーザーが使用できるようになります。0 に設定すると、このオプションを使用できるのは管理者のみになります。

## login

ログイン設定のレジストリ キーです。

表 E-38 ログイン設定のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/login/buttons/configure/authorized	1 に設定すると、ログイン画面で[構成]ボタンを使用できます。
root/login/buttons/info/authorized	1 に設定すると、ログイン画面で[システム情報]ボタンを使用できます。
root/login/buttons/keyboard/authorized	1 に設定すると、ログイン画面でキーボードレイアウトの設定を行えます。
root/login/buttons/locale/authorized	1 に設定すると、ログイン画面で言語の設定を行えます。
root/login/buttons/mouse/authorized	1 に設定すると、ログイン画面でマウスの設定を行えます。
root/login/buttons/onscreenKeyboard/authorized	1 に設定すると、ログイン画面でスクリーンキーボードを使用できます。
root/login/buttons/power/authorized	1 に設定すると、ログイン画面で電源ボタンを使用できます。
root/login/buttons/poweroff/authorized	1 に設定すると、ログイン画面でシャットダウン機能を使用できます。



表 E-38 ログイン設定のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/login/buttons/reboot/authorized	1 に設定すると、ログイン画面で再起動機能を使用できます。
root/login/buttons/show/authorized	1 に設定すると、ログイン画面で、追加オプションを含むボタンドロアーを使用できます。
root/login/buttons/sleep/authorized	1 に設定すると、ログイン画面でスリープ機能を使用できません。
root/login/buttons/touchscreen/authorized	1 に設定すると、ログイン画面でタッチスクリーンの設定を行います。レジストリ キー root/touchscreen/enabled も有効にする必要があります。
root/login/rememberedDomain	
root/login/rememberedUser	

## mouse

マウス設定のレジストリ キーです。

表 E-39 マウス設定のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/mouse/MouseHandedness	0 に設定すると、マウスが右きき用になります。1 に設定すると、マウスが左きき用になります。
root/mouse/MouseSpeed	マウスポインタの加速度を設定します。通常、設定可能な値は 0~25 です。値を 0 にすると加速機能が完全に無効になるため、マウスは常にゆっくりと移動しますが、動きを確認できるペースになります。
root/mouse/MouseThreshold	マウスの加速機能が有効になるまでのピクセル数を設定します。値を 0 にすると、加速機能が自然なペースに設定され、徐々に加速がつくようになるため、正確ですばやい移動が可能になります。
root/mouse/disableTrackpadWhileTyping	1 に設定すると、入力中、トラックパッドが一時的に無効になります。0 に設定すると、入力中、トラックパッドは一時的に無効になりません。
root/mouse/enableNaturalScrolling	1 (初期設定) に設定すると、トラックパッドでナチュラルスクロールが有効になります。0 に設定すると、トラックパッドでナチュラルスクロールが無効になります。
root/mouse/enableTrackpad	1 に設定すると、トラックパッドが有効になります。0 に設定すると、トラックパッドが無効になります。
root/mouse/enableTrackpadTapping	0 (初期設定) に設定すると、トラックパッドのタップによるクリック操作は無効になります。1 に設定すると、タップによるクリック操作は有効になります。
root/mouse/enableTwoFingerScrolling	1 (初期設定) に設定すると、トラックパッドで 2 本指スクロールが有効になります。0 に設定すると、トラックパッドで 2 本指スクロールが無効になります。
root/mouse/gui	

## restore-points

復元ポイントのレジストリ キーです。

表 E-40 復元ポイントのレジストリ設定

レジストリ キー	説明
root/restore-points/factory	工場出荷時設定へのリセットに使用するスナップショットを指定します。

## screensaver

スクリーンセーバー設定のレジストリ キーです。

表 E-41 スクリーンセーバー設定のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/screensaver/SlideShowAllMonitors	1 に設定すると、スクリーンセーバーのスライドショーがすべてのモニター上に表示されます。0 に設定すると、スライドショーがプライマリ モニターのみに表示されます。
root/screensaver/SlideShowInterval	スクリーンセーバーのスライドショーで画像を切り替える間隔を秒単位で設定します。
root/screensaver/SlideShowPath	スクリーンセーバーのスライドショー用の画像が含まれているディレクトリを指定します。
root/screensaver/buttons/configure/authorized	に設定すると、画面がロックされているときに[構成]ボタンを使用できます。
root/screensaver/buttons/info/authorized	1 に設定すると、画面がロックされているときに[システム情報]ボタンを使用できます。
root/screensaver/buttons/keyboard/authorized	1 に設定すると、画面がロックされているときにキーボードレイアウトの設定を行えます。
root/screensaver/buttons/locale/authorized	1 に設定すると、画面がロックされているときに言語の設定を行えます。
root/screensaver/buttons/mouse/authorized	1 に設定すると、画面がロックされているときにマウスの設定を行えます。
root/screensaver/buttons/onscreenKeyboard/authorized	1 に設定すると、画面がロックされているときにオンスクリーンキーボードを使用できます。
root/screensaver/buttons/power/authorized	1 に設定すると、画面がロックされているときに電源ボタンを使用できます。
root/screensaver/buttons/poweroff/authorized	1 に設定すると、画面がロックされているときにシャットダウン機能を使用できます。
root/screensaver/buttons/reboot/authorized	1 に設定すると、画面がロックされているときに再起動機能を使用できます。
root/screensaver/buttons/show/authorized	1 に設定すると、画面がロックされているときに、追加オプションを含むボタン ドロアーを使用できます。

表 E-41 スクリーンセーバー設定のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/screensaver/buttons/sleep/authorized	1 に設定すると、画面がロックされているときにスリープ機能を使用できます。
root/screensaver/buttons/touchscreen/authorized	1 に設定すると、画面がロックされているときにタッチスクリーンの設定を行えます。レジストリ キー root/touchscreen/enabled も有効にする必要があります。
root/screensaver/enableCustomLogo	1 に設定すると、logoPath で定義されたカスタム画像がスクリーンセーバーに使用されます。
root/screensaver/enableDPMS	0 に設定すると、モニターの電源管理が無効になります。これにより、モニターの電源は手動でオフにするまで常にオンの状態になります。
root/screensaver/enableScreensaver	1 に設定すると、スクリーンセーバーが有効になります。
root/screensaver/enableSleep	1 に設定すると、スリープが有効になります。
root/screensaver/lockScreen	1 に設定すると、管理者モードでログインしている場合、スクリーンセーバーからデスクトップに戻るときにパスワードが必要になります。
root/screensaver/lockScreenDomain	1 に設定すると、システムがドメインモードになっている場合、スクリーンセーバーからデスクトップに戻るときにパスワードが必要になります。
root/screensaver/lockScreenUser	1 に設定すると、管理者としてログインしておらず、システムがドメインモードになっていない場合、スクリーンセーバーからデスクトップに戻るときにパスワードが必要になります。
root/screensaver/logoPath	スクリーンセーバーに使用するカスタム画像へのパスを設定します。
root/screensaver/mode	スクリーンセーバー画像用のレンダリングモードを設定します (Center、Tile、Expand、Stretch など)。Default に設定すると、何も処理しないで画像を表示します。SlideShow に設定すると、SlideShowPath で指定されたディレクトリ内の画像がスクリーンセーバーで順番に表示されます。
root/screensaver/off	モニターの電源を切るまでのタイムアウト遅延 (分) を設定します。
root/screensaver/origImageCopyPath	これは、mode が Default に設定されているときにカスタム画像が保存される場所へのパスです。
root/screensaver/solidColor	useSolidColor がオン、enableCustomLogo がオフの場合、この固定色がスクリーンセーバーに使用されます。
root/screensaver/standby	モニターがスタンバイモードになるまでのタイムアウト遅延 (分) を設定します。
root/screensaver/suspend	モニターがサスペンドモードになるまでのタイムアウト遅延 (分) を設定します。
root/screensaver/timeoutScreensaver	スクリーンセーバーが起動するまでのタイムアウト遅延 (分) を設定します。
root/screensaver/timeoutSleep	Thin Client がスリープ状態になるまでのタイムアウト遅延 (分) を設定します。
root/screensaver/useSolidColor	1 に設定すると、enableCustomLogo がオフの場合、solidColor キーの値がスクリーンセーバーに使用されます。

# security

セキュリティ設定のレジストリ キーです。

表 E-42 セキュリティ設定のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/security/SecurityFeatures/ SpeculativeStoreBypassControl	投機的ストアバイパス (CVE-2018-3639) の緩和策を有効にするかどうかを制御します。初期設定では、これらの緩和策は有効ではありません。有効にするには、キーの値をオンに設定します。  このキーの変更を有効にするには、コンピューターを再起動します。
root/security/authenticationFailDelay	ログイン失敗後のおおよその遅延時間をミリ秒単位で設定します。実際の時間は、この値のプラス/マイナス 25% の範囲で異なります。たとえば、3000 の値を使用すると、おおよそ 3 秒の遅延が取得されます。
root/security/domainEntryMode	1 に設定すると、【ドメイン】というラベルの付いた別のテキストフィールドにドメインを入力するように求められます。0 に設定すると、【ユーザー】フィールドの一部としてドメインを入力するように求められます。
root/security/enableLockOverride	1 に設定すると、管理者はローカルデスクトップの画面ロックを上書きできます。
root/security/enableSecretPeek	1 に設定すると、パスワードおよび PIN のダイアログにボタンが表示され、そのボタンを選択すると、入力したパスワード/PIN が通常テキストとして表示されます。
root/security/encryption/identity/ encryptedSecretCipher	シークレットの対称暗号化のアルゴリズムを設定します。すべてのアルゴリズムで、適正量のランダムソルトを使用します。ランダムソルトは、シークレットを保存するたびに再生成されます。暗号化キーは Thin Client ごとに異なり、暗号化および暗号化の解除を利用できるのは権限のあるプログラムだけです。サポートされる暗号の一覧には、ほとんどの OpenSSL 暗号および ChaCha20-Poly1305 が含まれます。
root/security/encryption/identity/ encryptedSecretTTL	暗号化して保存されたシークレットが有効とみなされる、最後の正常なログインからの秒数を設定します。負の数に設定すると、暗号化されたシークレットはタイムアウトになりません。
root/security/encryption/identity/ encryptedSecretTTLnonSSO	暗号化して保存された非 SSO のシークレットが有効とみなされる秒数を指定します。正でない数に設定すると、暗号化されたシークレットはタイムアウトになりません。
root/security/encryption/identity/ secretHashAlgorithm	シークレットのハッシュを作成するアルゴリズムを設定します。scrypt や argon2 などのキー派生関数 (KDF) は、単純なハッシュより優れています。KDF を使用したレインボーテーブルをすばやく計算することはできないからです。すべてのアルゴリズムで、適正量のランダムソルトを使用します。ランダムソルトは、シークレットをハッシュするたびに再生成されます。サポートされるアルゴリズムには、scrypt、Argon2、SHA-256、および SHA-512 が含まれます (最後の 2 つは KDF ではありません)。
root/security/encryption/identity/ secretHashTTL	保存されたシークレットのハッシュが有効とみなされる、最後の正常なログインからの秒数を設定します。負の数に設定すると、シークレットのハッシュはタイムアウトになりません。

表 E-42 セキュリティ設定のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/security/mustLogin	1 に設定すると、すべてのユーザーが、デスクトップにアクセスする前にログインを強制されます。

## shutdown

シャットダウン設定のレジストリ キーです。

表 E-43 シャットダウン設定のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/shutdown/enableAutomaticShutdownTimeout	1 に設定すると、シャットダウン/再起動/ログアウト確認のダイアログ ボックスに進捗状況バーが表示されます。時間内に質問に対する答えがない場合は、自動的にシャットダウン/再起動/ログアウトが行われます。
root/shutdown/timeOfAutomaticShutdownTimeout	自動シャットダウンのタイムアウトの待機時間を設定します。

## sshd

SSHD のレジストリ キーです。

表 E-44 SSHD のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/sshd/disableWeakCipher	1 に設定すると、CBC モード暗号や、3DES、arcfour などのその他の既知の弱い暗号が無効になります。
root/sshd/disableWeakHmac	1 に設定すると、96 ビットの HMAC や、SHA1 ベースおよび MD5 ベースの HMAC が無効になります。
root/sshd/disableWeakKex	1 に設定すると、DH と SHA1 を組み合わせて使用するキー交換アルゴリズムが無効になります。
root/sshd/enabled	1 に設定すると、SSH デーモンが有効になり、Thin Client に SSH 経由でアクセスできます。
root/sshd/userAccess	1 に設定すると、エンドユーザーが SSH を使用して Thin Client に接続できます。

## time

時刻と日付の設定のレジストリ キーです。

表 E-45 時刻のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/time/NTPServers	使用する NTP サーバーをコンマ区切りリストで指定します。サーバーの負荷を最小限に抑えるには、プライベートの NTP サーバーまたは pool.ntp.org など大規模な仮想 NTP クラスターを選択するのが最適です。この値を消去すると、固定されたリストではなく DHCP サーバー（タグ 42）を使用する設定に戻ります。
root/time/dateFormatLong	さまざまな HP ThinPro ツールで使用される長い日付形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、QDate::toString と入力して Web 検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます。
root/time/dateFormatShort	さまざまな HP ThinPro ツールで使用される短い日付形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、QDate::toString と入力して Web 検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます。
root/time/dateTimeFormatLong	さまざまな HP ThinPro ツールで使用される、日付および時刻の長い形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、QDate::toString と入力して Web 検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます。
root/time/dateTimeFormatShort	さまざまな HP ThinPro ツールで使用される、日付および時刻の短い形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、QDate::toString と入力して Web 検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます。
root/time/hideCountries	タイムゾーン選択 GUI で非表示にしたい国のセミコロン区切りの一覧です。
root/time/hideMap	1 に設定すると、地図は描画されません。これは境界について論争がある場合におすすめします。
root/time/hideWinZones	タイムゾーン選択 GUI で非表示にしたい、Windows 形式のタイムゾーン（例：「(UTC+2:00) トリポリ」）のセミコロン区切りの一覧です。
root/time/hideZones	タイムゾーン選択 GUI で非表示にしたい、Linux 形式のタイムゾーン（例：「アメリカ/デンバー」）のセミコロン区切りの一覧です。
root/time/timeFormatLong	さまざまな HP ThinPro ツールで使用される長い時刻形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、QDate::toString と入力して Web 検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます。
root/time/timeFormatShort	さまざまな HP ThinPro ツールで使用される短い時刻形式を上書きするオプションの方法です。形式の指定については、QDate::toString と入力して Web 検索を実行してください。空白のままにすると、通常、ロケール固有の文字列が使用されます。
root/time/timezone	タイムゾーンを設定します。タイムゾーンは、[コントロールパネル]の[日付と時刻]ツールの[Linux タイムゾーン]で定義されているとおりに指定し、次の形式にする必要があります：  <地域>/<準地域>

表 E-45 時刻のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/time/use24HourFormat	-1 に設定すると、ロケールに従ってシステムが自動的に形式を選択します。0 に設定すると、午前/午後形式が使用されず。1 に設定すると、24 時間形式が使用されます。
root/time/useADNSTimeServers	1 に設定すると、ローカルネットワークで自動検出された Active Directory ドメイン コントローラー経由で、Thin Client がタイムゾーンを設定しようとします。これは、SRV レコードに対する次の DNS クエリによって行われます：_ldap._tcp.dc._msdcs.domain。
root/time/useDHCPTimezone	1 に設定すると、Thin Client が DHCP 経由でタイムゾーンを設定しようとします。このレジストリ キーを使用してタイムゾーンを正しく設定するには、Thin Client の DHCP サーバーが tcode DHCP タグ (通常はタグ 101 ですが、100 および 2 も利用可能) を転送していることを確認してください。
root/time/useNTPServers	1 に設定すると、NTP タイム サーバーによる Thin Client の時計の同期が有効になります。これが有効になっている場合は、NTP サーバーが DHCP または NTPServers で指定されていることを確認してください。

## touchscreen

タッチスクリーン設定のレジストリ キーです。

表 E-46 タッチスクリーン設定のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/touchscreen/beep	タッチスクリーンを使用したときに Thin Client のビーブ音が鳴るかどうかを定義します。
root/touchscreen/calibrated	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/touchscreen/enabled	1 に設定すると、タッチ入力 that 有効になります。
root/touchscreen/maxx	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/touchscreen/maxy	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/touchscreen/minx	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/touchscreen/miny	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/touchscreen/port	タッチスクリーンに接続されているコネクタを指定します。

表 E-46 タッチスクリーン設定のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/touchscreen/swapx	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/touchscreen/swapy	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/touchscreen/type	タッチ スクリーン用のコントローラーの種類を指定します。

## translation

変換設定のレジストリ キーです。

表 E-47 変換設定のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/translation/coreSettings/localeMapping/<LanguageCode>	これらは、言語セクターで該当の言語の横にテキスト文字列を表示するために使用される内部キーです。これらのキーは変更しないでください。
root/translation/coreSettings/localeSettings	Thin Client のロケールを設定します。このロケールは、リモート接続にも転送されます。有効なロケールは、en_US (英語)、de_DE (ドイツ語)、es_ES (スペイン語)、fr_FR (フランス語)、ru_RU (ロシア語)、ja_JP (日本語)、ko_KR (韓国語)、zh_CN (簡体字中国語)、zh_TW (繁体字中国語) です。
root/translation/gui/LocaleManager/name	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/translation/gui/LocaleManager/status	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/translation/gui/LocaleManager/title	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/translation/gui/LocaleManager/widgets/localeSettings	[言語]ツールでの[locale setting] (ロケール設定) ツールの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。

## usb-update

USB のアップデートのレジストリ キーです。



表 E-48 USB のアップデートのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/usb-update/authentication	1 に設定すると、USB のアップデートを実行するために管理者パスワードが必要になります。
root/usb-update/enable	1 に設定すると、USB アップデートの自動検出が有効になります。
root/usb-update/height	[USB のアップデート]ウィンドウの高さ (ピクセル) を設定します。
root/usb-update/searchMaxDepth	更新がないか検索されるサブディレクトリの深さを設定します。検索の深さを大きく設定すると、数千ものディレクトリが含まれる USB フラッシュドライブで遅延が発生する可能性があります。
root/usb-update/width	[USB のアップデート]ウィンドウの幅 (ピクセル) です。

## users

ユーザー設定のレジストリ キーです。

表 E-49 ユーザー設定のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/users/root/enablePassword	有効にすると、ローカルの root 管理者アカウントへのログインが有効になります。無効にすると、Active Directory 管理者だけが Thin Client を管理者モードに変更できます。
root/users/root/password	管理者パスワードを設定します。空白にすると、管理者モードはロックされます。
root/users/root/timeout	管理者モードが終了するまでのアイドルタイムアウト (分) を指定します。0 またはマイナスに設定すると、管理者モードは自動的に終了しません。
root/users/user/SSO	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/users/user/WOL	1 に設定すると、ウェイク オン LAN (WOL) が有効になります。
root/users/user/XHostCheck	1 に設定すると、root/users/user/xhosts に一覧表示されているシステムのみが Thin Client をリモートで制御できます。
root/users/user/apps/hptc-ad-change-password/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[ドメインパスワードの変更]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-ad-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[Active Directory]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-agent-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[HPDM Agent]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-auto-update/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[自動更新]をエンドユーザーが利用できるようになります。

表 E-49 ユーザー設定のレジストリキー (続き)

レジストリキー	説明
root/users/user/apps/hptc-background-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[デスクトップの背景]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-cert-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[証明書マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-compatibility/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[互換性チェック]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-component-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[コンポーネントマネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-config-wizard/authorized	1 に設定すると、[スタート]メニュー項目の[初期セットアップウィザード]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-connection-wizard/authorized	1 に設定すると、[接続の作成]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-control-panel/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-date-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[日付と時刻]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-dhcp-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[DHCP オプション]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-display-prefs/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[ディスプレイ]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-easy-update/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[HP Easy Update]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-factory-reset/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[工場出荷時設定にリセット]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-firewalld-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[ファイアウォールマネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-i18n-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[言語]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-ibus-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[ibus Input Method] (ibus 入力方式) をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-imprivata-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[Imprivata のセットアップ]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-keyboard-layout/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[キーボードレイアウト]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-kiosk/authorized	1 に設定すると、[接続マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります。

表 E-49 ユーザー設定のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/users/user/apps/hptc-licenses/authorized	1 に設定すると、[HP 使用許諾契約書]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-mixer/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[サウンド]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-mouse/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[マウス]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-network-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[ネットワーク マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-power-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[電源管理]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-printer-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[プリンター]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-regeditor/authorized	1 に設定すると、[レジストリ エディター]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-restore/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[スナップ ショット]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-scep-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[SCEP マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-security/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[セキュリティ]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-serial-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[シリアル マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-shortcut-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[キーボード ショートカット]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-snipping-tool/authorized	1 に設定すると、[スタート]メニュー項目の[Snipping Tool]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-sshd-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[SSHD マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-switch-admin/authorized	1 に設定すると、[管理者に切り替える]/[ユーザーに切り替える]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-sysinfo/authorized	1 に設定すると、[システム情報]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-task-mgr/authorized	1 に設定すると、[スタート]メニュー項目の[タスク マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-text-editor/authorized	1 に設定すると、[スタート]メニュー項目の[テキスト エディター]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-thinstate/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[HP ThinState]をエンドユーザーが利用できるようになります。

表 E-49 ユーザー設定のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/users/user/apps/hptc-touchscreen/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[タッチスクリーン]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-update/authorized	1 に設定すると、[更新プログラムの確認]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-usb-mgr/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[USB マネージャー]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-user-rights/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[ThinPro の構成 (カスタマイズセンター)]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-vncshadow/authorized	1 に設定すると、[コントロールパネル]項目の[VNC シャドウイング]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-wlsstat/authorized	1 に設定すると、[無線統計]をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-xen-general-mgr/authorized	1 に設定すると、Citrix の全般設定をエンドユーザーが利用できるようになります。
root/users/user/apps/hptc-xterm/authorized	1 に設定すると、[Xターミナル]をエンドユーザーが利用できるようになります。  <b>注意:</b> Xターミナルへのアクセスを有効にすることにはセキュリティ上のリスクがあるため、運用環境ではおすすしません。Xターミナルは、保護された非運用環境をデバッグするために使用する場合にのみ有効にしてください。
root/users/user/desktopScaling	デスクトップ要素のサイズを増減させる割合を指定します。100 (初期設定) に設定すると、標準の縮尺が使用されます。50 に設定すると、標準の縮尺の半分のサイズが使用されます。200 に設定すると、標準の縮尺の倍のサイズが使用されます。
root/users/user/enablePassword	有効にすると、ローカルの共有アカウント user へのログインが有効になります。
root/users/user/hideDesktopPanel	1 に設定すると、タスクバーなどのデスクトップパネルが起動されないか、デスクトップに表示されなくなります。
root/users/user/kioskMode	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/users/user/launchConnectionManager	1 に設定すると、システム起動時に接続マネージャーが有効になります。
root/users/user/rightclick	1 に設定すると、デスクトップの右クリックメニューが有効になります。
root/users/user/ssoconnectiontype	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/users/user/switchAdmin	1 に設定すると、管理者モードへの切り替えが有効になります。
root/users/user/theme	将来の使用のために予約されています。

表 E-49 ユーザー設定のレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/users/user/xhosts/<UUID>/xhost	XHostCheck が有効になっているときに Thin Client をリモートで制御できるようにするシステムの IP アドレスまたはホスト名を指定します。

## vncserver

VNC サーバーのレジストリ キーです。

表 E-50 VNC サーバーのレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/vncserver/coreSettings/enableVncShadow	1 に設定すると、Thin Client の VNC シャドウイングサーバーが有効になります。
root/vncserver/coreSettings/userNotificationMessage	誰かが VNC を使用して Thin Client に接続しようとしたときにユーザーに表示される通知メッセージを設定します。
root/vncserver/coreSettings/vncAllowLoopbackOnly	1 に設定すると、ローカルホストまたはループバックのアドレスだけが VNC 接続で許可されます。
root/vncserver/coreSettings/vncDefaultNumLockStatus	1 に設定すると、Num Lock が初期設定でオンになります。0 に設定すると、Num Lock が初期設定でオフになります。
root/vncserver/coreSettings/vncNotifyShowTimeout	1 に設定すると、誰かが VNC を使用して Thin Client に接続しようとしたときにユーザーに表示される通知ダイアログに、タイムアウトが適用されます。
root/vncserver/coreSettings/vncNotifyTimeout	誰かが VNC を使用して Thin Client に接続しようとしたときにユーザーに表示される通知ダイアログのタイムアウト (秒) を設定します。
root/vncserver/coreSettings/vncNotifyUser	1 に設定すると、誰かが VNC を使用して Thin Client に接続しようとしたときに、ユーザーに通知が表示されます。
root/vncserver/coreSettings/vncPassword	VNC シャドウイングのパスワードを設定します。キー vncUsePassword も有効にする必要があります。
root/vncserver/coreSettings/vncReadOnly	1 に設定すると、VNC シャドウイングが表示専用モードで動作するようになります。
root/vncserver/coreSettings/vncRefuseInDefault	1 に設定すると、通知ダイアログが表示されてからタイムアウトになるまでユーザーが操作を行わなかった場合に、VNC 要求が自動的に拒否されます。
root/vncserver/coreSettings/vncStopButton	1 に設定すると、ボタンが画面の左上隅に表示されます。このボタンは、常に最前面に表示されます。ボタンを選択すると、VNC セッションの接続が切断されます。
root/vncserver/coreSettings/vncTakeEffectRightNow	1 に設定すると、VNC 設定が変更後すぐに適用されます。
root/vncserver/coreSettings/vncUseHTTP	1 に設定すると、HTTP ポート 5800 が VNC 接続に対して開きます。
root/vncserver/coreSettings/vncUsePassword	1 に設定すると、vncPassword で指定されたパスワードが VNC シャドウイングで必要になります。

表 E-50 VNC サーバーのレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/vncserver/coreSettings/vncUseSSL	1 に設定すると、VNC 接続に SSL が使用されます。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/name	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/status	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/title	このレジストリ キーは、内部的に使用されるか、将来の使用のために予約されています。この値は変更しないでください。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/enableVncShadow	[VNC シャドウイング]ツールでの[VNC シャドウを有効にする]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/userNotificationMessage	[VNC シャドウイング]ツールでの[ユーザーへの通知メッセージ]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/vncAllowLoopbackOnly	[VNC シャドウイング]ユーティリティでの[ループバック接続のみを許可する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncNotifyShowTimeout	[VNC シャドウイング]ツールでの[VNC で通知のタイムアウトを表示する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncNotifyTimeout	[VNC シャドウイング]ツールでの数値ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncNotifyUser	[VNC シャドウイング]ツールでの[VNC で許可/拒否をユーザーに通知する]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncPassword	[VNC シャドウイング]ツールでの[パスワードの設定]ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操

表 E-50 VNC サーバーのレジストリ キー (続き)

レジストリ キー	説明
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncReadOnly	作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncRefuseInDefault	[VNC シャドウイング]ツールでの <b>[VNC 読み取り専用]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/vncStopButton	[VNC シャドウイング]ユーティリティでの <b>[VNC のシャドウの停止ボタン]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncTakeEffectRightNow	[VNC シャドウイング]ツールでの <b>[VNC サーバーを今すぐ再設定する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncUseHTTP	[VNC シャドウイング]ツールでの <b>[VNC で HTTP ポート 5800 を使用する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncUsePassword	[VNC シャドウイング]ツールでの <b>[VNC でパスワードを使用する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。
root/vncserver/gui/VNCShadowManager/widgets/vncUseSSL	[VNC シャドウイング]ツールでの <b>[VNC で SSL を使用する]</b> ウィジェットの状態を制御します。active (アクティブ) に設定すると、ウィジェットが UI に表示され、ユーザーはそれを操作できます。inactive (非アクティブ) に設定すると、ウィジェットは非表示になります。read-only (読み取り専用) に設定すると、ウィジェットは読み取り専用状態で表示されます。

## zero-login

HP Smart Zero のレジストリ キーです。

表 E-51 HP Smart Zero のレジストリ キー

レジストリ キー	説明
root/zero-login/buttons/configure/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスで <b>【構成】</b> ボタンを利用できるようになります。
root/zero-login/buttons/info/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスで <b>【システム情報】</b> ボタンを利用できるようになります。
root/zero-login/buttons/keyboard/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスで <b>【キーボードレイアウト】</b> を選択できるようになります。
root/zero-login/buttons/locale/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスで <b>【ロケール】</b> を選択できるようになります。
root/zero-login/buttons/mouse/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスで <b>【マウス】</b> を選択できるようになります。
root/zero-login/buttons/onscreenKeyboard/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスでスクリーン キーボード オプションを利用できるようになります。
root/zero-login/buttons/power/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスで <b>【電源】</b> ボタンを利用できるようになります。
root/zero-login/buttons/poweroff/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスで <b>【電源オフ】</b> オプションを利用できるようになります。
root/zero-login/buttons/reboot/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスで <b>【リブート】</b> オプションを利用できるようになります。
root/zero-login/buttons/show/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスにボタンが表示されます。
root/zero-login/buttons/sleep/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスで <b>【スリープ】</b> オプションを利用できるようになります。
root/zero-login/buttons/touchscreen/authorized	1 に設定すると、ログインまたは HP Smart Zero 資格情報のダイアログ ボックスで <b>【タッチスクリーン】</b> を選択できるようになります。

**注記：** root/touchscreen/enabled キーも設定する必要があります。

## SNMP

この表では、SNMP のレジストリ キーについて説明します。



表 E-52 SNMP

レジストリキー	説明
root/snmp/agentBehaviour/enable	1 に設定すると、SNMP デーモンが有効になり、Thin Client に SNMP 経由でアクセスできます。セキュリティの SNMP 構成または安全なネットワーク環境があることを確認してください。
root/snmp/agentBehaviour/usePrivateConfFile	1 に設定すると、SNMP デーモンは一部の高度な機能にユーザー カスタム設定ファイルを使用しますが、レジストリから snmpd.conf は生成されません。
root/snmp/agentBehaviour/listenInterface	このオプションは DHCP サービスでは正しく動作しません。そのため、1 枚の有線インターフェイスカードのみを使用する場合や、無線カードを使用する場合は、この領域を空白に設定してください。セキュリティを強化するために、この値を SNMP デーモン リッスン インターフェイスに設定すると、システムで指定されたインターフェイスのみが SNMP 経由で ThinPro にアクセスできます。 <b>注記:</b> この領域が空白の場合は、エージェントはすべてのネットワーク インターフェイスをリッスンしています。
root/snmp/agentBehaviour/communityList/{UUID}/ communityName	コミュニティ名、指定されたコミュニティ名のみが ThinPro にアクセスできます。
root/snmp/agentBehaviour/communityList/{UUID}/ permission	コミュニティのアクセス権が指定されています。読み取り専用の場合、システム情報のみを取得できます。読み取りと書き込みが可能な場合は、ThinPro の設定を変更できます。
root/snmp/agentBehaviour/communityList/{UUID}/ accessibleOID	この値で始まる OID のみにアクセスできます。

# 索引

## A

Active Directory 69

## C

Citrix

HP True Graphics 50  
設定 16

## D

DHCP オプション 63, 64

## E

Easy Update 69

## G

GUI

概要 8  
接続マネージャー (HP ThinPro  
のみ) 12  
タスクバー 8  
デスクトップ 8

## H

HP Background Manager 80

HP Device Manager 3

HPDM Agent *を参照*

リモート管理サービスも*参照*

HPDM Agent 69

HP Smart Client Services 3

Profile Editor

Profile Editor *を参照*

インストール 85

概要 85

サポートされるオペレーティ  
ングシステム 85

リモート管理サービスも*参照*

HP ThinState

HP ThinState *を参照*

HP True Graphics 50

## I

iBus 77

## M

MMR

マルチメディアリダイレクト  
*を参照*

## O

OS 構成、選択 1

## P

Profile Editor 90

## R

RDP

RemoteFX 28

USB リダイレクト 30

オーディオリダイレクト 31

スマートカードリダイレク  
ト 32

設定、接続ごと 23

大容量ストレージリダイレク  
ト 30

デバイスリダイレクト 29

プリンターリダイレクト 31

マルチメディアリダイレク  
ト 29

マルチモニターセッション  
 29

RemoteFX 28

## S

SCEP マネージャー 66, 68

Secure Shell 47

Smart Zero

OS 構成 *を参照*

Snipping Tool 56

SSHD マネージャー 69

## T

Telnet 48

Thin Client

更新

Thin Client の更新 *を参照*

Thin Client の更新

DHCP タグ更新 87

DNS エイリアス更新 88

手動更新 88

ブロードキャスト更新 87

ThinPro

OS 構成 *を参照*

## U

USB リダイレクト

RDP 30

USB マネージャー 79

VMware Horizon View 38

## V

VMware Horizon View

USB リダイレクト 38

Web カメラリダイレクト 39

オーディオリダイレクト 38

キーボードショートカッ  
ト 37

証明書 40

スマートカードリダイレク  
ト 39

設定、接続ごと 32

デバイスリダイレクト 38

プロトコルの変更 40

マルチモニターセッション  
 37

VNC シャドウイング 74

## W

Web Browser

設定、接続ごと 42

Web カメラリダイレクト

VMware Horizon View 39

Web サイト

Citrix のサポート 1

HP のサポート 1

Microsoft のサポート 1

VMware のサポート 1

## X

XDMCP 46

X ターミナル 56

## あ

アドオン 1

## い

- イメージ更新 1
- イメージング
  - HP ThinState を参照

## お

- オーディオリダイレクト
  - RDP 31
  - VMware Horizon View 38
- お使いになる前に 1

## か

- カスタム接続 49
- 管理者モード 3

## き

- キーボードショートカット 77
- キオスクモード 14

## く

- クライアントプロファイル
  - カスタマイズ 90
  - 証明書 91
  - シンボリックリンクの追加 93
  - ファイルの追加 91
  - 保存 93
  - 読み込み 90
  - レジストリ設定 91

## け

- 言語設定 80

## こ

- コントロールパネル
  - Active Directory 69
  - DHCP オプションマネージャー 63, 64
  - Easy Update 69
  - HP Background Manager 80
  - HP ThinState
    - HP ThinState を参照
  - iBus 77
  - SCEP マネージャー 66
  - Snipping Tool 56
  - SSHD マネージャー 69
  - ThinPro の構成 (カスタマイズセンター) 80
  - VNC シャドウ 74
  - X ターミナル 56

## 概要 58

- キーボードショートカット 77
- 言語 80
- サウンド 78
- 出荷時設定にリセット 58
- シリアルマネージャー 78
- スナップショット 58
- セキュリティ 66
- タスクマネージャー 56
- タッチスクリーン 77
- ディスプレイ 78
- テキストエディター 56
- 電源管理 58
- ネットワーク 59
- 日付と時刻 58
- マウス 77
- 無線統計 56
- ユーティリティ、非表示 80

## さ

- サウンド設定 78

## し

- システム診断 97
- 出荷時設定へのリセット 58
- 証明書
  - VMware Horizon View 40
  - インストール 68
- 証明書マネージャー 68
- シリアルプリンターの設定 93
- シリアルマネージャー 78

## す

- スクリーンセーバーの設定 58
- スナップショット 58
- スマートカードリダイレクト
  - RDP 32
  - VMware Horizon View 39
- スリープ状態 58

## せ

- セキュリティ設定 66
- 接続
  - 構成 11
  - 詳細設定 13
  - 非表示 80

## そ

- その他の情報の参照先 1

## た

- 大容量ストレージリダイレクト
  - RDP 30
- タスクマネージャー 56
- タッチスクリーン設定 77

## て

- ディスプレイの管理 78
- ディスプレイプロファイル 78
- テキストエディター 56
- デバイスリダイレクト
  - RDP 29
  - VMware Horizon View 38
- 電源管理 58
- 電源の管理の設定 58

## と

- トラブルシューティング 96
  - システム診断の使用 97
  - ネットワーク接続 96

## ね

- ネットワーク設定
  - DNS 62
  - IPSec 62
  - VPN 63
  - アクセス 59
  - 無線 60
  - 有線 59

## は

- パスワード、変更 66
- パラレルプリンターの設定 93

## ひ

- 日付と時刻の設定 58

## ふ

- プリンター 79
- プリンターの設定 93
- プリンターリダイレクト
  - RDP 31

## ま

- マウス設定 77
- マルチメディアリダイレクト
  - RDP 29

## む

無線統計 56

## ゆ

ユーザーモード 3

## り

リモート管理サービス、選択 3

## れ

レジストリキー 105